

科 目 名	英語（講読）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	--------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>講読の方法にはいろいろあるが、大きく分けると、ことば使いや内容をじっくり味わい検討していく読み方と大量のページ数を速く読みその概要をつかむ読み方がある。英語では、読む目的に応じて読み方を変えることが出来るようになること、語彙を増やしていくこと、行間を読みとることなど、さまざまな形の「読む」という言語活動をとおして、現代英語で書かれた英文を読む基礎的な力を育成する。</p>		
講 義 概 要	<p>授業内容と進め方については、各担当教員より最初の授業時に詳しい説明がある。</p>		
使 用 教 材	テキスト	各担当教員が指示する。	
	参考文献		
評 価 方 法	各担当教員が授業時に説明する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	英語 (Reading)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	----------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>Objectives of this program :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) to develop good reading skills, i. e. inferring, guessing the meaning of a word from context, getting into the habit of using an English-English dictionary 2) to build passive vocabulary, including some slang and "culture-bound" vocabulary 3) to develop extensive, as well as intensive, reading skills 4) to encourage students to think deeply enough about a selection to give their own opinion or comments 5) to introduce students to taking responsibility for their own reading (outside readers) 6) to give students the chance to see that English reading can also be an enjoyable and interesting, as well as an informative experience.
講 義 概 要	<p>Teaching Program :</p> <p>Texts : The texts will form the core of the course. There are two types : the 'in-class text' and the 'outside readers.' The in-class text will be the main text of the class. There will be two outside readers : one for the first term, and one for the second term.</p> <p>How each instructor handles the actual week to week classroom instruction is up to the discretion of that instructor. This may include, but is not limited to, student reading, explanation of lexical or content points, supplementary reading, lectures, video, homework and in-class assignments, quizzes, etc. It is suggested that two class periods be spent on each main text selection, one class to cover the basics, such as reading, vocabulary, and comprehension, and the other on the reading skills related to the selection.</p>
使 用 教 材	<p>テキスト</p> <p>L. C. Smith & N. N. Mare , <i>Topics for Today</i> (Heinle & Heinle , 1990) Roald Dahl , <i>Switch Bitch</i> (Penguin Books , 1976)</p>
	<p>参 考 文 献</p>
評 価 方 法	<p>Scoring & Grading System :</p> <p>As the core of this program is based not just on vocabulary and comprehension, but also on developing good reading skills, the following guidelines are recommended in determining grades : committee-prepared midyear and final tests (40%) ; reading skills tests (40%) ; attendance & participation (20%).</p>
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	

科 目 名	英語（講読）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	--------	------	-----------

講 義 の 目 標	読解力を身につけるためには、できるだけ量を多く読むことが必要とされる。英語では、英語に引き続き、現代のさまざまな英文を読み、基礎的な読解力をさらに伸ばしていく。		
講 義 概 要	授業内容と進め方については、各担当教員より最初の授業時に詳しい説明がある。		
使 用 教 材	テキスト	各担当教員が指示する。	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	各担当教員が授業時に説明する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	英語 (I C)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>Overall Goals of the Program :</p> <p>To bring students up to a level of communicative competence in accordance with the overall goals of the four-year English language program. Specifically for this one-year course, this would entail achieving a level of competence sufficient enough to competently pursue and take part in the more advanced English conversation courses offered in the following years.</p>		
講 義 概 要	<p>Instructors may use their own materials in accordance with course goals and guidelines. Video, and/or text-based materials may be used that will support complementary exercises or activities relating to a linguistic topical point being covered in the material. The aim is to build communication skills(speaking and hearing), as well as cultural and effective targets(like getting to know one's classmates better and taking into account the opinions of others).</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Left to the discretion of the individual instructor.	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>Scoring and grading system: attendance and participation(40%); tests and quizzes(40%); topics(20%) Final grading is left to the discretion of the instructor.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	英語 (A C)	担当者名	各 担 当 教 員
-------	------------	------	-----------

講 義 の 目 標	Overall Goals of the Program : To bring students up to a level of communicative competence in accordance with the overall goals of the four-year English language program. Specifically for this one-year course, this would entail achieving a level of competence sufficient enough to competently pursue and take part in the more advanced English conversation courses offered in the following years.
講 義 概 要	Based on the results of a placement test, freshmen students will be placed in the most appropriate course for their competence level. Students who score above average on the placement test would find themselves in the Advanced Conversation course. The great majority of students in this course will most likely be made up of returnees, and as such will already be competent in listening skills. More time should therefore be spent on advanced oral production using video and reading materials through discussion, debate, etc. As the native English-speaking staff teaching here are considered to be professionals with expertise in teaching, particularly in the area of English conversation, it has been decided to give the instructors in this program the freedom to teach as they see best, but with regard to the course goals.
使 用 教 材	テキスト Up to the discretion of each individual instructor.
	参 考 文 献
評 価 方 法	Up to the discretion of each individual instructor.
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	

科 目 名	英語（文法・作文）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	-----------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>文法知識を単に知識としてではなく、生きた「ことば」を表現する手段として活用し、与えられた状況にふさわしい英文が書けるようにする。また、日本語と英語の表現や発想の違いにも注意を払い、より良い表現が出来るようにする。</p> <p>学科共通科目の「英作文」を履修するための前提となる科目である。</p>		
講 義 概 要	<p>実際に英文を多く書くことによって、表現法や文体を習得していくことになるが、授業の内容と進め方については、各担当教員より最初の授業時に詳しい説明がある。</p>		
使 用 教 材	テキスト	各担当教員が指示する。	
	参考文献		
評 価 方 法	各担当教員が授業時に説明する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>原則として、受講希望者は全員受講できるが、英語（パラグラフ・ライティング）の最初の授業に出席して英作文のテストを受け、自分の英作文能力に合ったレベルの授業を受講することを希望する。</p>		

科 目 名	英語（パラグラフ・ライティング）	担当者名	各 担 当 教 員
-------	------------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>和文英訳ではなく、英語で考えて英語で書くことを目的とする。しかし、書くと言っても、ただ英文で書けばよいのではない。断片的な文を書くのではなく、いくつかの文を内容的に関連づけながら、論理性のある文章を書くことが求められる。</p> <p>その第1段階として、ある一つの中心となる考え（main idea）について、いくつかの英文で表現し、まとめてみることから始める。英語で文章を書く際に基本となるパラグラフの構成の仕方について学ぶ。</p> <p>学科共通科目の「エッセイ・ライティング」を履修するための前提となる科目である。</p>		
講 義 概 要	<p>実際にパラグラフを数多く書くことが要求されるが、授業の内容と進め方については、各担当教員より最初の授業時に説明がある。</p>		
使 用 教 材	テキスト	各担当教員が指示する。	
	参 考 文 献	各担当教員が授業時に説明する。	
評 価 方 法	各担当教員が授業時に説明する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	最初の授業で、簡単な英作文能力を図るテストを行ない、その結果により受講許可を決定する。受講許可をもらえなかった場合は、英語（文法・作文）を受講すること。		

科 目 名	英語学概論 2	担当者名	児 玉 仁 士
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>まず、英語自体についての理解を深める前に、われわれが日常用いている言語そのものの実態をある程度明らかにしておく必要がある。この言語学的な理解・知識を基礎にして、英語が持っている言語的特性を概説するのがこの講義の目標である。</p>		
講 義 概 要	<p>英語学が一つの独立した学問体系をなすかどうかはともかくとして、英語を専攻するものが基本的・必須的知識として、当然修めなければならない英語全般に関する学問領域である。それには、英語が一つの言語として有する言語的諸相とそれに関する学問的業績すべてが包括される。ただし、この領域はあまりにも広範にわたり、限られた年間の授業数でそれをカバーすることは到底不可能である。したがって、この講義では、その中で最も中心となる課題に焦点を絞って解説することになる。言語行為、音声学・音韻論、意味論、文法論、英語史が主なトピックである。</p>		
使 用 教 材	テキスト	E.M. Heatherington ; <i>How Language Works</i> (英語学入門) 金星堂	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・石黒昭博・他著『現代の英語学』 金星堂 ・島岡丘・他著『最新の音声学・音韻論』 研究社 ・今井邦彦 編『英語変形文法』 大修館 ・ジノ・ソング著『言語学への招待』 南雲堂 	
評 価 方 法	<p>評価は、基本的には、前期・後期の定期試験の成績に基づく。なお、随時、出席をとり、それも総合評価に加味したい。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<p>1. 序論：言語の実態：言語が人・社会・文化という構図の中でどのような機能を持っているのかを、概観したい。</p> <p>2. 第1章：言語および言語行為 1) 伝達手段：言語・非言語、動物・人間の伝達手段 2) 言語の特性</p> <p>3. 3) 言語記号の2面性・恣意性・線状性 4) 言語研究の分野・方法</p> <p>4. 第2章：英語の音声 1) 言語音声 2) 言語音声の記述：音声学・音韻論</p> <p>5. 3) 音声表記・音素表記：万国表意文字、精密表記・簡略表記 4) 発音器官：どのような器官を用いて言語音は発せられるのか 5) 音声の分類：母音と子音、有声音・無声音</p> <p>6. 6) 母音の分類と種類 7) 子音の分類と種類</p> <p>7. 音節・強勢/弱勢・アクセント・音調 9) 音連続における音声変化：推移音・音連結・同化・異化</p> <p>8. 10) リズム：散文・韻文のリズム、頭韻・脚韻、詩型</p> <p>9. 第3章：英語の意味 1) 「意味」とは？ 2) 意味論：一般意味論・哲学的意味論・言語学的意味論</p> <p>10. 3) 言語学的意味論：指示的・辞書的・形式的・構造的・文脈の意味 4) 意味の分析：Osgoodの「意味微分法」と Katz/Forder の「意義素性分析」</p> <p>11. 5) 意味の同一性：外延的・内包の意味 6) 意味の多義性：辞書の語義</p> <p>12. 7) 意味の具象性と抽象性：Hayakawa の「抽象の過程」 8) 意味と文化・意味の変化：縮小・拡大・墮落・向上</p> <p>13. 第4章：英語の文法 1) 「文法」の概念・その変遷 2) 文法の研究の方法・その種類</p> <p>14. 3) 文法の記述の対象：形態論・統語論 4) 規範文法：規範性・単語・品詞分類・文、文の正用・誤用の基準</p> <p>15. 5) 科学文法：科学性・形態・機能・文法範疇：Sweet/Jespersen の文法</p> <p>16. 6) 構造主義文法：構造的・音素・形態素・語類・統語分析</p> <p>17. 7) 変形生成文法：Chomsky の理論とその変遷</p> <p>18. 第5章：英語の歴史 1) インド・ヨーロッパ語族・ゲルマン語族派の位置：Grimm の音韻法則</p> <p>19. 2) 西ゲルマン諸語(フリジア語・オランダ語・ドイツ語)と英語との比較：第2次子音推移 3) 英語とフリジア語の類似性</p> <p>20. 4) 英語史の時代区分とイギリスの歴史(特に、アングロ・サクソン期および中期)</p> <p>21. 5) 英語の階級方言・社会方言 6) 古期英語：文字・綴り・発音・文法(形態・統語)</p> <p>22. 7) 中期英語：文字・綴り・発音・文法(形態・統語)：Chaucer の英語、大母音推移</p> <p>23. 8) 近代英語：綴り・発音・文法；聖書の英語、Shakespeare の英語</p> <p>24. 9) アメリカ英語 10) 英語の辞書：編纂とその歴史</p>
----------------------------	---

科 目 名	英語学概論 3	担当者名	清 水 由理子
-------	---------	------	---------

講義の目標	英語という言葉が、どのような視点から研究されてきたか、また、現在されているのか、その研究成果を知ることにより、英語という言葉に対する理解を深める。また、英語のみならず、私たちが毎日使っている「ことば」に対して関心を向け、「ことば」に対する感覚をより磨いてほしい。		
講義概要	数ある言語の中の1つである英語とは、どのような特徴を持った「ことば」であるのかを学ぶ。まず現代の英語の音・語彙・文構造及び意味のしくみについて講義し、次に歴史的な視点から現代英語の成り立ちとその特徴を紹介する。 具体的なテーマについては、授業計画表を参照のこと。		
使用教材	テキスト	石黒昭博他著 『現代の英語学』 金星堂	
	参考文献	参考文献は、テキスト巻末の参考文献一覧表を活用し、テーマごとに紹介する。また、必要に応じてそれ以外の文献も紹介する。	
評価方法	前期・後期の定期試験及び Take-home quiz により評価を出す。		
受講者に対する要望など	必ず前もってテキストの関連した章を読んだ上で、講義に出席すること。		
年 間 授 業 計 画	〔前期〕		
	1. 英語学とは、どのようなことを研究する分野か。(テキスト第1章参照)		
	2. 人間のことばの特徴		
	3. 英語の音構造	音声学 (1) 音声学について	
		英語音の特徴	(第3章の1)
	4.	音声学 (2) 英語音の特徴	(")
	5.	音韻論 (1) 音素について	(第3章の2)
	6.	音韻論 (2) 超文節音素について	(")
	7. 英語の語構造	形態論 (1) 形態素について	(第4章の1)
	8.	形態論 (2) 語の形成	(第4章の2)
	9. 英語の文構造	統語論 (1) 科学的伝統文法での考え方	(第5章の1)
	10.	統語論 (2) 構造主義文法での考え方	(第5章の2)
	11.	統語論 (3) 生成文法での考え方	(第6章)
	12.	統語論 (4) 文法と意味	(第7章)
	〔後期〕		
	13. 英語の意味構造	意味論 (1) 意味とは何か。語の意味	(第8章の1と2)
	14.	意味論 (2) 文の意味	(第8章の3)
	15.	語用論 発話と談話	(第8章の4)
	16. 英語の歴史	(1) プリテン島の歴史と言語	(第9章の1と2)
	17.	(2) 古期英語の文字と発音	(")
	18.	(3) 古期英語の語彙と文法	(")
	19.	(4) 中期英語の時代的背景	(第9章の3)
	20.	(5) 中期英語の綴りと発音	(")
	21.	(6) 中期英語の語彙と文法	(")
22.	(7) 近代英語の特徴	(第10章)	
23.	(8) アメリカ英語の特徴	(第11章)	
24. まとめ			

科 目 名	英語学概論 4	担当者名	長谷川 欣 佑
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	英語の多様な言語事象の分析を通して言語研究の面白さを伝えたい。具体的にはデータに基いて仮説を立て、それをより広汎なデータに照らして検証していくなかで、文法構造の規則性や一般的原理を発見していく統語分析の方法に重点を置いて述べる。この興味ある発見の過程と、着実な論証の仕方を理解することは、英語の学習に役立つだけでなく、ことば（更には自然、社会）の問題を自分の頭で考え、自主的に判断する能力を養う上でも役に立つと思う。				
講 義 概 要	人間の言語使用は「創造的」（いくらでも新しい文を創りそれを理解することができる）であり、そのために思考・感情の自由な表現が可能になる。これを可能にしている「ことばの仕組」を明らかにすることを目標とする（生成）文法理論の基本的な考え方と方法を概説し、それに基づいて英語の主要な統語現象の背後にあるさまざまな規則性を明らかにする。				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>特に指定しないが下記の参考書（のいずれか）を読んでおくことが望ましい。講義の主要な内容はプリントして配布する。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>Akmajian - Heny (1975), An Introduction to the Principles of Transformational Syntax (MIT Press) ; Akamajian - Demers - Farmer - Harnish (1995), Linguistics (MIT Press) ; I. Haegeman (1994²). Introduction to Government and Binding Theory (Blackwell)</td> </tr> </table>	テキスト	特に指定しないが下記の参考書（のいずれか）を読んでおくことが望ましい。講義の主要な内容はプリントして配布する。	参考文献	Akmajian - Heny (1975), An Introduction to the Principles of Transformational Syntax (MIT Press) ; Akamajian - Demers - Farmer - Harnish (1995), Linguistics (MIT Press) ; I. Haegeman (1994 ²). Introduction to Government and Binding Theory (Blackwell)
テキスト	特に指定しないが下記の参考書（のいずれか）を読んでおくことが望ましい。講義の主要な内容はプリントして配布する。				
参考文献	Akmajian - Heny (1975), An Introduction to the Principles of Transformational Syntax (MIT Press) ; Akamajian - Demers - Farmer - Harnish (1995), Linguistics (MIT Press) ; I. Haegeman (1994 ²). Introduction to Government and Binding Theory (Blackwell)				
評 価 方 法	前・後期一回づつのテストと授業への参加度				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	連続した体系をなすので毎回出席すること。				

1～3．前期は「序論」と「第Ⅰ部：文の組み立て方についての一般原理」について述べる。

まず序論として人間の言語の基本的性質である、言語使用の創造性をデータに基いて例証し、文法研究の目標を設定する。ここで英語の代名詞や再帰代名詞の用法について簡単な原形を提示する。

4・5．「文の組み立て方」に関する第1の原理としての「句構造規制」の必要性とその説明。文法上の単位（文法カテゴリー）を立てる根拠について「動詞句」などを例にとり、やや詳しく解説。

6～11．「文の組み立て方」に関する第2の原理としての「変形」の概念を導入。典型的な例に基いてこの仕組の必要性をわかりやすく解説。さらに英語のいくつかの構文を取り挙げ、それらの説明のために変形が必要であることを示し、同時にこれらの構文自体の構文分析によって文法解析の方法を理解してもらふ。取り挙げる事象は、wh-句移動変形、外置変形（以上6-7週）、Tough 構文移動変形（8週）、繰り上げ変形（Raising）（9週）、助動詞成分の分析（10-11週）など。（10-11週）では音韻論・形態論の基礎にも触れる。

12．試験

13．後期「第2部：英語統語構造の概要」前期の講義に立脚し、主要な文法単位（カテゴリー）の内部構造と、それらに関連する構文分析の典型例について述べる。

14・15．「動詞句」の内部構造。補語（Complement）と副詞的要素（Adjunct）の区別の根拠・重要性について do so テストなどを用いて解説。

16～18．「動詞＋小辞」、「動詞＋前置詞」などの複合動詞の分析。小辞（Particle）移動変形、間接目的語・直接目的語構文の構造と意味。VNP to VP 形の構造分析、表層フィルターの必要性など。

19・20．受動構文の分析。文法分析の一典型例として、古典的分析から比較的妥当な分析へ至る過程をデータに基いて解説し、受動文の構造と意味を明らかにする。

21．名詞句の内部構造

22・23．Wh-句移動変形などへの「一般的制約」

24．試験

科 目 名	英米文学概論 1	担当者名	(前期) 島田 啓一 (後期) 林 節雄
-------	----------	------	-------------------------

前 期

講義の目標	アメリカ文学の概略を知り、「主要な」作家、詩人たちの作品に出来るだけ直接触れる（小説、短編小説、詩などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらう。		
講義概要	米文学史の概略をなぞるが、19世紀のホーソンやメルヴィルの時代の小説と詩、米小説のリアリズムからモダニズムへの発展、60年代以降顕著になってきたマルチカルチャリズム（文化多元主義）に焦点をあて、プリントなどで作品の一部を読み、鑑賞してもらう。但し、通常とは逆に現在から過去に向かって講義を進める予定。		
使用教材	テキスト	板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』（ミネルヴァ書房、1989）	
	参考文献	福田陸太郎・岩本巖・酒本雅之編『アメリカ文学研究必携』＜増補版＞（中京出版、1985）	
評価方法	中間試験と定期試験 90%、不定期に課す課題 10%の予定。		
受講者に対する要望など	島田ゼミホームページ内に「英米文学概論」のページ (http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amlit.htm) を作成しましたので参照して下さい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ文学概説（授業のやり方、注意事項などの説明を含む）：必ず出席すること。 2. Multiculturalism（1）：概説。Multiculturalism の背景 <以下、（ ）内は授業で読む予定の作品名> 3. Multiculturalism（2）：African American Writers と Jewish Writers（Bernard Malamud, “The First Seven Years”） 4. Multiculturalism（3）：Jewish Writers（“The First Seven Years”）〔中間試験1〕 5. Modernism（1）：Post Modernism と Modernism の作家たち：John Barth, Thomas Pynchon, Anderson, Hemingway, Fitzgerald, etc. 6. Modernism（2）：William Faulkner と Yoknapatawpha County（“That Evening Sun”） 7. Modernism（3）：William Faulkner と Yoknapatawpha County（<i>The Sound and the Fury</i>）〔中間試験2〕 8. Realism（1）：Mark Twain, William Dean Howells, Henry James, Stephen Crane, Frank Norris, Theodore Dreiser 9. Realism（2）：“gender/class/race” – Mark Twain の場合（<i>The Adventures of Huckleberry Finn</i>） 10. American Renaissance（1）：Emerson, Thoreau, E.A. Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson, etc.（詩を数編） 11. American Renaissance（2）：Nathaniel Hawthorne, Herman Melville, etc 12. 創世記のアメリカ文学：Benjamin Franklin, Charles Brockden Brown, Washington Irving, James Fenimore Cooper, etc. 		

後 期

講義の目標	文学は言葉を武器として人間と彼が生きる世界を研究し、表現するアートである。「英」文学は英語という言葉のアートである。英国史と英文学史の常識を講義し、その姿を浮かび上げらせ、ひいては英語がなぜ今の形をしているのかにつき理解を深める。	
講義概要	アメリカと並び英語文化圏の大きな中心である、イングランドを主としたイギリスの歴史の分かりやすいイメージを提供する。ついでそのベースの上に多くの古典的作品を生産してきたイギリス文学の歴史につき、同じくなるべく分かりやすいイメージを示す。	
使用教材	テキスト	特に使用せず。講義ノートによる。
	参考文献	授業中、必要に応じ紹介する。
評価方法	定期筆記試験および毎回の出欠調査を兼ねた小クイズの結果による。	
受講者に対する要望など	「ハムレット」「若き日の芸術家の肖像」村上春樹など文学に親しむ姿勢を持つことが望ましい。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケルト人の時代から Norman Conquest までの歴史の流れを解説する。 2. Plantagenet 王朝の中世からイギリス・ルネッサンスの時代まで。 3. ピューリタン革命から産業革命の時代まで。 4. Queen Victoria の時代のイギリスについて。 5. 20 世紀のイギリスについて。 6. <i>Beowulf</i> から Chaucer までの文学の歴史の流れを解説する。 7. Shakespeare について。 8. Shakespeare について。 9. Milton と Dryden について。 10. 古典主義文学と「小説」について。 11. 19 世紀の小説、詩、評論について。 12. 同上。および 20 世紀展望。 	

科 目 名	英米文学概論 2	担当者名	(前期) 林 節雄 (後期) 島田 啓一
-------	----------	------	-------------------------

前 期

講義の目標	文学は言葉を武器として人間と彼が生きる世界を研究し、表現するアートである。「英」文学は英語という言葉のアートである。英国史と英文学史の常識を講義し、その姿を浮かび上げさせ、ひいては英語がなぜ今の形をしているのかにつき理解を深める。		
講義概要	アメリカと並び英語文化圏の大きな中心である、イングランドを主としたイギリスの歴史の分かりやすいイメージを提供する。ついでそのベースの上に多くの古典的作品を生産してきたイギリス文学の歴史につき、同じくなるべく分かりやすいイメージを示す。		
使用教材	テキスト	特に使用せず。講義ノートによる。	
	参考文献	授業中、必要に応じ紹介する。	
評価方法	定期筆記試験および毎回の出欠調査を兼ねた小クイズの結果による。		
受講者に対する要望など	「ハムレット」「若き日の芸術家の肖像」村上春樹など文学に親しむ姿勢を持つことが望ましい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケルト人の時代から Norman Conquest までの歴史の流れを解説する。 2. Plantagenet 王朝の中世からイギリス・ルネッサンスの時代まで。 3. ピューリタン革命から産業革命の時代まで。 4. Queen Victoria の時代のイギリスについて。 5. 20 世紀のイギリスについて。 6. <i>Beowulf</i> から Chaucer までの文学の歴史の流れを解説する。 7. Shakespeare について。 8. Shakespeare について。 9. Milton と Dryden について。 10. 古典主義文学と「小説」について。 11. 19 世紀の小説、詩、評論について。 12. 同上。および 20 世紀展望。 		

後 期

講義の目標	アメリカ文学の概略を知り、「主要な」作家、詩人たちの作品にできるだけ直接触れる（小説、短編小説、詩などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ文学の魅力を発見してもらう。	
講義概要	米文学史の概略をなぞるが、19世紀のホーソンやメルヴィルの時代の小説と詩、米小説のリアリズムからモダニズムへの発展、60年代以降顕著になってきたマルチカルチャリズム（文化多元主義）に焦点をあて、プリントなどで作品の一部を読み、鑑賞してもらう。但し、通常とは逆に現在から過去に向かって、講義を進める予定。	
使用教材	テキスト	板橋好枝・高田健一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』（ミネルヴァ書房、1989）
	参考文献	福田陸太郎・岩本巖・酒本雅之編『アメリカ文学研究必携』＜増補版＞（中京出版、1985）
評価方法	中間試験と定期試験 90%、不定期に課す課題 10%の予定。	
受講者に対する要望など	島田ゼミホームページ内に「英米文学概論」のページ（ http://www2.dokkyo.ac.jp/~e-semi006/others/amlit.htm ）を作成しましたので参照して下さい。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ文学概説（授業のやり方、注意事項などの説明を含む）：必ず出席すること。 2. Multiculturalism（1）：概説。Multiculturalism の背景 <以下、（ ）内は授業で読む予定の作品名> 3. Multiculturalism（2）：African American Writers と Jewish Writers（Bernard Malamud, “The First Seven Years”） 4. Multiculturalism（3）：Jewish Writers（“The First Seven Years”）〔中間試験1〕 5. Modernism（1）：Post Modernism と Modernism の作家たち：John Barth, Thomas Pynchon, Anderson, Hemingway, Fitzgerald, etc. 6. Modernism（2）：William Faulkner と Yoknapatawpha County（“That Evening Sun”） 7. Modernism（3）：William Faulkner と Yoknapatawpha County（<i>The Sound and the Fury</i>）〔中間試験2〕 8. Realism（1）：Mark Twain, William Dean Howells, Henry James, Stephen Crane, Frank Norris, Theodore Dreiser 9. Realism（2）：“gender/class/race” – Mark Twain の場合（<i>The Adventures of Huckleberry Finn</i>） 10. American Renaissance（1）：Emerson, Thoreau, E.A. Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson, etc.（詩を数編） 11. American Renaissance（2）：Nathaniel Hawthorne, Herman Melville, etc. 12. 創世記のアメリカ文学：Benjamin Franklin, Charles Brockden Brown, Washington Irving, James Fenimore Cooper, etc. 	

科 目 名	英米文学概論 3	担当者名	(前期) 原 成吉 (後期) 富士川和男
-------	----------	------	-------------------------

前 期

講義の目標	アメリカ文学とは何か、文学を学ぶとはどういうことか、という問題をテーマに論じながら、アメリカ文学の魅力伝える。		
講義概要	このクラスでは、現在アメリカが抱えているさまざまな問題(Native American, Feminism, Multiculturalism...etc.)を文学を通して考えてゆく。教室では、具体的な作品を読みながら、「ここそしていま」の視点からアメリカの(異)文化を紹介する。		
使用教材	テキスト	板橋好枝 / 高田賢一 編著 『はじめて学ぶアメリカ文学史』 ミネルヴァ書房	
	参考文献	各テーマごとに紹介する。	
評価方法	前期・後期の定期試験と授業中の課題で決める。		
受講者に対する要望など	教室へ来る前に、翻訳でもよいから Mark Twain, <i>Adventures of Huckleberry Finn</i> 『ハックルベリー・フィンの冒険』(講談社文庫) と Jack Kerouac, <i>On the Road</i> 『路上』(河出文庫) を読んでおくことが望ましい。		
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ文学の特徴について(序論) 2. ネイティブ・アメリカンの文学 3. 土地が作る文学 4. デモクラシーと文学 5. 戦争と文学 6. マルチ・カルチャリズムと文学(1) 7. マルチ・カルチャリズムと文学(2) 8. マルチ・カルチャリズムと文学(3) 9. カウンター・カルチャと文学 10. フェミニズムと文学 11. 現代詩を読む 12. 作品研究の方法 		

後 期

講義の目標	イギリス文学を歴史的に概観することによって、その特質を探る。文学と接するとはどういうことなのかを考えていく。																									
講義概要	講義形式で行なう。設定した主題にそって、具体的に作家や作品を例にとり、文学と時代背景、作家と想像力の問題に触れながら、現代人の意識との関連において考察する。今年度は19世紀に重点を置く。																									
使用教材	テキスト	使用せず。																								
	参考文献	特に指定しない。個人的に何か「英米文学史」関連の本を読めば、講義内容の理解に役立つと思う。																								
評価方法	期末各1回の試験																									
受講者に対する要望など	なぜ文学は作品を生み続けているのかという根源的な問いを、各自持つこと。受講期間中に少なくとも1冊英米文学作品を読むこと。																									
年間授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. イギリス文学の成立</td> <td>ノルマン征服と中世文学</td> </tr> <tr> <td>2. シェイクスピアの喜劇</td> <td>「お気に召すまま」</td> </tr> <tr> <td>3. シェイクスピアの史劇</td> <td>「リチャード2世」</td> </tr> <tr> <td>4. シェイクスピアの悲劇</td> <td>「リア王」</td> </tr> <tr> <td>5. ミルトン：「失樂園」</td> <td>文学と宗教</td> </tr> <tr> <td>6. ロマン主義</td> <td>現実と理想</td> </tr> <tr> <td>7. ジェイン・オースティン</td> <td>人間喜劇</td> </tr> <tr> <td>8. ヴィクトリア朝文学</td> <td>ディケンズ、サッカレー</td> </tr> <tr> <td>9. ヴィクトリア朝文学</td> <td>ギャスケル、ブロンテ姉妹</td> </tr> <tr> <td>10. ヴィクトリア朝文学</td> <td>ジョージ・エリオット、ハーディ</td> </tr> <tr> <td>11. ヴィクトリア朝文学</td> <td>人道主義</td> </tr> <tr> <td>12. 20世紀文学</td> <td>不安の時代</td> </tr> </table>		1. イギリス文学の成立	ノルマン征服と中世文学	2. シェイクスピアの喜劇	「お気に召すまま」	3. シェイクスピアの史劇	「リチャード2世」	4. シェイクスピアの悲劇	「リア王」	5. ミルトン：「失樂園」	文学と宗教	6. ロマン主義	現実と理想	7. ジェイン・オースティン	人間喜劇	8. ヴィクトリア朝文学	ディケンズ、サッカレー	9. ヴィクトリア朝文学	ギャスケル、ブロンテ姉妹	10. ヴィクトリア朝文学	ジョージ・エリオット、ハーディ	11. ヴィクトリア朝文学	人道主義	12. 20世紀文学	不安の時代
1. イギリス文学の成立	ノルマン征服と中世文学																									
2. シェイクスピアの喜劇	「お気に召すまま」																									
3. シェイクスピアの史劇	「リチャード2世」																									
4. シェイクスピアの悲劇	「リア王」																									
5. ミルトン：「失樂園」	文学と宗教																									
6. ロマン主義	現実と理想																									
7. ジェイン・オースティン	人間喜劇																									
8. ヴィクトリア朝文学	ディケンズ、サッカレー																									
9. ヴィクトリア朝文学	ギャスケル、ブロンテ姉妹																									
10. ヴィクトリア朝文学	ジョージ・エリオット、ハーディ																									
11. ヴィクトリア朝文学	人道主義																									
12. 20世紀文学	不安の時代																									

科 目 名	英米文学概論 4	担当者名	(前期) 富士川和男 (後期) 原 成吉
-------	----------	------	-------------------------

前 期

講義の目標	イギリス文学を歴史的に概観することによって、その特性を探る。文学と接するとはどういうことなのかを考えていく。		
講義概要	講義形式で行なう。設定した主題に沿って、具体的に作家や作品を例にとり、文学と時代背景、作家と想像力の問題に触れながら、現代人の意識との関連において考察する。今年度は19世紀に重点を置く。		
使用教材	テキスト	使用せず。	
	参考文献	特に指定しない。個人的に何か「英文学史」関連の本を読めば、講義内容の理解に役立つと思う。	
評価方法	期末各1回の試験		
受講者に対する要望など	なぜ文学は作品を生み続けているのかという根源的な問いを、各自持つこと。受講期間中に少なくとも1冊英米文学作品を読むこと。		
年間授業計画	1. イギリス文学の成立	ノルマン征服と中世文学	
	2. シェイクスピアの喜劇	「お気に召すまま」	
	3. シェイクスピアの史劇	「リチャード2世」	
	4. シェイクスピアの悲劇	「リア王」	
	5. ミルトン:「失樂園」	文学と宗教	
	6. ロマン主義	現実と思想	
	7. ジェイン・オースティン	人間喜劇	
	8. ヴィクトリア朝文学	ディケンズ、サッカレー	
	9. ヴィクトリア朝文学	ギヤスケル、ブロンテ姉妹	
	10. ヴィクトリア朝文学	ジョージ・エリオット、ハーディ	
	11. ヴィクトリア朝文学	人道主義	
	12. 20世紀文学	不安の時代	

後 期

講義の目標	アメリカ文学とは何か、文学を学ぶとはどういうことか、という問題をテーマごとに論じながら、アメリカ文学の魅力を伝える。	
講義概要	このクラスでは、現在アメリカが抱えているさまざまな問題(Native American, Feminism, Multiculturalism...etc.)を文学を通して考えてゆく。教室では、具体的な作品を読みながら、「ここそしていま」の視点からアメリカの(異)文化を紹介する。	
使用教材	テキスト	板橋好枝 / 高田賢一 編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房
	参考文献	各テーマごとに紹介する。
評価方法	前期・後期の定期試験と授業中の課題で決める。	
受講者に対する要望など	教室へ来る前に、翻訳でもよいから Mark Twain, <i>Adventures of Huckleberry Finn</i> 『ハックルベリー・フィンの冒険』(講談社文庫)と Jack Kerouac, <i>On the Road</i> 『路上』(河出文庫)を読んでおくことが望ましい。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ文学の特徴について(序論) 2. ネイティブ・アメリカンの文学 3. 土地が作る文学 4. デモクラシーと文学 5. 戦争と文学 6. マルチ・カルチャリズムと文学(1) 7. マルチ・カルチャリズムと文学(2) 8. マルチ・カルチャリズムと文学(3) 9. カウンター・カルチャと文学 10. フェミニズムと文学 11. 現代詩を読む 12. 作品研究の方法 	

科 目 名	国際コミュニケーション概論 - 1 (前期) - 2,3 (後期)	担当者名	板 場 良 久
-------	--------------------------------------	------	---------

半 期

講義の目標	国際社会におけるコミュニケーションの諸現象を多角的に考察することができ、それに基づいて、賢慮ある判断のできるコミュニケーターになることを目指す。		
講義概要	国際コミュニケーションを深く理解するため、本講義では国際社会を念頭に置いたコミュニケーションの研究と教育のあり方を考える。そのため、これまで提唱されてきたコミュニケーションの見方や考え方を理解し、同時にその限界や問題点も浮き彫りにし、今後どのようにコミュニケーションを考えるべきかというテーマを探っていく。		
使用教材	テキスト	プリント配布予定	
	参考文献	橋本満弘、石井敏編著『コミュニケーション論入門』第1巻(桐原書店) 石井敏他編『異文化コミュニケーション・ハンドブック』(有斐閣) 岸田秀『ものぐさ精神分析』(中公文庫)	
評価方法	出席状況 10%、小テスト(不定期) 30%、学期末試験 60%		
受講者に対する要望など	この講義で取り上げる問題を、単なる知識としてではなく、自分と深く関係のある問題として捉えるようにすること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. この講義の概要。受講上の諸注意。 2. コミュニケーションの見方(1) 伝統的なコミュニケーション・モデルと種類 3. コミュニケーションの見方(2) 「機械」としてのコミュニケーション 4. コミュニケーションの見方(3) 「演技」としてのコミュニケーション 5. コミュニケーションの見方(4) コミュニケーション教育とコミュニカティブ・アプローチ(言語教育)との対比 6. コミュニケーションの見方(5) 異文化コミュニケーションと国際コミュニケーションの対比 7. 事例で見る日米コミュニケーション比較 偏見、ステレオタイプからの脱却 8. コミュニケーションを思索する(1) コミュニケーション理論の種類と混同の問題 9. コミュニケーションを思索する(2) コミュニケーションと本能, 言語, 文化, 歴史との関係について 10. コミュニケーションを思索する(3) コミュニケーションと国家との関係について 11. コミュニケーションを思索する(4) 21世紀の日本人とコミュニケーション 12. まとめ 国際理解とコミュニケーション研究・教育の必要性 		

科目名	国際コミュニケーション概論 - 1 (前期) - 2,3 (後期)	担当者名	永野 隆行
-----	--------------------------------------	------	-------

半 期

講義の目標	国際関係研究 (study of international relations) とはそもそもどのような学問なのか理解する。国際関係論 (International Relations) がどのような時代背景を受けて誕生したのか、そしてその基本的な考え方はどのようなものを学ぶ。また冷戦時代の国際政治史についても、基礎的なことから習得する。本講義を2年次 (英語学科) の際のコース選択に役立てて欲しい。				
講義概要	下記に示す「年間授業計画」にそって授業を進めます。ただし学生諸君の反応を見て、予定を変更する場合があります。なおテキストは、高校や予備校などで使っていた「教科書」というものではありません。すなわち本講義が教科書の「内容」に完全に沿って進められるのではないということです。あくまでも指定テキストを適宜「参考」にしなが、講義を進めるということです。教員のほうから、講義終了時に次回の講義がテキストのどの部分を主として対象としているのか予告しますので、その部分を読んできて頂ければそれで十分です。 また毎回の講義の冒頭では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について皆さんと一緒に考える時間を設けます。				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>田中明彦 『新しい「中世」』 日本経済新聞社、1997年。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>有賀貞ほか編著 『講座国際政治』 全5巻、東京大学出版会、1989年。 岡部達味 『国際政治の分析枠組』 東京大学出版会、1992年。 高坂正義 『国際政治—恐怖と希望』 中公新書、1966年。 蛸山道雄編著 『激動期の国際政治を読み解く本』 学陽書房、1992年。 講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布する予定。</td> </tr> </table>	テキスト	田中明彦 『新しい「中世」』 日本経済新聞社、1997年。	参考文献	有賀貞ほか編著 『講座国際政治』 全5巻、東京大学出版会、1989年。 岡部達味 『国際政治の分析枠組』 東京大学出版会、1992年。 高坂正義 『国際政治—恐怖と希望』 中公新書、1966年。 蛸山道雄編著 『激動期の国際政治を読み解く本』 学陽書房、1992年。 講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布する予定。
テキスト	田中明彦 『新しい「中世」』 日本経済新聞社、1997年。				
参考文献	有賀貞ほか編著 『講座国際政治』 全5巻、東京大学出版会、1989年。 岡部達味 『国際政治の分析枠組』 東京大学出版会、1992年。 高坂正義 『国際政治—恐怖と希望』 中公新書、1966年。 蛸山道雄編著 『激動期の国際政治を読み解く本』 学陽書房、1992年。 講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布する予定。				
評価方法	出欠、学期末に実施する試験による評価				
受講者に対する要望など	他の学生の迷惑となりますので、私語は慎んでください。場合によっては登録を取り消すことがあります。				
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 / 国際関係論とは何か ~ 国際社会の諸現象を見る時の視点としての国際政治 2. 国際関係論とは何か ~ 国際社会の誕生とその特質、国内社会との違い 3. ビデオ放映 ~ 戦後世界はどのようにして始まったのか 4. 冷戦の起源について ~ 戦後出発点としてのヤルタ会談、マーシャルプランとトルーマンドクトリン 5. 冷戦の起源について ~ 冷戦対立の理論的考察、国際政治における3つの見方 6. 冷戦と核兵器 ~ 核時代の国際関係 7. 冷戦と核兵器 ~ 軍備管理・軍縮 8. 冷戦の第二、第三の戦場 ~ 戦後欧州の安全保障、イデオロギー対立 / 国際政治における覇権の役割 ~ パックスアメリカーナの時代 9. 覇権とは (続き) / 相互依存の深化する世界 ~ 国際関係の質的な変容 10. 相互依存の深化する世界 ~ 脆弱性相互依存と国際政治における力 11. 冷戦後の世界を考える ~ 頻発する地域紛争と人間の安全保障 12. 総括 / 国際関係論をこれから学ぶには、質疑応答 				

科目名	英語音声学 1,2	担当者名	大竹孝司
-----	-----------	------	------

半期完結

講義の目標	本講義は、アメリカ英語の音声の基礎的な知識を得ることを目的とする。英語音声の生成（発音）と知覚（リスニング）の両側面を扱うことで音声の全体が理解できるようにする。		
講義概要	音声学は、他の講義科目と異なり、本に書かれたことを理解するだけでは十分でない。自分で実際に発音できるようになるためには練習が不可欠である。本講義では、英語音声に関する基礎知識を学ぶことが中心となるので、授業外で多くの英語を聞く作業を課したい。なお、外国語の音声を理解することは音声をどのように認識するかという問題と密接な関係があるので、様々な音声の実験を通して理解を深めてもらう予定である。		
使用教材	テキスト	R.M. Dauer "Accurate English : A Complete Course in Pronunciation"	
	参考文献	授業時に指示する。	
評価方法	試験、課題、実験の三つで総合的に評価する。		
受講者に対する要望など	ラジオなどで英語音声を常に耳にできるようにして欲しい。発音やリスニングの上達法はとにかく時間を費やすこと。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要の説明。 2. 音声言語と文字言語の違い、発音記号と音について学ぶ。 3. 調音器官の説明。 4. 英語の母音（英語の母音の分類） 5. 英語の母音（英語の母音の実際の発音と知覚） 6. 英語の子音（英語の子音の分類） 7. 英語の子音（英語の子音の実際の発音と知覚） 8. 英語の音節構造の特徴 9. 英語のアクセントの構造と実際の発音と知覚 10. 英語のリズムの構造と実際の発音と知覚 11. 英語のリズムの構造と実際の発音と知覚 12. 日本人の英語学習の問題点 		

科 目 名	英語音声学 3,4,5	担当者名	大 西 雅 行
-------	-------------	------	---------

半 期 完 結

講義の目標	英語音が日本語音とは違うのは誰もがすぐ気が付くことで、それがために英語を聞くのが難しかったり、通じにくかったりする。英語の音声の一般的な現象、特徴的な変化、音声の規則性を解説し、英語を聞く、話す能力の向上に役立て、また、音声の研究やその応用研究への基礎とする。		
講義概要	音声を形成する仕組み、音声表記、母音と子音の分類、英語音の各論、日英米音の差異、英語の韻律特徴など通常の発話に必要な現象を講義する。映像と音声(オーディオテープ)を利用し、理論と実際音との両面から習得しやすく授業を進める。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献		
評価方法	試験による。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語の標準語と標準音 2. 発音器官 3. 音声の表記法 4. 母音の定義と分類 5. 単母音 6. 二重母音 7. 子音の分類 8. 破裂音、破擦音 9. 鼻音、側音、摩擦音、半母音 10. 連音中の音の変化 11. ストレス、リズム 12. イントネーション、プロミネンス 		

科 目 名	スピーチ・クリニック 1	担当者名	大 西 雅 行
-------	--------------	------	---------

半 期 完 結

講義の目標	米語音を耳でよく聞き、音に慣れ、日本語とは違う点を認識して、米語らしい発音を身につけるよう訓練する。		
講義概要	1学年の英語音声学のクラスでは音の理論的な説明は行うが、半期の授業のため時間がなく実際の音を聞き、発音訓練は十分に行えないが、このスピーチ・クリニックのクラスでは実際の訓練を主にする。クラスは小人数で構成し、LL教室の視聴覚機器を使い、映像で発話者の口形を観察しながら、音の聴取と発音練習を行う。毎回ディクテーションの宿題を課し、タイプで清書し提出する。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献		
評価方法	平常の授業、宿題、出席など総合して評価する。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 腹式呼吸と英語の韻律法 2. 単母音と二重母音 3. 前母音、ストレス、リズム 4. 後母音とリズム 5. 中母音とリズム 6. 破裂音とリズム 7. 破擦音とリズム 8. 鼻音とリズム 9. 側音とリズム 10. 摩擦音とリズム 11. 半母音とリズム 12. イントネーション 		

科目名	スピーチ・クリニック 2,3,4	担当者名	津田 望
-----	------------------	------	------

半期完結

講義の目標	1. アメリカ音の発話メカニズムを理解し、習得する。 2. Dictation課題を毎週行ない、聴取能力の改善を目指す。		
講義概要	本講義は LL と VTR 等を使用し、視聴覚フィードバックをくりかえしながらアメリカ音の調音について学習、習得をする。この講義の中では、音声学の理論はほとんど行わないので、前期にこの授業をとる学生は、英語音声学の概要は自習しておくこと。		
使用教材	テキスト	授業開始時に配布。	
	参考文献		
評価方法	授業への参加、貢献度と欠席と遅刻の頻度。		
受講者に対する要望など	毎授業にオーディオテープ（3本）を鏡を持参すること。		
年間授業計画	1. 序—英語音を発音するために (breathing, intonation, pitch など) 2. 子音 (1) : [p] [t] [k] [b] [d] [g] 3. 母音 (1) : [i] [I] 4. 子音 (2) : [s] [z] [ʃ] [ʒ] 5. 母音 (2) : [æ] [ʌ] [a] [ɔ] [ɔ̃] 6. 子音 (3) : [f] [v] 7. 母音 (3) : [e] [e'] 8. 子音 (4) : [θ] [ð] 9. 母音 (4) : [u] [V] 10. 子音 (5) : [l] [r] 11. 母音と子音 : これまでの復習とテスト 12. 音声分析 : パソコンによる個別の音声分析		

科 目 名	専門講読（英語学）1	担当者名	阿 部 一
-------	------------	------	-------

講義の目標	この講座は最近、次々と重要な発表が行なわれている「認知意味論」の基盤となる「認知」と「言語発達」に焦点を絞り、その主要文献をポイントを絞りながら読み進めていくものである。そのため、受講に当たっては「言語」「心理」あるいは「発達」などに関心があり、ある程度言語学や心理学の知識を合わせ持ち、キチンと英文が読める人でないと、ついて行くのが難しいだろう。もちろん、年間を通じて相当量の英文を読むので当然ながら英語力も養成されることになる。		
講義概要	まず最初に文献に出てくる可能性のある専門用語及び基本概念を解説した上で、シラバスに基づいて体系的に「認知構造」「概念形成」あるいは「言語発達」などの文献を読んでいく。また、随時各テーマに基づいた受講者によるクラス内の発表も行なわれる。なお、資料の一部はインターネットを通じて各受講者が自分で準備することになるので、こちらも自由に使えることが受講条件となる。		
使用教材	テキスト	Gupta, Richardson and Bancroft(1997) <u>Cognitive Growth and Language Development</u> プリント	
	参考文献	未定（最初の授業で発表）	
評価方法	前・後期のレポート（各々 25%）、クラスでの発表（25%）、出席及びディスカッション参加度（25%）		
受講者に対する要望など	講義に基づくディスカッション参加や発表が重要視されるので、準備（予習）をいとわずにキチンと出席できる人のみ受講のこと。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：「認知」と「言語」に関する基本概念及び専門用語の解説。 2. Introduction to Cognitive Growth and Language Development 3. Piaget：The Child as a Solitary Thinker 4. Vygotsky：The Child in Society 5. Recent Nativist and Associationist Theories 6. Developmental Processes 7. Context and Cognition in Models of Cognitive Growth 8. Beyond Modularity 9. Communication and Language 10. Human Language Development（1）* ビデオ利用 11. Human Language Development（2）* ビデオ利用 12. 前期のまとめ 13. Learning Theory 14. The Nativist View 15. The Social Interactionist View 16. Sound 17. Performatives Prior to Speech 18. The Communicative Context 19. A Question of Give and Take 20. Words 21. Grammar 22. Connectionism and Language 23. 後期のまとめ 24. *全体に関するディスカッション 		

科 目 名	専門講読（英語学）2	担当者名	大 竹 孝 司
-------	------------	------	---------

講義の目標	今年の専門講読は、日本語の音韻論を紹介した <i>An Introduction to Japanese Phonology</i> を使って日本語の音韻論の知識を学ぶ。この教科書は欧米ではかなり広く読まれているので、海外で言語学、日本語教育関連の留学を目指したり、国内の言語教育に興味を持つものにとっては有益といえよう。身近な日本語の分析を通して音韻論の考え方を身に付けてもらう。随時英語に関連した論文も併せて読む予定である。		
講義概要	授業の進め方は、毎時間担当者が作成したレジュメをもとに発表する方法である。発表の後、理解を深めるために毎回討論を行う。授業の発表に加えて各自の興味あるテーマを見つけてリサーチペーパーを書く。		
使用教材	テキスト	T. Vance "An Introduction to Japanese Phonology" State University of New York	
	参考文献	授業時に紹介する。	
評価方法	発表の質とリサーチ・ペーパーの内容の質によって決める。		
受講者に対する要望など	2年生で登録をするものは音声・音韻論の講義と合わせて受講すると理解がより深まる。		
年間授業計画	1 . Chapter 1 & 2	Introduction, Articulatory setting (pp.1-9)	
	2 . Chapter 3	Vowels I (pp.9-17)	
	3 . Chapter 3	Vowels II	
	4 . Chapter 4	Consonants I (pp.17-34)	
	5 . Chapter 4	Consonants II	
	6 . Chapter 5	Mora consonants I (pp.34-48)	
	7 . Chapter 5	Mora consonants II	
	8 . Chapter 6	Vowel devoicing I (pp.48-56)	
	9 . Chapter 6	Vowel devoicing II	
	10 . Chapter 7	Syllables and mora I (pp.56-77)	
	11 . Chapter 7	Syllables and mora II	
	12 . Chapter 8	Accent I (pp.77-108)	
	13 . Chapter 8	Accent II	
	14 . Chapter 9	The velar nasal I (pp.108-133)	
	15 . Chapter 9	The velar nasal II	
	16 . Chapter 10	Sequential voicing I (pp.133-149)	
	17 . Chapter 10	Sequential voicing II	
	18 . Chapter 11	Other alternations I (pp.149-175)	
	19 . Chapter 11	Other alternations II	
	20 . Chapter 12	Verb morphology I (pp.175-199)	
	21 . Chapter 12	Verb morphology II	
	22 . 関連論文の解説		
	23 . 関連論文の解説		
	24 . 関連論文の解説		

科 目 名	専門講読（英語学）3	担当者名	大 西 雅 行
-------	------------	------	---------

講義の目標	英語の音声研究を最新の音声学と音韻論の立場より簡潔、明快に説明し、その問題点を指摘し、有効な参考文献とその特徴を紹介する。		
講義概要	音声の構成、母音、二重母音、三重母音、有声音と無声音、音素と音韻論、様々の子音、強音節と弱音節、語ストレスと接辞、弱形、連続音の諸変化、イントネーション、音素分析の問題点などについて知識を深める。		
使用教材	テキスト	"English Phonetics and Phonology"	
	参考文献		
評価方法	前期、後期の試験による。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音声の生成。生理的考察 2. 英語の母音と子音。概説 3. 長母音と短母音 4. 二重母音と三重母音 5. 硬音と軟音 6. 呼吸と発声 7. 音素と音韻論 8. 摩擦音と破擦音 9. 硬子音 10. 鼻子音と半母音 11. 音節 12. 強音節と弱音節 13. ストレスの程度と位置 14. 複合語のストレス 15. ストレスと接辞 16. 弱形 17. 音韻論の分類。割り当ての問題点 18. 連続音とリズム 19. 同化、省略、連接 20. イントネーションの機能 21. 複合音調とピッチ・レベル 22. 音調群の構造 23. 音調群の種類 24. イントネーションの強調機能と文法機能 		

科 目 名	専門講読（英語学）4	担当者名	川 崎 潔
-------	------------	------	-------

講 義 の 目 標	英語英文学を学ぶ者にとって、英訳聖書、殊に The Authorized Version（1611年出版）は W. Shakespeare の戯曲と共に必読の書である。AVは先行する英訳聖書の料を集めて集大成したものであり、それ以後信仰の書として読み続けられ、英米の文化と文学にも広く深い影響を与え、英語史家達からは、「英語散文の金字塔」であり、「近代英語の性格を決定した」と言われるに至ったからである。Book of Job のヘブル語原典は text の乱れがあるので、原典解釈上の進歩による改訂版 Revised Version で Book of Job を読むことにしたい。				
講 義 概 要	Book of Job は、正しい人が苦難に襲われることがあるのは何故かという mystery of suffering の問題を中心として、神の絶対性と人間の浅はかさを教える偉大な宗教学である。授業ではテキストを語学的に精読することに重点をおきたいと思う。Revised Version（1885年出版）は用語や文体がほぼAVに似ているが、これを他の現代英語訳聖書、例えば Revised Standard Version（新旧両訳1952）や New English Bible（新旧両訳・外典1970）と読み比べることによって、両者の英語の違いを具体的に知ることができよう。				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>齋藤 勇注釈；<i>The Book of Job</i> (in the Revised Version) 研究社</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・浅野順一『ヨブ記の研究』創文社 ・浅野順一『ヨブ記注解』 , , , 創文社 ・浅野順一『ヨブ記 その今日への意義』（岩波新書） </td> </tr> </table>	テキスト	齋藤 勇注釈； <i>The Book of Job</i> (in the Revised Version) 研究社	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・浅野順一『ヨブ記の研究』創文社 ・浅野順一『ヨブ記注解』 , , , 創文社 ・浅野順一『ヨブ記 その今日への意義』（岩波新書）
テキスト	齋藤 勇注釈； <i>The Book of Job</i> (in the Revised Version) 研究社				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・浅野順一『ヨブ記の研究』創文社 ・浅野順一『ヨブ記注解』 , , , 創文社 ・浅野順一『ヨブ記 その今日への意義』（岩波新書） 				
評 価 方 法	前期と後期の2回の期末テストと平常点によって評価する。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	予習と復習を行なうことを要望したい。				

年
間
授
業
計
画

- 1 . Chapter I
- 2 . Chapter I
- 3 . Chapter II
- 4 . Chapter II, Chapter III
- 5 . Chapter III
- 6 . Chapter IV
- 7 . Chapter V
- 8 . Chapter V, Chapter VI
- 9 . Chapter VI
- 10 . Chapter VII
- 11 . Chapter VIII
- 12 . Chapter IX
- 13 . Chapter IX, Chapter X
- 14 . Chapter X
- 15 . Chapter XI
- 16 . Chapter XII
- 17 . Chapter XII, Chapter XIII
- 18 . Chapter XIII
- 19 . Chapter XIV
- 20 . Chapter XXXVIII
- 21 . Chapter XXXVIII
- 22 . Chapter XL
- 23 . Chapter XLII
- 24 . 予備日

科 目 名	専門講読（英語学）5	担当者名	清 水 由理子
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>読解とはどのような言語活動なのかを実践を通して学ぶ。読解についての最近の考え方を学ぶと同時に、論文・短編小説・随筆などを読みながら、効果的な読み方を身につけることを目的とする。</p> <p>情報があふれている時代にあって、沢山の量の文章を速く読み、その内容を的確に把握することが必要になっている。読解を通して文章構成について学ぶことも出来るので、卒論を書こうと思っている人、高校の教科書でも速読用の教材が使われているので、教員になることを目指している人にも役立つ内容にしたい。</p>		
講 義 概 要	<p>詳しいシラバスは、授業開始後に教室で配布する。授業は、基本的な速読訓練（目の動かし方、視覚範囲を広げることなど）、文章構成についての講義（最近の読解についての考え方、主題の捉え方、パラグラフの構成、原因と結果、事実と意見、推測など）および読んできた文章の内容についての討議という形式で行う。</p> <p>このほか、英語での読書の楽しさも味わってほしいと思っているので、課外に易し目の本を何冊か読む予定である。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>プリントおよび下記の本を使用する。 （速読用）<i>Timed Reading, Jamestown</i> （Main Text）四月中はプリントを用い、それ以降のテキストについては、第一回目の授業で行う読解テストの結果により決定する。 課外に読む本については授業中に指示する。</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>平常点（出席状況とレポートなど）と前期・後期の期末試験により評価を出す。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>第一回目の授業に必ず出席すること。 書籍代がかかるとしてほしい。 授業内容は、毎回その前の授業内容の上に成り立っていくため、無断欠席をしないこと。</p>		

科 目 名	専門講読（英語学）6	担当者名	須賀川 誠 三
-------	------------	------	---------

講義の目標	英語の歴史に関する評論文を読み、英文のより深い読書力を養うと同時に英語史の専門的知識および英米の文化史の理解を図ることを目標とする。		
講義概要	英語史でも近代英語の時代を中心に扱い、文化史・語彙・文法などについて具体的問題を論じる。教科書の Chap. 3 Early Modern English, Chap. 4 English Around the World の 2 章を読んでいく予定。学生の発表と教員の解説を中心に授業を進めていく。必要に応じて、背景的事柄にも触れていきたい。できれば、年 1～2 回ビデオ上映により、視聴覚的にも学べるようにしたい。		
使用教材	テキスト	David Crystal : <i>The History of English</i> (金星堂)	
	参考文献	中尾俊夫 / 寺島迪子共著「図説英語史入門」大修館書店	
評価方法	前期・後期、年 2 回の試験、および平常点による。		
受講者に対する要望など	出席は重視する。発表に当たった人は責任を持って自分の分担を果たす。辞典・事典などをよく引くことが望ましい。受講希望者は、第 1 回目の授業に出て必ず授業のガイダンスを受けること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . 授業の進め方、勉強の仕方などについてガイダンス。 2 . Chap. 3 Early Modern English Introduction (pp.53 - 56) 3 . Chap. 3 Early Modern English The Renaissance (pp.56 - 58) 4 . Chap. 3 Early Modern English The Renaissance (pp.59 - 62) 5 . Chap. 3 Early Modern English Shakespeare and the Bible (Shakespeare の表現) (pp.62 - 65) 6 . Chap. 3 Early Modern English Authorized Version (その表現 ・ 文法) (pp.66 - 70) 7 . Chap. 3 Early Modern English The Age of Dictionary (文法家たち) (pp.71 - 73) 8 . Chap. 3 Early Modern English The Age of Dictionary (文法家たち) (pp.73 - 76) 9 . Chap. 3 Early Modern English The Age of Dictionary (文法家たち) (pp.76 - 79) 10 . Chap. 3 Early Modern English Words Then and Now (pp.80 - 82) 11 . Chap. 3 Early Modern English Words Then and Now (pp.82 - 84) 12 . Chap. 3 Early Modern English Words Then and Now (Victoria 時代のことば) 13 . Chap. 4 English Around the World Scotland (pp.85 - 87) 14 . Chap. 4 English Around the World Scotland (pp.88 - 90) 15 . Chap. 4 English Around the World Ireland (pp.91 - 94) 16 . Chap. 4 English Around the World America (pp.94 - 97) 17 . Chap. 4 English Around the World America (pp.97 - 100) 18 . Chap. 4 English Around the World America (pp.100 - 103) 19 . Chap. 4 English Around the World America, Canada (pp.105 - 106) 20 . Chap. 4 English Around the World Canada (pp.106 - 109) 21 . Chap. 4 English Around the World Australia and New Zealand (pp.114 - 117) 22 . Chap. 4 English Around the World Australia and New Zealand (pp.117 - 119) 23 . Chap. 4 English Around the World British and American English Pronunciation, grammar (pp.123 - 126) 24 . Chap. 4 English Around the World British and American English grammar, vocabulary (pp.126 - 129) 		

科 目 名	専門講読（英語学）7	担当者名	府 川 謹 也
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	言語学において比較的新しい認知言語学の基本的姿勢と方法論について平易な英語で解説した入門書を読む。本年度は、第4章より始める。				
講 義 概 要	<p>ことばは恣意的で自律的な存在ではなく、人間の認知の営みによって動機づけられていて、その関わりの中でことばの有り様が説明されるという考え方およびその具体的な説明方法について説く。テキストの裏表紙の紹介を次に引用する。</p> <p><i>An Introduction to Cognitive Linguistics</i> explains the central concepts and the assumptions on which they are based in a clear and logical style, tracing their historical roots in linguistics and psychology. Chapters consider the mental process of categorization and its result, the cognitive categories which influence our use of words, the role of metaphor for understanding abstract concepts, and analyse attempts to define clause patterns, word classes and other aspects of syntax based on general cognitive principles. This text also brings together issues which have not originated in cognitive linguistic research, but have benefited from being put on a cognitive basis, namely iconicity, grammaticalization, lexical change and language teaching.</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テ キ ス ト</td> <td>F. Ungerer & H. J. Schmid. <i>An Introduction to Cognitive Linguistics</i>, Longman. 1996.</td> </tr> <tr> <td>参 考 文 献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川上 誓作（編）『認知言語学の基礎』研究社出版 ・ 山梨正明『認知文法論』ひつじ書房 ・ 吉村公宏『認知意味論の方法：経験と動機の言語学』 ・ 卷下吉夫・瀬戸賢一『文化と発想のレトリック』研究社出版 ・ John Taylor. <i>Linguistics Categorization</i>. Clarendon Press. その他については府川ゼミのホームページを参照のこと。 </td> </tr> </table>	テ キ ス ト	F. Ungerer & H. J. Schmid. <i>An Introduction to Cognitive Linguistics</i> , Longman. 1996.	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川上 誓作（編）『認知言語学の基礎』研究社出版 ・ 山梨正明『認知文法論』ひつじ書房 ・ 吉村公宏『認知意味論の方法：経験と動機の言語学』 ・ 卷下吉夫・瀬戸賢一『文化と発想のレトリック』研究社出版 ・ John Taylor. <i>Linguistics Categorization</i>. Clarendon Press. その他については府川ゼミのホームページを参照のこと。
テ キ ス ト	F. Ungerer & H. J. Schmid. <i>An Introduction to Cognitive Linguistics</i> , Longman. 1996.				
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川上 誓作（編）『認知言語学の基礎』研究社出版 ・ 山梨正明『認知文法論』ひつじ書房 ・ 吉村公宏『認知意味論の方法：経験と動機の言語学』 ・ 卷下吉夫・瀬戸賢一『文化と発想のレトリック』研究社出版 ・ John Taylor. <i>Linguistics Categorization</i>. Clarendon Press. その他については府川ゼミのホームページを参照のこと。				
評 価 方 法	2回の試験と平常点。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	4年生でも欠席については厳しいので注意すること。1回の進度は10頁を目標とし、語彙リストの作成が義務づけられる。				

科 目 名	専門講読（英語学）8	担当者名	安 井 美代子
-------	------------	------	---------

講義の目標	言語の研究には様々なアプローチがあるが、その1つである生成文法では、言語の研究を認知科学の一分野ととらえている。その認知科学にはいくつもの分野があり、言語の研究とともに意義深い発展を遂げているのが視覚に関する研究である。この授業では、言語および視覚に関する研究成果を学び、それらがどのように人間の認知能力の解明に貢献しているか理解していく。		
講義概要	最初に認知科学にどのような分野があるかを見た後、統語論、失語症、視覚、言語習得に関する小論文をいくつか読んでいく。授業の前半は論文の内容を講義形式で概説する。後半は論文に関するワークシート（部分和訳、要約、具体的事例の考察など）を受講者にやってもらう。いわゆるレポーター形式の訳読は行わない。		
使用教材	テキスト	“ An Invitation to Cognitive Science, Language (Volume 1), ” “ Visual Cognition and Action(Vol. 2) ” (ed by D. N Osherson and E. E. Smith, The MIT Press)	
	参考文献	「認知科学の発展 Vol. 2」(日本認知科学会 / 編、講談社)	
評価方法	平常点（出席、ワークシートなど）および前後期定期試験による。		
受講者に対する要望など	毎回出席することが原則であるが、教育実習などでやむを得ず欠席する場合も論文に関するワークシートは常に手に入るようにしておくので、各自の責任においてキャッチアップしてほしい。辞書を持参する（か完璧に予習してくる）こと。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . “ The Study of Cognition ” 2 . “ Syntax ” & Worksheet 1 3 . “ Syntax ” & Worksheet 2 4 . “ Language and the Brain ” & Worksheet 3 5 . “ Language and the Brain ” & Worksheet 4 6 . “ Language and the Brain ” & Worksheet 5 7 . “ Language and the Brain ” & Worksheet 6 8 . “ Computational Theories of Low-Level Vision ” & Worksheet 7 9 . “ Computational Theories of Low-Level Vision ” & Worksheet 8 10 . “ Computational Theories of Low-Level Vision ” & Worksheet 9 11 . “ Computational Theories of Low-Level Vision ” & Worksheet 10 12 . Review 13 . “ Higher-Level Vision ” & Worksheet 11 14 . “ Higher-Level Vision ” & Worksheet 12 15 . “ Higher-Level Vision ” & Worksheet 13 16 . “ Higher-Level Vision ” & Worksheet 14 17 . “ Mental Imagery ” & Worksheet 15 18 . “ Mental Imagery ” & Worksheet 16 19 . “ Mental Imagery ” & Worksheet 17 20 . “ Mental Imagery ” & Worksheet 18 21 . “ Language Acquisition ” & Worksheet 19 23 . “ Language Acquisition ” & Worksheet 20 24 . Review 		

科 目 名	専門講読（英語学）9	担当者名	D . R . カーギー
-------	------------	------	--------------

講義の目標	This course provides the student with an opportunity to gain a deeper appreciation for language and linguistics in general, and for English in particular.		
講義概要			
使用教材	テキスト	Mario Pei : All About Language (Seibido) Joan McConnell : English and Many Cultures (Seibido)	
	参考文献		
評価方法	Final grades are based on attendance, classwork, homework, mid-term presentation, and final presentation. (Presentation format depends on class size.)		
受講者に対する要望など	The 45 students seated in the desks nearest the front will be selected for the course. (One student per desk, Please)		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Course introduction. Selection of students. 2 . Why Language? 3 . How Did Speech Begin? 4 . Could We Get Along Without Speech? 5 . What Is Language Made Up Of? 6 . Language Helps Everybody 7 . How Language Grows 8 . Languages Come In Families 9 . The Languages of Europe 10 . One Language for Everybody? 11 . Presentations 12 . Presentations 13 . English Today 14 . The Story of English 15 . Foreign Friends 16 . The English Treasure Chest of Words 17 . The Story of American English 18 . The Language of Men and Women 19 . “ Bad ” English 20 . English Around the World 21 . The Future of English 22 . Presentations 23 . Presentations 24 . Consultations 		

科 目 名	専門講読（英語学）10	担当者名	T. ヒル
-------	-------------	------	-------

講義の目標	To provide an introduction to sociolinguistics: a field that studies the relation between language and society.		
講義概要	In this class we will read the text together, and students will engage in small group discussion on the major issues in sociolinguistics.		
使用教材	テキスト	Sociolinguistics Peter Trudgill Penguin Books	
	参考文献		
評価方法	Grades will be based on attendance, class participation, the writing of a number of papers, and semester tests.		
受講者に対する要望など	An intermediate to advanced level of English proficiency is required for the course		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introduction and course explanation 2 . Language and society ・ 1 3 . Language and society ・ 2 4 . Language and social class ・ 1 5 . Language and social class ・ 2 6 . Language and ethnic group ・ 1 7 . Language and ethnic group ・ 2 8 . Language and ethnic group ・ 3 9 . Language and gender ・ 1 10 . Language and gender ・ 2 11 . Review of first semester work 12 . First semester test 13 . Language and context ・ 1 14 . Language and context ・ 2 15 . Language and context ・ 3 16 . Language and social interaction ・ 1 17 . Language and social interaction ・ 2 18 . Language and social interaction ・ 3 19 . Language and nation ・ 1 20 . Language and nation ・ 2 21 . Language and geography ・ 1 22 . Language and geography ・ 2 23 . Review of second semester work 24 . Second semester test 		

科 目 名	専門講読（イギリス文学）11	担当者名	北 澤 滋 久
-------	----------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>従来からこの授業の日標を、文学作品をどう読みいかに理解して、自己の感性に照らし心の糧とするかという点に置いている。言語芸術としての文学の表現の妙を味わい、象徴的意味を把握して、作家がそこに注ぎこんだテーマを吟味、解明、思考するのである。従って単に英文を日本語に読み替えて、それでこと足りるというわけにはゆかない。</p>		
講 義 概 要	<p>今回のテキストは、D.H. Lawrence(1885-1930)の晩年の傑作中編小説である。現代文明の崩壊を糾弾し、そこからの再生への道を模索する作品であるが、聖書やギリシャ・エジプト神話を巧みに駆使しているので、登録にあたってはこの点を特に注意されたい。覚悟の上で味読すれば、現代にも密接な作家独自の思想が、美しい構成のなかからひしひしと伝わってきて、興味の尽きぬ感銘を得られることであろうが、以下の名詞の内少なくとも4つを承知していなければ、遺憾ながら受講は無理かと思われる。</p> <p>1. Resurrection 2. Mary Magdalene 3. Dionysus 4. Persephone 5. Osiris 6. Isis</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	D.H. Lawrence, <i>The Man Who Died</i>	
	参 考 文 献	<p>北沢滋久、『D.H.ロレンス：その文学と人生』、墨水書房 北沢滋久、『D.H.ロレンス 生と死のファンタジィ：人と文明の再生をもとめて』、金星堂（本年中刊行予定、この書の一章に詳説あり）</p>	
評 価 方 法	平常点・前後期の試験・夏休み期間の小論文において評価する予定である。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>文字通りの「専門」講読である。上記の主旨に賛同・納得の学生のみ参加を切に求めている。単に単位取得のみを目的とすることはこの授業では不可能であるばかりではなく、真面目な受講者の邪魔ともなるのでご遠慮願いたい。開講初日の欠席者は、理由のいかんを問わず絶対に受講を認めないことは当然である。</p>		

科 目 名	専門講読（イギリス文学）12	担当者名	園 部 明 彦
-------	----------------	------	---------

講義の目標	<p>教養英語の時間そのままに、一言一句疎かにせず読み進めながら、ドライデンという作家の文章の妙味を味わってみたい。これが、人間の複雑な感情の動きを僅か数語の決まり文句で処理しようという昨今の安易な風潮への反省の一步となればと考えている。このところ軽視されがちな<文法的に読む>という退屈な作業を通して、知らず知らず言葉を大切に、同時に英語をきちんと読む習慣を先ず身につけてから、次の段階で初めて、いわゆる<実用性>を考えてみてはどうだろうか。</p>		
講義概要	<p>かつては最良の訳が出来るまで何度も試みてもらったが、多人数となった現在では、不本意ながら、一回のみのテスト形式とならざるを得ない。そのため、総合評価の低下が懸念されるので、その一助として質問の時間を設ける予定である。（「文体研究」のゼミ希望者は、必ず受講されたい。）</p>		
使用教材	テキスト	John Dryden : ' <u>A Parallel of Poetry and Painting</u> ' (北星堂)	
	参考文献		
評価方法	<p>評価法は、一回 10 点満点として、その合計点が成績となる。そのため、欠席は非常に不利になる。遅刻は認めないのも例年通り。</p>		
受講者に対する要望など	<p>語学は毎回の積み重ねが重要である。ここでは<レポート>などという姑息な手段は通用しない。辞書は必ず用意してもらいたい。受講者数が上限を超えた時は、1 回目の授業で抽選を行なう。</p>		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. <that>の用法について。 2. <特殊な否定構文>について。 3. <挿入句>について。 4. <目的語>について。 5. <特殊な関係代名詞>について。 6. <that>の用法について。 7. <代名詞>について。 8. <meantime>について。 9. <next>について。 10. <特殊な関係代名詞>について。 11. <代名詞と省略形>について。 12. <比較の構文>について 13. <反語>について。 14. <比喩的表現>について。 15. <practice>の意味について。 16. <仮定法>について。 17. <代名詞と that>の用法について。 18. <仮定法>について。 19. <another>の特殊な用法について。 20. <so>の用法について。 21. <受動態>について。 22. <代名詞>について。 23. <please>の用法について。 24. <want>について。 		

科 目 名	専門講読（イギリス文学）13	担当者名	珍 田 弥一郎
-------	----------------	------	---------

講 義 の 目 標	詩と詩人とことばについて。この三者がそれぞれ何であり、どのように関係しているのかについて考える。		
講 義 概 要	テキストがなければ 講読 は出発できない。しかしことばはすでに出発しており、詩を読む前からわれわれは 詩 をかかえこんでいる。テキストはそのような状況をあばきだすのだ。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	『英米抒情詩の珠玉』（改訂版） 佐藤・徳永編 英潮社	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	授業における発言と議論、それに年 2 回の定期試験による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	自分の考えを明確に述べよ。		

科 目 名	専門講読(イギリス文学)14	担当者名	長谷部 加寿子
-------	----------------	------	---------

講 義 の 目 標	シェイクスピアの劇作品を、立体的に劇として研究する。		
講 義 概 要	「リヤ王」は、1605年シェイクスピアが41歳の時の作品で悲劇の最高傑作といわれている。時代は、エリザベス一世からジェームス一世へと大きく変わり、信ずる事が非常に困難になり言葉がその機能を喪失した時代であった。「リヤ王」の中の問題と悲劇は、現代にも通じる示唆を多く含んでいる。授業の進め方は、グループ毎に短いシーンを演じて原文の解釈、演技について研究発表し討論する。		
使 用 教 材	テキスト	William Shakespeare : <i>King Lear</i>	
	参考文献	テキストは、どの版でも可。各自購入の事。辞典、参考書等は最初の授業の時に話す。	
評 価 方 法	年2回原文での演技を行い、その演出論と批評論を提出する。及び年1回の「『リヤ王』論」を発表し、その論文提出を評価の対象とする。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	専門講読（イギリス文学）15	担当者名	林 節 雄
-------	----------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>劇作家・ベストセラー作家 Maugham の 1928 年初演の劇をテキストに使用し、英国上流階級のマナーの良い英語の話し言葉を研究し、人間の感情表現のニュアンスに注意を払い、ひいては我々自身の英語表現力を豊かにすることを目標とする。</p> <p>なおこのテキストは 1997 年度に使用し好評だったので再び用いる。すでに取った人は受講できない。</p>		
講 義 概 要	<p>毎回 5 頁程度を精読し、私が解説した後学生に発音、意味、表現の問題点を質問し理解を深めることを目指す。特に夫婦、親子の間の愛情の表現の仕方に注目したい。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	W. Somerset Maugham : <i>The Sacred Flame</i> 北星堂	
	参 考 文 献	必要に応じ授業中に紹介する。	
評 価 方 法	前後期の定期試験と授業への参加度により評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p><i>Time</i>, <i>Newsweek</i>, 英語の新聞などを授業以外に自由に読み、自分から英語に親しむ姿勢を持つ学生が好ましい。</p>		

科目名	専門講読（イギリス文学）16	担当者名	藤田 永祐
-----	----------------	------	-------

講義の目標	<p>語学力を養成するのに最も有効な方法の一つは、いかにも英語らしい文章、自分が好きになれる文章、感情移入できる文章を味わいながら読むことです。昔も今も将来もこのことは変わらないと思います。この講義は英米のクラシカルな 20 世紀の作品を選んで、その文章を自分で書いたらどうなるか、試してみるなど、の作業をとり入れるなどして、授業をすすめます。</p>		
講義概要	<p>講読の形式をとりますが、把握の深さ、正確さを求めます。</p>		
使用教材	テキスト	<p>検討中</p>	
	参考文献	<p>授業中に指摘する。</p>	
評価方法	<p>平常点と二回のテスト 平常点は、予習復習は当然のこととみなして、つけていきます。</p>		
受講者に対する要望など	<p>豆単だけでなく中英和辞典を持参すること 予習を必ずすること</p>		

科 目 名	専門講読（イギリス文学）17	担当者名	三 好 健
-------	----------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>ストーリーの面白さと、慣用表現に満ちた、いかにも英語らしい文章という 2 点から、W . S . モーム（1874-1965）の短編小説を選びました。読解力の向上が第 1 の目標であることは言うまでもありませんが、この英語の名手によって書かれた文章を味読することによって、英語の心に触れ、なお表現力養成にも役立てられたら、と考えています。</p>		
講 義 概 要	<p>英語の表現に注意を払い、正確に読むことを心がけて精読し、途中味わうべき点や表現力養成に役立つような箇所を、指示します。</p> <p>1 回に 8 ページぐらいのスピードで進みますが、随時学生諸君に発言を求めするので、下調べが必須となります。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	W.S.Maugham : "Mackintosh & The Round Dozen"[英宝社]	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	平常の成績と前・後期の 2 回の試験によります。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>遅刻・欠席の好きな学生はおことわり。</p> <p>受講希望者は 1 回目の授業に必ず出席して名前を届けること。</p>		

科 目 名	専門講読（イギリス文学）18	担当者名	山 田 修
-------	----------------	------	-------

講義の目標	普段読んだことのないスコットランドの作品をよみ、何気なく手にした作品についてひきこまれて、終りまで読んでしまうような読書をエンジョイしてもらえればよい。		
講義概要	スコットランドの作家の短編を数編読む。諸君の知らない作家ばかりになると思う。		
使用教材	テキスト	プリント（適当なテキストがあった場合には使用の予定。テキスト使用の場合には、掲示で指示する。）	
	参考文献		
評価方法	前・後期の試験及び平常点にて評価する。		
受講者に対する要望など	受講希望者は最初の授業に出席して、名前を確認すること。予習を忘れないうように。		
年間授業計画	毎時間 3 ページ前後。		

科目名	専門講読（イギリス文学）19	担当者名	山田 玲子
-----	----------------	------	-------

講義の目標	<p>シェイクスピアの喜劇の秀作を読みながら、シェイクスピア劇が持っている特質を、学生たちが感取できるようになればよいと考える。</p> <p>エリザベス朝に独特な語義、文の構成などに慣れ、正確に内容を把握しながら、作品鑑賞することを目標とする。</p> <p>これを機に、学生たちが観劇のよろこびを、その生活の中に取り入れられるとよいと思う。</p>		
講義概要	<p>毎時、テープを聞く。</p> <p>すべてを一瞬の夢と見、それ故にこそ、その一瞬の夢の命を大切にしたい、そんな気持ちを起こさせるのが、シェイクスピア喜劇の真髄かもしれない。そんな事が伝えられれば幸せである。</p>		
使用教材	テキスト	William Shakespeare : "As You Like It" (研究社詳注シェイクスピア双書)	
	参考文献	<p>語に関して、 1. A. Schmidt, "Shakespeare - Lexicon", 2vols., Reimer</p> <p>2. C. T. Onions, "A Shakespeare Glossary", Oxford U. P.</p> <p>文法に関して、 1. E. A. Abbott, "A Shakespearian Grammar", Dover</p> <p>2. 大塚高信「シェイクスピアの文法」(研究社)</p> <p>他の参考図書については、教室で述べる。</p>	
評価方法	<p>評価は年に二度の試験と、一度の観劇レポートの提出、及び、平常の授業への参加の態度の重視による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>精読に耐え得る根気と、努力を惜しまぬ態度が望まれる。</p>		
年間授業計画	<p>1. オリエンテーション</p> <p>2. Act Scene</p> <p>3. Act Sc. , Act Sc.</p> <p>4. Act Sc.</p> <p>5. Act Sc. , Act Sc.</p> <p>6. Act Sc. , Act Sc. , Act Sc. , Act Sc.</p> <p>7. Act Sc. , Act Sc.</p> <p>8. Act Sc. , Act Sc. , Act Sc.</p> <p>9. Act Sc. , Act Sc. , Act Sc.</p> <p>10. Act Sc.</p> <p>11. Act Sc.</p> <p>12. Act Sc. , Act Sc.</p> <p>13. Act Sc. , Act Sc.</p> <p>14. Act Sc. , Act Sc.</p> <p>15. Act Sc. , Act Sc.</p> <p>16. Act Sc.</p> <p>17. Act Sc. , Act Sc. , Act Sc.</p> <p>18. Act Sc. , Act Sc.</p> <p>19. Act Sc.</p> <p>20. Act Sc. , Epilogue</p> <p>21. まとめ</p> <p>22. プリント</p> <p>23. プリント</p> <p>24. プリント</p>		

科 目 名	専門講読(英・米文学)20	担当者名	E. カーニィ
-------	---------------	------	---------

講 義 の 目 標	This course aims to encourage students to read good short stories for study, for vocabulary learning, and for sheer pleasure.		
講 義 概 要	The stories are chosen for their active ingredients; thought-provoking, stimulating, and educational. Students will be invited to discuss the material and should be able to meet a challenge quiz on each story. We are also concerned with the writer's style, technique, and reader appeal. What the writer says between the lines must be given important consideration, too.		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Short story prints of Roald Dahl, Stephen King, Ray Bradbury, and others.	
	参 考 文 献	Dahl's "The Visitor", "Bitch", "The Great Grammatizator", etc. King's "Quitters", "Mrs. Todd's Shortcut", "The Ledge", etc. Excerpts from Bradbury's "The Martian Chronicles", etc.	
評 価 方 法	Grading will be in the form of quizzes for each story. Students can gain supplementary bonuses by writing 'intelligent comments' and doing some supplementary research.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	専門講読（アメリカ文学）21	担当者名	秋 山 武 夫
-------	----------------	------	---------

講義の目標	アメリカを文学を通して比較文化の立場から現代のアメリカを概観してみたい。		
講義概要	移民の国アメリカのかかえている葛藤を考え、論じあいたい。原住民インディアンの現状、黒人の苦悩、日本、中国、イギリス、ドイツなどさまざまな国から移民した人々の異文化体験、一世と二世の葛藤、日系アメリカ人の太平洋戦争時の苦難などの文章（短編小説、詩、エッセイ）を読んでいく。		
使用教材	テキスト	<i>Crossing Cultures</i> by Henry and Myra Knepler (ed.) のプリントを使用する。	
	参考文献	特にない。	
評価方法	出席、提出レポート及びテスト。		
受講者に対する要望など	多くの本を読んでほしい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Henry Mark Petrakis, "Barba Nikos" 2 . Marcus Mabry, "Living in Two Worlds" 3 . Alfred Kazin, "The Kitchen" 4 . Malcolm X, "Hair" 5 . Jeanne and James Houston, "Arrival at Manzanar" 6 . Dwight Okita, "In Responsee to Executive Order 9066" 7 . Michel St. Jean de Crivecoeur "What Is an American?" 8 . Alistair Cooke, "The Huddled Masses" 9 . Joseph Bruchac, "Ellis Island" 10 . Mark Salzman, "Teacher Mark" 11 . George Orwell, "Shooting an Elephant" 12 . Ian Buruma, "Conformity & Individuality in Japan" 13 . Laura Bohannon, "Shakespeare in the Bush" 14 . Robin Lakoff, "You Are What You Say" 15 . Jack Shabean, "The Media's Image of Arabs" 16 . Donna Cross, "Sin, Suffer and Repent" 17 . Bernard Malamud, "The German Refugee" 18 . Alan Devenish, "After the Beep" 19 . Christopher Columbus, "Journal of Discovery" 20 . Michael Dorris, "For the Indians, No Thanksgiving" 21 . Piri Thomas, "Alian Turf" 22 . Beete Lord, "Walking in Lucky Shoes" 23 . Brent Staples, "Night Walker" 24 . Walter White, "I Learn What I Am" 		

科 目 名	専門講読（アメリカ文学）22	担当者名	岡 田 誠 一
-------	----------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>アメリカ黒人文学の背景としての黒人文化の流れを学ぶのが、この授業の目標である。絵、風刺画、写真、新聞雑誌記事などが豊富に掲載されている本を、テキストとして使う予定。黒人文化を研究することによって、可能な限りアメリカの真髄へと近づきたいと考えている。また、英文をじっくり読むことにより、将来役立つような英語力をも培ってほしい。</p>		
講 義 概 要	<p>白人、黒人間の軋轢により、南部を中心に頻発した暴動は、一体どのような意味を持っていたのか。黒人は人間としての基本的な権利を、いかなる努力により獲得していったか。アメリカ黒人の文化には、我々日本人に知られていないことがたくさんある。これらを知らなければ、アメリカ黒人文学を十分に理解することはできない。</p> <p>昨年度に引き続き今年度も、このような文学の背景を学んでいく予定。</p> <p>なお、アメリカ文学を知るための一助として、年間数本の米文学・文化に関係する映画を鑑賞する計画である。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	プリントを使用する予定。	
	参 考 文 献	授業中、教室にて適宜指示する。	
評 価 方 法	<p>評価は前後期の試験と出席状況、及び、どの程度予習をして授業に臨んだか、などによって決定される。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>毎回あたるものと考え、必ず予習をして授業に出ること。前年度からの継続であるが、初めて聴講することも十分可能である。</p>		

年
間
授
業
計
画

1. 深南部で活躍するフリーダム・ライダー。
2. 同
3. 働く権利を求めて。
4. 南部の黒人の選挙権。
5. 同
6. 黒人たちは何故プランテーションを後にしたか。
7. ブラック・パンサーとヒューイ・ニュートン。
8. 同
9. アフロ・アメリカンとアフリカ
10. 1960年代とシット・イン運動。
11. 同
12. ブラック・パワーとホワイト・パワー
13. 同
14. ハーレムの長い暑い夏。
15. キング牧師の暗殺とアメリカ。
16. 公立学校教育のディレンマ。
17. ハワード大学と若者たち。
18. 黒人宗教家たち。
19. 南部におけるキリスト教。
20. 文学、芸術で活躍した黒人たち。
21. 黒人と黒人映画。
22. ヴェトナム戦争が黒人に与えた影響。
23. スポーツとシンデレラ・シンドローム。
24. 黒人とコミュニケーション・ギャップ。

科 目 名	専門講読(アメリカ文学)23	担当者名	香 取 豊
-------	----------------	------	-------

講義の目標	小説を通して情感や想像力を養うことが出来、また対話を通して人の世の複雑さを感じることができれば、と思います。		
講義概要	一つの小説を、語学を中心に読み進めていきますが、結局は一つの文学作品として扱うことになります。		
使用教材	テキスト	未定。20世紀のアメリカ小説。	
	参考文献		
評価方法	学生が訳読をあてられた時の状況、出席状況、及び試験の結果などを総合的に判断し評価します。		
受講者に対する要望など	出来る限り出席すること、及び授業の予習を強く望んでいます。とくに4年生の場合、就職その他で欠席せざるを得ない時は、その旨担当者に伝えて下さい。		
年間授業計画	1. テキストの小説を中心に、一定の範囲を学生にあてて訳させ、加えるべき説明をしていきます。同じ形式の進め方で学生の能力に応じて随時判断していきます。		

科 目 名	専門講読（アメリカ文学）24	担当者名	児 嶋 一 男
-------	----------------	------	---------

講 義 の 目 標	英文の精読。戯曲テキストから会話の英語表現を学ぶ。舞台上で交される話し言葉を意識して、日本語の翻訳表現を考える。一回に約 10 ページ進み、英文を読む量を増やす。戯曲というひとつの文学作品を解釈する。		
講 義 概 要	『家賃』は、トニー賞・ピューリッツア賞を受賞したミュージカル。日本では宇都宮隆が主役を演じて話題となった。『ミス・サイゴン』は 1999 年現在も、ロンドンやニューヨークでロングランを続けているミュージカル。日本では本田美奈子の主演が評価された。両作品が世界で受け入れられる理由を考えながら、ロール・プレイ形式で読み続けていく。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<i>Rent</i> , <i>Miss Sigon</i> (ともにプリント)	
	参 考 文 献	授業中に話す。	
評 価 方 法	毎回の簡単な vocabulary テスト。前期・後期の定期試験。前期・後期の観劇レポート。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	第一回目に <i>Rent</i> 最初の 2 ページ（中央棟 5 階 504 室前に用意）を読み、vocabulary テストを行う。準備して出席すること。		

科 目 名	専門講読（アメリカ文学）25	担当者名	原 成 吉
-------	----------------	------	-------

講 義 の 目 標	英語によって書かれた現代詩をとおして日本を含めた環太平洋文化圏を考える。		
講 義 概 要	<p>アメリカの現代詩を代表するゲーリー・スナイダー（b. 1930）の長篇詩『終わりなき山河』（1997年度ボリンゲン賞受賞）をとおして、地域生態主義（Bioregionalism）の可能性や禅、チベット仏教、そしてネイティブ・アメリカの自然観を考える。エコロジーが日常レベルの問題となったいま、自然と人間の関係を、ヨーロッパ=ユダヤ・キリスト教=男性中心の視点からではなく、「多文化主義」（multiculturalism）の立場から検討する。あるインタビューで「いまいちばん差し迫った環境問題は何か?」という問いに対してスナイダーは、「まず、心と魂の喪失だろうね。いまこの世界の中で生きているという感覚の欠如、本当に豊かであると、地球とはガイア（生命ある惑星）であり、女神であるという認識の欠如こそ、最大の問題」と答えている。このクラスでは、ガイアとの触れ合いから生まれた彼の詩を読み、レポーターを中心にディスカッション形式で進める。98年度読めなかった作品を取り上げる予定。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Gary Snyder, <i>Mountains and Rivers</i> (Washington D. C. : Counterpoint, 1996)	
	参 考 文 献	Patrick Murphy, <i>Understanding Gary Snyder</i> (Columbia ; S. C. : Univ. of South Carolina Press, 1992)、 『スナイダー詩集』（思潮社） 『野生の実践』（東京書籍）	
評 価 方 法	授業への参加度と年 2 回のレポート（ワープロで 4,000 字程度の作品論、または詩人論）で決める。欠席は授業回数の 4 分の 1（6 回を限度とする。）		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	英語と想像力のマッサージのつもりで授業に参加してほしい。		

科 目 名	専門講読（アメリカ文学）26	担当者名	升 水 一 三
-------	----------------	------	---------

講義の目標	20世紀前半のアメリカ文学を概観し、いわゆる「失われた世代」の作家たちの中から「日はまた昇る」「武器よさらば」「誰がために鐘は鳴る」「老人と海」など数々の名作を残した Ernest Hemingway を学ぶ。		
講義概要	Fitzgerald, Dos Passos など第一次大戦直後の作家たちの中でもとりわけ Hemingway は Machismo（男らしさ）が強調され称揚された時代への郷愁もあってか、今日なお話題にされることが多い。 今回は上記代表作からの抜粋、および短編集から数編を選んで読む予定。		
使用教材	テキスト	Ernest Hemingway の中、短編集。年度頭初に指示する。	
	参考文献	Carlos H. Baker Malcolm Cowley James R. Mellow Kenneth S. Lynn 佐伯彰一 編	Hemingway Hemingway Hemingway E. HEMINGWAY Princeton Viking Harvard 研究社
評価方法	授業参加への積極性、および前、後期のテストなどによる。		
受講者に対する要望など	感受性の豊かな間に多くの優れた作品に触れることを心がけてほしい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前、後期の授業計画および教材などの説明。プリント資料の配布。 2. アメリカ文学概観。プリント教材による。 3. アメリカ文学概観。プリント教材による。 4. Hemingway と「The Sun Also Rises」以下の主要作品について。 5. 上に同じ。 6. Hemingway の作品の訳読と解説。テキストによる。 7. 上に同じ。 8. 上に同じ。 9. 上に同じ。 10. 上に同じ。 11. 上に同じ。 12. 上に同じ。前期テストの説明。 13. 前期テストの反省と講評。後期の授業計画。 14. Hemingway の作品の訳読と解説。テキストによる。 15. 上に同じ。 16. 上に同じ。 17. 上に同じ。 18. 上に同じ。 19. 上に同じ。 20. 上に同じ。 21. 上に同じ。 22. 上に同じ。 23. 上に同じ。 24. 今年度の授業の反省。後期テストの説明。 		

科 目 名	専門講読（アメリカ文学）27	担当者名	村 松 美映子
-------	----------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>Raymond Carver はわずか 28 年間の作家生活に、数十篇の短編小説を残した。そして、アメリカだけでなく世界各国の現在活躍中の作家や芸術家に影響を与え続けている。作品の共通した特徴として、ありふれた設定、断片的なあたり、結論を与えない終わり方が挙げられるため、Raymond Carver は、「ミニマリズム作家」の旗手と評されている。また、彼の卓越した情景描写力に注目すれば、「フォトリアリスト」と考えることもできるであろう。本講義は、晩年の集大成ともいうべき <i>Cathedral</i> を扱い、Raymond Carver の鋭い観察眼と描写力を考えていく。また、他の作家の作品も適時、取扱う予定である。</p>		
講 義 概 要	<p>講義と作品の精読に加え、グループ・ディスカッションとプレゼンテーションを授業にとり入れる。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>Raymond Carver <i>Cathedral</i> (New York : Vintage Contemporaries, 1989)</p>	
	参 考 文 献	<p>関連の書評や論文は授業中に配布予定。</p>	
評 価 方 法	<p>前期後期試験またはレポートに加え、授業の貢献度を総合的に評価する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>読みやすい作品なので、基本的に各作品は授業前に読んできてほしい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Raymond Carver について 2 . “ Preservations ” (講読形式) 3 . “ Preservations ” (講読形式) 4 . “ Preservations ” (講読形式) 5 . minimalism とは 6 . “ Feathers ” (グループ・ディスカッション) 7 . “ Feathers ” (プレゼンテーション) 8 . “ The Compartment ” (グループ・ディスカッション) 9 . “ The Compartment ” (プレゼンテーション) 10 . “ A Small Good Thing ” “ The Bath (プリント教材) ” (グループ・ディスカッション) 11 . “ A Small Good Thing ” “ The Bath (プリント教材) ” (プレゼンテーション) 12 . “ On Writing (プリント教材) ” (グループ・ディスカッション) 13 . “ On Writing (プリント教材) ” (プレゼンテーション) 14 . “ Careful ” (グループ・ディスカッション) 15 . “ Careful ” (プレゼンテーション) 16 . “ Cathedral ” (グループ・ディスカッション) 17 . “ Cathedral ” (プレゼンテーション) 18 . “ Cathedral ” (プレゼンテーション) 19 . “ Fires (プリント教材) ” (グループ・ディスカッション) 20 . “ Fires (プリント教材) ” (プレゼンテーション) 21 . “ The train ” (グループ・ディスカッション) 22 . “ The train ” (プレゼンテーション) 23 . “ John Gardner : the writer as a teacher (プリント教材) ” (グループ・ディスカッション) 24 . “ John Gardner : the writer as a teacher (プリント教材) ” (プレゼンテーション)
----------------------------	--

科 目 名	専門講読（アメリカ文学）28	担当者名	吉 元 清 彦
-------	----------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>今日、われわれは「戦術的」「戦略的」につくりだされるさまざまな音声や映像によるいわゆる「文化現象的風俗」の只なかにあつて、昼夜を問わず絶えずもろもろの情報伝達メディアを通して送り出されてくるおびただしい数・量の有益・無益・無害・有害なメッセージ群の洪水に対して明るく暗い、楽しく苦しい悪戦苦闘を強いられながら「退屈しない」一日一日を「生きている」(?)のであろうか？ そして一方で、たとえば、あいかかわらずこの地球上から「戦争」という悲惨な愚行もなくなるということはなく、あいかかわらずわれわれはいつでもどこでも殺しあい傷つけあふ。(なぜ？なぜって？)</p> <p>そういった苛酷な現代の状況からけってひとりまぬがれた例外的な存在として許されるはずのない「大学」というシステムの時間・空間の中で、われわれは人間の言葉による表現芸術としての「文学」作品に対する。文学テクストを読む(読み解く)のである。</p> <p>だが、「読む」とはどういうことなのか？「作品」と、メッセージとしてのその作品の発し手たる作者と、そしてそれを受けとる側の読者であるわれわれの関係とは、それははたしてどのようなものであるのか。そしてまたどのような関係であるべきなのだろうか。</p> <p>文学テクストから何を讀みとり、何を感じとり、そしてそれらをどのように受けとめるのか。そしてそれらの考察・検証の過程や結果を、発見や感動(喜怒哀楽)を、もしくは疑問なり問題なり反論なりを、言葉で表現(討論・論文)し、つまり「批評」行為というある域にまで高めていくことが当然のごとく求められてくるだろう。</p> <p>けっきょく、読み手の「読む」という行為がいかに意志的・主体的なものであり、どれだけの切実性を内包しているのかが問われるのであろう。</p> <p>すなわち、読む(もしくは、書く)ということの意味と「生きる」ということのそれとの関係性(表裏一体性)がきびしく問われることになる。したがって、ここまでの到達(認識)過程において、もしなんらかの不一致・欠落部分があるとすれば、そのときはお互いにただちに出発点に立ちかえり、もう一度最初から出なおすほかに、方法はないのである。</p>		
講 義 概 要			
使 用 教 材	テキスト	John Updike : <i>Rabbit at Rest</i> (1990) (どの edition でも可)	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ John Updike : <i>Rabbit, Run</i> (1960) ・ John Updike : <i>Rabbit Redux</i> (1971) ・ John Updike : <i>Rabbit is Rich</i> (1981) ・ Donald J. Greiner ; <i>John Updike's Novels</i>, Ohio University Press, Athens, Ohio London, 1984. ・ Marcus Cunliffe : <i>The Literature of the United States</i>, Fourth Edition, Penguin Books, 1954, 1991. etc. 	
評 価 方 法	平常点(授業時間内の発表および前・後期各 1、2 回のテスト)と、前期はリポート提出(締切日夏休み明け) 後期は筆記試験、による総合評価方式。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	1 回目の授業でいろいろ説明したいとおもっています。また授業は毎回どんでん誰でも手を挙げてやってもらいます。(尚、毎時間冒頭にいろいろな名作のテープを聴く予定でいます。)		

科 目 名	専門講読 (アメリカ学) 29	担当者名	M . A . シブル
-------	-----------------	------	-------------

講 義 の 目 標	The course is intended for students with a serious interest in literature and the basic skills to read and discuss a work of fiction in English. The goal is to help them improve their vocabulary and other reading skills and also gain a deeper insight into American culture and values.		
講 義 概 要	Discussions of a novel by one of the great writers of the twentieth century. Students are expected to carefully study the assigned text and be prepared each week to discuss the contents and background of the reading.		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Graham Green, <i>Our Man in Havana</i> . Penguin Twentieth-Century Classics (London, 1971). Please buy this edition of the novel since my glossary and notes are based on this edition. Glossary and discussion questions provided by instructor.	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	Grades will be based on active participation during weekly discussions , quizzes and the mid-term and final reports.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	Bring to class a good paperback edition of a dictionary for native adults such as <i>The Merriam Webster Dictionary</i> or <i>The Random House Dictionary of the English language</i> .		

科 目 名	専門講読（英米文化）30	担当者名	阿 部 純 一
-------	--------------	------	---------

講義の目標	アメリカの東アジア外交の現状分析をおこなう。		
講義概要	クリントン政権は、ヨーロッパにおいてはNATOの東方拡大をはかり、東アジアにおいては日米同盟を基盤に軍事プレゼンスを確保することで、冷戦後の国際秩序の安定をめざすうえで中心的な役割を担う態勢を整えてきた。今年を含め、残る任期2年のうちにアメリカ主導の安定した国際秩序を形成できるかどうか、クリントン大統領の歴史的評価を決めることになる。東アジアにおいては、朝鮮半島4者協議、中国との「建設的かつ戦略的パートナーシップ」の構築、拡大するASEANへの対応、経済危機の拡大防止などを通して、アメリカの関与が地域秩序にあたえる影響はきわめて大きい。こうした問題意識に関連した文献を選択し、アメリカの東アジア外交の実際について分析する。		
使用教材	テキスト	インターネットからアメリカの公式外交文書、政府高官の議会証言およびシンクタンクのレポート等、最新のテキストを入手し、毎回配付する。	
	参考文献		
評価方法	成績は授業時の学生による報告（詳細なレジюмеを必ず用意すること）と討議参加すなわち「授業への貢献」が評価の基準となる。そのためには授業への出席が最低条件となる。 現代国際関係、とくに最近の東アジア情勢について基礎的な知識を持っていることが履修の最低条件。		
受講者に対する要望など	出席率70%以下は不可。		
年間授業計画	1. その時々的情勢により取り上げるトピックスが変わるため未定。		

科 目 名	専門講読（英米文化）32	担当者名	佐 藤 唯 行
-------	--------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>平均的な大学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解出来ていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎、各章毎の内容要約能力が常に求められます。そのため、本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養なう事を、授業の目標といたします。</p>		
講 義 概 要	<p>使用するテキストはアメリカユダヤ人史の概説書です。また、そこに書かれた文章は平易な内容です。植民地時代から今日に至るアメリカ社会とユダヤとの関係が、叙述の中心となります。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>H. Grinstein, <i>Short History of Jews in the United States</i> (London, Soncino Press) テキストは Duo に注文しておきますので各自事前に購入してください。</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>評価は試験結果 60%、平常点 40%、欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合、試験結果が合格点に達していても単位を与えません。遅刻は 3 回で欠席 1 回分に換算します。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	専門講読（英米文化）33	担当者名	杉 山 晴 信
-------	--------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>ビジネス通信文（Business Correspondence）のみを扱う狭義のビジネス英語から脱却し、他の領域の英文ビジネス文書にまで学習範囲を拡大して、国際ビジネスに従事する者にとって不可欠な実務能力とリーガルマインドの早期涵養を目指します。具体的には、法律文書（契約書、定款等）と英文財務諸表の「現物」をテキストとして読み、当該分野に用いられる英語を言語的知識として学ぶと同時に、ビジネスに関する実務的知識を習得することを目標とします。</p>		
講 義 概 要	<p>今年度は、前期に海外販売代理店契約の英文契約書と米国法に基づく株式会社の設立定款を、後期に米国企業が作成した英文財務諸表をそれぞれ教材として扱います。前期の授業では、法律英語の文体や語法、英文契約書の構造、定款の記載事項などについて若干の説明を行った後、履修者に担当箇所を順次発表していただく予定です。後期の授業では、貸借対照表と損益計算書の意義、表示区分と読み方、各種の分析指標などについて十分な講義を行ったから、実在の企業の直近の財務諸表を読み、業績を検討します。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>プリントを当方で用意します。また、必要な資料も随時配布します。</p>	
	参 考 文 献	<p>小中信幸監修・中谷栄一郎著『契約の英語』（荒竹出版、1994） 長谷川俊明『法律英語のカギ』（正・続）（東京布井出版、1985,1988） 菊地義明『英和契約・法律基本用語辞典』（洋販出版、1997） 本郷孔洋・永峰潤『よくわかる英文会計』（税務経理協会、1997） 小川洌・鎌田信夫『現代英和会計用語辞典』（同文館、1991）</p>	
評 価 方 法	<p>出席や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験（またはレポート）の結果を加味して決定します。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>コンスタントな出席と十分な予習・復習を強く要望します。特に、就職活動に時間をとられる4年生は注意して下さい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1年間の授業計画と学習内容について詳しく説明し、履修上の注意事項を伝達します。 2. 「契約」の概念、英米契約法における主要原則、代表的な国際契約類型の概要と特色について講義します。 3. 英文契約書の標準的構成と用語法について、実例を用いて説明します。 4. 海外販売代理店契約について全体的な説明を行った後、契約書の前文を読みます。 5. 当事者の指定、当事者関係、販売地域、および取扱製品の各条項を読みます。 6. 排他独占権、最低保証、個々の契約、および情報と報告の条項を読みます。 7. 販売促進と工業所有権の条項を読みます。 8. 地域外販売禁止、代理店手数料、および費用の条項を読みます。 9. その他の一般条項を読みます。 10. 米国における株式会社の設立手順と定款の記載事項について、日本の場合と比較して詳しく講義します。 11. 日本企業の米国子会社（現地法人）の設立定款を読みます。 12. 同 上 13. 財務諸表（特に貸借対照表と損益計算書）の意義について詳しく講義します。 14. 英文財務諸表の表示区分と読み方、および主要な勘定科目について、日本語版のそれらと比較しながら詳しく説明します。 15. 同 上 16. 実在の企業の英文財務諸表をテキストとして、実務知識を習得しながら読みます。 17. 同 上 18. 同 上 19. 同 上 20. 同 上 21. 財務分析について講義し、流動性、健全性、収益性、効率性、および成長性の各々に関する主要な分析指標を紹介します。 22. テキストとして扱った企業の業績を上記の分析指標を用いて検討します。 23. 同 上 24. 1年間の授業を総括し、質疑応答と討議を行います。
----------------------------	--

科 目 名	専門講読（英米文化）34	担当者名	竹 田 いさみ
-------	--------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>アジア・太平洋地域の国際関係を分析することが、主たる目的である。 オーストラリアや東南アジア諸国連合（ASEAN）諸国など、中小諸国の外交・安全保障政策を取り上げる。 アジア太平洋問題に関する、欧米諸国の政策対応を検討する。</p>		
講 義 概 要	<p>冷戦後の国際関係を背景に、オーストラリアや ASEAN 諸国がどのように国益を再定義し、新たな外交・安全保障政策を立案していったかを検討する。冷戦から冷戦後に国際関係が構造的に変化する中で、こうした中小国家が大国外交（米国・中国・ロシア・日本のパワー・ゲーム）をどのように認識し、国家戦略を構築していったかを討論する。 欧米諸国が ASEAN 諸国などに対して、民主化や人権問題を通じて、どのような政策対応を行ってきたかを検討する。最終的には、アジア太平洋国際関係のなかで日本の役割と立場が問われることになる。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>テキストは、講義中にコピー配布する。</p>	
	参 考 文 献	<p>竹田いさみ・森健編『オーストラリア入門』(東京大学出版会) Asia Yearbook 1990 edition~1999 edition(Hong kong : Far Eastern Economic Review)</p>	
評 価 方 法	<p>受講生による報告（レジュメを用意すること）と討議への参加が評価の基準となる。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	専門講読（英米文化）35	担当者名	鍋 倉 健 悦
-------	--------------	------	---------

講義の目標	1. 異文化間コミュニケーションとは何かを理解していく 2. 英文を文頭から理解していく		
講義概要	文化が異なるということはどういうことなのか、文化と人間の行動はどのようにつながっているのか、ということが中心テーマとなる。		
使用教材	テキスト	Understanding Intercultural Communication（研究社出版）	
	参考文献		
評価方法	どれくらい予習してきているか、通常の授業より決定		
受講者に対する要望など	このテーマに強い関心を持っている学生		
年間授業計画	1. 文化とコミュニケーション 2. 文化の定義 3. 生活様式としての文化 4. 異文化間コミュニケーションのモデル 5. 言語メッセージの概要 6. シンボルと音 7. 人間はいかにして言語を習得するか 8. 言語と意味 9. 言語と文化 10. 言語と認識 11. 翻訳はどこまで可能か 12. 非言語コミュニケーションの概要 13. 非言語行動と文化 14. ボディー・ランゲージ（1） 15. ボディー・ランゲージ（2） 16. 表情 17. アイコンタクト 18. 接触 19. パラ言語 20. 異文化間コミュニケーション能力を伸ばすためには 21. 自己について知ること 22. 共通のコードを見つけること 23. コンテキストとコミュニケーションの関係 24. 円滑なコミュニケーションのためのスキル		

科 目 名	専門講読（英米文化）36	担当者名	福 井 嘉 彦
-------	--------------	------	---------

講義の目標	一定水準に達した内容の英文の読解力をつける。		
講義概要	聖書の内、「創世紀」に関する内容のものである。 学生による輪読を行う。		
使用教材	テキスト	Karen Armstrong: <i>In the Beginning. A New Interpretation of Genesis.</i>	
	参考文献		
評価方法	授業時での発表と試験。一定以上の欠席は不合格。 最初の授業には必ず出席、履修承認の手続きを取ること。		
受講者に対する要望など	最初の授業を欠席した場合は、履修単位を認めない。		
年間授業計画	<p>1. 概要説明と注意等 以下の章を順次講読する。進度はテキストの内容が理解された都度次に進む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Abraham 2. Lot 3. Abraham and Pharaoh 4. The Friend of God 5. Issac 6. Rebekah 7. Jacob and Esau 8. The Blessing of Jacob 9. Jacob's Ladder 10. A Blessing or a Curse? 11. Jacob Agonistes 12. The Rape of Dinah 13. The Fall of Jacob <p>但し、以上の全てを読み切れぬ場合もありうる。</p>		

科 目 名	専門講読（英米文化）37	担当者名	宮 川 淑
-------	--------------	------	-------

講義の目標	「鉄の女性」(Iron Lady)と言われた意志強固なイギリスの元首相マーガレット・サッチャーが、保守党党首に立候補する段階、次には首相になる段階の過程等を見る。		
講義概要	イギリスの有名なジャーナリストのK・ハリスの見たサッチャーの経歴についての記述を、サッチャー自身が書いた自叙伝を参考にしながら訳読する。		
使用教材	テキスト	テキストは当方で準備する。	
	参考文献		
評価方法	前・後期の2度の定期試験の成績に日常の授業での発表を加味して評価する。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Perspective の訳読 2. 同上 3. 同上 4. 同上 5. 、 The Leadership Contest の訳読 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 、 Uphill Struggle の訳読 13. 同上 14. 同上 15. 同上 16. 同上 17. 同上 18. 同上 19. 、 Mrs Thatcher and the Future of Britain の訳読 20. 同上 21. 同上 22. . 英字新聞による補足 23. 同上 24. 同上 		

科 目 名	専門講読（英米文化）38	担当者名	W . J . ベンフィールド
-------	--------------	------	-----------------

講義の目標	The course aims to introduce students to the pleasures and difficulties of tackling a major full-length novel in English. As well as providing extensive practice in reading English, the novel will also raise many wider questions about life and society that we will investigate in class.		
講義概要	Each week we will look at one or two chapters of the novel in class. There will be both comprehension exercises and discussions of some of the wider issues raised by the book.		
使用教材	テキスト	'The Plague,' Albert Camus, Penguin Books (297 pages). Albert Camus is rightly regarded as one of the most important European writers of the 20th century and 'The Plague' is one of his main works. The book tells the story of a plague that hits a city in French Algeria and the differing reactions of the people who are affected by it.	
	参考文献		
評価方法	There will be a test at the end of each semester. Attendance and participation in class will also be taken into account when awarding the final grade.		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introduction to the author and historical background of the book. Read part 1, chapter 1 2 . Part 1, chapter 2 3 . Part 1, chapter 3 4 . Part 1, chapters 4 & 5 5 . Part 1, chapters 6 & 7 6 . Part 1, chapter 8 7 . Part 2, chapter 1 8 . Part 2, chapter 2 9 . Part 2, chapter 3 10 . Part 2 chapters 4 & 5 11 . Part 2, chapters 6 & 7 12 . Part 2, chapter 8 13 . Part 2, chapter 9 14 . Part 3, chapter 1 15 . Part 4, chapter 1 16 . Part 4, chapter 2 17 . Part 4, chapter 3 18 . Part 4, chapter 5 19 . Part 4, chapter 6 20 . Part 4, chapter 7 21 . Part 5, chapter 1 22 . Part 5, chapter 2 23 . Part 5, chapter 3 24 . Part 5, chapters 4 & 5 		

科目名	英作文1,2	担当者名	秋山武夫
-----	--------	------	------

講義の目標	文法が正確なばかりでなく、達意の文を書けるように努める。		
講義概要	毎回課題を出して、文を書いてもらう。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	その都度指定する。	
評価方法	出席、提出した作文、及びテスト。		
受講者に対する要望など	良い文を書くためには、多くの英文を読み暗誦してほしい。受講者数が制限されているので、第1回目の授業で選考します。		
年間授業計画	1.	その都度指定する。(たとえば、"Tree"、"Cooking"、"Dancing"、"Singing" など。)	
	2.		
	3.		
	4.		
	5.		
	6.		
	7.		
	8.		
	9.		
	10.		
	11.		
	12.		
	13.		
	14.		
	15.		
	16.		
	17.		
	18.		
	19.		
	20.		
	21.		
	22.		
	23.		
	24.		

科目名	英作文3	担当者名	板場 良久
-----	------	------	-------

講義の目標	何のために、そして誰に向かって表現するのかを想定しながら、様々な状況や目的に応じて文章表現をする能力を養成することを目指す。つまり、コミュニケーション過程のなかに独自の英文表現を位置づけながら意思表明するという発想と技術を身につける。		
講義概要	(1)様々な状況や目的に応じた文章表現の種類を学ぶ。(2)状況や目的を想定した上で、実際に英語でまとまりのある文章を書いてみる。(3)講師やクラスメートからのコメントを参考に、修正・加筆を行う。(4)他者の文章内容について、自分の意見を文章で表現する。(5)簡単な学期末課題レポートを作成し提出する。(6)講義の大半は、平易な(英検2級程度の)英語で行う。		
使用教材	テキスト	プリント配布予定。	
	参考文献	澤田昭夫『論文の書き方』(講談社学術文庫)。	
評価方法	出席状況 20%、提出課題 80% (学期末課題レポート 40%、授業中の不定期課題 40%)。		
受講者に対する要望など	課題は授業中の手書き英作文の他に、ワープロでタイプしたものを提出する課題もあるので、ワープロ未習得の学生はワープロを使えるようになっておくことが望ましい。また、電子メールでの課題提出も受け付けるので、電子メールの使い方にも慣れておくことが望ましい。授業時間外に時間がとられることは言うまでもない。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Overview(前期講義概要); Writing for Communication(コミュニケーションのための文章表現) 2. Autobiographical Writing (自己紹介の文章表現) 1 3. Biographical Writing (人物伝の文章表現) 1 4. Biographical Writing (人物伝の文章表現) 2 5. Biographical Writing (人物伝の文章表現) 3 6. Expository Writing (説明的文章表現) 1 7. Expository Writing (説明的文章表現) 2 8. Narrative Writing (物語的文章表現) 1 9. Narrative Writing (物語的文章表現) 2 10. Impromptu Writing with Metaphors (比喩を用いた即興英作文) 11. Impromptu Writing with Famous Quotations (名文句を用いた即興英作文) 12. Feedback (前期に関する講評), Term Paper Due (課題提出日) 13. Overview (後期講義概要) 14. Academic Writing (学術的文章表現) 1 15. Academic Writing (学術的文章表現) 2 16. Academic Writing (学術的文章表現) 3 17. Academic Writing (学術的文章表現) 4 18. Journalistic Writing (記事の文章表現) 1 19. Journalistic Writing (記事の文章表現) 2 20. Journalistic Writing (記事の文章表現) 3 21. Journalistic Writing (記事の文章表現) 4 22. Journalistic Writing (記事の文章表現) 5 23. Academic Writing: Oral Report (学術レポートの口頭発表) 24. Feedback Session (後期に関する講評), Term Paper Due (課題提出日) 		

科 目 名	英 作 文 5	担当者名	近 藤 ヒカル
-------	---------	------	---------

講義の目標	<p>英作文とは、日本語を「英語らしい」表現に変える操作のことである。そのため講義概要にあるように、様々なジャンルにわたってその方法論、そして実践という手順で授業を展開したいと思っている。ただし公文書や商業通信文などの書式による英文構成法は省く。</p> <p>また英作文には、英文を「日本語らしい」表現で表すという、Pidgin English（誤った英語とは言えない、英語の新しい表現）の分野があるので、これも追求したい。</p>		
講義概要	<p>まず日本語を「英語らしい」表現に変える操作として、(1)情緒性ある童話や短編小説などの翻訳を試みる、(2)「社会科」的な叙述の翻訳のジャンルを試みる、(3)Encyclopaedia Britannica に代表される論文体の翻訳を追及する。</p> <p>また英文を「日本語らしい」表現で表すという前人未踏の分野を、いわゆる Japanese English の分析を通じて何らかの方向性を見出したいと思っている。</p>		
使用教材	テキスト	プリント	
	参考文献	<p>「研究社大和英辞典」 - これ以外に良い和英辞書は見当たらない。Encyclopaedia Britannica、Cobuild Dictionary、 Illustrated Dictionary 等も参考になる。</p> <p>また英文の「日本語らしい」表現の分野では、本名信行編「アジアの英語」等。</p>	
評価方法	テストとレポートによる。出席は絶対条件とする。		
受講者に対する要望など	<p>この科目は、受講上限が 40 名であるので、第一回目の授業でペーパーテストにより人数確定をする。とくに「日本語らしい」表現の分野に興味のある学生を望む。</p>		
年間授業計画	<p>1. 情緒性のある童話・短編小説などの翻訳の方法論</p> <p>2 ~ 6. その実践</p> <p>7. 社会科的な叙述の翻訳の方法論</p> <p>8 ~ 13. その実践</p> <p>14. 論文体文章の翻訳の方法論</p> <p>15 ~ 20. その実践</p> <p>21 ~ 24. 英文の「日本語らしい」表現の追及</p>		

科目名	英作文6	担当者名	島田 啓一
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>英語らしい英語を書けるようになるには、とにかく自分の意志を伝える英語を書き、それをコミュニケーションの過程で他の人が書いた英語と比較、分析して、英語らしい表現方法を「盗んでいく」ことが最も必要と考える。この授業ではコンピュータ教室を使い e-mail を利用して国内、海外の人々と英語の文通を年間を通して行い、その成果をホームページで発表する。また後期にはインターネットを利用して各々がテーマを決めてリサーチを行い、その結果を英文のホームページとして発表する。</p>		
講義概要	<p>上記の目標を達成するため、前期前半はワープロ、e-mail、エディタ、ブラウザなどのソフトの使い方とファイル管理の仕方を学ぶ。同時に key pal を探して、e-mail の文通を開始する。後半は簡単な HTML を学び、文通結果の発表を行い、英文を批評しあう。後期はネットサーフィンによるリサーチを試み、ハイパーリンクを効果的に使った英文ホームページ作成に挑戦する。(パソコン操作はできなくてもかまわないが、ブラインド・タッチのタイピングを前期前半中にできるようになることを受講要件とする。) 受講許可者は最初の授業の開始時に抽選で決定します。「英語 (パラ)」を履修した者は登録できないので注意して下さい。</p>		
使用教材	テキスト	Web 上のホームページなどをその都度指定する。	
	参考文献	<p>獨協大学情報センター編『コンピュータ入門』(獨協大学情報センター) Duo で購入できます。</p> <p>島田ゼミホームページに昨年度の「英作文」のページ (http://www2.dokkyo.ac.jp/~e-semi006/others/comp.htm) がありますので参照して下さい。</p>	
評価方法	<p>前期・後期のレポート(70%)と、出席点、不定期に科す宿題・課題を含む平常点(30%)の予定。(出席を重視します。)</p>		
受講者に対する要望など	<p>受講希望者は最初の授業に 3.5 インチ 2HD フロッピーを 1 枚持参すること。授業時間外のコンピュータでの作業にかなり時間がとられることを覚悟すること。</p>		

1. 授業の内容と進め方の説明。パソコンの基本操作説明(1):
Eudora と Netscape 入門。Dave's ESL Café への登録。
2. パソコンの基本操作説明(2):
Word のスペルチェック機能、ファイルの保存の仕方。Eudora と Netscape の操作。英文 e-mail の作成。
3. パソコンの基本操作説明(3): Eudora と Netscape の操作。エディタの操作。ファイル管理の仕方。
4. パソコンの基本操作説明(4): Eudora と Netscape の操作。エディタの操作。ファイル管理の仕方。簡単な HTML ファイルの作成。
5. パソコンの基本操作説明(4): エディターの操作。ファイル管理の仕方。HTML による e-mail 交換の中間報告(1) など。
6. パソコンの基本操作説明(5): エディターの操作。ファイル管理の仕方。e-mail の交換と英文の批評など。
7. e-mail の交換と英文の批評など。簡単な HTML ファイルの作成。
8. e-mail の交換と英文の批評など。簡単な HTML ファイルの作成。HTML による e-mail 交換の中間報告(2) など。
9. e-mail の交換と英文の批評など。簡単な HTML ファイルの作成。
10. e-mail の交換と英文の批評など。簡単な HTML ファイルの作成。
11. e-mail の交換と英文の批評など。HTML による e-mail 交換の前期報告レポートの作成、提出など。
12. e-mail の交換と英文の批評など。HTML による e-mail 交換の前期報告レポートの改訂更新、提出など。
13. 前期報告レポートの批評と最終評価。Netscape の操作(Bookmark, Cache, ファイルや画像の保存など) e-mail による文通の再開。
14. Netscape(検索エンジンなど) エディタの操作と HTML 入門。後期のプロジェクトのテーマを決めてのネットサーフィンの開始。
15. Netscape(検索エンジンなど) エディタの操作と HTML 入門。ネットサーフィン。
16. Netscape(検索エンジンなど) エディタの操作と HTML 入門。後期プロジェクトの中間報告(1)。
17. 後期プロジェクトの中間報告(1)の批評と評価。
18. 少し高度な HTML 入門。後期の e-mail 交換の中間報告。
19. 少し高度な HTML 入門。後期の e-mail 交換の中間報告の批評、評価。
20. 少し高度な HTML 入門。
21. 少し高度な HTML 入門。後期プロジェクトの中間報告(2)の提出。
22. 後期プロジェクトの中間報告(2)の批評と評価。
23. 後期プロジェクトの最終報告の提出。
24. 後期プロジェクトの最終報告の批評と評価。最終報告の改訂更新版の提出。

科目名	英作文7	担当者名	須賀川 誠 三
-----	------	------	---------

講義の目標	和文英訳でなく、英語で考え、英語らしい表現ができるようになるための技法を学ぶことを目的とする。具体的には、英文構造の知識を整理し、パラグラフ構成法、短いエッセイの書き方へと展開していく。また、英文手紙・レポート・論文の書き方などにも触れる予定。		
講義概要	基本的なこととして、文構造・語法・句読点の使い方、綴字・分節法など一通り扱う。次に、paragraph writing についての基本的理論と実際について学んでいく。実践的な面では、短いエッセイ、自由英作文を随時課す。		
使用教材	テキスト	A.Kurokawa / J. B. Alter : <i>College English Composition</i> (英文) 金星堂	
	参考文献	T. Womack / 三浦新市「現代英文の構成と語法」(英文) 研究社 (副読本としても使用することがあるので、購入することが望ましい。1500 円位)	
評価方法	年 1 回の試験および後期レポートによる。課題は授業時間中に発表。出席も評価に関係ある。		
受講者に対する要望など	受講希望者は第 1 回目の授業に出席し、受講の承認を必ず得ること。定員を超えた場合は抽選とする。英英辞典を用いることを薦めたい。英作文は実践が重要なので、毎時間必ず出席することが望ましい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業の方法、学び方などについてのガイダンス。語法診断小テスト(予定) (教科書の章の順序とは異なるので注意) 2. Chap. 5 Parts of Speech, Exercises, pp.17 - 22 3. Chap.17 Structure, Exercises, pp.49 - 52 4. Chap. 2 Spelling, Exercises, pp.5 - 8 5. Chap. 8 Punctuation, Exercises, pp.31 - 38 6. Free Composition (一定の題のもとに 100 語程度にまとめる練習) [副] Usage (Formal, informal, etc.) 7. Chap. 1 Syllabication (分節法), Exercises, pp.1 - 4 (必ず英和辞典を持参する) 8. Chap. 6 Introduction to Paragraphing, Exercises, pp.9 - 11 9. Chap. 7 Cross - language Pitfalls, Exercises, pp.27 - 29 10. [副] Common Sentence Errors : comma faults, misplaced modifiers 11. [副] Common Sentence Errors : dangling modifiers, ambiguous reference of pronouns 12. Chap. 9 Paragraphing (2), Exercises, pp.39 - 42 ; Free composition 13. Chap. 10 Transitional Devices, Exercises, pp.43 - 47 14. Chap. 12 Abbreviations, Exercises, pp.53 - 57 15. Chap. 13 Paragraphing (3), Exercises (Free composition), pp.59 - 62 16. Chap. 14 Proofreading, Exercises, pp.63 - 66 17. Chap. 15 Paragraphing (4), Exercises, pp.68 - 70 18. [副] Other Matters : 1. Some Matters of Diction (Wordiness, Clichés, etc) 19. [副] Other Matters : 2. Preparing Your Manuscript (手紙・論文の形式などの実践的ルール) 20. Chap. 16 Essay Writing (1), 基本ルール pp.71 - 72 21. Chap. 16 Essay Writing (1), 実例, Exercises, pp.72 - 75 22. Chap. 17 Essay Writing (2), 実例の検討 pp.71 - 72 23. Chap. 17 Essay Writing (2), Exercises 24. 1 年間の総まとめ、レポート課題発表。 		

科 目 名	英 作 文 8	担当者名	園 部 明 彦
-------	---------	------	---------

講義の目標	<無理遣り通じさせる文>から<良質の文>を目指す。添削後の答案から、どのような文が<良い文>なのか、各自、認識してもらいたい。		
講義概要	授業では、明らかに不適切な表現はその場で指摘するが、多人数であるため、細部まで見ることは残念ながら不可能である。従って、時間終了後に、答案を回収し、次回までに添削、評価して返却する。なお、例年、特に前期は不慣れなためか成績が思わしくないので、これを補う意味で、授業とは別に自宅学習として何度か課題を出す予定。		
使用教材	テキスト	毎回、新聞のコラム等から選んだものをプリントして、配布する。	
	参考文献		
評価方法	評価法は、1回につき10点満点として、その合計点が成績となる。そのため、欠席は非常に不利になる。遅刻は認めないのも例年通り。		
受講者に対する要望など	語学は、毎回の積み重ねが重要であるので、<レポート>などという姑息な手段は通用しない。辞書は必ず用意してもらいたい。なお、40名が上限なので、一回目の授業で抽選を行なう。		
年間授業計画	<p>新聞等から適宜選ぶ教材のため、ここで具体的に示すことは出来ない。但し、テーマとしては、<大学教育>、<政治>、<経済>、<世相>等を考えている。なにかテーマについて希望があれば、遠慮なく申し出て欲しい。参考のため、例をひとつあげておく。</p> <p>住民の信頼のないところに、地方自治は成り立たない。同時に、自治を実りあるものにするためには、住民自身が不断に行政のありようを監視し続ける必要がある。</p> <p>市政をゆだねられた市長や議員、職員に危機感のかけらもないとすれば、刷新の大仕事に立ち上がるのは、市民の責任だ。</p> <p>出直しの市長選挙、それに続いて来春には市議会議員選挙がある。そこで、市政改革への意思を表明することである。</p> <p>それにはまず、市長選に改革への期待を託せる新たな人物を担ぎ出し、当選させればよい。そこで力が示せたら、市議選でも刷新派の進出が容易になるはずだ。</p>		

科目名	英作文9	担当者名	藤田永祐
-----	------	------	------

講義の目標	場合場合に応じて適切な単語や語句を使うには、それなりの蓄積が要求されます。文の組み立て方、文と文のつなげ方を習得するには文法の基本的な知識を消化したかたちで心得ていること、そして、英文を読んでいる際その要領を学ぶことが大切です。自分の弱点を一つ一つ克服しようとする熱意と努力がなければ決して進歩しません。		
講義概要	この科目は受講上限人数が決まられているので、第1回目の授業で、下記の方法で選考を行いません。短い文章を辞書を使ってその場で訳してもらい、意欲の感じられない答案を記した学生を受け入れないことにします。 テキストにそった実習と、3回の授業で一回くらい、親しみやすく分かりやすいエッセイとか詩とかを和訳してもらい授業に変化をつけます。		
使用教材	テキスト	検討中	
	参考文献	適切な折々に紹介する。	
評価方法	平常点と年二回のテスト		
受講者に対する要望など	豆単だけでなく、例文をなるべく豊富にのせた辞書を授業時には必ず持参すること。出席率は熱意のパロメーターとみなします。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の心得、授業内容の説明、質問への受け答え 2. 和文英訳の実習 3. 和文英訳の実習 4. 提出してもらったレポートの中で優れたものをコピーして全員に配布し、検討する。 和文英訳の実習 5. 和文英訳の実習 6. 和文英訳の実習 7. 和文英訳の実習 8. 和文英訳の実習 9. 和文英訳の実習 10. 和文英訳の実習 11. 和文英訳の実習 12. 名詞構文を中心とした英訳の実習 13. 名詞構文を中心とした英訳の実習 14. 名詞構文を中心とした英訳の実習 15. 文と文のつなぎ方を習得するための実習 16. 文と文のつなぎ方を習得するための実習 17. 文と文のつなぎ方を習得するための実習 18. 発想のちがいの習得のための実習 19. 発想のちがいの習得のための実習 20. 発想のちがいの習得のための実習 21. 発想のちがいの習得のための実習 22. 総括 23. 総括 24. 総括 		

科目名	英作文10	担当者名	三好 健
-----	-------	------	------

講義の目標	日本語と英語は発想の仕方が大きく違うので、英語を書くときには、その違いを知っていることが、読むとき以上に大切です。英語らしい英語を書くためには、よい英語を知っていなければなりません。そのためにはまず英語を読んで、その表現に注意して、それを身につけることが先決です。英語で発表するという観点から英語の表現の仕方を研究し、さらに和文英訳の形で、基本的な英語の表現形式を習得するのが、この授業のねらいです。		
講義概要	テキストにそって、まず[例題]の語法と表現形式を調べ、あとに続く文法と和文英訳の練習問題に答えたりして勉強します。一回の授業で一課づつ進みますが、毎回受講者の1人ひとりに発言を求めるので、下調べが必要となります。そのかわり、マジメにやれば力がつくこと請け合いです。 なお、万一希望者数が定員(40名)を超えたときは、諸君と相談の上善処します。		
使用教材	テキスト	“The Know-How of English Writing” [成美堂]	
	参考文献	各種英和・和英辞書	
評価方法	平常の成績と年2回の試験によります。		
受講者に対する要望など	遅刻や欠席が好きで、下調べが嫌いな学生には適しません。受講希望者は第1回目の授業に必ず出席して名前を届けること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキストの紹介と、一年間の授業予定と勉強の仕方についての説明。 2. テキスト[第一部] . 主語の選び方 3. テキスト . 動詞の選び方 4. テキスト . 時制に注意 5. テキスト . 単数形か複数形か 6. テキスト . 加算か不可算か 7. テキスト . 反復の回避 8. テキスト . 省略・補足の必要 9. テキスト . 修飾語句の位置 10. テキスト . 冠詞の使い方 11. テキスト . 品詞・句・節の転換 12. テキスト . 字句にこだわるな 13. テキスト . 会話的表現 14. テキスト . 日記・手紙の書き方 15. テキスト . 自由英作文 16. テキスト[第二部] . 教育・学生生活 17. テキスト . 自然 18. テキスト . 科学 19. テキスト . 人生 20. テキスト . 風俗・習慣 21. テキスト . 経済・産業 22. テキスト . 政治・外交 23. テキスト . 雑題 24. 補足問題練習 		

科目名	英作文11	担当者名	渡邊美代子
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>パラグラフ・ライティングは、思考を論理的に組み立て、アイデアを表現するための有効なコミュニケーションの手段であるが、その構成には一定の制約が課せられており、日本語の段落とは大きく様相を異にする。このコースでは、英語における基本的な文章の構成法を習得し、構造的、内容的にきちんとしたパラグラフが書けるようになることを目標とする。パラグラフ構成演習を通して、理論をうちたてる能力が培われることを期待したい。</p>		
講義概要	<p>英語の文章における情報の構成方法を習得する。パラグラフやエッセイの構成、トピックセンテンスの役割、内容整理のためのアウトライン、パラグラフの種類等について学ぶ。また、より効果的な文章を書くために、強調、簡潔、説得方法などについても学習する。テキストに沿って進めていく。与えられたテーマで、実際にパラグラフをいくつか書いてもらう。</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>Basic Writing Strategies</i> S. K. Kitao & K. Kitao, 英潮社</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前・後期試験の結果、提出物、平常点を考慮して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>予習して授業に臨むことが原則である。提出物はなるべくワープロで作成するようお願いしたい。履修希望者が受講上限人数(40名)を超える場合は、試験等によって決定する。履修希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。</p>		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Course Introduction and Outline 2. Writing Sentences 3. Sentence Combining (1) 4. Sentence Combining (2) 5. Making Referents Clear 6. Using Words to Connect Ideas 7. Parallel Constructions 8. Using Verb Tenses Correctly 9. Using Modifiers 10. Parts of Paragraphs 11. Types of Organization (1) 12. Types of Organization (1) & (2) 13. Review of Exam 14. Types of Organization (2) 15. Topic Sentences 16. Pre-Writing Steps 17. Outlining 18. From Paragraphs to Essays 19. Emphasis 20. Avoiding Sexist Languages 21. Figures of Speech 22. Making Writing More Concrete 23. Writing about Time 24. Review 		

科 目 名	エッセイ・ライティング 1	担当者名	佐 藤 勉
-------	---------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>トピック・センテンスの絞り方から適切な語句の選択まで、プロセス・アプローチによるエッセイ・ライティングの技法を解説する。更にまとまったエッセイが書けるよう基本的な英語の書き方を段階的に指導する。下記の教科書以外に、学生にとって興味ある最近の出来事を適宜に活用し、それによって自分の考え方、物の見方を意欲的に、十分に意味の通る英語で説明、説得できるよう指導する。そのために論旨展開の要となる構文・語句、パンクチュエーションなど「グラマー・クリニック」などの授業も併せて行う。</p>		
講 義 概 要	<p>先ず、パラグラフの構造に関する基本的な事実の説明の後、パラグラフの構成の理解と認識。トピック・センテンスの理解と認識。各種のパラグラフを取り上げて紹介。最後に、文章の最小単位のパラグラフをつないで、訂正、構成、編集作業を経て、しっかりしたエッセイにまとめあげることができるように指導。英語を書くにあたり基本的な常識・基礎文法、基本的語彙、イディオム、英語的な関連表現、, syllabification, punctuation, capitalization、特に大切な一貫性、統一性、強調法などにも言及。</p> <p>この科目は受講上限人数が決まられていますので、人数が超過した場合第1回目の授業において簡単なペーパーテストで選考を行います。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『英文パラグラフの論理』S.N.ウイリアムズ著（研究社） 『パラグラフからのエッセイへ』北尾S.N.キャスリーン他著（英潮社）の二冊を使用するので必ず購入すること。 	
	参 考 文 献	<p>教室で指示。Handouts 配布も予定。</p>	
評 価 方 法	<p>アサイメント、前期・後期末に提出の規定のテーマに基づいたレポート、夏期休暇の宿題、平生の授業での貢献度、及び出席状況に依って決定、適宜英文法小テストも施行する予定。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業は予め十分に予習してあることを前提にして講義を進行。遅刻せぬこと。コウビルド『英英辞典・改訂新版』（桐原書店）を毎クラス持参すること。『和英辞典』の持参は自由。ワープロかパソコンが使えることが望ましい。</p>		

科 目 名	エッセイ・ライティング2	担当者名	飛 田 ル ミ
-------	--------------	------	---------

講義の目標	本講座では、エッセイを書くにあたって必要と考えられるスキルを効果的に習得することを目的とする。具体的には、与えられたタスクに対して様々な表現法で自分の考えを提示できるストラテジーを意識して、エッセイの基礎となるパラグラフの書き方を段階的に学習し、最終的に本格的なエッセイへと発展させるスキルを身に付けることが理想である。		
講義概要	学習者の基礎英語能力を工夫して、無理なくレベルアップできるように、各種のパラグラフを取り上げ、練習問題を行ない、自然な英語で文章を書くための方法を指導する。また課題レポート等について、クラスでディスカッションを行うことにより、パラグラフを書く際に多く見られる誤りを指摘していく。 なお、この科目は受講上限人数が決められているので、第1回目の授業において、英作文テストにより選考を行う。		
使用教材	テキスト	From Paragraphs to Essays「パラグラフからエッセイへ」英潮社	
	参考文献	授業にて指示。プリントも配布する。	
評価方法	前・後期末課題レポート、授業における課題、及び平常点（出席状況、授業中の活動状況等）を総括して評価する。		
受講者に対する要望など	予習及び発表が課されるので、授業に対する積極的な態度を必要とする。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction：授業内容、評価方法の解説 2. Chapter 1：The English Paragraph 3. Chapter 2：Main Ideas and Topic Sentences 4. Chapter 1 と 2 の復習 5. Chapter 3：Transitions in Paragraph 6. Chapter 4：Description and Illustration 7. Chapter 5：Classification and Analysis 8. Chapter 3.4.5 の復習 9. Chapter 6：Cause and Effect 10. Chapter 7：Comparison and Contrast 11. Chapter 8：Personal Opinion and Problem - Solution 12. Chapter 6.7.8 の復習 前期のまとめ 13. 前期末レポートのフィードバック 14. Chapter 9：From Paragraph to Essays 15. Chapter 10：Comparison and Contrast 16. Chapter 11：Analysis 17. Chapter 9.10,11 の復習 18. Chapter 12：Cause and Effect 19. Chapter 13：Cause and Effect 20. Chapter 12.13 の復習 21. Chapter 14：Classification 22. Chapter 15：Personal Opinion 23. Chapter 16：Problem - Solution 24. Chapter 14.15.16 の復習 		

科 目 名	エッセイ・ライティング3	担当者名	D . R . カーギー
-------	--------------	------	--------------

講 義 の 目 標	The general aim of this course is to guide the student toward a clear, logical, and interesting style of writing.		
講 義 概 要	Students can expect to write in class on a regular basis. Close attention will be paid to sentence and paragraph structure, punctuation, and spelling. Additionally, some assignments must be researched, with appropriately cited references. To further sharpen the student's perception of his or her own work, these assignments must be typed.		
使 用 教 材	テ キ ス ト		
	参 考 文 献	Students are required to have and use an English-English dictionary. A thesaurus is also recommended.	
評 価 方 法	Final grades are based on attendance, classwork, homework, a mid-term essay, and a final essay.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	The 30 students seated in the desks nearest the front will be selected for the course.(One student per desk, please.)		

科 目 名	エッセイ・ライティング 4,5	担当者名	E . カーニィ
-------	-----------------	------	----------

講 義 の 目 標	This programme is aimed primarily at having the students produce good. clear. error-free English. Also. we want to find better ways to organize and to express well. Coherence and balance are target items in all writing work.		
講 義 概 要	Classes will give time for the appreciation of the subjects about which the students will write. And this will include some discussion. Advice will be given on simple construction and the importance of clarity in communicating ideas. Set pieces will be used as sample work and students will be asked to match their own ideas with these and express themselves accordingly. Punctuation, good expression, and awareness of the reader's needs will all be covered. There will be at least one writing task per week to give students the chance to show that they have grasped the explanations in class.		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Prints and videos.	
	参 考 文 献	Brit-think. Ameri-think. Jane Walmsley Creative Writing Mind the Stop G.V. Carey	
評 価 方 法	All papers are graded(weekly assignments). Where necessary, students will be asked to write a final report. 1st Term report: July(date to be announced) 2nd Term report: December(date to be announced)		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	Students will be chosen by means of a short essay they will be asked to write. The subjects for the essay will be given at the first class meeting.		

年 間 授 業 計 画	<p>Class 1. a. introduction of methods and class practice b. written piece for evaluation(' think' item selection)</p> <p>Class 2. Basic errors in construction... adjective and noun control in relation to article use.</p> <p>Class 3. Punctuation...good comma use and bad use of similar stops...the comma stressed as a communication tool.</p> <p>Class 4. Direct and indirect speech and the necessary punctuation. A survey on individual tendencies in pieces written so far.</p> <p>Class 5. Ambiguity. Writing with awareness of meaning intended and meaning received.</p> <p>Class 6. Paragraph effectiveness to suit all needs. Writing as a reader of one' s own work.</p> <p>Class 7. 1 . the relative pronoun and the related pitfalls 2 . some absurdities in singular and plural use.</p> <p>Class 8. Continuation of the ' plural' theme...difficulties with ' each' and the use of ' everyone' and ' his or hers'.</p> <p>Class 9. Descriptive writing. Some established works compared. How to make adjectives do the work in descriptive pieces.</p> <p>Class 10. Introductions and endings...summaries and conclusions...the open ending.</p> <p>Class 11. Writing a short short story and including all the work we have covered so far.</p> <p>Class 12. Balanced writing...the sweeping statement and ' narrow-minded' attitudes in producing biased writing.</p> <p>Class 13. Comparing what you have actually said in your writing to what you really intended to say.</p> <p>Class 14. Variations in presenting ideas in documentary and fictional pieces. Some prime examples studied.</p> <p>Class 15. Letter writing. a)person to person, b)business, c)other letters, notes, job applications, forms, etc.</p> <p>Class 16. Conciseness in documentary writing, A Look at the range of meaning of the word 'academic'.</p> <p>Class 17. The short story. Bringing the ideas into line and checking on sequence in time and action.</p> <p>Class 18. Implied nuance and ambiguity revisited. Ambiguity as a starter for the awareness of humour in writing.</p> <p>Class 19. Economy of expression. reducing length and avoiding verbosity and superfluous expression. A look at repetition and padding.</p> <p>Class 20. Criticism. Analysis of subject with a view to writing a criticism. The value of discussion of your topic prior to writing.</p> <p>Class 21. The anecdote as a good short form of interesting expression. Producing some written anecdotes.</p> <p>Class 22. E. B. White and his power of humorous understatement. Writing with a view to being taken seriously, and then not so seriously.</p> <p>Class 23. Creative expression...ranges and limitations. Creative writing and the modern video.</p> <p>Class 24. Recapitulation, recrimination, and pooled suggestions.</p>
----------------------------	--

科 目 名	エッセイ・ライティング6	担当者名	K . R . ペイン
-------	--------------	------	-------------

講 義 の 目 標	<p>This class will focus on the basics of writing essays in English, especially the pre-writing planning stages. Students need not have a high level of spoken English, however, students should have a reasonable knowledge of English grammar and vocabulary and a real desire to learn to better organise their writing. Since there is a limitation on the number of students who may take this class, I will select the students in the first class as follows: students write a short paragraph during the class explaining how this class will help them. Selection will be made on the basis of clear motivation (and attendance at the first class!).</p>		
講 義 概 要	<p>Planning and pre-writing is a vital stage of any writing, particularly essay writing. While the class will look at a variety of essay styles the development of the concept to a concrete and usable plan will be the most important feature.</p> <p>Students will learn to organise and maximize their thoughts through the use of brainstorming techniques, strict planning techniques, the development of good topic sentences, introductions and conclusions. Topics will be developed through some discussion and, where possible, will be based on students interests.</p> <p>In the second semester the class will focus on academic writing. Students MUST be ready to develop a viable thesis based either on studies in other classes or seminars, or other interests.</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>A text may be decided upon after the class' needs are assessed over the first few weeks. Handouts will be provided by the teacher.</p>	
	参考文献		
評 価 方 法	<p>Grades will be based on work produced in the class and as homework in the form of notes (a bound A-4 notebook should be kept as a 'development' journal), formal essay plans and three completed essays. All submitted work must be typed.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>Attendance is very important and students will be expected to contribute to the best of their ability. There will be no examinations as assessment will be ongoing over the year.</p> <p>There will be a mid-year review test, however.</p>		

科 目 名	エッセイ・ライティング7	担当者名	R . M . ペイン
-------	--------------	------	-------------

講 義 の 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. to give students practice in building written communicative skills 2. to improve students' command of English grammar, syntax, and rhetorical devices 3. to expose students to the culture of the written English language
講 義 概 要	<p>We will cover approximately one unit of the text every three classes. Students will be expected to produce something in writing during each class period. This will be edited and rewritten based on the emphasis of that class period. A written exam requiring a timed writing will be administered during the regular university exam periods.</p>
使 用 教 材	テキスト <i>Introduction to Academic Writing, and The Elements of Style</i> will be used as the primary sources for this class.
	参 考 文 献 Complementary/supplemental materials and activities may be used as appropriate. Suggestions from students are welcome.
評 価 方 法	<p>Grades in this class will be based on the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. attendance/participation: 80% This score will be based on the student's performance in class, preparation for class, and completion of assignments. If a student is absent more than seven times, the student will receive a failing grade for the class. Two tardies will be counted as one absence. 2. tests, quizzes, or projects: 20%
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	

Classes 1, 2, 3 and 4

Unit 1 Writing about people, Organization, Grammar and Mechanics
Sentence Structure, The Writing Process

Classes 5, 6 & 7

Unit 2 Narration, Organization, Grammar and Mechanics
Sentence Structure, The Writing Process

Classes 8, 9 & 10

Unit 3 Description, Organization, Grammar and Mechanics
Sentence Structure, The Writing Process

Classes 11, & 12

Unit 4 Paragraph Organization, Organization, Prewriting, The Writing Process

Classes 13, 14 & 15

Unit 5 More about Paragraph Organization, Sentence Structure, Organization
The Writing Process

Classes 16, 17 & 18

Unit 6 Essay Organization, Organization , Prewriting, Grammar and Mechanics
The Writing Process

Classes 19, 20 & 21

Unit 7 Logical Division of Ideas, Organization , Grammar and Mechanics
Sentence Structure, The Writing Process

Classes 22, 23 & 24

Unit 8 Supporting and Opinion, Organization, Grammar and Mechanics
Sentence Structure, The Writing Process

Admission to the course:

Because there is a limitation of 30 on the number of students who may enroll in this class, I will select students during the first class meeting as follows:

1. A drawing will be held during the first five minutes of the class period.
2. The drawing will be conducted as follows. Forty-five red marbles and Forty-five white marbles will be placed in a cardboard box. Students wishing to enroll in the class will be asked to draw one marble. The box will be held so that the students can not see the marbles inside. Those drawing a red marble will be allowed to continue the selection process.
3. The next step will be submission of a timed writing sample. The final thirty students accepted for enrollment will be selected on the basis of their success on the writing sample.
4. Because the grade for this class is based primarily on attendance and participation, graduating seniors and fourth year students will be actively discouraged from enrolling.

科 目 名	エッセイ・ライティング8	担当者名	R . M . ホーマン
-------	--------------	------	--------------

講義の目標	<p>Introduction: The purpose of this course is to introduce students to the skills and methods necessary to write an academic essay. Thus, the course will focus on critical thinking, argumentation, and research skills. By the end of the course, the students will be able to write a research based essay, using citations and works cited list in the MLA style.</p> <p>Since the enrollment for this course is limited, students will be selected through writing proficiency as evidenced through an exam given during the first class. Any students not attending the first class and missing the exam will not be allowed to join.</p>		
評価方法	<p>Student will be expected to attend class regularly, as well as fulfill weekly assignments and readings. Grades will be based on participation in class, attendance, and assignment scores.</p>		
受講者に対する要望など	<p>Note: The text for this course is The Little, Brown Handbook. It is a very difficult American University first year writing book. If you feel that reading is not your strong point, I suggest you do not take this course.</p>		
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introductions; class organization; Why writing is important 2 . The writing situation & the writing process; Discovering and limiting a subject 3 . Defining you purpose; Audience 4 . Developing the topic; The thesis 5 . Organizing ideas 6 . Writing the first draft 7 . Peer editing (Giving and receiving comments); Revising the first draft 8 . Editing the first draft; Proofreading and submitting the first draft 9 . Maintaining paragraph unity 10 . Paragraph Coherence 11 . Writing special kinds of paragraphs 12 . Peer reading and discussion of essay number two 13 . Break 14 . Review of first semester 15 . The essay test 16 . Planning a research project 17 . Finding sources 18 . Evaluating and synthesizing sources 19 . Developing a thesis sentence; creating a structure 20 . The works cited list 21 . Reading arguments critically 22 . Recognizing fallacies 23 . Developing an argument 24 . Using reason and evidence 		

科 目 名	エッセイ・ライティング9	担当者名	P. マッケビリー
-------	--------------	------	-----------

講義の目標	<p>The purpose of this course is to develop the student's ability to write essays. Different types of writing will be presented to the students during the course of the year.</p> <p>If there are more than 30 students who would like to enroll in this class, selection priority will go to 4th Year Students.</p>		
講義概要	<p>Students will be required to have good attendance. I will expect students to hand in writing assignments on time.</p>		
使用教材	テキスト	Words In Motion - by David Olsher Oxford University Press	
	参考文献		
評価方法	<p>Grading will be based on classroom performance, homework, and exams. There will be a mid-term and final exam.</p>		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Chapter One 2 . 3 . Chapter two 4 . 5 . Chapter Three 6 . 7 . Chapter Four 8 . 9 . Chapter Five 10 . 11 . Chapter Six 12 . Mid-term Exam 13 . Chapter Seven 14 . 15 . Chapter Eight 16 . 17 . Chapter Nine 18 . 19 . Chapter Ten 20 . 21 . Chapter Eleven 22 . 23 . Chapter Twelve 24 . Final Exam 		

科目名	翻訳 - 1	担当者名	北澤 滋久
-----	--------	------	-------

講義の目標	<p>英米の多様な文学作品を日本語に転ずる実践作業を通じて、翻訳とはいかに労多くして報いの少ないものであるかを、身をもって体得することを目的の第一とする。</p>		
講義概要	<p>最初の2回ほどで翻訳技術の概論を講ずるが、その後は各自が開講時に述べる規定を厳守してワープロで予め作成してきた翻訳原稿を、ビューアーに依りスクリーンに転写し、それを専ら添削してゆくという、かなりハードな実習の連続となるであろう。欠席あるいは義務の不履行は許されない。</p> <p>受講者は、英語力に加えて、むしろそれ以上の日本語の表現力が必須の条件である。またワープロの作業にも熟達していなければなるまい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>現代英米の著名作家の短編を、テーマ・文体にバラエティを持たせて随時取り揃える。</p>	
	参考文献	<p>適宜教室で紹介する。</p>	
評価方法	<p>いわば毎回が「試験」であるから、特に特定日の試験は行わない。不断の出席状況を重視する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>この科目は、受講者定員が 30 名と厳命されている。従って不本意ながら、開講初日の開始時間当初に（定員を超える場合は）いきなり抽選、その後にガイダンスをいたすという異例の方策を採らざるを得ないので、予め承知願いたい。</p>		

科目名	翻訳 - 2	担当者名	園部明彦
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>翻訳は先ず慣れることが先決であるので、受講者には全員、配布するプリントの中の決められた箇所を毎時間、実際に翻訳してもらう。添削後の答案から、各自、自分の文体の問題点を確認し、次回の翻訳に役立ててもらいたい。</p>		
講義概要	<p>授業では、明らかに不適切な点はその場で指摘するが、多人数であるため、細部まで見ることは残念ながら不可能である。従って、時間終了後に答案を回収し、次回までに添削、評価して、返却する。なお、プリントとは別に、Dryden の 'Theory of Translation' を用いる。これは、坪内逍遙が Shakespeare の翻訳の際に参考にした書であると言われ、翻訳における心構えが丁寧に説かれている。例年、前期は、不慣れなためか、概して成績が思わしくないため、この書の一定ページを毎時間、<課題>として自宅で次の時間までに翻訳してきてもらう。狙いは、慣れと学力増進である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>プリント及び J. Dryden : 'Theory of Translation' (北星堂)(プリントは 19 回まではエッセイ、それ以降は評論からである。)</p>	
	参考文献	<p>参考文献はかなりの数になり、ここに提示できないので、追って書名をプリントし配布の予定。</p>	
評価方法	<p>評価法は、1 回につき 10 点満点として、その合計点が成績となる。前期は、ドライデンの課題 5 点、プリント 5 点、合計 10 点を一回分とし、後期はプリントのみで一回 10 点とする。故に、欠席は不利になる。遅刻は認めないのも例年通り。</p>		
受講者に対する要望など	<p>翻訳は語学と同様、毎回の積み重ねが重要であるので、<定期試験>を含め<追試><再試>等を行なわない。また、<レポート>などという姑息な手段は通用しない。30 名が上限なので、一回目の授業で抽選を行なう。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題：' <i>Theory of Translation</i> ' 1 ページの 12 行～19 行までの翻訳。 プリント：<省略構文>について。 2. 課題：ドライデン、2 ページの 15 行～21 行までの翻訳。 プリント：<代名詞>の用法について。 3. 課題：ドライデン、4 ページの 8 行～16 行までの翻訳。 プリント：<分詞構文>について。 4. 課題：ドライデン、5 ページの 11 行～19 行までの翻訳。 プリント：<with>の用法について。 5. 課題：ドライデン、6 ページの 26 行から 7 ページの 4 行までの翻訳。 プリント：<否定構文>について。 6. 課題：ドライデン、7 ページの 17 行～22 行までの翻訳。 プリント：<挿入文>について。 7. 課題：ドライデン、9 ページの 5 行～12 行までの翻訳。 プリント：<might>の特殊用法について。 8. 課題：ドライデン、11 ページの 15 行～22 行までの翻訳。 プリント：<特殊な否定構文>について。 9. 課題：ドライデン、12 ページの 13 行～20 行までの翻訳。 プリント：<形容詞を名詞化した文の訳出法>について。 10. 課題：ドライデン、14 ページの 9 行～15 行までの翻訳。 プリント：<省略構文>について。 11. 課題：ドライデン、15 ページの 21 行～28 行までの翻訳。 プリント：<現在完了形>の特殊用法について。 12. 課題：ドライデン、17 ページの 5 行～11 行までの翻訳。 プリント：<息の長い文の訳出法>について。 13. プリント：<with>の用法について。 14. プリント：<補語>について。 15. プリント：<挿入句の多い文>の翻訳について。 16. プリント：<personal>の訳出法について。 17. プリント：<特殊な分詞構文>について。 18. プリント：<倒置文>の訳出について。 19. プリント：<strange>の訳出法について。 20. プリント：<仮定法>について。 21. プリント：<practical>の訳出法について。 22. プリント：<survive>の訳出法について。 23. プリント：<代名詞>について。 24. プリント：まとめ <suspect>の用法について。
----------------------------	--

科目名	翻訳 - 3	担当者名	林 節 雄
-----	--------	------	-------

講義の目標	英語原文を日本語に、日本語原文を英語に翻訳する仕事に興味を持つ学生を対象に、この仕事の性質について考え、同時に実習を行い、言葉の技術とセンスを磨くことを目的とする。 なおこの科目は受講上限人数30名と決められているので、第1回目授業の最初に抽選で受講者を決定する。		
講義概要	参考文献が論じているトピックスのいくつかを紹介し、私の考えをあわせて述べる。実習は主に <i>Newsweek</i> , <i>Time</i> , 英語の新聞などの興味ある記事を使って日本語を練習する。日本文英訳については主として広告文を材料に使用する。		
使用教材	テキスト	特に使用せず。講義ノートによる。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・加島祥蔵、志村正雄「翻訳再入門」(1992)南雲堂 ・中村保男「翻訳の技術」(1989)中公新書 ・中村保男「現代翻訳考」(1992)ジャパントイムズ 	
評価方法	実習で提出する各自の翻訳文の添削結果を総合評価する。		
受講者に対する要望など	新聞、単行本など活字文化に親しもうとする姿勢を持つ学生が好ましい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「翻訳という仕事をどう考えたらいいか」についての話と実習。 2. 「後戻りしない文章」について話と実習。 3. 同上 4. 「直喩の訳し方」について。 5. 同上 6. 同上 7. 「意味のストレス」について話と実習。 8. 同上 9. 同上 10. 「辞書と翻訳」について。 11. 同上 12. 同上 13. 「リズム、ひびき、そして辞書」について話と実習。 14. 同上 15. 同上 16. 「超訳は翻訳か」について。 17. 同上 18. 同上 19. 「誤訳だらけの本」について。 20. 同上 21. 同上 22. 「原文修正は許されるか」について話と実習。 23. 同上 24. 同上 		

科目名	翻訳Ⅱ	担当者名	藤田永祐
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>翻訳は奥の深い仕事です。優れた訳は、英文の十分な理解と消化、そして日本語を上手に駆使すること、両方が不可欠です。単語も語句もそれぞれの言語のシステムの中で機能するから逐語訳は優れた訳になるどころか、往々にして、意味をなさぬ文章にすらなります。目標は文章、語句、単語のレベルで英語と日本語の発想のちがいを認識すること、そして、英語と日本語双方のセンスを磨くこと（即、実力を伸ばすこと）です。</p>		
講義概要	<p>この科目は受講上限人数が決められているため、受講希望者が多い場合は第一回目の授業で辞書を使用して、短い文章を訳してもらい、意欲の感じられない答案を提出した学生を受け入れない方法をとります。講義はもっぱら実践的方式をとります。初めの2・3回は実際に出版したものから採ってきて授業します。その後は英字新聞、小説等を使います。受講生が希望の題材を持ちよるのは歓迎します。語学力の養成はいわば、稽古事や習い事の習得に似て、初級から中級、上級へと順へと踏んで上達する他なく、一足とびの上達は望みません。</p>		
使用教材	テキスト	プリント使用	
	参考文献	辞書によく当たる作業は不可欠です。できれば大きな英和辞書と、例文が比較的豊富で解説が行き届いている中英和辞書を手もとに置いておくと便利。参考文献は授業時の適切な折に紹介します。	
評価方法	毎回行なう実習および、前後期2回のレポート		
受講者に対する要望など		積極性	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語と英語の発想の違いについて（その1）実習 2. 日本語と英語の発想の違いについて（その2）実習 3. 日本語と英語の発想の違いについて（その3）実習 受講生のレポートに優れているものをとりあげ、参考に供する。 4. 日本語と英語の発想の違いについて（その4）実習 5. 日本語と英語の発想の違いについて（その5）実習 6. 日本語と英語の発想の違いについて（その6）実習 7. 日本語と英語の発想の違いについて（その7）実習 受講生のレポートを数点とりあげ参考に検討する。 8. 日本語と英語の発想の違いについて（その8）実習 9. 日本語と英語の発想の違いについて（その9）実習 10. 日本語と英語の発想の違いについて（その10）実習 11. 英語と日本語のセンスを磨くための実習（その1） 12. 英語と日本語のセンスを磨くための実習（その2） 13. 英語と日本語のセンスを磨くための実習（その3） 夏休みのレポートで興味深いものをとりあげ教材として使う。 14. 英語と日本語のセンスを磨くための実習（その4） 市場によく売れている翻訳をとりあげ検討する。 15. 英語と日本語のセンスを磨くための実習（その5） 16. 英語と日本語のセンスを磨くための実習（その6） 17. 英語と日本語のセンスを磨くための実習（その7） 18. 英語と日本語のセンスを磨くための実習（その8） 市場で話題を呼んでいる翻訳をとりあげ教材として使う。 19. 英語と日本語のセンスを磨くための実習（その9） 20. 英語と日本語のセンスを磨くための実習（その10） 21. 総括、実習 22. 総括、実習 23. 総括、実習 24. 総括、実習 		

科目名	英文法1	担当者名	児玉仁士
-----	------	------	------

講義の目標	英語の表現力を涵養するために、英語の基礎的な文法事項を網羅的に解説し、更に文体的側面にも随時触れたいと思う。		
講義概要	テキストの内容は、Section 1 では、主に英語の基礎的な文法事項が網羅的に解説されており、また Section 2 では、前節の既習事項を踏まえて、文章表現上の誤りと文体上の技巧が具体的に述べられている。特に後者の文体的側面に比重が置かれているので、英語の表現力を更にブラッシュアップするのに有益であろう。テキストの問題の他に、色々の文例を補充しつつ授業を進めて行くつもりである。		
使用教材	テキスト	A. Waldhorn, A. Zeiger ; <i>A Practical English Grammar for College Students</i> 金星堂	
	参考文献		
評価方法	前期・後期の定期試験の成績、夏休みのレポート、出席により総合評価する。		
受講者に対する要望など	この科目は履修者上限 45 名となっている。授業の初日にそれを決定する。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英文法の予備知識としての概要を説明する。 2. 文の構成 (第 1 章): 品詞およびその分類について (第 2 章) 3. 名詞の形態 (数・性・格) について (第 3 章) 4. 代名詞およびその用法について (第 4 章) 5. 動詞および文中におけるその機能について (第 5 章) 6. 時制・法・態について (第 5 章) 7. 形容詞とその機能について (第 6 章) 8. 副詞およびその位置について (第 7 章) 9. 接続詞 (等位接続詞・従位接続詞) について (第 8 章) 10. 前置詞およびその機能について (第 9 章) 11. 準動詞 (動名詞・分詞・不定詞) について (第 10 章) 12. 句 (名詞句・形容詞句・副詞句) と (名詞節・形容詞節・副詞節) について 13. 一致 (agreement) (Section - 第 1 章): 主語と動詞 (数)、代名詞と先行詞 (数・人称・性) について 14. 代名詞の格 (主格・目的格・所有格; 同格) について (第 2 章) 15. 代名詞の照応について (第 3 章) 16. 時制の一致について (第 4 章) 17. 助動詞の用法 (特に法助動詞) について (第 4 章) 18. 形容詞・副詞の機能上の相違について (第 5 章) 19. 副詞の配列について (第 5 章) 20. 修飾語・句の問題点 (1; 懸垂分詞・懸垂不定詞) について (第 6 章) 21. 修飾語・句の問題点 (2; 懸垂動名詞) について (第 6 章) 22. 語・句・節の配列の一貫性について (第 7 章) 23. 並列に関する問題点について (第 8 章) 24. 文における省略 (特に文体上) の問題について (第 9 章) 		

科 目 名	英 文 法 2	担当者名	須賀川 誠 三
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>本講義では、伝統文法を基調とし、新しい言語理論を取り入れた「新文法」を学ぶことを主眼とする。同時に、従来の学校文法では、盲点となっていた事項を実践的に会得することもねらいとしたい。</p>		
講 義 概 要	<p>授業では、用例と解説、および練習問題を中心に英文法の各項目について習熟するようにする。文法の枠組は、伝統文法のそれを用いているので、基本的問題が主となるが、かなり高度な内容も含まれる。また、この講義で扱うのは、統語論が中心であり、形態論は原則として扱わない。</p> <p>なお、毎時間の初め 10 分位、小テストによるワンポイント・レッスンをを行い、盲点となっている事項について理解の徹底を図る。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>「大学英文法入門」英宝社 / (副教材)「ワンポイント英語表現文法」ニューカレント・インターナショナル</p>	
	参 考 文 献	<p>R. Quirk 著 / 池上嘉彦訳「現代英語文法」紀伊国屋書店。 その他は必要に応じて教室で紹介。</p>	
評 価 方 法	<p>前期レポート、後期、筆記試験による。出席も評価に関係する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>受講者希望者は、第 1 回目の授業に出席し、必ず受講の承認を受けること。定員 (45 名) を超えた場合には抽選により受講許可者を決定する。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>1. 年間の講義概要について説明。また、授業の進め方、学習法などについてのガイダンスをする。</p> <p>2. 文 (Sentence) 1.1 文の種類 (1) Exercise 1.2 文の種類 (2) 1.3 文の形態と表現内容</p> <p>3. 文の構成要素と品詞 Exercise</p> <p>4. 2. 動詞と時制 (Verbs & Tenses) 2.2 時と時制 2.3 単純現在形 2.4 単純過去形</p> <p>5. 2.5 完了時制 (現在完了形・過去完了形・その他の用法)</p> <p>6. 2.6 進行形 2.7 動詞の種類と進行形 Exercise</p> <p>7. 3. 法助動詞 (Modal Auxiliaries) 3.1 法助動詞の法性</p> <p>3.2 許可を表す may, can... など 3.3 可能性を表す may, might, can, could</p> <p>8. 3.4 可能を表す can, could 3.5 能力を表す can, be able to</p> <p>3.6 may, might, can, could のその他の用法</p> <p>9. 3.7 義務や必要性を表す must, have (got) to, need, be bound to</p> <p>10. 3.8 論理的な必然性を表す must, have (got) to, need, be bound to</p> <p>3.9 must と have to のその他の用法 3.10 should と ought to 前期レポート課題の発表</p> <p>11. 3.11 その他の助動詞 Exercise(1)~(3)</p> <p>12. 前期の授業のまとめ。</p> <p>13. 4. 未来表現 4.1 単純現在形 4.2 現在進行形 4.3 be going to</p> <p>4.4 will/shall + 原形不定詞 (1) 1人称主語と共に使用</p> <p>14. 4.4 will/shall + 原形不定詞 (2) 2・3人称と共に使用 4・5 will/shall be ~ing</p> <p>4.6 be + to - 不定詞 4.7 未来を表す他の表現 4.8 過去時における未来 Exercise (1)~(2)</p> <p>15. 6. 受動態 (Passive Voice) 6.1 受動文型 6.2 目的語が一つの能動文の受動態</p> <p>6.3 二重目的語をとる動詞の受動態</p> <p>16. 6.4 過去分詞の形容詞的性質 6.5 能動態で受動の意味を表す場合 6.6 Get の受動形</p> <p>6.7 経験受動態 Exercise (1)~(2)</p> <p>17. 7. 条件文と仮定法 (The Subjunctive) 7.1 直説法の条件文 7.2 If 条件節と仮定法</p> <p>18. 7.3 仮定法の用法上の注意点 7.4 前提節がかくされている場合 7.5 As if, as though 節</p> <p>19. 7.6 主語 + wish (+ that) + 仮定法 7.7 祈願文 7.8 should の仮定的用法</p> <p>7.9 その他注意すべき語法 Exercise (1)~(3)</p> <p>20. 9. 関係詞 (Relatives) 9.1 関係代名詞 9.2 関係形容詞</p> <p>21. 9.3 関係副詞 9.4 不定関係詞 9.5 強調構文 Exercise (1)~(3)</p> <p>22. 10. 比較 (Comparison) 10.1 比較の種類 10.2 原級による比較 10.3 比較級による比較</p> <p>23. 10.4 最上級による比較 10.5 絶対比較</p> <p>24. 10.6 特殊な比較 Exercise(1)~(2) 一年間の総まとめ、試験の注意など。</p>
----------------------------	--

科目名	英文法3	担当者名	府川 謹也
-----	------	------	-------

講義の目標	英語教師として恥ずかしくない文法知識を身に付けること。また、「なぜこう言えてあ言えないの?」という姿勢をもつようになること。		
講義概要	教室で英語を教授したり、テキストを正確に読みだりする際に役立つような英文法のエッセンシャルズを解説。		
使用教材	テキスト	安藤貞雄『英語教師の文法研究』大修館書店	
	参考文献	府川ゼミのホームページ上の参考文献を参照のこと。	
評価方法	2回の試験ならびに平常点による。		
受講者に対する要望など	受講者数に制限があるため1回目の授業で試験もしくは抽選によって選ぶ。毎回予め当てておいた人に質問を提出してもらうので、能動的な受講態度が望まれる。(例年、前期テストを返却した段階で約2割が脱落している。)		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本文型 2. 基本文型 3. 基本文型 4. 時制と相 5. 現在時制 6. 過去時制 7. 未来を示す表現形式 8. 進行相 9. 進行相 10. 完了相 11. 完了相 12. 法助動詞(現在時制形式) 13. 法助動詞(過去時制形式) 14. 法助動詞(認知的用法と非認知的用法) 15. 能動態と受動態及びそれらの用法 16. 受動態にならない能動態 17. 疑似受動態(This bed has been slept in.など) 18. 時制の照応 19. Some/anyの用法 goodの意義素 20. 冠詞の意義素 21. 英語の情報構造 22. 英語の情報構造 23. 英語の情報構造 24. 残された問題 		

科目名	英文法4	担当者名	三好 健
-----	------	------	------

講義の目標	<p>テキストは、平易な英文で書かれた英文法の教科書で、ややクセはあるが、小冊子ながら、現代英語の文法が全般にわたって簡潔にまとめられている。これを読みながら、理論に走りすぎることはない実用文法を研究し、英語を読んだり書いたり話したりする場合の、実地への応用や、教職のための実力養成を目指したい。</p> <p>なお、万一履修希望者数が定員(45名)を超えたときは、出席の諸君と相談の上善処する予定である。</p>		
講義概要	<p>受講者の実力養成を目標としているため、毎回の授業は英語・英文法の充実した訓練の場となる。毎回受講生全員に発言を求めるので、下調べが必須であることは言うまでもない。意欲のない者には適さないかも知れないが、マジメにやれば力がつくことは請け合いです。</p>		
使用教材	テキスト	M. M. Bryant & C. Momozawa : <i>Modern English Syntax</i> (成美堂)	
	参考文献		
評価方法	平常の成績と年2回の試験による。		
受講者に対する要望など	遅刻・欠席が好きで下調べの嫌いな学生は来ないで頂きたい。 受講希望者は第1回目の授業に必ず出席して名前を届けること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション。テキストの紹介と、一年間の授業計画及び勉強の仕方の説明。 2. 品詞について。(テキスト第1章) 3. 文の構造について。(テキスト第2章) 4. 文の機能について。(テキスト第3章) 5. 節について。(その1. 名詞節)(テキスト第4章) 6. 節について。(その2. 形容詞節)(テキスト第5章) 7. 節について。(その3. 副節節)(テキスト第6章) 8. 主語について。(テキスト第8章) 9. 代名詞の照合について。(テキスト第9章) 10. 動詞について。(テキスト第11章) 11. 目的語について。(テキスト第12章) 12. 補語について。(テキスト第13章) 13. 動詞句について。(テキスト第14章) 14. 助動詞について。(その1. shall と will)(テキスト第15章) 15. 助動詞について。(その2. shall, will 以外と疑似助動詞)(テキスト第16章) 16. 形容詞的修飾語句。(テキスト第17章) 17. 副詞的修飾語句。(テキスト第18章) 18. 否定について。(テキスト第19章) 19. 比較について。(テキスト第20章) 20. 態について。(テキスト第21章) 21. 仮定法について。(テキスト第24章) 22. 不定詞について。(テキスト第25章) 23. 分詞について。(テキスト第26章) 24. 話法について。(テキスト第27章) 		

科 目 名	Conversation - 1	担当者名	P. アップス
-------	------------------	------	---------

講義の目標	<p>1) To improve students confidence in communicating in English.</p> <p>2) To revise and use grammar previously studied.</p>		
講義概要	<p>There will twelve chapters in the course. Each chapter will take about two weeks approximately. This may seem a little slow but since don't know the level of our students, this would seem the proper course to follow.</p> <p>-Students will be selected on a "First come-First serve" basis</p>		
使用教材	テキスト	<p>The backbone of this course will be the textbook "Face to Face" by Macmillan Language house.. There will be supplementary material supplied provided on occasions to reinforce specific structures and grammatical patterns.</p>	
	参考文献	<p>Selection will be on level and enthusiasm.</p>	
評価方法	<p>There will be an interview test focusing on specific structures and content studied at the end of every term.</p> <p>Attendance and class participation will be evaluated.</p>		
受講者に対する要望など	<p>Talking is easy if you try.</p>		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . INTRODUCTION TO COURSE 2 . ALL ABOUT THE REAL ME 3 . ALL ABOUT THE REAL ME 4 . FRIENDS FOREVER 5 . FRIENDS FOREVER 6 . FINDING A SPECIAL FRIEND 7 . FINDING A SPECIAL FRIEND 8 . SHOOPING FOR BARGAINS 9 . SHOOPING FOR BARGAINS 10 . I'D BETTER GET A JOB 11 . I'D BETTER GET A JOB 12 . WHAT DO YOU THINK 13 . WHAT DO YOU THINK 14 . RAP, RAGGAE AND ROCK'N ROLL 15 . RAP, RAGGAE AND ROCK'N ROLL 16 . WHAT A CHARACTER 17 . WHAT A CHARACTER 18 . MONEY MATTERS 19 . MONEY MATTERS 20 . SITUATIONS IN LIFE 21 . SITUATIONS IN LIFE 22 . FACING THE FUTURE 23 . FACING THE FUTURE 24 . STUDYING FOR THE FUTURE 		

科 目 名	Conversation - 2	担当者名	C . B . 池口
-------	------------------	------	------------

講 義 の 目 標	〔履修者上限 35 名〕 This course is designed to improve the students' speaking fluency and accuracy by providing training in a lot of critical listening tasks and exposure to model conversations.		
講 義 概 要	Topics in the class will hopefully provide students the opportunity to learn to express their feelings and ideas in a non-threatening context. Less controlled pair-work conversations, and more open-ended small group discussions provide challenge to build self-confidence as well as to improve language skills. Finally students will give a short speech presentation according to their level/s.		
使 用 教 材	テキスト	To be announced.	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	Student evaluation will be based on class performance and a term-end oral examination. Class performance means participation in class work, assignment and other tasks that may be assigned.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

- 1 . Course Orientation : Course description and objective, class requirements, evaluation method, and other details.
- 2 . Meeting New People : Language Tasks and activities
Pair-work and presentation
- 3 . Where's the Party? : Language Tasks and activities
Small group discussions
- 4 . Adventures in eating : Language Tasks and activities
Pair-work and presentation
- 5 . Job Hunting in Tokyo : Language tasks and activities
Small group discussion
- 6 . Studying English Abroad : Language tasks and activities
Pair-work and presentation
- 7 . A Home Away from Home : Language tasks and activities
Small group discussions
- 8 . Video Segment/Film 1:
Language Task : Looking for information
- 9 . Communication Activities : panel discussion
- 10 . Video Segment/Film 2 :
Language Task : analyzing for relevant issues
- 11 . Panel discussion : an expansion activity on the movie (Graded)
- 12 . Summary and course evaluation
- 13 . Re-orientation to the Course : objectives, requirements and other details
- 14 . "An Overview of Global Issue" What is my role? Brainstorming
- 15 . Speaking of Sports : Language tasks and activities
Pair-work and presentation
- 16 . The Real You : Language tasks and activities
Small group discussions
- 17 . Everybody's Got a Story : Language tasks and activities
Pair-work and presentation
- 18 . Shopping for bargains : Language tasks and activities
Small group discussions
- 19 . Don't the future pass you by : language and activities
- 20 . An Introduction to Public Speaking : Fundamental guidelines
Preparing for a speech presentation
- 21 . Individual Graded Speech Presentation (1)
Teacher and classmates' evaluation
- 22 . Persuasive Speaking : Fundamental considerations
Preparing for a speech presentation
- 23 . Individual Graded Speech Presentation (2)
- 24 . Course Summary and Evaluation

科 目 名	Conversation - 3	担当者名	J. ウォールドマン
-------	------------------	------	------------

講義の目標	The aim of this course will be to help students improve their level of fluency, develop their communicative skills and deepen their level of cultural awareness.		
講義概要	Class time will be divided between class activities, group discussions, mini lectures and selected handouts from the teacher.		
使用教材	テキスト	No text will be used, but students will be expected to prepare and generate topics for class discussions.	
	参考文献		
評価方法	Students will be graded on attendance, classroom participation homework, and examinations. There will be a limit of 35 students who will be selected by random lottery.		
受講者に対する要望など	The teacher will expect all students to maintain a high level of enthusiasm as well as adhere to all grade requirements listed above.		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introductions with an explanation of the grading system and student requirements. 2 . In this session students will generate topics for discussion that will be used throughout the semester. 3 . The main topic of discussion will focus on dating and marriage customs in Japan and the United States. 4 . The differences in life styles between the students and their parents will be the topic of conversation in this class. 5 . This session will revolve around reading patterns and students' favorite books. 6 . The Confucian and Socratic methods of education will be discussed in this class. 7 . This session will focus on travel experiences to broaden students' cultural understanding. 8 . Health topics affecting university students will be the topic of this class. 9 . High school memories and a comparison between high school life and college life will be the discussion topic in this class. 10 . Storytelling techniques will be used to generate conversation among students. 11 . The main topic of discussion in this class will revolve around summer travel plans 12 . Midterm examination. 13 . This class will focus on leisure activities and attitudes toward work and family life. 14 . The changing roles of men and women in the United States and Japan will be the topic of discussion in this class. 15 . In this class students will learn to read and understand English newspapers. 16 . Students will continue to work with English newspapers to further proficiency. 17 . This will be the last class using English newspapers with a review for upcoming test. 18 . Test on the previous three lessons using English newspapers. 19 . Students will give presentations explaining Japanese culture 20 . Problems of non- Japanese people living in Japan will be the focus of discussion in this class. 21 . Storytelling techniques will be used to generate discussion In this class. 22 . The topic of this class will be environmental problems. 23 . Communication activity using music will be the focus of this class. 24 . Final examination. 		

科 目 名	Conversation - 4,5	担当者名	L. ヴィレヌーヴ
-------	--------------------	------	-----------

講義の目標	Through the study of HUMANISM, this course will give the students the chance to practice their spoken English in a context of learning about a system of thought based on the nature, dignity, interests, and ideals of a person.		
講義概要	<p>Each lecture will deal with a different topic. At the beginning of the class, key words will be explained. Then, a short lecture will be given followed by the students' participation in an exchange of ideas and opinions.</p> <p>There will be opportunities for the students to better understand themselves and realize that dreams are not always at the end of the rainbow.</p> <p>This is for students who believe they are able to express their ideas in English</p>		
使用教材	テキスト	No textbook; only a note book will be required.	
評価方法	A regular attendance and an active participation will be a heavy factor on deciding the final marks because there will be no final examination. Senior students, who think they might not attend the majority of the classes, should look for another course or be prepared to read a book approved by the teacher and write a final report at the end of the second semester. The limit number of participants will be 35.		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . What Is Humanism? 2 . Theory of Animal Nature 3 . Theory of Human Nature 4 . Analysis of The Mind 5 . Theory of Human Nature 6 . Definition of Love 7 . Public Enemy # 1 8 . Human Relationship Mental Attitude 9 . Human Relationship Conditions 10 . VIDEO And The Band Played On 11 . VIDEO 12 . Final Exam 13 . Painting A Self-Portrait 14 . Happiness 15 . Why We Ought To Succeed 16 . Success Is Your Choice 17 . Dream And Succeed 18 . Conditions for Success. Success Goes On And On 19 . The One Not Number One 20 . Pearls of Wisdom 21 . VIDEO AIDS 22 . Not Bitterness But Nectar 23 . Who And What Are You? 24 . Oral Report 		

科 目 名	Conversation - 6	担当者名	D . R . カーギー
-------	------------------	------	--------------

講義の目標	This course is designed to give students an opportunity to increase their vocabulary, fluency and confidence in speaking English.		
講義概要	The course is organized around a small-group, student-centered discussion format. A wide range of topics is examined, including global issues, current events, and contemporary trends.		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	Final grades are based on attendance, participation, homework, and presentations or examinations.		
受講者に対する要望など	The 35 students sitting in the desks nearest the front of the room will be selected for the course. (One student per desk, please)		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introduction. Selection of students. 2 . Topic 1 3 . Topic 2 4 . Current news topics 5 . Topic 3 6 . Topic 4 7 . Current news topics 8 . Topic 5 9 . Topic 6 10 . Oral presentations or examinations 11 . Oral presentations or examinations 12 . Oral presentations or examinations 13 . Review 14 . Topic 7 15 . Topic 8 16 . Current news topics 17 . Topic 9 18 . Topic 10 19 . Current news topics 20 . Topic 11 21 . Topic 12 22 . Oral presentations or examinations 23 . Oral presentations or examinations 24 . Oral presentations or examinations 		

科 目 名	Conversation - 7	担当者名	E . カーニィ
-------	------------------	------	----------

講 義 の 目 標	The aims of this course are mainly concerned with having the students gain more confidence in using their English accurately and with a high level of communication success. This will stress listening ability and response techniques.		
講 義 概 要			
使 用 教 材	テ キ ス ト	Text to be announced. Some supplementary prints	
	参 考 文 献	Prints for description work, conditional, and polite dialogue. Print maps and real city outlays for direction work. I will select the students in the first class by means of a lottery that will aim, fairly, to take a number of students from each section or year.	
評 価 方 法	Grading will be done on a class participation basis in the first assessment, so not only attendance but, also, classwork will be considered. In the second assessment there will be a final conversation test for each term. 1st term test: last class before summer. 2nd term test: last class of the school y ear		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

- Class 1. Introduction of class and classroom methods. Some examples of practice routines and some general advice.
- Class 2. Groups and pairs check. What are individual student' s problems in simple communication?
- Class 3. Reaction conversation. Short form dialogue with both known and unknown focus point. Introduction of pressure practice.
- Class 4. Negative question and some simple ways of mastering its use and surviving its pressures.
- Class 5. A practice session on negative question through a wide range of formulas. Advice on practice methods at home.
- Class 6. Useful practices for improvement including hearing and expressing. Some vocabulary lists for idiomatic work.
- Class 7. One-minute and two-minute speeches. A check on speeches to locate particular difficulties in expression.
- Class 8. Fives. A practice of linked questions that focus on one subject. Time limits in practices.
- Class 9. Pronunciation difficulties for Japanese. exercises and advice. Some telephone practice to emphasize these problems.
- Class 10. Hearing practices: emphasizing repeated hearings, reinforcing learned material.
- Class 11. Anecdotes: recounting, questioning, explaining.
- Class 12. Survey of Spring programme. Casual conversation vs. specific. Outline of Autumn schedule.
- Class 13. Established dialogues. Famous scenes from movies. Acting and mimicking. Speaking to or for an audience.
- Class 14. Write and act out a conversation. Group and pair work.
- Class 15. Politeness and situation, and telephoning various people of different status, talking ' up' and ' across'.
- Class 16. Interview practice. Coverage of main items. Pairs and groups.
- Class 17. Continuation of interviews using prepared resume. Handling direct questions and keeping up with your interviewer.
- Class 18. Conditional. A guide for use in conversation that tends to avoid grammar consciousness. Abbreviated forms and a success formula.
- Class 19. Small descriptions in conversation. How to describe simple actions
A vocabulary for describing action.
- Class 20. Presenting a teaching piece. Teach the class your favorite thing using some prop or gimmick.
- Class 21. Discussion establishing a useful vocabulary and communicating contrary ideas safely.
- Class 22. Practice in balancing ideas and stating one' s opinion. Group and class practice.
- Class 23. Four minute speeches open to questions. Handling questions and making your point.
- Class 24. Summary of years work, reinforcements. Some advice. Testing.

科 目 名	Conversation - 8	担当者名	M . A . シブル
-------	------------------	------	-------------

講義の目標	The goal of the course is to help students communicate effectively with native speakers. The specific aim will be on the oral comprehension and speaking skills necessary for study at English language institutions, success in the professions and business.		
講義概要	Class time will be spent in exercises to improve listening comprehension utilizing audio and video tape from news broadcasts, segments from drama, Comedy and documentaries. Students are expected to actively take part in discussions based on the above programs and articles from British and American newspapers and magazines. I will select students during the first class by a drawing.		
使用教材	テキスト	Prints and tapes supplied by instructor. Students will be encouraged to suggest material for study.	
	参考文献		
評価方法	Grades will be based on active participation, quizzes and presentations.		
受講者に対する要望など	Bring to class a good paperback edition of a dictionary for native adults such as <i>The Merriam Webster Dictionary</i> or <i>The Random House Dictionary of the English language</i>		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Orientation covering the goals, methods and standards for course evaluation. Interviews and selection of students; introduction of fist topic for discussion. 2 . Discussion: American life style. 3 . Viewing and discussion of news broadcast. "Swing Fever", ABC. Quizz. 4 . Discussion: The Environment. Text: to be announced. 5 . Viewing and discussion based on U.S. documentary. 6 . Viewing and discussion on documentary (continued). 7 . Orientation of student presentations. 8 . Students presentations. 9 . Students presentations. 10 . Students presentations. 11 . Students presentations. 12 . Discussion and evaluation of presentation. 13 . Viewing and discussion. Soap: "Chicago Hope " KCOP San Francisco. 14 . Viewing and discussion. Soap: "Chicago Hope" (cont) 15 . Discussion: Entertainment. Text: to be announced. 16 . Discussion: The Economy. Text from The Washington Post. Quizz 17 . Discussion: Science and Technology. Text: to be announced 18 . Discussion: Education. Text from Time Magazine. Quizz. 19 . Orientation for student presentations 20 . Students presentations. 21 . Students presentations. 22 . Students presentations. 23 . Students presentations. 24 . Discussion and evaluation of presentations. 		

科 目 名	Conversation - 9	担当者名	R . ジョーンズ
-------	------------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>The main purpose of this course is to improve students speaking and listening skills in a content based syllabus. Areas of social and world interest topics will be examined. At the end of the course, the students who have studied diligently will have increased their English speaking and listening skills significantly. Furthermore, they will be able to participate in discussion on a wide range of issues facing humanity.</p>		
講 義 概 要	<p>In the lessons great emphasize will be placed on getting discussions going on what students already know about a given topic. Student vocabulary will then be built up and ideas focused in order to participate fully in the discussions that ensue. Students will be expected to work hard to develop their opinions and to build up their vocabulary. Much of the class time will be devoted to pair and group work to maximize the amount of speaking available to each student. Students are expected to work hard both in and out of class.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>No text is required as handouts will be given each lesson. Each handout will contain vocabulary work, conversation activities and listening exercises.</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>There will be a mid-term and a final speaking exam. In these exams, students have to demonstrate how well they can speak on the topics covered. They will be assessed in groups of 3 to 4 students.</p> <p>In the regular lessons, there will be frequent vocabulary tests and the students will have to deliver speeches on given topics. In class there will also be exercises that will be awarded points which count towards the final grade. Final message: Never give up!</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>If more than 35 students select this course then students will be chosen in part by;</p> <ul style="list-style-type: none"> i) English qualifications that they have, e.g., TOEFL, TOIEC and EIKEN. ii) A short written composition. 		

Topics to be covered over the 24 lessons include the following:

How good is my English? What can I do to improve it?

Environmental Issues

How important is money?

What do you think about abortion?

Marriage or divorce?

Family values

Taking Care of the elderly

What is a best friend?

International relationships; can they work?

What is a happy relationship?

Do you believe in fate?

Should a dying patient know of their disease?

What happens after death?

Women's roles in society

Please note: not all the above will be covered and they may not be covered in the order shown

科 目 名	Conversation - 10	担当者名	G . スウィニー
-------	-------------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>This course is designed for students to use, and to build on, all four language skills. Not only will students learn new vocabulary and expressions but they will have an opportunity to use what they learn when talking about their own personal experiences.</p>		
講 義 概 要	<p>The course will be divide into two halves. The first half will center on communicative activities based on information about the people, places, cultures and customs of English-speaking countries.</p> <p>The second half will focus on learning about, and practicing, basic presentation skills. Since there is a limitation on the number of students who may take this class, I will select the students in the class by evaluating a short presentation by them. Since the course includes giving speeches, this will give an indication of a student's desire to enter a class with such a requirement.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>Milestones : Dale Fuller/Clyde Grimm Speaking of Speech : Harrington/Le Beau To be announced</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>Students will present a report to the class at the end of each semester. In addition, class participation is very important.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>Those students who wish to enter this class should be ready to interact with others in English.</p>		

年
間
授
業
計
画

- 1 . Explanation of the course to students
- 2 . Canada : The Great Escape
- 3 . Making Foreign Friends
- 4 . Traveling To The U.S.A
- 5 . England and Wales
- 6 . Social Interaction and review
- 7 . A Holiday In Ireland
- 8 . Life In Japan
- 9 . Australia
- 10 . New Zealand
- 11 . Opinions
- 12 . Project preparation and review
- 13 . Introduction to the Physical Message
- 14 . Informative Speech Style
- 15 . Voice Inflection
- 16 . Demonstration Speech Style
- 17 . The Story Message
- 18 . Persuasive Speech Style and review
- 19 . Transitions and Sequencers
- 20 . Conclusions
- 21 . The Visual Message
- 22 . Layout Review
- 23 . Evaluation Styles
- 24 . Project preparation and review

科 目 名	Conversation - 11	担当者名	R . グラム
-------	-------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>Purpose of this class : To assist students to think and speak, using modern, culturally - appropriate English questions and answers. Students will be urged to take the initiative in conversations; and to use outgoing styles and expressions in English.</p> <p>If the class becomes too big, the instructor may have to limit the number of students. If this must be done, the instructor will interview students, and select the most motivated & best.</p>		
講 義 概 要	<p>Students will be introduced to current News topics (International), and will be asked to give opinions. Music exercises will be employed, to assist in improving English listening comprehension. Conversation topics (and methods) will be modelled; and students will then practice in pairs. English videos & conversation tapes will be used, to provide real, timely topics for conversation.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>A textbook may be chosen, depending on assessment of student needs & requests.</p>	
	参 考 文 献	<p>Occasionally, students may be asked to read newspaper articles, for the purpose of discussion.</p>	
評 価 方 法	<p>Attendance, class participation, and tests (quizzes & examinations) will be important in determining student grades.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>Participation and regular attendance are very important to succeed in this class.</p>		

- 1 . Introductions (including name(s); occupation; company/school name; handshaking; eye contact; and so on). Cloze song exercise.
 - 2 .“ How are you? ”: practice with many variations in answering. “ What do you think of/about ...? ” : giving opinions, & elaborating; pair practice.
 - 3 . Further practice, expressing opinions. Cloze song exercise. Asking & telling about hobbies; practice in pairs.
 - 4 Review of hobbies. Restaurant ordering, with many variations and choices : practice. Song exercise (Cloze).
 - 5 . News video : questions thereon; & discussion. Cloze song exercise.
Review of restaurant ordering.
 - 6 . Street directions : asking & giving. Pair practice. Polite English questions. Song cloze exercise.
 - 7 . English NEWS video : questions & discussion. Review of street directions. Song (cloze) exercise.
 - 8 . Review of street directions. “ What kind of do you like ? ”: culturally appropriate answers & elaboration. Cloze song exercise.
 - 9 .“ ...Going to... ” : English future tense, including polite variations thereof. Pair practice. Cloze song exercise. Review of “ What kind of do you like ? ”
 - 10 .English NEWS video, followed by questions & discussion. More practice of“ ...Going to... ” : pairwork.
 - 11 .“ What do you usually do on your days off? /on Thursday nights? /on Sunday mornings? /etc.?” : pair practice. Also, “ How often do you ? ” : pairwork. Song cloze.
 - 12 . Review of “ How often...? ” & “ What do you usually do...? ” Cloze song exercise.
Complimenting another person’s things; and responding appropriately to compliments.
 - 13 Review of compliments : pairs. English NEWS video, with questions & discussion. Making a plan to meet, including deciding (& changing) meeting time, place, etc. Discussion.
 - 14 . Review of appointment - making : pairs. Cloze song exercise. “ Used to/for ” : the various permutations thereof, with pair practicing.
 - 15 . Review of “ used to/for ” : pairs. “ Have you ever...? ” : asking, & answering in culturally - appropriate ways. Pair practice. Cloze song exercise.
 - 16 . Review of “ Have you ever...? ” English NEWS video : Questions & discussion thereon.
Descriptions of people, with pair practice.
 - 17 .Review & further practice of people descriptions. Song cloze exercise.“ What’s like ? ” & “ What are s like ? ” , followed by practice.
 - 18 .Review & practice of “ What are s like ? ”. Quiz. English News video, with questions & discussion.
 - 19 . Agreeing & disagreeing to various English statements; extensive practice thereof. English song cloze exercise.
 - 20 . Review for examinations.
- * Note : The number of topics studied will be adjusted to match student pace, and semester scheduling. Thus, the topics above are subject to change.

科 目 名	Conversation - 12	担当者名	R . J . バロウズ
-------	-------------------	------	--------------

講 義 の 目 標	Through listening and speaking activities based on scenes from five classic films, this course is aimed at developing students' abilities to comprehend authentic speech and prompt debate of issues and content. (Students will be selected according to their language skill and enthusiasm).		
講 義 概 要	Each film unit will be organised as follows : Week 1 : Introduction to film's background and language Week 2 : Analysis of two critical scenes Week 3 : Analysis of two critical scenes Week 4 : Final analysis and discussion review		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Photocopied Handouts	
	参 考 文 献	English-English Dictionary	
評 価 方 法	30% : Attendance / Punctuality 30% : Classroom Performance (Involvement / Effort) 40% : Evaluations in July and January		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	Be prepared to study and work hard in order to improve oral and aural skills on this course.		

- 1 . INTRODUCTORY LESSON
- 2 . FILM UNIT 1 : GONE WITH THE WIND
Context and Idioms
- 3 . In the Library at Twelve Oaks
At the Confederate Ball
- 4 . In the Parlor at Aunt Pittypat's
In Rhett's Buggy in the Streets of Atlanta
- 5 . Aunt Pitty's House and the Flight from Atlanta
Return to Tara
- 6 . FILM UNIT 2 : DANCES WITH WOLVES
Context and Idioms
- 7 . On the Battlefield
In the Office
- 8 . With the Wolf
In the Tent
- 9 . At the River
At the Fort
- 10 . FILM UNIT 3 : TO KILL A MOCKINGBIRD
Context and Idioms
- 11 . Jem and Dill talk about Boo
Atticus and Ewell outside the Courtroom
- 12 . SUMMER EVALUATION
- 13 . REVIEW OF FIRST TERM + EVALUATION
- 14 . The Children near the Radley House
The Dining Room at the Fish Home
- 15 . The Mad Dog
Atticus and Jem at the Robinsons
- 16 . FILM UNIT 4 : CASABLANCA
Context and Idioms
- 17 . The Refugee Trail
Police Question Suspects
- 18 . Rick and Ugarte at Rick's
Rick and Louis in Rick's Office
- 19 . Laslo, Ilse and Louis at a table in Rick's
Rick and Ilse meet again
- 20 . FILM UNIT 5 : WHEN HARRY MET SALLY
Context and Idioms
- 21 . Harry Meets Sally
On the Way to New York
- 22 . Sally and Joe at the Airport
In the Bookstore
- 23 . Harry and Sally in the Park
Harry and Sally on the Phone - watching ' Casablanca '
- 24 . FINAL EVALUATION

科 目 名	Conversation - 13	担当者名	T. ヒル
-------	-------------------	------	-------

講義の目標	To introduce the necessary vocabulary and teach interaction skills for discussion of issues of concern to young adults.		
講義概要	The course will consist of contemporary discussion topics. Introductory material (dialogs, letters, cartoons, charts, newspaper articles and photographs) and exercises to guide students from highly controlled discussion to open-ended debate will be distributed. Students will be expected to develop and express their own opinions. The number of students in this class is limited to 35. Selection will be made at the first class by lottery.		
使用教材	テキスト	Handouts	
	参考文献		
評価方法	Students will be graded on participation in class discussion, mid-term and final speech, and attendance. This course is for students at the <i>intermediate</i> level.		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introduction 2 . Too old at twenty 3 . Music or Money? 4 . Should students take part-time jobs? 5 . Examinations are a necessary evil 6 . Focus on the arms race 7 . Just a statistic? 8 . Why can't I do what I want? 9 . A blessing or a curse? (Telephones) 10 . Life begins at 40 11 . Who'll get the job? 12 . First semester test 13 . I'm going to have to report this 14 . Who makes the decisions? 15 . Talk to Terry 16 . The boy who cried wolf 17 . What would you advise? 18 . Why are you late? 19 . Who owns your time? 20 . The young scientist: cruel or curious? 21 . What should schools teach? 22 . A blessing or a curse? (Motor vehicles) 23 . Review of the course 24 . Second semester test 		

科 目 名	Conversation - 14	担当者名	F. ファーン
-------	-------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>This course is intended for students wishing to build upon the English language skills and knowledge they already possess. The aim is to extend and enhance student ability to use the language fluently, accurately and appropriately.</p>		
講 義 概 要	<p>A course textbook will be used supplemented by a variety of video, audio and textual materials. Primary attention will be given to the development of listening and speaking skills with some attention being paid to reading and writing. Emphasis will also be given to lexis, syntax, pronunciation, idiomatic expression and colloquial usage.</p> <p>The course will be student centred with an emphasis on active participation. Students will take part in a wide range of activities, working in pairs and small groups.</p> <p>Extensive preparation prior to each lesson will be required.</p> <p>Students admitted to the course will be selected at random from those attending the first lesson.</p>		
使 用 教 材	テキスト	J. & L. Soars	New Headway: Intermediate OUP
	参 考 文 献	Additional materials will be provided by the course tutor.	
評 価 方 法	<p>Assessment will be based upon attendance, participation, assignments, presentations and end of term tests.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	Conversation - 15	担当者名	A . R . ファルヴォ
-------	-------------------	------	---------------

講義の目標	To capture student interest with visual information in a contemporary context. Consequently students will be able to communicate effectively after viewing TV format information. Students selected by lottery and / or interview		
講義概要	Using an audio-visual approach students will generate language in response to real life information on a variety of topics taken from actual English TV programs.		
使用教材	テキスト	SUCCESS 2 & 3 VIDEO MAGAZINE	
	参考文献		
評価方法	Quizzes, questions in class, participation, multiple choice exams (1st & 2nd Term Finals) attendance		
受講者に対する要望など	Constant application of ability is crucial to succeed		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introduction of class material / procedure success 2 show 1 2 . Interviewing activity / intonation focus 3 . Show 2 presentation / interviewing activity 4 . Reading and discussion 5 . Show 3 presentation / interviewing activity 6 . Giving and understanding directions oral reports 7 . Show 4 presentation / Group interview 8 . Group discussion / evaluation technique 9 . Show 5 Presentation / Interviewing and reporting 10 . Writing A commercial and performance 11 . Writing A commercial and performance 12 . Review of material 13 . Exam-multiple choice questions 14 . Review of exam 15 . Introduction to success 3 show 1 presentation / interviewing 16 . Oral reports / discussion 17 . Show 2 presentation / interviewing activity 18 . Listening for details & reporting 19 . Show 3 presentation / interviewing activity 20 . Taking a survey / evaluating results 21 . Interpretation of data, prediction making 22 . Show 5 presentation / Interviewing activity 23 . Panel Discussion & judgement 24 . Exam 		

科 目 名	Conversation - 16	担当者名	T . J . フォトス
-------	-------------------	------	--------------

講 義 の 目 標	<p>The main objectives and aims of this English course are to review and increase the vocabulary and understanding of general English terms that will assist students in their future careers. All four skills of reading, writing, speaking, and hearing of English will be covered. If more than 35 students wish to be in the class, there will be a simple test the first class meeting.</p>		
講 義 概 要	<p>Several general interest newspaper and magazine articles will be studied. American movies will be viewed.</p> <p>Newspaper and magazine articles, as well as movie reviews will be handed out to students. Although there probably won't be any assigned course textbook, students should be prepared to use not only the usual Japanese-English, English-Japanese dictionaries, but also a simple, cheap, up-to-date English-English pocketbook dictionary would be good to have. Please note that extra copies of the videos for the course will be available for the student's individual practice in the Dokkyo University Language Laboratory located in Building No.5,3d Flr.</p>		
使 用 教 材	テキスト		
	参考文献	<p>There will be handouts (copies) of various newspaper and magazine articles which will be read, studied and discussed in class to increase student's vocabulary, especially of business and economics term. American movies, with short written movie reviews or explanations will be watched from time to time. These movies will be "closed caption". That is, the words that one hears will appear in English typed on the screen. Trying one's best and making an effort to improve and make progress is most important.</p>	
評 価 方 法	<p>(% of course grade) Class attendance, discussion and participation (70%); first semester oral interview (15%); and final oral interview (15%).</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>Active class participation and regular attendance are important in determining the final course grade, therefore not only must the university rule of two-thirds of the classes be attended, but closer to 80% attendance would better assure that the students get something useful out of the lessons.</p>		

年 間 授 業 計 画	First Semester
	1 . Introductions and possible level test.
	2 . Pronunciation, handouts, reading and discussion.
	3 . Continue with first handout and topic.
	4 . Review and go on to new handout.
	5 . Continue with topic.
	6 . Reading, writing and discussion.
	7 . Reading and discussion.
	8 . Review vocabulary, pronunciation, and topics.
	9 . Last first term topic introduced.
	10 . Reading, writing and discussion.
	11 . Reading and discussion. Review key points.
	12 . Start oral interviews and evaluations.
	13 . Finish first term oral interviews.
	Second Semester
	13 . Review of first semester key points.
	14 . Handouts, reading and discussion.
	15 . Continue with handout topic.
	16 . Review and go on to next topic.
	17 . Continue with topic.
	18 . Reading, writing and discussion.
	19 . Reading and discussion.
	20 . Review vocabulary, pronunciation, and topics.
	21 . Last second term topic introduced.
	22 . Reading, writing and discussion.
	23 . Reading and discussion. Review key points.
24 . Start oral interviews and evaluations.	
26 . Finish second term oral interviews.	

科 目 名	Conversation - 17	担当者名	D. ブラドリー
-------	-------------------	------	----------

目講 義 標の	This course aims to improve the listening and speaking abilities of intermediate students of English.		
講 義 概 要	<p>We will do a selection of listening exercises and fluency practice activities. The level will be that of general EFL textbooks at the intermediate level. The listening exercises consist of short interviews, telephone exchanges, public announcements, conversations and other recordings of people speaking naturally. In the fluency activities students exchange information, describe their experiences, and participate in role plays and discussions. In the weekly topics listed below there is a range of topics commonly handled at this level. This is a proposed list and not necessarily final.</p> <p>There is an upper limit of 35 on the number of students who may take this class. Where the number hoping to take this class exceeds 35 we will decide the class members by lottery during the first class meeting.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.	
評 価 方 法	Grades will be based on attendance, class participation and short tests. In particular, good attendance is a prerequisite for a final grade.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	Students will work together in pairs during the speaking activities and it is important that you make an effort to speak in English and maintain English throughout the lesson. This effort will be reflected in the grading.		
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introduction to the course 2 . Consolidation activities 3 . " 4 . Personal information - talking about yourself 5 . Work - talking about jobs and careers 6 . Past lives - talking about people's histories, biographies 7 . Homes - Location inside the house 8 . Directions - giving directions and using maps 9 . Travel - making travel arrangements 10 . Travel - modes of transport 11 . Giving instructions 12 . Review 13 . Consolidation 14 . Comparisons 15 . Communication - reported speech and giving messages 16 . Health 17 . Giving advice 18 . Hypothetical situations - conditional sentences - talking about the future 19 . Hypothetical situations - conditional sentences - talking about the past 20 . Currents events - listening to the news 21 . Discussions - giving opinions 22 . " 23 . Review 24 . " 		

科 目 名	Conversation - 18	担当者名	K . R . ベイン
-------	-------------------	------	-------------

講義の目標	This class will try to get away from the use of traditional language textbooks by using short letters written by native speakers to look at real language, idioms and cultural situations. Since there is a limitation on the number of students who may take this class, I will select the students in the first class as follows: students will be asked to complete a short questionnaire and (very short) question/answer 'chat' with the teacher. Selection will be made on the basis of motivation and suitability (and attendance at the first class!).		
講義概要	Through the use of letters written to an advice column in the United States (Ann Landers) students will be introduced to language written for communication that also can be used for discussion of interesting cultural differences and adapted for situational role-plays. Vocabulary and idiom building will also be an important feature. Participation to the best of their abilities is the key.		
使用教材	テキスト	Materials will be provided by the teacher, but I suggest students have an A-4 size notebook.	
	参考文献		
評価方法	Grades will be based on classroom performance and participation on a week-to-week basis, periodic vocabulary tests; and oral testing through role-plays.		
受講者に対する要望など	Good attendance is paramount. MOST IMPORTANT is a willingness to try and contribute and learn.		
年間授業計画	<p>A Course Introduction in the first class will outline the general aims and methodology. This will also include outline of class grading policies & setting up of on-going activities.</p> <p>Each class will follow a similar pattern:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Scene setting and short general discussion through conversation pair-work activities. • Reading and analysis of the short letter and highlighting of key vocabulary and idioms. • Concept checks through comprehension questions; discussion of key communication points of the letter, discussion of key culture-specific points of the letter. • Language practice using one of more language forms found in the letter. • Pair/group role-plays based on the situation / language points practiced. <p>This lesson structure will cover roughly two class, with 7-9 letters being covered in a year (hopefully more).</p>		

科 目 名	Conversation - 19	担当者名	P. ベランド
-------	-------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>英語圏の人達とコミュニケーションがとれるよう英会話ができるようにする。</p> <p>In Conversation in case there are too many students I draw lot to limit the number of students.</p>		
講 義 概 要	<p>講義では60%は日常会話のための勉強をする。あと40%では様々な話題を取りあげもう少し専門的な会話の勉強をします。日本と外国との文化の違いを知ることも大切であり、政治、経済、地理、宗教などを話題にして基本的な語彙を身につけるようにする。生徒の皆さんに望むことは、どのような話題についても興味をもち、心を開いて欲しい。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>“English Conversation Encyclopedia” <Beland Associates 発行></p>	
	参 考 文 献	<p>その他、私が用意する資料。</p>	
評 価 方 法	<p>出席率重視</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>私語厳禁。前向きな態度</p>		

科 目 名	Conversation - 20	担当者名	W . J . ベンフィールド
-------	-------------------	------	-----------------

講義の目標	The aim of the course is to develop general fluency through a variety of listening and speaking activities.		
講義概要	We will cover a variety of topics in the class. The topic will be introduced through a listening or a reading passage. The topic will then be developed through controlled conversations, pair work and group work and discussion. Students may also be asked to give short presentations in class and there will be some written homework.		
使用教材	テキスト	' New English Firsthand Plus ' ; Helgesen, Brown, Mandeville (Lingual House)	
	参考文献		
評価方法	Assessment will be on the basis of attendance, performance and participation in class activities. There will also be an examination at the end of each semester.		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introduction to the course and student selection. There is a limit to the number of students who can take this class. If there are too many, students will be selected at random. 2 . Who are you? Introductions and personal information. 3 . Week 2 topic continued 4 . Where do you live? Describing buildings and places. 5 . Week 4 topic continued 6 . How do you do that? Rules and instructions 7 . Week 6 topic continued 8 . Once upon a time ... Story telling 9 . Week 8 topic continued 10 . What do you suggest? Giving advice and suggestions 11 . Week 10 topic continued 12 . Mid-term examination 13 . How do you feel? Talking about feelings 14 . Week 1 topic continued 15 . Do you remember? Talking about the past 16 . Week 3 topic continued 17 . How do you feel about that? Giving opinions 18 . Week 5 topic continued 19 . Where do you come from? Talking about different cultures 20 . Week 7 topic continued 21 . How do you do that? Describing how things work 22 . Week 9 topic continued 23 . Christmas quiz 24 . Final examination 		

科 目 名	Conversation - 21	担当者名	R . M . ペイン
-------	-------------------	------	-------------

講 義 の 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. to give students practice in building conversational and communicative skills 2. to improve students' listening skills 3. to expose students to the culture of the language
講 義 概 要	<p>We will cover approximately one unit of the text every two classes. On the first day, we will look at the vocabulary and discuss the introductory picture. On the second, we will do other expansion activities.</p>
使 用 教 材	テキスト <p><i>on line, 2</i> and workbook (Heinemann) will be used as the primary source for this class.</p>
	参 考 文 献 <p>Complementary/supplemental materials and activities may be used as appropriate. Suggestions from students are welcome.</p>
評 価 方 法	<p>Grades in this class will be based on the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. attendance/participation: 80% This score will be based on the student's performance in class, preparation for class, and completion of assignments. If a student is absent more than seven times, the student will receive a failing grade for the class. Two tardies will be counted as one absence. 2. tests, quizzes, or projects: 20%
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	

Tentative coursework schedule:

- Classes 1 & 2 Unit 1, Moving In
- Classes 3 & 4 Unit 2, Technology rules!
- Classes 5 & 6 Unit 3, Places we know
- Classes 7 & 8 Unit 4, That's life
- Classes 9 & 10 Unit 5, Facts for fun
- Classes 11 & 12 Unit 6, Wishful thinking
- Classes 13 & 14 Unit 7, The travel world
- Classes 15 & 16 Unit 8, Career success
- Classes 17 & 18 Unit 9, Life's twists and turns
- Classes 19 & 20 Unit 10, Home sweet home
- Classes 21 & 22 Unit 11, To the future
- Classes 23 & 24 Unit 12, Last words

Admission to the course:

Because there is a limitation of 35 on the number of students who may enroll in this class, I will select students during the first class meeting as follows:

1. A drawing will be held during the first five minutes of the class period.
2. The drawing will be conducted as follows. Thirty-five red marbles and thirty-five white marbles will be placed in a cardboard box. Students wishing to enroll in the class will be asked to draw one marble. The box will be held so that the students can not see the marbles inside. Those drawing a red marble will be allowed to enroll and will be given the course syllabus and other information.
3. Because the grade for this class is based primarily on attendance and participation, graduating seniors and fourth year students will be actively discouraged from enrolling.

科 目 名	Conversation - 22,23	担当者名	R . M . ホーマン
-------	----------------------	------	--------------

講義の目標	Introduction: The purpose of this course is to introduce students to the language necessary to be successful in their academic and business lives. Activities are designed to introduce students to expressions which will be useful to them in the future, analyze how the expressions are used through dialogs, and use the expressions interactively through the use of role plays, interviews, discussion, etc. Since the enrollment for this course is limited, students will be selected through listening proficiency as evidenced through an exam given during the first class. Any students not attending the first class and missing the exam will not be allowed to join.		
講義概要	Students will be expected to attend classes regularly, as well as do weekly homework assignments. Quizzes, participation in class, and attendance will all be evaluated in the final grades.		
使用教材	テキスト	The course textbook will be D.E.S.I.R.E. from Macmillan publishers.	
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 1 . Introductions, class organization 2 . How to be a group leader 3 . Unit 2 Introductions; Warm up, Cultural advice/Problem solving, Listening 4 . Unit 3 Introductions cont'd.; Listening, Task, Wrap up 5 . Unit 4 Closing a conversation; Warm up, Cultural advice/Problem solving, Listening 6 . Unit 5 Closing a conversation cont'd.; Listening, Task, Wrap up 7 . Unit 6 Review of units 1-5 8 . Unit 7 Homestay; Gift giving; Warm up, Cultural advice/Problem solving, Listening 9 . Unit 8 Homestay; Gift giving cont'd.; Listening, Task, Wrap up 10 . Unit 9 Strategies for unfamiliar situations; Warm up, Cultural advice/Problem solving, Listening 11 . Unit 10 Strategies for unfamiliar situations cont'd.; Listening, Task, Wrap up 12 . Review of units 5-11 <p>Summer Break</p> <ul style="list-style-type: none"> 13 . Unit 12 Gestures; Warm up, Cultural advice/Problem solving, Listening 14 . Unit 13 Gestures cont'd.; Listening, Task, Wrap up 15 . Personality Test 16 . Giving advice 17 . Visiting an office 18 . Survival 19 . The auction 20 . Speaking time (Fluency practice) 21 . Negotiation for business 22 . Who gets the heart? 23 . Storytelling 24 . Review 		

科 目 名	Conversation - 1	担当者名	C . B . 池 口
-------	------------------	------	-------------

講 義 の 目 標	〔履修者上限 35 名〕 The goals of this course are two-fold : to develop students' critical listening and thinking, and polish their ability to express personal ideas in a coherent and logical manner.		
講 義 概 要	Issues of international appeal, particularly to EFL students, will be presented to encourage target language use and generate active discussion. Small group discussions in the first term will prepare class members for more organized forms of public speaking in the second term.		
使 用 教 材	テ キ ス ト	To be announced.	
	参 考 文 献	Speech Communication for International Students.	
評 価 方 法	Student evaluation will be based on class performance and a mid-year and a final oral test. Class performance includes participation in class discussions and individual speech presentations. Attendance is obligatory.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

- 1 . Brainstorming/Course Orientation :
Course description and objectives, class requirements, evaluation method, etc..
- 2 . Text : "Give My Place to Smoke"
Focus on Language Tasks
- 3 . Expansion Activities geared towards interactive communication.
The Importance of outlining
- 4 . Text : "Drive-in Shopping"
Focus on Language Tasks
- 5 . Expansion Activities for creative communication.
The Importance of Outlining
- 6 . Text : "The Mail-Order Bride"
Focus on Language Tasks
- 7 . Expansion Activities geared towards interactive communication.
Outlining Ideas
- 8 . Text : "The Wrong End of a Pistol"
Focus on Language Tasks
- 9 . Expansion Activities for creative communication.
Outlining Ideas
- 10 . Text : "Informed Consent"
Focus on Language Tasks
- 11 . Summary and course evaluation
- 12 . Test
- 13 . course Re-orientation/Brainstorming on Public Speaking
- 14 . Informative Speech : Principles and guidelines
Preparing for Informative Speeches : Outlining
- 15 . Informative Speech : Presentation (Graded : First Half of the Class)
Topic : "The Growing Japanese Women"
- 16 . Small group discussion
The Issue : "English Education in Japan"
- 17 . Persuasive Speech : Principles and guidelines
Preparing for Persuasive Speech : Outlining
- 18 . Persuasive Speech Presentation (Graded : Second Half of the Class)
Topic : " Where is the gentleman in Japan"
- 19 . A mini talk show on the previous discussion topic
- 20 . Debating : Guidelines/Format and Procedures
Watching sample debate/s on video
- 21 . Practice Debate 1 : Intra-year level
Proposition to be chosen by debaters
- 22 . Practice Debate 2 : Inter-year level
Proposition to be chosen by debaters
- 23 . Final debate : Winners from each of the previous debating teams
- 24 . Summary & Course Evaluation

科 目 名	Conversation - 2	担当者名	D . R . カーギー
-------	------------------	------	--------------

講義の目標	This course is designed to give students an opportunity to increase their vocabulary, fluency, and confidence in speaking English.		
講義概要	The course is organized around a small group, student-centered format. Discussions will focus primarily on topics of current international significance. As such, students are expected to keep themselves well-informed of current global events.		
評価方法	Final grades are based on attendance, participation, homework assignments, and oral presentations or examinations. Fourth-year students are not exempt from these requirements.		
受講者に対する要望など	The 35 students sitting in the desks nearest the front will be selected for the course. (One student per desk, please.)		
年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introduction. Selection of students. 2 . Topic 1 3 . Topic 2 4 . Current news topics 5 . Topic 3 6 . Topic 4 7 . Current news topics 8 . Topic 5 9 . Topic 6 10 . Oral presentations or examinations 11 . Oral presentations or examinations 12 . Oral presentations or examinations 13 . Review 14 . Topic 7 15 . Topic 8 16 . Current news topics 17 . Topic 9 18 . Topic 10 19 . Current news topics 20 . Topic 11 21 . Topic 12 22 . Oral presentations or examinations 23 . Oral presentations or examinations 24 . Oral presentations or examinations 		

科 目 名	Conversation - 3	担当者名	R . ジョーンズ
-------	------------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>In this course students will be encouraged to examine, discuss and debate a wide range of issues that face many countries in the world today. Political and social issues of high interest will be explored in each lesson. By the end of the course students who have studied diligently will have substantially increased their speaking and listening skills. In addition they will also find that they are able to participate more fully in conversations and debates concerning crucial topics relevant in society today.</p>		
講 義 概 要	<p>In the lessons great emphasis will be placed on getting discussions going on what students already known about a given topic. Student vocabulary will then be built up and ideas focused in order to facilitate full participation in the discussions that ensue. Students will be expected to work hard to develop their opinions and to build up their vocabulary. Much of the class time will be devoted to pair and group work to maximize the amount of speaking available to each student. Students are expected to work hard both in and out of class.</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>No text is required as handouts will be given each lesson. Each handout will contain vocabulary work, conversation activities and listening exercises.</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>There will be a mid-term and a final speaking exam. In these exams, students have to demonstrate how well they can speak and discuss the topics covered. They will be assessed in groups of 3 to 4 students. In the regular lesson, there will be frequent vocabulary tests and the students will have to deliver speeches on given topics. In class there will also be exercises that will be awarded points which count towards the final grade. Final message: Never give up!</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>If more than 35 students select this course then students will be chosen in part by;) English qualifications that they have, e.g., TOEFL, TOIEC and EIKEN.) A short written composition given in the first day of class.</p>		

Topics to be covered over the 24 lessons include the following:

How good is my English? What can I do to improve it?

Environmental Issues

How important is money?

What do you think about abortion?

Marriage or divorce?

Family values

Taking Care of the elderly

What is a best friend?

International relationships; can they work?

What is a happy relationship?

Do you believe in fate?

Should a dying patient know of their disease?

What happens after death?

Women's roles in society

Please note: not all the above will be covered and they may not be covered in the order shown.

Additional topics may be added.

科 目 名	Conversation - 4,5	担当者名	N . H . ジョスト
-------	--------------------	------	--------------

講 義 の 目 標	<p>The primary aim for this course is to have students improve their listening and speaking skills. It will focus on current cultural and topical themes found on television news in the United States. A video with an accompanying transcription will be used in this class. The transcription will allow us to look at the language and themes found on the video and to discuss them with some authority. This course will call on students to actively participate in all class activities. These activities will include group discussions, panel and individual presentations, roundtable discussions, and pair work. This course is designed to help students improve on their present speaking and listening abilities.</p>		
講 義 概 要	<p>The approach to this class is based on the premise that students entering have a reasonable understanding and command of spoken English. Thus the activities are communicative based. The material used will help students develop their own ideas and opinions. Class time will be spent working on communicating those ideas and opinions in English.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	ABCs Culture Watch.	
	参 考 文 献	ABCs Culture Watch. This book will be available for purchase at DUO. Students will be need a blank cassette.	
評 価 方 法	<p>Grading will be based on classroom participation, and on midterm and final oral presentations. As the number of students permitted to join this class is set at 35, I will select students in the first class based on personal interviews and/or group discussion.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

- 1 . Course introduction. Selection of students.(Max. 35)
- 2 . Culture Watch Number One: Environment.
- 3 . Continued. Class discussion on how to save the environment.
- 4 . Culture Watch Number Two: Getting into an American University.
- 5 . Continued. Class discussion on entrance examinations.
- 6 . Culture Watch Number Three: Ellis Island.
- 7 . Continued. Class discussion on immigration.
- 8 . Culture Watch Number Four: Shopper Discretion.
- 9 . Continued. Group Presentations.
- 10 . Students presentations.
- 11 . Students presentations.
- 12 . Students presentations.
- 13 . Culture Watch Number Five: Judgment Day.
- 14 . Continued. Pair Presentations.
- 15 . Culture Watch Number Six: Underage Alcohol Abuse.
- 16 . Continued. Pair Presentations.
- 17 . Culture Watch Number Seven: Health.
- 18 . Continued. Pair Presentations.
- 19 . Culture Watch Number Eight: Homeless.
- 20 . Continued. Pair Presentations.
- 21 . Students presentations and discussions.
- 22 . Students presentations and discussions.
- 23 . Students presentations and discussions.
- 24 . Final summary.

科 目 名	Conversation - 6	担当者名	T. ヒル
-------	------------------	------	-------

講義の目標	To help students develop the ability to formulate ideas and express their opinions on issues of international significance.		
講義概要	Each week students will read an article from a newspaper or magazine. Then in class they will present their article and give their own opinions. This will lead to a general discussion on their topic and all students will be expected to actively participate.		
使用教材	テキスト	Articles from Newspapers and Magazines	
	参考文献		
評価方法	Students will be graded on participation in class discussion, mid-term and final speech, and attendance. This course is for students willing to join in discussion.		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	1 . Introduction 2 . Article 1 3 . Article 2 4 . Article 3 5 . Video : The Cosby Show 1 6 . Article 4 7 . Article 5 8 . Article 6 9 . Article 7 10 . Video : The Cosby Show 2 11 . Review 12 . First semester test 13 . Article 8 14 . Article 9 15 . Article 10 16 . Article 11 17 . Video : The Cosby Show 3 18 . Article 12 19 . Article 13 20 . Article 14 21 . Article 15 22 . Article 16 23 . Review 24 . Second semester test		

科 目 名	Conversation - 7	担当者名	F. ファーン
-------	------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>This course is intended for students who already have a good command of English. Building upon the knowledge and skills already possessed, the aim is to extend and enhance student ability to use the language fluently, accurately and appropriately.</p>		
講 義 概 要	<p>A course textbook will be used supplemented by a variety of video, audio and textual materials. Primary attention will be given to the development of listening and speaking skills with some attention being paid to reading and writing. Emphasis will also be given to lexis, syntax, pronunciation, idiomatic expression and colloquial usage.</p> <p>The course will be student centred with an emphasis on active participation. Students will take part in a wide range of activities, working in pairs and small groups. Extensive preparation prior to each lesson will be required.</p> <p>Students admitted to the course will be selected at random from those attending the first lesson.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	J. & L. Soars New Headway: Upper-Intermediate OUP	
	参 考 文 献	<p>Either.</p> <p>a) Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English</p> <p>or</p> <p>b) Longman's Dictionary of Contemporary English</p>	
評 価 方 法	<p>Assessment will be based upon attendance, participation, assignments, presentations and end of term tests.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	Conversation - 8	担当者名	A . R . ファルヴォ
-------	------------------	------	---------------

講義の目標	To improve the ability to use non verbal clues to generate appropriate linguistic responses in the given context of an everyday situation students selected by lottery and / or interview		
講義概要	Using a movie with closed captions students will observe, comment up on and model the various scenes from the movie to build their ability communicate in English situational conversations.		
使用教材	テキスト		
	参考文献	Prints from the closed captioned script of movies.	
評価方法	Quizzes, Questions in class from scenes in the movies, term multiple choice exams and attendance.		
受講者に対する要望など	Active, serious attention and effort to succeed in this course		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Course introduction and expectations 2 . Presentation of first movie 3 . Focus on non verbal clues 4 . In to national contours 5 . Tracking of dialogue 6 . Making inferences from the scene 7 . Predictions from the dialogue 8 . Context generated responses 9 . Drawing irony from the nonverbal clues 10 . Determining the tone of the speaker 11 . Review of material 12 . Exam in class-multiple choice questions 13 . Review of exam 14 . Presentation of second movie Reinforcement of concepts taught in 1st term 15 . Focus on non verbal clues 16 . intonational contours 17 . Tracking of dialogue 18 . Making inferences from the scene 19 . Predictions from the dialogue 20 . Context generated responses 21 . Drawing irony from the nonverbal clues 22 . Determining the tone of the speaker 23 . Review of material 24 . Exam in class-multiple choice questions 		

科 目 名	Conversation - 9	担当者名	D. ブラドリー
-------	------------------	------	----------

講義の目標	The aim of the course is to give students opportunities to take part in advanced level EFL speaking and discussion activities. We will be using a supplementary reader on intercultural communication as a text and other aims will be to, 1) use the text as a basis for discussion, 2) think about the idea of culture and 3) in the simulation games, to create feelings which are similar to those you might experience when you travel to a different culture.		
講義概要	This is a conversation class. Students will be expected to read a chapter of the textbook before the class so that they can join in the discussion. There will be handouts to supplement the textbook, all with the aim of encouraging speaking. There is an upper limit of 35 on the number of students who may take this class. Where the number hoping to take this class exceeds 35 we will decide the class members by lottery during the first class meeting.		
使用教材	テキスト	Nancy Sakamoto and Reiko Naotsuka ; <i>Polite Fictions</i> , Kinseido	
	参考文献		
評価方法	Grades will be based on attendance, class participation and short tests. In particular, good attendance is a prerequisite for a final grade.		
受講者に対する要望など	Students will work together in pairs during the speaking activities and it is important that you make an effort to speak in English and maintain English throughout the lesson. This effort will be reflected in the grading.		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introduction to the course 2 . General discussion topics - giving opinions 3 . General discussion topics - giving opinions 4 . General discussion topics - newspaper articles 5 . General discussion topics - newspaper articles 6 . Simulation game on cultural clashes 7 . Chapter 1 - You and I are Equals : greetings and how they affect social assumptions. 8 . Chapter 2 - You and I are Close Friends : names and being friendly. 9 . Chapter 3 - You and I are Relaxed : a look at different styles of entertaining. 10 . Chapter 4 - You and I are Independent : social structure and how it is reflected in the way people ask favors. 11 . Chapter 5 - People as Individuals : how cultural assumptions affect not only how you speak but what you say. 12 . Review 13 . Film on cross-cultural exchange 14 . Film on cross-cultural exchange 15 . Chapter 6 - Being Original : emphasizes the content of what people say and looks at the effect on the movies they enjoy. 16 . Chapter 7 - Questions, Questions : "aisatsu" questions don't need to be answered. 17 . Chapter 8 - Answer to the Point : straight line versus circular logic. 18 . Chapter 9 - Conversational Ballgames : conversation as a sport, tennis versus bowling. 19 . Chapter 10 - Don't Apologize : when not to apologize. 20 . Chapter 11 - Nobody Told Me : when to apologize. 21 . Culture simulation - game 22 . Culture simulation - discussion 23 . Review 24 . Review 		

科 目 名	Conversation - 10,11	担当者名	K . R . ペイン
-------	----------------------	------	-------------

講義の目標	<p>The purpose of this class is to provide a solid background for students who have a wide knowledge of English, but lack confidence in their ability to speak it. Since there is a limitation on the number of students who may take this class, I will select the students in the first class as follows: students will be asked to complete a short questionnaire and (very short) question/answer 'chat' with the teacher. Selection will be made on the basis of motivation and suitability (and attendance at the first class!).</p>		
講義概要	<p>Through the use of a text, structured practice and role-play performances students can gain confidence and be able to explain about their home country in basic English.</p>		
使用教材	テキスト	<p>This class will use the text PASSPORT PLUS (Buckingham & Whitney, Oxford University Press)</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>Grading will be on the basis of class participation, periodic written tests (including vocabulary), and most importantly pair/group role-play performances. As this is a conversation class students must have good attendance.</p>		
受講者に対する要望など	<p>Students must be prepared to speak and be sincere in their desire to over-come their lack of confidence.</p>		
年間授業計画	<p>The class will follow the book units closely with every fifth week being devoted to testing.</p>		

科 目 名	Conversation - 12	担当者名	W . J . ベンフィールド
-------	-------------------	------	-----------------

講 義 の 目 標	<p>The aim of the course is twofold. On the level of language, the course aims to improve both listening skills and general fluency. On the level of content, it aims to help students gain an understanding of some of the major issues of life in the 20th century.</p>		
講 義 概 要	<p><u>A look at the 20th century through movies</u></p> <p>With the 20th century drawing to a close, this year is a good time to look back on some of the main events and try to get a perspective on one of the most turbulent periods in human history. We will do this by looking at major events in four continents through four films: ' Gandhi ' (Asia), ' Schindler's List ' (Europe), ' Cry Freedom ' (Africa), and ' Malcolm X ' (USA). It is important to see each film against its historical and cultural background and so there will be background reading and discussion to put each film in context. There will also be classroom discussion on issues arising from the films. Homework assignments will usually involve research into the topics connected with the films.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Print and video.	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>Assessment will be on the basis of attendance, performance and participation in class activities. There will also be an examination at the end of each semester which will take the form of a monitored discussion in small groups or presentations.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<p>1 . Introduction to the course and student selection. There is a limitation on the number of students who can take this course. If registration is oversubscribed, students will be selected on the basis of a short essay.</p> <p>2 . Presentation of research results in small groups.</p> <p>3 . Film #1-"Schindler´s List". Pre-viewing: Looking at historical background-Research project for homework.</p> <p>4 . Presentation of research results in small groups.</p> <p>5 . Viewing and discussion</p> <p>6 . Viewing and discussion</p> <p>7 . Viewing and discussion</p> <p>8 . Film#2 'Gandhi'. Pre-viewing: looking at the historical background. Research project for homework.</p> <p>9 . Presentation of research results in small groups.</p> <p>10 . Viewing and discussion</p> <p>11 . Viewing and discussion</p> <p>12 . Viewing and discussion</p> <p>13 . Review of first semester's work. Preview of second semester.</p> <p>14 .Film#3 ' Cry Freedom '. Pre-viewing: looking at the historical background. Research project for homework.</p> <p>15 . Presentation of research results in small groups.</p> <p>16 . Viewing and discussion</p> <p>17 . Viewing and discussion</p> <p>18 . Viewing and discussion</p> <p>19 . Viewing and discussion</p> <p>20 . Film#4 ' Malcolm X '. Pre-viewing: looking at the historical background. Research project for homework.</p> <p>21 . Presentation of research results in small groups.</p> <p>22 . Viewing and discussion</p> <p>23 . Viewing and discussion</p> <p>24 . Viewing and discussion</p>
----------------------------	---

科 目 名	Conversation - 13	担当者名	P. マッケビリー
-------	-------------------	------	-----------

講義の目標	<p>The purpose of this course is to give students the chance to use English discussion skills at a higher level. The secondary goal is to develop students critical listening and thinking abilities.</p> <p>If there are more than 35 students who would like to enroll in this class, selection priority will go to 4th Year Students.</p>		
講義概要	<p>Contemporary topics selected from National Public Radio broadcasts will be presented. These will form the basis for class discussion.</p>		
使用教材	テキスト	Numrich, Carol, Consider the Issues, Longman	
	参考文献		
評価方法	<p>Grades will be based on attendance, in class participation, vocabulary quizzes, and a midyear and final exam.</p>		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Course discription and explanation(text pp. iv-vi) 2 . Unit 1-If it Smells Like Fish, Forget it (pp. 1-14) 3 . Class Discussion on Unit 1 4 . Unit 2-Living Through Divorce (pp. 15-26) 5 . Class Discussion on Unit 2 6 . Unit 3-A Couch Potato (pp. 27-37) 7 . Class Discussion on Unit 3 8 . Unit 4-The Bible Hospital (pp. 38-50) 9 . Class Discussion on Unit 4 10 . Unit 5-A Boy's Shelter For Street People (pp. 51-65) 11 . Class Discussion on Unit 5 12 . Midyear Examination 13 . Unit 6-The Four New Food Groups (pp. 66-80) 14 . Class Discussion on Unit 6 15 . Unit 7-The Dirty Dozen (pp. 81-92) 16 . Class Discussion on Unit 7 17 . Unit 8-Attached to Crime (pp. 93-105) 18 . Class Discussion on Unit 8 19 . Unit 9-From One World to Another (pp. 106-122) 20 . Class Discussion on Unit 9 21 . Unit 10-Meet you on the Air (pp. 123-134) 22 . Class Discussion on Unit 10 23 . Review of second term material 24 . Final Examination 		

科 目 名	Discussion 1	担当者名	N . H . ジョスト
-------	--------------	------	--------------

講 義 の 目 標	<p>This course is for students whose English is at a highly advanced level. The main objective is to look into some of the challenges that face us as we enter into the 21st century. It will call on students to develop their own ideas, and to present those ideas effectively during class. The topics will be challenging and interesting. In terms of language development, there are three primary goals 1) to gain fluency in discussing more advanced topics; 2) to be more articulate in the presentation of opinions and ideas; and 3) to consider the area of metacognitive knowledge in language learning.</p>		
講 義 概 要	<p>This class will define and address some of issues that face us as we enter into the 21st century. Society; culture, religion, politics, and the environment--these are the main areas which our discussions will focus on. Students will be asked to have a semiformal roundtable discussion in the first semester like those broadcasted on television. In the second semester students will be asked to organize a class symposium like those common to academic conference. E-mail will be used for communication outside of class, and the internet will be used for finding information.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>No textbook for this class. An English/ English dictionary is required.</p>	
	参 考 文 献	<p>Television news clips; newspaper articles, radio broadcasts. All materials will be provide by teacher.</p>	
評 価 方 法	<p>Grading will be based on classroom participation, and on midterm and final oral presentations. As the number of students permitted to join this class is set at 25, I will select students in the first class based on personal interviews.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

- 1 . Course Description: topics; grading policy; selection of students. etc.
- 2 . Getting to know each: student introduction. Lecture on language and learner independence.
- 3 . The issues that face us: a overview of the issues. What are the most.....issues for us.
- 4 . Focus on society: Topic area one: Woman in society.
- 5 . Woman in society.
- 6 . Topic area two: Education.
- 7 . Education. Topic area three: Culture and religion: Defining ourselves.
- 8 . Culture and religion in today's society and youth.
- 9 . Topic area four: Human relations: Video on stocking in America.
- 10 . Human relations: Marriage and divorce.
- 11 . First roundtable discussion.
- 12 . Second roundtable discussion.
- 13 . Topic area five: Conflicts resulting from culture and religion.
- 14 . America's pop culture and Middle Eastern Fundamentalism.
- 15 . Topic area six: Video segment on the race for the last great oil fields in Russia.
- 16 . Environment: Why America uses most of the worlds oil reserves.
- 17 . Environment: A look at Japan's domestic policy on the environment.
- 18 . Topic area seven: What matters to you: A discussion on values and moral issues.
- 19 . Topic area eight: A look at Japan and the world: How Japan is perceived in the world.
- 20 . What do you see for the future?
- 21 . Preparation for symposium.
- 22 . Preparation for symposium.
- 23 . In-class symposium.
- 24 . In-class symposium.

科 目 名	Discussion 2	担当者名	T . ヒル
-------	--------------	------	--------

講 義 の 目 標	This course will focus on American culture. However, students will be encouraged to take a critical look at both American and Japanese culture and, in so doing, raise their awareness of cultural similarities and differences.		
講 義 概 要	We will use short video clips from World News Tonight and 20/20 that introduce aspects of American culture. Students will, in addition, do some preparatory reading and come to class prepared to discuss the issues.		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Handouts provided by teacher	
	参 考 文 献	The number of students in this class is limited to 25. Selection will be made at the first class by lottery.	
評 価 方 法	Students will be graded on participation in class discussion, attendance, and two semester tests.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	This course is for students wanting to improve their discussion skills		

- 1 . Introduction
- 2 . Mid-life Moms (Video)
- 3 . Further discussion
- 4 . Fast-track Parents (Video)
- 5 . Further discussion
- 6 . Is love color-blind? (Video)
- 7 . Further discussion
- 8 . False advertising (Video)
- 9 . Further discussion
- 10 . Beyond nine to five (Video)
- 11 . Further discussion
- 12 . First semester test
- 13 . Bilingual education (Video)
- 14 . Further discussion
- 15 . Cheating in college (Video)
- 16 . Further discussion
- 17 . New suburban designs for living (Video)
- 18 . Further discussion
- 19 . Health care for the poor (Video)
- 20 . Further discussion
- 21 . The perfect baby (Video)
- 22 . Further discussion
- 23 . Review of the course
- 24 . Second semester test

科 目 名	Discussion 3	担当者名	W . J . ベンフィールド
-------	--------------	------	-----------------

講 義 の 目 標	<p>The course will be essentially content-based with a focus on the theme of cultural comparison. The main aim will be to increase awareness of a variety of cultural factors that determine people's view of themselves and others, and hence have a crucial bearing on communication. On a linguistic level the aim of the course is to develop fluency in discussing such topics and provide the opportunity for a considerable expansion in vocabulary and range of expression.</p>		
講 義 概 要	<p>We will explore a number of thematic areas linked to the subject of culture. The word ' culture here does not refer only to high culture such as literature, poetry or painting but to the broader meaning of culture, i.e. the traditions, beliefs and practices by which people define themselves. The main themes covered in the course are listed below but they will also involve looking at many other areas of life such as the family, social relationships, different attitudes toward space and time, etc. Students will undertake research projects in groups and present their results orally to the class.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>There will be no set text and material will consist mainly of material photocopied from various books and articles. We may also occasionally use video.</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>Assessment will be on the basis of attendance, performance and participation in class activities. There will also be an examination at the end of each semester which will take the form of presentations in small groups.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

- 1 . Course outline and student selection. Since there is a limitation on the number of students in this class, students will be selected on the basis of a short essay written in class.
- 2 . We will begin by trying to get some idea of what we mean by the word 'culture', and we will look at how human beings differ from animals.
- 3 . Week 2 topic continued.
- 4 . Nature or nurture: are we influenced more by environment or heredity?
- 5 . Week 4 topic continued.
- 6 . Group presentations.
- 7 . Who do we share the world with? Different world civilizations.
- 8 . Week 7 topic continued.
- 9 . Individualism vs groupism. How did West and East come to develop differently in this respect?
- 10 . Continuation of week 9 theme.
- 11 . Continuation of week 9 theme.
- 12 . Presentations: Students present what they think are some distinguishing features of Japanese culture and explain how these might differ from those of other countries with which they are familiar.
- 13 . Language and culture: how social structures are reflected in language.
- 14 . Week 1 topic continued.
- 15 . The melting pot or the salad bowl? What multiculturalism means for a society
- 16 . Continuation of week 3 theme.
- 17 . Group presentations.
- 18 . Are we all becoming the same? Popular culture and its effect on us.
- 19 . Week 6 topic continued.
- 20 . Religion: what does it mean to us today?
- 21 . Week 8 topic continued.
- 22 . The origins and meanings of Christmas and other festivals.
- 23 . Week 10 topic continued.
- 24 . Final presentations

科目名	スピーチ1	担当者名	板場良久
-----	-------	------	------

講義の目標	英語スピーチの理論と実践を通じて、口頭コミュニケーションの知識と技術を習得することを目指す。		
講義概要	様々な状況や目的に応じたスピーチ・プレゼンテーションを、アメリカ式のスピーチ教育理論に基づいて行う。また、他者のスピーチを聴衆の立場から理性的に解釈しつつ批評的に聞く訓練も行う。講義は平易な(英検2級程度の)英語で行う。		
使用教材	テキスト	プリント配布予定。(米国ミネソタ大学弁論部スピーチ・テキストより抜粋)	
	参考文献	松尾式之編『20世紀の証言』第1～4巻(アルク、1998年)	
評価方法	出席状況 20%、スピーチの実践 80%		
受講者に対する要望など	失敗を当たり前と考え、常に向上心を持ち、前向きな姿勢で毎回の授業に望まれるよう希望する。各学期の後半は、授業時間外での準備に時間を割く必要が生じることを念頭に置くこと。		
年間授業計画	1. Overview 2. Basics of Speech Communication 3. Oral Interpretation 4. Oral Interpretation 5. Oral Interpretation 6. Oral Interpretation 7. Informative Speaking 8. Informative Speaking 9. Informative Speaking 10. Informative Speaking 11. Informative Speaking 12. Informative Speaking 13. Impromptu Speaking 14. Impromptu Speaking 15. Impromptu Speaking 16. Impromptu Speaking 17. Impromptu Speaking 18. Impromptu Speaking 19. Persuasive Speaking 20. Persuasive Speaking 21. Persuasive Speaking 22. Persuasive Speaking 23. Persuasive Speaking 24. Persuasive Speaking		

科 目 名	スピーチ2	担当者名	A . R . ファルヴォ
-------	-------	------	---------------

講義の目標	To develop, polish and refine the ability of the more advanced students who want to express their opinions through the use of reading materials, internet & video materials on a variety of current topics in the world today. students selected by interview		
講義概要	Using Edward De Bono's series on thinking and analysis techniques we will make speeches using the above mentioned various techniques to generate 3 minute speeches every week.		
使用教材	テキスト	Prints distributed on a weekly basis	
	参考文献		
評価方法	Weekly presentations of 3 minute speeches, attendance and class participation.		
受講者に対する要望など	Attendance & outside preparation are crucial to succeed in the class.		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Class presentation 2 . Plus / minus / interesting 3 . Speeches using week 2 technique consider all factors 4 . Speeches using week 3 technique aims, goals, objectives 5 . Speeches using week 4 technique planning 6 . Speeches using week 5 technique first important priorities 7 . Speeches using week 6 technique directions 8 . Speeches using week 7 technique reflections 9 . Speeches using week 8 technique appraisals 10 . Speeches using week 9 technique review for final exams 11 . Final exam speech presentations part one 12 . Final exams speech presentations part two 13 . Review of first term analytic techniques 14 . Critiquing 15 . Speeches using week 14 technique evaluation 16 . Speeches using week 15 technique closure 17 . Speeches using week 16 technique sensitivity 18 . Speeches using week 17 technique control 19 . Speeches using week 18 technique predetermination 20 . Speeches using week 19 technique dissemination 21 . Speeches using week 20 technique understatement 22 . Speeches using week 21 technique review for term exam speeches 23 . Speeches using 2nd term techniques for final exam part one 24 . Final exam part two 		

科 目 名	ディベート	担当者名	T. ヒル
-------	-------	------	-------

講義の目標	To help advanced level students develop the skills they need to participate in debate and in a modern democratic society.		
講義概要	<p>1. Students will study the definitions of basic debate terms and concepts and come to an understanding of how debate works.</p> <p>2. Students will do research for, and take part in class debate on topics of national and international significance.</p> <p>The number of students in this class is limited to 25. Selection will be made at the first class by lottery.</p>		
使用教材	テキスト	Getting Started in Debate (1993) Lynn Goodnight NTC	
	参考文献		
評価方法	The course will be assessed on attendance, participation, the writing of a number of papers, and semester tests. The course is for students who are eager to improve their critical thinking and constructive argumentative skills.		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . What debate can do for you; critical thinking skills, open-mindedness, thinking on your feet 2 . What exactly is debate: the basics, the players, the propositions 3 . Actual debate: Part 1 4 . Actual debate: Part 2 5 . Actual debate: Part 3 6 . Speaker strategies: affirmative and negative constructive, negative and affirmative rebuttal 7 . Propositions: what is a proposition? types of propositions. 8 . Actual debate: Part 1 9 . Actual debate: Part 2 10 . Actual debate: Part 3 11 . Developing research skills 12 . First semester 13 . Research sources, writing briefs, taking notes in debate 14 . Actual debate: Part 1 15 . Actual debate: Part 2 16 . Actual debate: Part 3 17 . Video debate evaluation 18 . The Affirmative position: burden of proof, presumption, the prima facie case 19 .The Negative position: The negative strategy, refutation of stock issues, denying the problem 20 . Actual debate: Part 1 21 . Actual debate: Part 2 22 . Actual debate: Part 3 23 . Course review 24 . Second semester test 		

科目名	通 訊	担当者名	阿 部 一
-----	-----	------	-------

講義の目標	この授業は中レベルの英語力（目安 TOEFL 520 以上）を持つ受講者に徹底的な訓練を施すことによって上級レベルの英語力（目安 TOEFL 600 以上）を身に付けさせることともに、将来通訳者（本年度は観光通訳）として働けるような基礎訓練を広範に行なうものである。したがって、受講対象はそれ相応の英語力を持つ人で意欲のある人に限る。		
講義概要	前期は主として英語の総合力（特に語彙力とリスニング力）をレベルアップする。それとともに、通訳理論の概略と基礎訓練（リピーティング、シャドーイングなど）を行なう。なお、語彙力は観光約 2 万語、リスニング力は主に CNN、CBS 及び ABC の音声・映像データとする。後期は観光通訳の実技練習とともに模擬実習も合わせて行なってみる。		
使用教材	テキスト	未定（最初の授業で発表、指示）	
	参考文献	未定（最初の授業で発表、指示）	
評価方法	クラス内での実技テスト（前・後期各々 40%）、クラス内語彙力・リスニング力小テスト（10%）、出席及び発表（10%）		
受講者に対する要望など	受講条件として英語力は目安が最低 TOEFL 520、TOEIC 730、英検準一級以上とする。なお、最初の授業で英語力テストを行ない合格者のみ受講を許可する。		

年 間 授 業 計 画	1. オリエンテーション及び英語力テスト[語彙力・リスニング力・一般常識力]			
	2. 英語総合力育成講座	語彙力を増やす/リスニング力を高める	(1) 基礎編	
	3. 英語総合力育成講座	語彙力を増やす/リスニング力を高める	(2) 基礎編	
	4. 英語総合力育成講座	語彙力を増やす/リスニング力を高める	(3) 基礎編	
	5. 英語総合力育成講座	語彙力を増やす/リスニング力を高める	(1) 応用編	ディスカ ッションなど * 通訳理論(1)
	6. 英語総合力育成講座	語彙力を増やす/リスニング力を高める	(2) 応用編	ディスカ ッションなど * 通訳理論(2)
	7. 英語総合力育成講座	語彙力を増やす/リスニング力を高める	(1) 応用編	スピーチ など * 通訳理論(3)
	8. 通訳基礎訓練	リピーティング、シャドーイング、サイトラなど	(1)	
	9. 通訳基礎訓練	リピーティング、シャドーイング、サイトラなど	(2)	
	10. 通訳基礎訓練	リピーティング、シャドーイング、サイトラなど	(3)	
	11. 通訳基礎訓練	リピーティング、シャドーイング、サイトラなど	(4)	
	12. 実技テスト			
	13. 通訳基礎実践訓練	リピーティング、シャドーイング、サイトラなど * 英語圏文化背景知識講座(1) インターネットによる情報収集(1)		
	14. 通訳基礎実践訓練	リピーティング、シャドーイング、サイトラなど * 英語圏文化背景知識講座(2) インターネットによる情報収集(2)		
	15. 通訳基礎実践訓練	リピーティング、シャドーイング、サイトラなど * 英語圏文化背景知識講座(3) インターネットによる情報収集(3)		
	16. 通訳基礎実践訓練	リピーティング、シャドーイング、サイトラなど * 英語圏文化背景知識講座(4) グループ発表		
	17. 通訳基礎実践訓練	リピーティング、シャドーイング、サイトラなど * 英語圏文化背景知識講座(5) グループ発表		
	18. 通訳基礎実践訓練	リピーティング、シャドーイング、サイトラなど * 英語圏文化背景知識講座(6) グループ発表		
	19. 通訳基礎実践訓練	リピーティング、シャドーイング、サイトラなど * 英語圏文化背景知識講座(7) グループ発表		
	20. 通訳基礎実践訓練	リピーティング、シャドーイング、サイトラなど * 英語圏文化背景知識講座(8) グループ発表		
	21. 通訳基礎実践訓練	リピーティング、シャドーイング、サイトラなど * 英語圏文化背景知識講座(9) 模擬通訳		
	22. 通訳基礎実践訓練	リピーティング、シャドーイング、サイトラなど * 英語圏文化背景知識講座(10) 模擬通訳		
	23. 反省会・発表会	* 模擬通訳のビデオ分析及び評価 * 実技テスト		
	24. まとめ及び今後の学習法のアドバイス	* 実技テスト		

科 目 名	通 訊	担当者名	鍋 倉 健 悦
-------	-----	------	---------

講義の目標	通訳の基礎訓練とは決して多くの分野を広く浅くやることではない。そんなことをすれば消化不良をおこすだけで、技術は何も身につかない。通訳訓練はあくまでも、基本的な基礎技術を身体に覚え込ませるものである。		
講義概要	通訳の基礎的スキルであるサイト・トランスレーション、ノート・テイキング、プレゼンテーションを徹底的に訓練する。この3つのスキルさえ身に付ければ通訳は可能である。だが逆にこれらのスキルが身に付かなければ、いくら時間をかけても通訳は出来ない。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鍋倉健悦『英語メディアを使いこなす』（講談社現代新書） ・ 鍋倉健悦『コミュニケーションの英語』（丸善ライブラリー） 	
	参考文献	今のところ未定	
評価方法	平常の授業において、学生の進歩の度合いで決定する。		
受講者に対する要望など	予習と復習のできる学生でない限り、当授業にはついていけない。遅刻は決してしないこと。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 通訳についての概要 2. プリントを使用時のサイトの説明と練習 3. プリントを使用時のサイトの練習とテープ 4. プリントとテープを使用時のサイトの練習 5. プリントを使用時のリテンションの説明と練習 6. プリントを使用時の音読リテンションの練習 7. プリントを使用時の音読リテンションの練習 8. プリントを使用時のノート・テイキングの説明と練習 9. プリントとテープを使用時のノート・テイキングの練習 10. プリントとテープを使用時のノート・テイキングの練習 11. プリントを使用時のプレゼンテーションの説明と練習 12. プリントを使用時のプレゼンテーションの練習 13. プリントとテープを使用時の逐次通訳の練習 14. プリントとテープを使用時の逐次通訳の練習 15. プリントとテープを使用時の同時通訳の練習 16. プリントとテープを使用時の同時通訳の練習 17. プリントとテープを使用時の逐次通訳と同時通訳の違いの説明 18. プリントとテープを使用時の逐次通訳の練習 19. プリントとテープを使用時の逐次通訳の練習 20. プリントとテープを使用時の逐次通訳と同時通訳の練習 21. プリントとテープを使用時の逐次通訳と同時通訳の練習 22. プリントとテープを使用時の逐次通訳と同時通訳の練習 23. 通訳者としての心構えについての説明 24. 逐次通訳による試験 		

科 目 名	ビジネス英語 - 1	担当者名	海老沢 達 郎
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>Business English を、国際語である英語を使用してビジネスを促進遂行するためのビジネス・コミュニケーションとしてとらえ、本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から売買契約の成立、履行、求償、解決までを講義し、国際ビジネスに必要な基本的なビジネスレターの書き方を指導する。この科目は受講上限人数が決まっていますので、人数オーバーの場合には、第1回目の授業で教室にて抽選（55名）で選考を行います。</p>		
講 義 概 要	<p>貿易立国日本にとっては異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。又、通信技術が発達し、経済がボーダレス化している今日において、英字新聞のビジネス欄を読み、国際経済情勢を理解するという能力も Business English にとって大変重要なものとなってきている。従って、「<u>英文経済記事の読み方</u>」を指導すると同時に、「<u>経済用語の解説</u>」について講義する。なお、経済についての予備知識は必要としない。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Tatsuo Ebisawa ; <i>An Introduction to Business Writing</i> プリント	
	参 考 文 献	石田真夫「貿易の実務」 神田善弘「実践貿易の実務」	
評 価 方 法	<p>評価は前後期の試験と授業への貢献度によって決定する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業はあらかじめ予習してあることを前提とする。又、積極的な学生諸君の受講を希望する。</p>		

1. 第 1 回目の授業では 1 年間の講義概要の説明を行う。
2. 第 2 回目の授業では「Business English を学ぶにあたっての諸注意とビジネスレターの必要構成要素」について講義する。
3. 第 3 回目の授業では「ビジネスレターの特殊構成要素、スタイルと句読点、封筒とその書き方」について講義する。英文経済記事の読み方と解説
4. 第 4 回目の授業では練習問題 1 を第 1 回レポートとし、「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。英文経済記事の読み方と解説
5. 第 5 回目の授業では練習問題 1 の解答をし、「効果的なビジネスレターの書き方（後半）と取引の申し込み」について講義する。英文経済記事の読み方と解説
6. 第 6 回目の授業では「取引の申し込み（後半）と取引の申し込みに対する応答」について講義する。英文経済記事の読み方と解説
7. 第 7 回目の授業では「取引の申し込みに対する応答（後半）」について講義する。英文経済記事の読み方と解説
8. 第 8 回目の授業では「引合い」について講義する。英文経済記事の読み方と解説
9. 第 9 回目の授業では「引合い（後半）」について講義する。英文経済記事の読み方と解説
10. 第 10 回目の授業では練習問題 2 を第 2 回レポートとし、「引合いに対する応答」について講義する。英文経済記事の読み方と解説
11. 第 11 回目の授業では「オファー」について講義する。英文経済記事の読み方と解説
12. 第 12 回目の授業では前期授業のまとめを行う。英文経済記事の読み方と解説
13. 第 13 回目の授業では前期試験問題の返却・解答と練習問題 2 の解答と諸注意などを行う。
14. 第 14 回目の授業では「オファー（後半）とオファーに対する応答」について講義する。英文経済記事の解説と読み方
15. 第 15 回目の授業では「オファーに対する応答（後半）と海上保険証券」について講義する。英文経済記事の読み方と解説
16. 第 16 回目の授業では「信用状」について講義し、練習問題 3 を第 3 回レポートとする。英文経済記事の読み方と解説
17. 第 17 回目の授業では「信用状（後半）」について講義する。英文経済記事の読み方と解説
18. 第 18 回目の授業では練習問題 3 の解答と諸注意をなどを行う。更に「積出しに関する通信」について講義する。英文経済記事の読み方と解説
19. 第 19 回目の授業では「積出しに関する通信（後半）」について講義する。英文経済記事の解説と読み方
20. 第 20 回目の授業では「クレームと問題の解決」について講義する。英文経済記事の読み方と解説
21. 第 21 回目の授業では「クレームと問題の解決（後半）」について講義する。英文経済記事の読み方と解説
22. 第 22 回目の授業では「英語を使用しての商談」について、ビデオを使用して講義する。
23. 第 23 回目の授業では「英文契約書」について講義する。
24. 第 24 回目の授業では後期授業のまとめを行う。

科 目 名	ビジネス英語 -2	担当者名	海老沢 達 郎
-------	-----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>大学を卒業しても簡単な英文レターも書けないのが現状であるので、本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から売買契約の成立、履行、求償、解決までを講義し、国際ビジネスに必要な基本的なビジネスレターの書き方を指導する。この科目は受講上限人数が決められていますので、人数オーバーの場合には、第1回目の授業で教室にて抽選(55名)で選考を行います。</p>				
講 義 概 要	<p>貿易立国日本にとっては異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から成立、履行、求償、解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。又、Business English を、国際語である英語を使用してビジネスを促進遂行するためのビジネス・コミュニケーションとしてとらえ、<u>効果的なビジネスレターの書き方のポイント</u>を例を上げて説明・指導する。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>Tatsuo Ebisawa ; <i>An Introduction to Business Writing</i></td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>William C. Himstreet "Business Communication" Richard C. Huseman "Business Communication"</td> </tr> </table>	テキスト	Tatsuo Ebisawa ; <i>An Introduction to Business Writing</i>	参考文献	William C. Himstreet "Business Communication" Richard C. Huseman "Business Communication"
テキスト	Tatsuo Ebisawa ; <i>An Introduction to Business Writing</i>				
参考文献	William C. Himstreet "Business Communication" Richard C. Huseman "Business Communication"				
評 価 方 法	<p>評価は前後期の試験と授業への貢献度によって決定する。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業はあらかじめ予習してあることを前提とする。又、積極的な学生諸君の受講を希望する。</p>				

1. 第1回目の授業では1年間の講義概要の説明を行う。
2. 第2回目の授業では「Business English を学ぶにあたっての諸注意とビジネスレターの必要構成要素」について講義する。
3. 第3回目の授業では「ビジネスレターの特殊構成要素、スタイルと句読点、封筒とその書き方」について講義する。
4. 第4回目の授業では練習問題1を第1回レポートとし、「効果的なビジネスレターの書き方」を講義する。
5. 第5回目の授業では練習問題1の解答をし、「取引の申し込み」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
6. 第6回目の授業では「取引の申し込み(後半)と取引の申し込みに対する応答」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
7. 第7回目の授業では「取引の申し込みに対する応答(後半)」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
8. 第8回目の授業では「引合い」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
9. 第9回目の授業では「引合い(後半)」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
10. 第10回目の授業では練習問題2を第2回レポートとし、「引合いに対する応答」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
11. 第11回目の授業では「オファー」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
12. 第12回目の授業では前期授業のまとめを行う。
13. 第13回目の授業では前期試験問題の返却・解答と練習問題2の解答と諸注意などを行う。
14. 第14回目の授業では「オファー(後半)とオファーに対する応答」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
15. 第15回目の授業では「オファーに対する応答(後半)と海上保険証券」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
16. 第16回目の授業では「信用状」について講義し、練習問題3を第3回レポートとする。「効果的なビジネスレターの書き方」
17. 第17回目の授業では「信用状(後半)」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
18. 第18回目の授業では練習問題3の解答と諸注意などをを行う。更に「積出しに関する通信」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
19. 第19回目の授業では「積出しに関する通信(後半)」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
20. 第20回目の授業では「クレームと問題の解決」について講義する。「効果的なビジネスレターの書き方」
21. 第21回目の授業では「クレームと問題の解決(後半)」について講義する。効果的なビジネスレターの書き方」
22. 第22回目の授業では「英語を使用しての商談」について、ビデオを使用して講義する。
23. 第23回目の授業では「英文契約書」について講義する。
24. 第24回目の授業では後期授業のまとめを行う。

科 目 名	ビジネス英語 - 3	担当者名	杉 山 晴 信
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階におけるビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を習得することがねらいです。日本商工会議所主催の商業英語検定試験 B クラスに合格できるレベルの実力（読解力・作文力・語彙力・実務知識）を養成することを具体的な目標とします。なお、私の担当する「ビジネス英語 - 4」とは内容がまったく異なりますので、注意して下さい。</p> <p><u>受講上限人数（55名）を超えた場合、第1回目の授業で適宜選考を行います。</u></p>				
講 義 概 要	<p>下記テキストの单元ごとに、当該单元で扱う貿易取引段階の実務遂行手順および通信文の“Skeleton Plan”について平易に講義します。次いで、履修者を適宜指名し、各单元のモデルレターを商用文としてふさわしい日本語に翻訳させるとともに、練習問題を黒板に書かせて添削するという形で毎回の授業を行います。また、1年を通じて、毎月の初回授業時に、下記テキストを出題範囲とする Vocabulary Check（語彙力診断テスト）を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テ キ ス ト</td> <td> <p>小池直己・杉山晴信「ビジネス英語の基本」(北星堂、1988) 小池直己・杉山晴信「商業英語検定試験にできる英単語」(南雲堂、1987)</p> </td> </tr> <tr> <td>参 考 文 献</td> <td> <p>藤田仁太郎編、羽田三郎改訂「英和貿易産業辞典」(研究社、1987) 日本商工会議所「商業英語検定試験問題集 A・B 編」(日本商工出版、各年) 長野・秋山・岡本「商業英語検定試験」(南雲堂、1984) 石田貞夫「貿易の実務」(日経文庫、1965) 石田貞夫監修「ビジネス英語で学ぶ貿易取引」(学文社、1997) など</p> </td> </tr> </table>	テ キ ス ト	<p>小池直己・杉山晴信「ビジネス英語の基本」(北星堂、1988) 小池直己・杉山晴信「商業英語検定試験にできる英単語」(南雲堂、1987)</p>	参 考 文 献	<p>藤田仁太郎編、羽田三郎改訂「英和貿易産業辞典」(研究社、1987) 日本商工会議所「商業英語検定試験問題集 A・B 編」(日本商工出版、各年) 長野・秋山・岡本「商業英語検定試験」(南雲堂、1984) 石田貞夫「貿易の実務」(日経文庫、1965) 石田貞夫監修「ビジネス英語で学ぶ貿易取引」(学文社、1997) など</p>
テ キ ス ト	<p>小池直己・杉山晴信「ビジネス英語の基本」(北星堂、1988) 小池直己・杉山晴信「商業英語検定試験にできる英単語」(南雲堂、1987)</p>				
参 考 文 献	<p>藤田仁太郎編、羽田三郎改訂「英和貿易産業辞典」(研究社、1987) 日本商工会議所「商業英語検定試験問題集 A・B 編」(日本商工出版、各年) 長野・秋山・岡本「商業英語検定試験」(南雲堂、1984) 石田貞夫「貿易の実務」(日経文庫、1965) 石田貞夫監修「ビジネス英語で学ぶ貿易取引」(学文社、1997) など</p>				
評 価 方 法	<p>出席状況、授業貢献度、Vocabulary Check の累計得点といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験の結果を加味して決定します。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>コンスタントに出席すること、十分な予習と復習をすること、つねに語彙力増強に努めることを履修の条件とします。</p>				

1. 1年間の授業計画を説明し、ビジネス英語の意義と概念について講義します。(テキスト：第1部 p.p.2～3、配布プリント)
2. ビジネス通信文の構成要素、句読法、書式、上書き等の外形的な側面について講義します。(テキスト：第1部 p.p.4～15)
3. ビジネス通信文の文体の特徴について講義します。(テキスト：第1部 p.p.16～18)
4. 第1回 Vocabulary Check を実施するとともに、「取引先の発見」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit1、p.p.20～22)
5. 「取引の申込み」(その1)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit2、p.p.23～25)
6. 「取引の申込み」(その2)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit3、p.p.26～28)
7. 「信用照会」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit4、p.p.29～31)
8. 第2回 Vocabulary Check を実施するとともに、「引合い」(その1)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit5、p.p.32～34)
9. 「引合い」(その2)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit6、p.p.35～37)
10. 「引合いに対する返事」(その1)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit7、p.p.38～40)
11. 「引合いに対する返事」(その2)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit8、p.p.41～43)
12. 第3回 Vocabulary Check を実施するとともに、「オファー」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit9、p.p.44～46)
13. 「カウンター・オファー」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit10、p.p.47～49)
14. 第4回 Vocabulary Check を実施するとともに、「注文」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit11、p.p.50～52)
15. 「注文の受諾」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit12、p.p.53～55)
16. 「注文のことわり」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit13、p.p.56～58)
17. 「成約」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit14、p.p.59～61)
18. 第5回 Vocabulary Check を実施するとともに、「信用状督促」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit15、p.p.62～64)
19. 「船積通知」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit16、p.p.65～67)
20. 「船積遅延と信用状訂正」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit17、p.p.68～70)
21. 「クレーム」(その1)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit18、p.p.71～73)
22. 第6回 Vocabulary Check を実施するとともに、「クレーム」(その2)をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit19、p.p.74～76)
23. 「クレーム調整」をテーマとする通信文の読解と作成の訓練を行います。(テキスト：第2部 Unit20、p.p.77～79)
24. テキストで直接取り上げていない Courtesy Letters の代表例として、「人物照会状」と「人物推薦状」の読解と作成の訓練を行います。(配布プリント)

科 目 名	ビジネス英語 - 4	担当者名	杉 山 晴 信
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>ビジネス通信文 (Business Correspondence) を中心に営まれるビジネス・コミュニケーションの果たす役割は、伝達の機能 (function to inform) と説得の機能 (function to persuade) に大別できます。この授業では、2 つの機能においてビジネス通信文を最大限に効果あらしめるための文章戦略 (writing strategies) について、英語学・言語学・心理学・統計学等の関連領域から学際的な調査・研究を行います。なお、受講上限人数 (55 名) を超えた場合は、第 1 回目の授業で適宜選考を行います。</p>		
講 義 概 要	<p>当方の用意するプリント教材に基づいて講義を行った後、履修者をいくつかの班に分け、グループワークによって共通の課題を解決していくという形をとります。原則として、1 つのテーマ (セッション) につき、講義 2 回とグループワーク 1 回の計 3 時間分で完結するものとします。全員参加の原理によって授業が行われますので、履修者は積極的に自分の意見を開示するとともに他人の発言を傾聴することが求められます。初回の授業でより詳しく説明しますので、履修希望者は必ず出席して下さい。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	配布プリント	
	参 考 文 献	<p>則定隆男「ビジネス英語を学ぶ・考える」(英宝社、1990) 中村巳喜人「ビジネス・コミュニケーション論」(同文館、1978) 安本美典「文章心理学入門」(誠信書房、1965) 安本美典「説得の文章技術」(講談社、1983) 北尾 S. キャスリーン・北尾謙治「ライティング・ストラテジー」(郁文堂、1996)</p>	
評 価 方 法	<p>出席状況、授業およびグループワークへの貢献度、課題提出状況といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験 (またはレポート) の結果を加味して決定します。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>直接的な参加が最もウェイトの大きな評価対象となりますので、コンスタントな出席と積極的な意見の開示を強く要望します</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1年間の授業計画を説明し、ビジネス・コミュニケーションの概念について講義します。 2. ビジネス通信文の伝達の機能をめぐる問題として、意味論的な“ambiguity”と“vagueness”の危険性を摘示し、それらに対する対処法を検討します。 3. 同 上 4. 上記のテーマについてグループワークを行います。 5. ビジネス通信文の伝達の機能をめぐる問題として、意味論的な“hyponym”と“overlapping”について実例を用いて学習します。 6. 同 上 7. 上記のテーマについてグループワークを行います。 8. ビジネス通信文の伝達の機能をめぐる問題として、類義語(synonyms)の使用に伴う危険性を法制度、商習慣、文化的事情などと関連づけて考察します。 9. 同 上 10. 上記のテーマについてグループワークを行います。 11. 前期の授業を総括し、ビジネス通信文を伝達の機能の面からレベルアップし、正確な情報伝達を実現するための文章戦略を導出します。 12. 後期の授業の頭出しとして、ビジネス通信文を説得の機能の面からレベルアップし、所期の目的を達成するための文章戦略を概観します。 13. ビジネス通信文の説得の機能をめぐる問題として、“Readability”の測定法と適切な読者設定(audience identification)のあり方について詳しく講義します。 14. 同 上 15. 上記のテーマについてグループワークを行います。 16. ビジネス通信文の説得の機能をめぐる問題として、“You-Attitude”の基本原則を実現するための種々のライティング技法について検討します。 17. 同 上 18. 上記のテーマについてグループワークを行います。 19. ビジネス通信文の説得の機能をめぐる問題として、各種のメッセージ構成法(organizational patterns)を紹介するとともに、適用事例について検討します。 20. 同 上 21. 上記のテーマについてグループワークを行います。 22. ビジネス通信文の説得の機能をめぐる問題として、メッセージの配列(sequence)と印象形成(impression formation)の効果の関係について検討します。 23. 同 上 24. 上記のテーマについてグループワークを行います。
----------------------------	---

科目名	ビジネス英語 - 5	担当者名	信 達 郎
-----	------------	------	-------

講義の目標	<p>ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力をのばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取りあげる科目である。ビジネスと言っても、いろいろな業種があり、また、オフィス環境も経理から営業、それに秘書業務まで様々であるが、とにかくビジネス環境に即した実的な授業にしていきたい。この科目は受講上限人数が 55 名と決められているため、第 1 回目の授業で簡単なテストで選考を行う。</p>		
講義概要	<p>基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の 3 部構成で、参加型の授業である。また、発表や黒板を使つての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準 1 級、日本商工会議所主催の商業英語検定の B クラス受験可能程度を目標に定めた。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。</p>		
使用教材	テキスト	<p>『マルチトピックのビジネス英語』信、井著、南雲堂フェニックス 『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』信達郎編著、南雲堂フェニックス</p>	
	参考文献	<p>授業を通じ、適宜指示する。</p>	
評価方法	<p>受講姿勢 50%、ペーパーテスト 50%</p>		
受講者に対する要望など	<p>成績にこだわるのではなく、実力を少しでも上げることに興味を持つ学生に参加してもらいたい。受講態度が悪い者は、退場を命ずる。当然のことながら、私語厳禁。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>以下の内容はあくまでも、めやすであり授業の進行により異なる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネス英語の特徴 2. プリント (英文ビジネスコラム) 3. 取引概略 4. プリント 5. 取引概略 6. プリント 7. 引合 (inquiry) 8. プリント 9. オファー (offer) 10. プリント 11. オファー 12. プリント 13. 契約 (contract) 14. プリント 15. 契約 16. プリント 17. クレーム (claim) 18. プリント 19. クレーム 20. プリント 21. コンピュータ英語 22. プリント 23. コンピュータ英語 24. プリント
----------------------------	---

科 目 名	ビジネス英語 -6	担当者名	山 本 孝 夫
-------	-----------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>ボーダーレスの現代ではビジネスの標準語は英語です。国際的な舞台や現代のビジネスの世界で活躍することをめざす人々は「国際ビジネスの標準語」と「ビジネス・契約知識」をマスターするのがその資格と考えてみてはどうでしょうか。クラスでは、具体的なケースをとりあげて、自由な意見交換を通じて、国際ビジネスに不可欠なビジネス英語、契約英語、取引契約の実際を学びます。国際売買契約、ライセンス、エンターテインメント、映画制作輸入、ミュージカル制作・上演契約、外資との雇用、Resume（英文履歴書）、...ビジネスの基礎・契約・英語を修得します。毎回、新しく楽しいゲームに挑戦する気持できて下さい。ゲームレベルは『国際実用』レベルです。</p>		
講 義 概 要	<p>「セリーヌ・ディオ、マライヤ・キャリーをキャンパスに呼ぶとしたら、どんな契約を作りますか?」「Speed, Max, Luna Sea なら?」具体的で身近なビジネス・ケース、仮想ケース、判例をとりあげて学びます。CIF, FOB など「国際貿易条件」、「国際取引の特色とリスク」、「合弁事業 (Joint Venture)」、「音楽・ミュージカル・映画の制作・配給・放送・ビデオグラム化」、「マクドナルドなどフランチャイズ契約」、「Virgin, Body Shop などベンチャー」をミシガン大学 Law School、ロンドン、サンフランシスコ、東京 (三井物産) で国際取引、プロジェクト、訴訟、ライセンス取引に携わってきた経験をもとに、ケースメソッドと学生のために執筆したテキストで学んでいきます。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>1.プリント(毎回配布)、2.「英文契約書の書き方」(山本孝夫、日経文庫、日本経済新聞社、3.「知的財産・著作権のライセンス契約入門」(山本孝夫、三省堂)</p>	
	参 考 文 献	<p>1.「International Business Transactions」(West Publishing, コースブック版) 2.「国際取引・知的財産法の学び方～梁山泊としてのゼミナール」(山本孝夫「国際商事法務」94.1 から 98.8 まで 56 回連載) 3.「貿易取引入門」(新堀聡、日本経済新聞社) 4.「英文ビジネスレター文例大辞典」(田久保、橋本、日本経済新聞社) 5.「ベンチャーマネジメントの変革」(山本孝夫共編著、日本経済新聞社) 6.「ビジネス英文手紙の書き方」(大田原、日経文庫) 7.「国際取引法」(松枝、三省堂)</p>	
評 価 方 法	<p>前後期 2 回のレポートとクラスへの参加・貢献を重視します。これ迄 6 年間は、竹田ゼミ、梶山ゼミ、独語学科、仏語学科はじめ受講生が意欲的だったので、レポートとしてきました。新年度も、前期のレポートを自由テーマとし、9 月末が期限です。「テーマのヒント 20」を 6 月配布します。(プリント 10 枚) レポートは 3 千字以上とします。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>私は授業は受講生と教師の 1 対 1 の意見交換により、共同で作りに行くものだと考えています。毎回、B5 版の「質問・メッセージ・自由テーマ」のメモ(リアクション・ペーパー)で自由に意見を聞かせて下さい。教壇・講師室に気軽に話しに来て下さい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開講にあたり 1 年間の目標とすすめ方、基本参考書、サブリーディング、レポートとこれ迄の例、英文契約、ビジネスの基本、国際取引の実際...を紹介します。 2. マイラヤ・キャリア、セリーヌ・ディオンをキャンパスに呼ぶとしたら、どんな契約書を作りますか？SPEED, MAX, Luna Sea ならいかがですか。具体的なケースで、国際取引の特色とリスクを取り上げます。 3. 具体的で身近なケースをもとに「国際取引の種類」を学びます。94 年は名古屋空港エアバス事故、95 年はロック・ミュージカル公演、96 年は「VIRGIN」(R・ブランソン)、97 年は「マックス・マラ、ベルサーチ」、98 年は「タイタニック」でした。 4. ギリシャの Alpha 社がニューヨークの Santa Claus に Toy を注文します。Alpha 社の Enquiry、発注書(Purchase Order)を読み、価格の決め方、船荷証券(Bill of Lading)を学びます。 5. Santa Claus (第 2 回) Free on Board とは何でしょうか。CIF とは何でしょうか？L/C, B/L, Confirming Bank とは何ですか？(「貿易取引入門」pp98 - 173) 6. 米 Georgia 州の Sam Silver が英 Bath の Bill Bones から「Desire under Thornbush」(本)を FOB Savannah (Georgia)条件で 100 冊、Hunt から CIF Bath 条件で 100 冊注文を受けます。 7. Sam Silver ケース(第 2 回)。「売主が Georgia, 買主が 2 人とも Bath 在住卸売商、船積港がサバンナ、仕向先が Bath です。「FOB サバンナ」「CIF バス」で同じ金額の注文なら、売主はどちらに売りますか。 8. イタリー・ジュノバのヨットの見本市で出展されていた美しいヨット(カロライン号)を日本企業(パスポートシッピング社)が購入。引渡をうけ、日本で所有権登録も完了。そこに、先に買ったという米企業が現れます。 9. カロライン号事件(第 2 回) 日本企業が購入したカロライン号は 3 ヶ月前にアメリカのユニバーサル社(ペンシルバニア州)にバシファル社(英)経由、転売されていたのです。カロラインは誰のもの？(「梁山泊 36」96.12) ヨットでなく宝石ならいかがですか？ 10. 国際ビジネスの世界では、Business Writing、契約、紛争処理のいずれをとっても、アメリカの法律制度とプラクティスの影響が大きいのです。UCC の Warranties(保証)とは何ですか？ 11. 国際取引には不誠実な人々が登場します。サッカーワールド・チケット事件、あなたならどうして売主の権限を確認しますか？ナイジェリアからの Letter を読みます。有名な詐欺のレターです。98 年 11 月に私あてにラゴスから届きました。 12. これまでの授業をふり返り、いただいた質問に答え、意見交換します。10/11 回には、「英文履歴書」「国際(外資)雇用」「アメリカの UCC と訴訟」「前期レポートのテーマとヒント」も取り上げます。 13. 後期の重点テーマと指針を紹介します。あなたの夏休みの成果を聞き、私のすごし方をお話します。先輩からの後輩への助言(就職)も紹介します。私の 99 年の夏休みは、札幌大・東北大・横浜国立大・早大での講義です。 14. ビジネスに関わる基本的な用語、契約英語を紹介します。May, Shall はどういう意味ですか。 6 $\frac{7}{8}$ パーセントは英語では？数字、期限、期間はどのように表現しますか？ 15. 「国際技術移転・知的財産ライセンス」の基本を紹介します。英文契約の基本条件、基本的表現をブランドビジネス、エンターテイメントビジネス、ライセンス契約とともに学びます。 16. 「映画・ミュージカル・音楽(1)」...国際的なエンターテイメント・ビジネスの実際を 3 回にわたり、とりあげます。ビジネス知識と契約条件、判例を学びます。 17. 「フィーリング」という歌を知っていますか。Bee Gees は？Piracy とは？Feeling 事件、Bee Gees 事件、ダラスカーボーイズ・チャリダー事件をとりあげます。 18. ロンドンから、ブロードウェイからミュージカルを呼ぶには、どうすればよいと思いますか？ミュージカル公演契約とはどんなふう書き上げますか？アーティスト契約は？ 19. 映画の輸入・配給はどのように行いますか？ AFMA 映画輸入契約約款をみたことがありますか？マクドナルドのフランチャイズ契約を見ましたか？ 20. 就職活動・留学についての「先輩(4 年と OB, OG)からの後輩に贈ることば」(アドバイス)をプリントで紹介しします。98 年は、40 名分の助言をプリント 10 枚で紹介しました。(20 頁分です。) 21. 「海外への進出と合併事業」「販売店」「代理店」契約について紹介します。ジョイント・ベンチャーとベンチャーはどちらがいますか？合併と合併は何が違いますか？ 22. 「国際取引紛争と解決」仲裁と訴訟とはどう異なりますか？ADR というのは何でしょうか？ICC, AAA, JCAA, UNCITRAL, LCIA とは？ 23. Anti - Trust, Tax Treaty, P/L とは何ですか？a Delaware Corporation は何ですか？開発と環境につきどう考えますか？ 24. 自由な質疑応答の日とします。後期のレポートのヒントを 11 月に配ります。98 年・97 年受講の方も登録していない方も、クラスにたずねて来て下さい。OB, OG の方も歓迎します。
----------------------------	--

科 目 名	ビジネス英語	担当者名	杉 山 晴 信
-------	--------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>日本商工会議所主催の商業英語検定試験 A・B クラスの実務部門に合格できるレベルに目標を設定して、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易取引の全体にわたって万遍なく講義するつもりですので、貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、通関士国家試験を目指す人などに極めて有益な情報を提供できるものと自負しています。なお、<u>受講上限人数（55名）を超えた場合には、第1回目の授業で適宜選考を行います。</u></p>		
講 義 概 要	<p>前期は貿易取引の流れを、主に輸出者の視点から、時系列的に6つのステージに区分してマクロ的に鳥瞰します。後期はミクロ的に、貿易形態、信用調査、オファー、一般取引条件、インボイス、船荷証券、信用状、海上保険といった専門事項（technicalities）について講義します。本講義で使用する下記のテキストは英文ですが、履修者はあらかじめ所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、講義はテキストの内容を補助プリントを用いて敷衍する形で進めます。また、教師側からの一方的な情報伝達に偏することのないよう配慮し、履修者にも頻繁に発言や説明を求めるつもりですので、積極的な授業参加を強く要望いたします。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>伊藤克己・太田正孝・稲津一芳・W.O' Connor 『現代商業英語読本』（英潮社、1988） 配布プリント</p>	
	参 考 文 献	<p>浜谷源蔵 『最新貿易実務（増補二版）』（同文館、1995） 田中・中川・中谷 『国際売買契約ハンドブック』（有斐閣、1986） 粕谷慶治・山田晃久 『国際貿易論』（学文社、1990） 桐谷芳和 『貿易取引と信用状』（経済法例研究会、1987） 杉若雄次 『貿易取引と貿易金融』（経済法例研究会、1986） など</p>	
評 価 方 法	<p>出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、前期と後期の定期試験の結果を加味して決定します。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>コンスタントな出席と十分な予習・復習を強く要望します。特に、就職活動に時間をとられる4年生は注意して下さい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1年間の講義計画を説明するとともに、貿易という営みが国際社会に果たす役割について考えます。(テキスト：p.p.2～3) 2. 貿易実務の遂行手順を輸出者の視点から時系列的に6つのステージに区分し、その各々について概説します。(テキスト：p.p.14～22) 3. 貿易マーケティングの段階について、市場調査 (Market Research) を中心に講義します。(テキスト：配布プリント) 4. 取引関係創設の段階のうち、取引先の選定、取引の申込み、引合いまでを取り上げて講義します。(テキスト：p.p.42～53、配布プリント) 5. 取引関係創設の段階のうち、信用照会 (Credit Inquiry) について詳細に講義します。(テキスト：p.p.54～60、配布プリント) 6. 貿易取引の成約段階のうち、一般取引条件 (General Terms & Conditions) で取り決めるべき諸条項を詳細に検討します。(テキスト：p.p.77～80、配布プリント) 7. 貿易取引の成約段階のうち、オファーから受注にいたるまでの過程を講義します。(テキスト：p.p.61～76、配布プリント) 8. 貿易取引の履行段階のうち、約定品の調達から船積 (Shipment) の手配までの過程を講義します。(テキスト：p.p.81～88、配布プリント) 9. 貿易取引の履行段階のうち、為替予約 (Forward Exchange Contract) 海上保険 (Marine Insurance) の付保、輸出通関までを取り上げて講義します。(テキスト：p.p.94～97、配布プリント) 10. 貿易決済の段階のうち、船積書類 (Shipping Documents) の整備から荷為替手形 (Documentary Bill) の取組までの過程を講義します。(テキスト：p.p.89～93、配布プリント) 11. 貿易決済の段階における各種の決済方法の特色を考察し、さらに為替リスクの回避を検討します。(テキスト：配布プリント) 12. 貿易クレームおよびクレーム調整の段階につき、特に国際商事紛争の解決手段としての仲裁 (Arbitration) をテーマに講義します。(テキスト：p.p.98～105、配布プリント) 13. 貿易の主体、取引の損益性、契約の自主性などの観点から種々の貿易形態について講義し、各々の特色や長所・短所を比較検討します。(テキスト：p.p.4～6、配布プリント) 14. 信用調査の目的・方法、調査項目などについて講義し、調査依頼状の書き方や調査報告書の読み方を実例を用いて学びます。(テキスト：配布プリント) 15. 各種オファーの特色を講義し、オファーと承諾をめぐる法的な諸問題について学習します。(テキスト：配布プリント) 16. いわゆるインコタームズ (Incoterms) に規定された定型貿易条件について講義し、実例に基づき輸出価格の積算訓練を行います。(テキスト：配布プリント) 17. 輸出通関および船積の手続一般について、在来船の場合とコンテナ船の場合とに区分して、各々詳細に講義します。(テキスト：配布プリント) 18. インボイス (Invoice) について講義し、各種インボイスの内容と目的、記載事項などを学習します。(テキスト：巻末付録、配布プリント) 19. 船荷証券 (Bill of Lading) について講義し、各種船荷証券の定義、法的性質、記載事項などを学習します。(テキスト：巻末付録、配布プリント) 20. インボイスと船荷証券以外の船積み書類 (Shipping Documents) について講義し、各々の内容と目的を学習します。(テキスト：巻末付録、配布プリント) 21. 海上保険について講義し、各保険条件の填補範囲と免責事項を学習するとともに、実例に基づいて保険料の算出訓練を行います。(テキスト：巻末付録、配布プリント) 22. 荷為替信用状 (Documentary L/C) について講義し、信用状の意義、種類、当事者、信用状決済の長所・短所などを学習します。(テキスト：巻末付録、配布プリント) 23. 貿易実務の遂行手順を輸入者の視点からとらえ直して前期の授業を総復習します。(テキスト：p.p.19～22) 24. 後期の授業を総復習するとともに、疑問点や不明な点につき質疑応答を行う予定です。
----------------------------	---

科 目 名	時事英語 - 1,2	担当者名	新 井 妥 門
-------	------------	------	---------

講義の目標	この科目は受講上限人数が決められていますので、第1回目の授業において抽選により選考を行いません。クラスの数日前に録音した放送英語（主にCNN）のニュースを教材として、そのキャスターの部分のディクテーションをすることにより音声のみならず文法的なポイントにもふれ時事英語力の向上を目的とする。		
講義概要	学生中心のディクテーションをする。聞き取りづらい部分を取り上げ、音のみならず語法や文の構造にも注意してその部分を把握していくことにポイントを置く。		
使用教材	テキスト	テキストは使用せず、受講生は60分カセットテープを持参すること。そのテープに教材を随時録音していく。	
	参考文献	例文の多い辞書を持参すること。できれば英英辞書が良い。必ず小さなカセットテープレコーダーを毎回持参すること。	
評価方法	定期試験、出席状況を含む平常点		
受講者に対する要望など	予習により聞きづらい部分を確認しておくこと。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業形式についての説明 2. 教材（CNN）の録音とクラス全体でのディクテーション 3. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 4. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 5. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 6. 聞き取りにくい語のまとめ 7. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 8. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 9. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 10. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 11. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 12. 聞き取りにくい語のまとめ 13. 教材（CNN）の録音とクラス全体でのディクテーション 14. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 15. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 16. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 17. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 18. 問題となる語句のまとめ 19. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 20. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 21. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 22. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 23. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 24. 問題点のまとめ 		

科 目 名	時事英語 - 3	担当者名	金 子 節 也
-------	----------	------	---------

講 義 の 目 標	日米関係、ハイテク、日欧関係、アジア問題等の専門家への英語インタビューを読み、かつ聞きながら、日本の今後の進路、他国との協調を考える。英字新聞などの最新記事は言うに及ばず、CNNをはじめ、テレビ放送のVTR、インターネットをおおいに活用したい。		
講 義 概 要	主テキストのインタビュー集（音声あり）を中心に、日本をとりまく諸情勢を聞きかつ読みながら理解し考察する。必須語い・表現に関しては、自ら運用できるよう努力する。 その後の情勢の展開については、最新の新聞記事、雑誌、TV、インターネットなどにより補足してゆく。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	金子節也著； <i>I Too , Am a Bit of a Workaholic , but ...</i> , こびあん書房、1988ほか (ほかにTV放送などからのサブ教材使用予定)	
	参 考 文 献	金子節也著『ニッポン・ウォッチング』朝日出版社、1991、他。	
評 価 方 法	出席状況、ふだんの授業へのコミットメント、テスト成績の3つを主な評価基準とする。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	この科目は受講制限人数が 55 名です。これを上回る希望者の場合は、第一回目の授業において抽選を行います。		

1. キーワードによるオリエンテーション。政治、経済、文化...幅広くキーワードを使って、いまの日本と世界の関係を浮きぼりにする。
2. 日米関係 その1、テキストの2, “The Media Plays Up American Pressure” の最初の3分の1。テキスト pp.11-14
3. 日米関係 その2、テキスト pp-15-18 その他最新英字紙等による補足。アメリカ口語表現の特徴などにもふれる。
4. 日米関係 その3、“A Caution to the U.S.-Japan Relationship”(pp.19-22) その他英字紙。
5. 日米関係 その4、テキスト pp.23-27 アメリカ人の日本観を最新資料にて補足。
6. 日本関係 その5、テキストの4 “How to Influence Big Business and Go Win-Win”(pp.29-33)
7. 日米関係 その6、テキスト pp.34-36 アメリカン・ドリームについて、成功者の信念について学ぶ。
最新ビジネス用語にもふれる
8. 日英関係 その1、テキスト “I Too, Am a Bit of a Workaholic, but...”(pp.37-41) 現代イギリス事情にもふれる。
9. 日英関係 その2、テキスト pp.38-46 日本がまだ多くのことを英国から学ぶべきこと、等を認識する。英米語のちがいにふれる。
10. ハイテク技術と雇用 その1、テキスト pp-55-59 産業ロボットの導入と労使関係。
11. ハイテク技術と雇用その2、テキスト pp.60-64
12. イギリス事情 その1、テキスト “The Unions Were Just Too Greedy”(pp.47-51) 日英生産性比較。
13. イギリス事情 その2、テキスト pp . 52-55
14. ジャーナリズム研究その1、テキスト “I Must Have a Little Japanese Blood”(pp.1-5) アメリカのジャーナリズムについて。
15. ジャーナリズム研究 その2、テキスト pp . 6-8 検閲制度について。言論・出版の自由について。
16. ジャーナリズム研究 その3、テキスト pp . 8-18 編集者の心がけについて。話者の英語の特色にふれる。
17. アジア その1、テキスト “Japan as a Big Brother” の “Help US Stand on Our Own Two Feet”(pp.65-67)
18. アジア その2、テキスト “The Japanese Rather Look West”(pp.68-70)
19. アジア その3、テキスト “Do More for Our Spiritual Enrichment”(pp.71-73)
20. ジャパン・バッシング その1、テキスト *Japan Unveiled* “Japan, Not Russia, Main Threat”(pp.2-4)
21. ジャパン・バッシング その2、テキスト “Bashing Japan Isn’t the Answer”(pp.6-8)
22. キャリア・ウーマン その1、テキスト “OL - She’s Indispensable”(pp.33-34)
23. キャリア・ウーマン その2、テキスト “Japan’s New Breed of Office Ladies”(pp.36-41)
24. 高齢化社会の到来。テキスト “Japan’s Aging Population - A Guinea Pig”(pp.72-76)
備考 テキスト *Japan Unveiled* は購入の必要はない。ほとんど毎時間、新聞等からの補足教材プリント配布・使用。

科 目 名	時事英語 - 4,5	担当者名	工 藤 政 司
-------	------------	------	---------

講義の目標	世界の情勢をリアルタイムで把握することは国際人の必須条件である。時事英語 では英語を通して海外事情、海外から見た国内事情に通暁し、国際人としての教育を身につけることを目指す。受講者は外国の新聞雑誌に取り上げられた記事を通して視野が広がったことを実感するだろう。 制限人数 55 名を越えた場合には抽選によって選考する。		
講義概要	英文を正しく理解することに重点を置いた授業を行なう。		
使用教材	テキスト	プリント使用。	
	参考文献	Time, Newsweek, New York Times Weekly Review, The Economist その他内外の英字新聞および雑誌。使用するのとは主として上記新聞雑誌の記事である。	
評価方法	前後期の試験各一回の成績、及び出席を含む平常点をもって評価する。		
受講者に対する要望など	予習が必要である。なお、時事英語は時々刻々と変化する内外事情を扱うので講義予定の順序や項目には変更が生じることがある。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方についてのオリエンテーション 2. 外から見た日本の政治 3. 外から見た日本の政治 4. アメリカの政治 5. アメリカの政治 6. アメリカの社会問題 7. アメリカの社会問題 8. イギリスの政治と経済 9. イギリスの政治と経済 10. 科学の現況 11. 中国問題、その発展と問題点 12. 中国問題、その発展と問題点 13. 環太平洋地域の問題 14. 工業の発展と世界の環境問題 15. 工業の発展と世界の環境問題 16. ドイツの政治と経済 17. EU 問題 18. フランスの問題を読む 19. ロシアの現況と北方領土問題 20. New York Times Op. Ed 21. New York Times Op. Ed、継続講義 22. Time の Cover Story を読む 23. Time の Cover Story を読む 24. Time の Cover Story を読む 		

科 目 名	時事英語 - 6	担当者名	佐藤 真千子
-------	----------	------	--------

講義の目標	<p>本講義では、英語を介して現代の国際問題に関する意識を高め、理解力を養うことを目的とします。第一に、ニュース記事で頻用される英語の基礎的語彙や政治・経済の専門用語を習得し、国際社会における外交問題、政治問題、経済問題について書かれた英文に慣れ親しむことを目指します。第二に、単なる英文和訳に留まらず記事内容の理解を深めるために、ニュースの背景や関連事項についての知識を獲得し、内容を正しく把握できるようになることを目標とします。</p>		
講義概要	<p>本講義では国内外の英字新聞、英文雑誌の報道記事や論説を教材として使用します。特に、現代国際社会の外交問題を重点的に取り上げ、その現状と動向に注目していくことになります。その際、流動的なニュースを単に一過性のもものとして捉えるのではなく、ニュースの歴史的背景や「その後」のニュースにも注目していきます。海外の新聞・雑誌には、日本では取り上げられていない問題や異なる視点による論説が見られます。本講義ではこのような記事も取り上げ、「日本の関心」と「世界の関心」の差を学ぶ機会を提供していきたいと思います。</p> <p>授業の形態は学生の皆さんによる発表が中心となります。発表では、記事の和訳と内容に関する解説や補足説明を担当していただきます。</p>		
使用教材	テキスト	プリント配布	
	参考文献		
評価方法	前・後期の期末試験及びレポート提出に平常点を加味し、総合的に評価します。		
受講者に対する要望など	<p>授業では国際問題を中心に取り上げるので、日頃から世界の政治・外交問題に関心を持つようにして下さい。受講上限人数を超える場合、第1回目の授業において簡単な時事問題テスト(日本語と英語)を実施し、選考を行います。</p>		
年間授業計画	適宜、時事問題を取り上げます。		

科 目 名	時事英語 - 7	担当者名	信 達 郎
-------	----------	------	-------

講義の目標	<p>新聞や、英文のニュースは時事英語と知られているものであるが、その特徴は、報道内容の把握と現代英語の理解にある。また、時事英語は、そのニュースの内容に応じてやや専門用語や慣用語が異なるのもその特徴である。そのため、実際に現代英語がどのように使われているかを、教材とプリントを通じて演習形式で理解することが目的となる。</p> <p>この科目は受講上限人数が 55 名と決められているため、第一回目の授業で簡単なテストで選考を行う。</p>		
講義概要	<p>1 教室での教材を使った演習。 2 適宣、現代のニュースを理解するための課題の指示。 3 録画ビデオ、映画による授業。 4 ニュース内容に関して英語での要約とコメント。</p>		
使用教材	テキスト	『最新「タイム英語」攻略辞典』(講談社) 大学生の「時事英語基礎チェック」	
	参考文献	適宜指示する。	
評価方法	受講態度 50%、定期考査 50%		
受講者に対する要望など	成績にこだわることでなく、熱意があり、英語力をつけることに関心がある学生を歓迎する。		
年間授業計画	<p>1. 総論。次の年間スケジュールはあくまでも内容の概略であり、ニュースの進行により順序は異なる。</p> <p>2. Education 3. Environment 4. - do - 5. Business matters (finance) 6. Business matters (industry) 7. Economic matters (general) 8. Economic matters (international) 9. Political matters (domestic) 10. Political matters (international) 11. Defense matters 12. Culture 13. - do - 14. Science 15. Technology 16. Social issues 17. - do - 18. World Climate 19. Weather report 20. Traveling 21. - do - 22. Crimes 23. Trials 24. Nature</p>		

科 目 名	時事英語 - 8	担当者名	W . J . ベンフィールド
-------	----------	------	-----------------

講義の目標	To develop the necessary receptive and productive skills to analyze and discuss current events and trends in world affairs.		
講義概要	We will look at seven major topics over the course of the year, devoting three classes to each one. Initially we will analyze each topic through the medium of articles drawn from a range of English-language publications or video clips. It will also be necessary sometimes to look into the historical background underlying the events to get a clearer picture of what is happening today. Further research into the topics will be done for homework leading to group presentations done in class. We will also look at political cartoons, analyze the language of news reporting, and look at the process of news gathering and reporting. There will also be regular quizzes on current events.		
使用教材	テキスト	Print and video.	
評価方法	Assessment will be on the basis of attendance, performance and participation in class activities. There will also be an examination at the end of each semester which will take the form of a monitored discussion in small groups.		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Course outline and student selection. There is a limitation on the number of students who can take this class. If registration is oversubscribed, students will be selected randomly. 2 . Review of main news stories of previous year. 3 . Topic 1 : reading / viewing, discussion. 4 . Topic 1 : continued. 5 . Topic 1 : group presentations. 6 . Topic 2 : reading / viewing, discussion. 7 . Topic 2 continued. 8 . Topic 2 : group presentations. 9 . Topic 3 : reading / viewing, discussion. 10 . Topic 3 continued. 11 . Topic 3 : group presentations. 12 . Revision of first semester's work 13 . Main news stories of the summer 14 . Topic 4 : reading / viewing, discussion. 15 . Topic 4 continued. 16 . Topic 4 : group presentations 17 . Topic 5 : reading / viewing, discussion. 18 . Topic 5 continued. 19 . Topic 5 group presentations. 20 . Topic 6 : reading / viewing, discussion. 21 . Topic 6 continued. 22 . Topic 6 : group presentations. 23 . Topic 7 24 . Topic 7 : group presentations 		

科 目 名	時事英語 - 1	担当者名	新 井 妥 門
-------	----------	------	---------

講義の目標	この科目は受講上限人数が決められていますので、第1回目の授業において抽選により選考を行ないます。クラスの数日前に録音した放送英語（主にCNN）のニュースを教材として、そのキャスターの部分のディクテーションをすることにより音声のみならず文法的なポイントにもふれ時事英語力の向上を目的とする。		
講義概要	学生中心のディクテーションをする。聞き取りづらい部分を取り上げ、音のみならず語法や文の構造にも注意してその部分を把握していくことにポイントを置く。		
使用教材	テキスト	テキストは使用せず、受講生は60分カセットテープを持参すること。そのテープに教材を随時録音していく。	
	参考文献	例文の多い辞書を持参すること。できれば英英辞書が良い。必ず小さなカセットテープレコーダーを毎回持参すること。	
評価方法	定期試験、出席状況を含む平常点		
受講者に対する要望など	予習により聞きづらい部分を確認しておくこと。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業形式についての説明 2. 教材（CNN）の録音とクラス全体でのディクテーション 3. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 4. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 5. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 6. 聞き取りにくい語のまとめ 7. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 8. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 9. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 10. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 11. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 12. 聞き取りにくい語のまとめ 13. 教材（CNN）の録音とクラス全体でのディクテーション 14. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 15. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 16. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 17. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 18. 問題となる語句のまとめ 19. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 20. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 21. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 22. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 教材の録音 23. 学生によるディクテーション発表とそのチェック 24. 問題点のまとめ 		

科 目 名	時事英語 - 2	担当者名	佐藤 真千子
-------	----------	------	--------

講義の目標	<p>本講義では、現代国際社会におけるアメリカ外交の動向に注目し、理解力を養うことを目指します。第一に、アメリカ政府・議会の声明や決議、アメリカ外交政策について報じている新聞や雑誌の記事などから、英語の基礎的語彙や政治・経済・外交の専門用語を習得することを目標とします。第二に、単なる和訳に留まらず内容の理解を深め、歴史的背景や関連事項についての知識を獲得することを狙います。</p>		
講義概要	<p>本講義では、アメリカ政府の議会や資料、および英字の新聞や雑誌等の記事を教材として使用します。特に、アメリカとアジア諸国の外交関係に関する問題を重点的に取り上げ、アメリカの対アジア政策の動向に注目していきます。</p> <p>場合によっては、歴史的資料を参照して現状を把握する必要もありません。</p> <p>授業の形態は、学生の皆さんによる発表を中心に進めることを予定しています。発表では内容に関する解説や補足説明を担当していただきます。</p>		
使用教材	テキスト	プリント配布	
	参考文献		
評価方法	前・後期の期末試験及びレポート提出に平常点を加味し、総合的に評価します。		
受講者に対する要望など	<p>日頃から世界の政治・外交問題に関心を持つようにして下さい。受講上限人数を超える場合、第 1 回目の授業において簡単な時事問題テスト(日本語と英語)を実施し、選考を行います。</p>		
年間授業計画	適宜、時事問題を取り上げます。		

科 目 名	フランス語	担当者名	松 橋 麻 利
-------	-------	------	---------

講 義 の 目 標	中級までの文法事項をマスターし、さらにフランス語の微妙なニュアンスまでも読み取れるようにすること。		
講 義 概 要	出席者に、音読、読解、文法的な説明を課し、そのあとで総合的な解説をしながら進める。 3~4回ごとに書き取りの小テストを実施する予定。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Georges DUHAMEL “ La musique consolatrice ”(白水社)	
	参 考 文 献	必要に応じて適宜授業時に紹介。	
評 価 方 法	出席率、平常の小テスト、前・後期各1回の試験。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	必ず音読も含めた予習をして授業に臨むこと。		

科 目 名	スペイン語 - 1	担当者名	假名垣 宏
-------	-----------	------	-------

講義の目標	第一、第二ないしは第三学年で学習したスペイン語の基礎的な知識を、スペイン語テキストを用いて、実用化に耐えうるよう演習し、その表現様式に慣れさせることにある。物語の場面は、首都マドリードの下町、Plaza Mayor 1 番地のピソに住む住民たちの日常生活を綿密に描写した会話体を主体とする文学作品であり、庶民の哀歎を実にテンポよく表現している。外国人学生には、Nivel 2 に相当する最適のテキストであると考ええる。		
講義概要	本文は 57 ページから成る物語で、24 章にわかれており、巻末にはスペイン語による詳細な注釈が施されていて、大いに参考となる。講義内容は、受講者にあらかじめ予習を義務づけ、できる限りの努力をしてもらう。不明な点は、勿論私から説明する。努力次第では、1 年間で 1 冊読破できるだろう。		
使用教材	テキスト	"El cartero no siempre llama dos veces" / Lourdes Miquel / Neus Sans 著 DIFUSION 社 (Madrid , España)	
	参考文献	大学で使用したテキスト 西和辞典 スペイン語文法書	
評価方法	前期と後期の二度にわたり、定期試験を行う。使用テキストから 2 題、スペイン語原書から応用問題 1 題を、辞書を用いて西文を和訳させる。平常の授業態度、出欠席も勘案して裁定する。		
受講者に対する要望など	各自に課せられた課題は着実に果たすこと。ただ、欠席を重ねると、授業に対する興味も喪失し、意欲も減退するので要注意。		
年間授業計画	<p>授業は 2~3 ページの割で進行するものと思う。気になることが一つ。近頃の漫画ブームにとりつかれた学生諸君が、漫画を読むのと同じ調子で戯曲を読もうとする態度だ。バルーンのおかげで、話相手が誰かはすぐにわかってしまう。ただ字面だけを追うのが精一杯であったり、戯曲のト書きが何のために書かれているのかも、全く理解しようとはしない。戯曲とは、間(ま)の芸術である。ひとりの登場人物の語りかける問いのなかに、私たちは、いかに深遠な情感が秘められているのか、時には、いかに深奥な人間性が凝縮されているのかを洞察しなければならないのだ。二十一世紀を担う若き諸君の未来を思うとき、この老生も何らかの力になりたいと願うのである。</p>		

科目名	スペイン語 - 2	担当者名	野々山 ミチコ
-----	-----------	------	---------

講義の目標	文法を復習しながら、スペイン・ラテンアメリカの近代文学について学ぶ。 短編小説を用いる。		
講義概要	最初は教科書用にやさしく書き直したものをを用いるが徐々にレベル・アップし、最後は少々むづかしい原文に挑戦する。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中にそのつどコピーを配付。 ・野々山真輝帆著「スペイン語のトレーニング」(白水社) 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・とくになし 	
評価方法	授業への参加、貢献度を重視する。		
受講者に対する要望など	毎回授業に出席し、宿題とされた箇所を予習してくること。		
年間授業計画	1.	スペイン短編	ベッケル
	2.	"	"
	3.	"	"
	4.	"	クラリン
	5.	"	"
	6.	"	ウナムーノ
	7.	"	"
	8.	"	バロツハ
	9.	"	"
	10.	"	アソリン
	11.	"	"
	12.	"	"
	13.	"	"
	14.	ラテンアメリカ短編	キロガ
	15.	"	"
	16.	"	"
	17.	"	ルベン・ダリオ
	18.	"	"
	19.	"	"
	20.	"	コルタサル
	21.	"	"
	22.	"	"
	23.	"	"
	24.	"	"

科 目 名	ドイツ語会話 - 1	担当者名	U. J. 川 村
-------	------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>Entwicklung der Hörverstehens-und Sprechfähigkeit mit einfachen Dialogen zur Kommunikation im Alltagsdeutsch.</p> <p><i>Methode:</i> Hörverstehensübungen durch Zuhören, Nachsprechen, Lesen und Nachspielen der Dialoge</p>		
講 義 概 要	<p>14 <i>Lerneinheiten</i> : Vorstellen, Informationen erfragen (Berufe, Wohnung, Arbeit, Studium), eine Bitte aussprechen, Wünsche äussern, etwas planen, Telefongespräche führen, Einkaufen, nach dem Weg fragen, über Zeit sprechen, u. s. w.</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<i>Deutsch einfach 1+Kasste</i>	
	参 考 文 献	<p>INTERNATIONES Werner und Alice Beile Textbücher und Kassetten werden vom Lehrer direkt in der BRD, Bonn, bestellt</p>	
評 価 方 法	<p>Nach aktiver Unterrichtsbeteiligung, kleinen Zwischentests, Hausaufgaben, 2 Semesterabschlusstests.</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>Grammatische Grundkenntnisse, Interesse an aktiver Mitarbeit, <i>regelmässige Teilnahme</i> am Unterricht</p>		

科 目 名	ドイツ語会話 -2	担当者名	J. クランパス
-------	-----------	------	----------

講義の目標	Schwerpunkte des Kurses sind Hörverständnis und Sprechfähigkeit, Themen entsprechen Alltagssituationen im deutschsprachigen Raum, die während des Aufenthaltes vorkommen können.		
講義概要	5 Lektionen: Wer ich bin und was ich tue; Talente, Pläne, Pflichten; Geld und Arbeit; Wohnen; Auf Reisen		
使用教材	テキスト	Kontakte (ein amerikanischer Text für Deutsch als Fremdsprache). Fotokopien werden verteilt.	
	参考文献		
評価方法	Teilnahme am Unterricht, mündliche Zwischentests und 2 Semesterabschlussprüfungen sind die wichtigsten Faktoren.		
受講者に対する要望など	Grammatische Grundkenntnisse und Lust darauf, Deutsch zu reden		
年 間 授 業 計 画	1 . Wer ich bin und was ich tue 2 . " 3 . " 4 . " 5 . " 6 . Talente, Pläne, Pflichten 7 . " 8 . " 9 . " 10 . " 11 . Geld und Arbeit 12 . " 13 . " 14 . " 15 . " 16 . Wohnen 17 . " 18 . " 19 . " 20 . " 21 . Auf Reisen 22 . " 23 . " 24 . "		

科 目 名	フランス語会話 - 1	担当者名	M . ミズバヤシ
-------	-------------	------	-----------

講 義 の 目 標	S'exprimer en français sur des sujets simples en relation avec notre vie quotidienne.		
講 義 概 要	Le cours commencera avec l'étude d'un texte qui contient le vocabulaire et les structures nécessaires pour élaborer ses propres phrases. Ce cours s'adresse aux étudiants qui ont des choses à dire non seulement en français mais aussi en japonais.		
使 用 教 材	テ キ ス ト	Le texte sera précisé lors de la présentation du cours.	
	参 考 文 献	Je recommande fortement l'utilisation d'un dictionnaire français. Comme exemple, je proposerais <i>Le Micro Robert de Poche</i> .	
評 価 方 法	Deux petits tests en juillet et janvier. Présence régulière aux cours.		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	フランス語会話 - 2	担当者名	L. ラタンジオ
-------	-------------	------	----------

講義の目標	<p>本講義の目的は次の三点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) みなさんがすでに学んだフランス語の基礎的な知識を発展させる。 2) 具体的な場面での会話の表現を学び、実際に聴き、話せるようになることを目指す。 3) フランスの文化に接することによって、フランス的思考を理解する。 		
講義概要	<p>会話練習では、教科書をベースに、基本的な文法事項を確認しながら、実践で使えるフランス語会話の反復練習を行ないます。</p> <p>文明では、ビデオなども交え、フランス文化の様々なテーマに接し、それに関して意見交換します。</p>		
使用教材	テキスト	澤田・ラタンジオ・黒川著『アミカルマン』(駿河台出版)	
	参考文献		
評価方法	出席を重視し、授業への参加の度合、課題の提出などによって評価する。		
受講者に対する要望など	受け身の態度ではなく、積極的に授業に参加してください。第一回目の授業時に全般的な説明を行いますので必ず出席してください。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の紹介 2. 第1課 会話練習(あいさつ) 3. 文明1 フランスという国 4. 第2課 会話練習(自己紹介) 5. 文明2 パリの街について 6. 第3課 会話練習(買い物をする) 7. 文明3 カフェという場所 8. 第4課 会話練習(場所や時間を尋ねる) 9. 文明4 フランスの学生生活 10. 第5課 会話練習(レストランで注文する) 11. 文明5 フランス料理とワインについて 12. 前期のまとめ 13. 前期の見直し、後期の授業についての説明など 14. 第6課 会話練習(人を誘う) 15. 文明6 プロヴァンス地方 16. 第7課 会話練習(昨日したことを話す) 17. 文明7 ブルターニュ地方 18. 第8課 会話練習(理由をのべる) 19. 文明8 アルザス地方 20. 第9課 会話練習(将来について語る) 21. 文明9 政治について 22. 第10課 会話練習(感情表現) 23. 文明10 フランス語の歴史 24. まとめ 		

科 目 名	スペイン語会話 (総合) - 1	担当者名	野々山 ミチコ
-------	------------------	------	---------

講義の目標	映画を通じてどのような situation でどのような表現が用いられるかを具体的に学ばせる。 同時に日常会話が平易な単語・構文によって可能であることを理解させる。		
講義概要	授業の三分の二は映画のスク립トを訳した上で、映画を見せ、その内容についてスペイン語で質問を行う。 三分の一は、文法の復習にあてる。 「El Sur」は内戦の心の傷を負った父親の肖像を少女の目を通して描いたもの。 「カルメン」は世界的フラメンコ・ダンサー、アントニオ・ガティス主演。メリメのカルメンと同様の状況がそれを演じるフラメンコ・バレ団内で起こる。		
使用教材	テキスト	野々山真輝帆著「スペイン語のトレーニング」白水社。 映画 El Sur と CARMEN のスク립トのコピー（授業中に配付する）	
	参考文献		
評価方法	主として授業の参加、貢献度とレポートによる。 テストは行なわない。		
受講者に対する要望など	毎回授業に出席し、あてられた箇所は責任をもって調べてくること。		
年間授業計画	1 . El Sur	スペイン語のトレーニング	完了過去
	2 . "	"	
	3 . "	"	不完了過去
	4 . "	"	未来
	5 . "	"	未来完了、過去未来
	6 . "	"	現在分詞
	7 . "	"	否定語
	8 . "	"	再帰動詞
	9 . "	"	受動態
	10 . "	"	比較
	11 . "	"	関係詞
	12 . "	"	命令
	13 . "	"	接続法現在（意志感情・危惧）
	14 . カルメン	"	（無人称表現・疑惑・否定）
	15 . "	"	（目的・譲歩、否定、不定）
	16 . "	"	接続法過去・大過去
	17 . "	"	時制の一致
	18 . "	"	全体のレビュー
	19 . "	"	"
	20 . "	"	"
	21 . "	"	"
	22 . "	"	"
	23 . "	"	"
	24 . "	"	"

科 目 名	スペイン語会話 - 2	担当者名	J . L . ベラスコ
-------	-------------	------	--------------

講義の目標	The objective of this course is to enable the students to communicate in Spanish by acquiring a deeper knowledge of the Spanish language and its culture.			
講義概要	Completion of the unfinished grammar, so that the students could understand with a dictionary any regular Spanish Written text. Oral practices of the Spanish conversation through short dialogues about the daily life and conversational themes. Wider knowledge of the Spanish Culture and Spanish speaking world.			
使用教材	テキスト	Prints.		
	参考文献	Audiovisuals materials (tapes, videos, etc.)		
評価方法	Oral and written quizzes, exams.			
受講者に対する要望など	Attendance Participation Effort			
年間授業計画	1 . Repaso general gramatical 2 . Subjuntivo o indicativo 3 . Condicional 4 . Subjuntivo Pretérito 5 . Si (doble condición) 6 . Pluscuamperfecto-Futuro perfecto 7 . Pronombres relativos 8 . Subjuntivo: Pretérito Perfecto 9 . Subjuntivo: Pluscuamperfecto 10 . Ser vs. estar-Voz pasiva 11 . Verboides (Formas verbales) 12 . Acentos 13 . El Mundo Hispano 14 . El dinero en el mundo hispano 15 . La comida-Sobremesa Siesta-Fiesta 16 . El clima en el mundo hispano 17 . El piropo 18 . El idioma castellano 19 . Leyenda de Ecuador() 20 . Leyenda de Ecuador() 21 . La moda y el mundo hispano 22 . Viaje a México 23 . Los deportes en el mundo hispano 24 . Viaje a Perú	Las Personas (Presentación) Cine-Carmen() Restaurante (Pequeño teatro) Cine-Carmen() Clínica (Pequeño Teatro) Cine-Carmen() Teléfono (Pequeño teatro) Cine-Carmen() Una compra (Pequeño teatro) Cine-Carmen() Hotel-(Pequeño teatro) Cine-Carmen() Video-En el club hispano Cine-El Sur() Video-La paella Video Cine-El Sur() Video-San Antonio (Texas) Cine-El Sur() Cine-El Sur() Video-Comprando ropa Video Video Cine-El Sur()		

科 目 名	スペイン語会話 (LL) - 3	担当者名	J. フェレーラス
-------	------------------	------	-----------

講 義 の 目 標	<p>これまで学んだ文法項目について、スペイン語会話の運用力を身につける。場面設定に従った基本的会話文を学び、語彙力を高めるとともに構文の復習をおこなっていく。このことで、依頼の会話、許可を求める会話、出来事を伝える会話など場面ごとに最低限必要な基本構文をはなせ、また聞き取れることができるようにしたい。また、接続法、前置詞、関係代名詞などまだ十分に練習がおこなえていない文法事項についても練習する。さらに、スペインあるいはラテンアメリカの文化理解を深める場ともしたい。</p>		
講 義 概 要	<p>ビデオ教材などを用い、単に見てなにが言われているか理解できるだけでなく、能動的な発話ができるよう、練習をおこなう。詳しくは授業の最初に指示する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>・担当者が用意する。</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>授業への積極的参加、およびテスト</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	スペイン語会話	担当者名	霞 洋 子
-------	---------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>二外の四年目の授業で、スペイン語会話 の継続である。教科書「Modern Spanish」の三年終了時の文法の進度にあわせて、おおよそ 18 課からはじまる。接続法の活用と使い方の練習が中心となる。より高度なスペイン語の総合的運用能力(話す、聞く、書く、読む)の獲得をめざす。</p>		
講 義 概 要	<p>教科書「Modern Spanish」の 18 課から(おおよその目安である) 接続法を中心とした会話練習とともに、全課にわたる総合的練習もおこなう。四年次用の授業は、この授業だけなので、教科書以外のプリント・ビデオなどを使用する場合もある。詳しくは、開講時に説明する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	「Modern Spanish」	
	参考文献		
評 価 方 法	<p>出席、年二度の定期試験、課題の提出、担当者によっては小テストなどの結果を総合的に判断する。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

科 目 名	言語情報処理 a・b-1,2	担当者名	高柳 敏子 吉成 雄一郎
-------	----------------	------	-----------------

講義の目標	<p>本講義は、英語学科言語情報コースの学生を対象に、コンピュータリテラシ（タッチタイプ、コンピュータ・コミュニケーション、ワードプロセッサ）を一通り習得していることを前提として、表計算ソフトの基礎から学び、そのデータベース機能を利用した英文データベースの構築と文章解析の技法を学習しながら、コンピュータの文章解析への応用を理解する。</p>		
講義概要	<p>前期は、まずワープロソフト（MS Word）による日本文および英文の扱い、表や図・絵を含めた総合的な文書編集の基本を復習する。続いて、Internetを利用して図書館の検索等各種情報検索を紹介し、情報収集の手段としてのInternetの有効な使い方を学習する。さらに、後期に行う英文データベースの構築と文章解析の基礎となる表計算ソフト（MS Excel）の基本を学ぶ。</p> <p>後期は表計算ソフトの応用としてデータベースの取り扱いを学習しながら、表計算ソフトを利用した英文解析の基礎を学ぶ。</p>		
使用教材	テキスト	前田・松山・渋谷・和高・高柳・石田著「情報処理と Windows」共立出版，1998．	
	参考文献	随時紹介する。	
評価方法	<p>評価は、定期試験に替わるものとして前期最終授業の実習試験、後期の最終レポート、その他前・後期各2回程度のレポートおよび出席を加味して行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>実習が中心の授業なので欠席しないこと。</p> <p>第1回目の授業で受講者（1クラス55人）を決定するので必ず出席すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講者の決定と講義のガイダンス 2. ワープロの復習：日本文の入力 ページ設定、ヘッダ・フッタ、印刷プレビュー、印刷等。 3. ワープロの復習：英文の入力 スペルチェック、ハイフネーション、ドロップキャップ等。 4. ワープロの復習：総合練習 表組、段組、図・絵の貼り付け等。 5. Internetと情報検索(1): 文献検索 論理積、論理和、トランケーション等。 6. Internetと情報検索(2): サーチエンジンの利用 登録系エンジン、ロボット系エンジン等。 7. 表計算の基礎(1): 表計算一巡り データの入力、計算、グラフ、ページ設定、印刷等。 8. 表計算の基礎(2): グラフの編集 グラフおよびタイトル、軸およびラベル等の編集。 9. 表計算の基礎(3): 計算 計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等。 10. 表計算の基礎(4): 関数の利用 関数およびそのヘルプの利用。 11. 表計算の基礎(5): データベースの扱い(1) 並べ替え、レコード抽出。 12. 表計算の基礎(6): データベースの扱い(2) 複雑な条件検索、クロス集計。 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文章解析(1): 文章解析の準備 Internet等を利用した英文の選択、取得、編集、整理。 2. 文章解析(2): 英文の入力 英文(テキストファイル)のMS Excelへの入力。 3. 文章解析(3): 英文の確認とチェック ワークシート上の英文の編集・整理。 4. 文章解析(4): 出現単語の頻度の集計 ピボットテーブルレポートを利用した列毎の単語の頻度集計。 5. 文章解析(5): テキスト全体の出現単語の頻度 列毎の単語の使用頻度のまとめとテキスト全体の集計。 6. 文章解析(6): 出現単語の頻度分布 単語の使用頻度の分布。 7. 文章解析(7): 出現単語の文字の長さの分布 LEN 関数を利用した出現単語の文字の長さ(文字数)とその分布。 8. 文章解析(8): グラフの利用 出現単語の頻度分布や長さの分布のグラフ化。 9. 文章解析(9): 出現文字の頻度 データベース関数DSUMを利用した文字毎の使用頻度。 10. 文章解析(10): 一文内の単語数の分布 列毎の文末記号(!?等)の頻度集計と、一文内の単語数の分布およびそのグラフ化。 11. 文章解析(11): KWICインデックスの作成 12. 文章解析(12): 文章解析のまとめ 文章解析の結果の整理とレポートの作成。
----------------------------	---

科 目 名	言語情報処理 a・b	担当者名	前 田 功 雄
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>この講義では、言語情報処理 やコンピュータ概論で学んだワープロ、表計算の技術をもとにこれらのソフトを連携させながら、もっと高度な使いみちを学ぶ。特に、ワード（MS WORD）とエクセル（MS EXCEL）のデータ連携やワードのレイアウト枠機能（文書内に貼り付ける図形やグラフを任意の位置に好きな大きさに貼り付ける機能）に熟達されたい。また EXCEL は数ある表計算ソフトの中で統計分析に定評がある。この統計分析ツールをマスターすることがこの講義の目標の一つでもある。</p>		
講 義 概 要	<p>一言でいえば、ウィンドウズを活用した情報処理の実践的な授業である。言語研究や語学教育に適用範囲を合わせたことにより、英語学科の学生に馴染みやすい例題を多く取り入れた。とかく面倒な成績の統計処理もアプリケーション・ソフト（MS EXCEL）を使うことにより、誰でも簡単に必要な統計量（例えば、平均とかばらつきの度合を示す標準偏差や馴染みのある偏差値等）や説得力のあるグラフが作れるよう指導する。このような実例を通して解り難い統計概念の教育における意味を明らかにする。</p>		
使 用 教 材	テキスト	情報処理と Windows - Windows98 対応 - 、共立出版。	
	参考文献	講義中随時紹介する。	
評 価 方 法	前期・後期のレポート提出と出席回数その他レポート。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	履修条件があるので「履修の手引き」を参照のこと。		

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. コンピュータの仕組みと言語処理
	2. ワープロとマルチメディア
	3. ワープロとDTP (Desk Top Publishing)
	4. ワープロ実習
	5. 表計算ソフトとは
	6. 英語教育と表計算ソフト (MS EXCEL)
	7. MS EXCEL と文書解析
	8. 文書解析実習
	9. 文書解析実習
	10. 成績処理と MS EXCEL
	11. 種々の関数を使った統計値の算出
12. 前期総合レポートの作成	
(後期)	
1. 成績データのグラフ表示	
2. 成績データと基本統計量	
3. 成績データをヒストグラムに画く	
4. 2つの項目の統計的関連 - 相関係数および独立性 -	
5. 3つ以上の項目間の統計的関連 - 相関行列 -	
6. 2つのクラスの成績から見た統計的比較	
7. 教授法を変えたことによる成績変化の統計的意味	
8. 成績データ処理に関するレポート	
9. 英語教育とインターネット	
10. インターネットとCAI (Computer Assisted Instruction)	
11. インターネット実習	
12. 総合レポートの作成	

科 目 名	統語論 a・b	担当者名	安 井 美代子
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	この授業は、主に英語のデータを分析することにより、言語の構造に関して私たちが無意識に「知っている」ことを明確にかつできるだけ一般的に述べられるようになることを目指す。		
講 義 概 要	生成文法統語論の基礎を学ぶ。毎回の授業の前半は講義形式で行い、後半は講義内容に係る英語のデータを受講者に具体的に分析してもらう。		
使 用 教 材	テキスト	プリント	
	参考文献	<p>“ Transformational Syntax ” (A. Radford, Cambridge University Press)</p> <p>“ An Introduction to the Principles of Transformational Syntax ” (A. Akmajian and F. Heny, MIT Press)</p> <p>“ Introduction to Government and Binding Theory ” (L. Haegeman, Blackwell)</p> <p>「日本語の分析」(柴谷方良、大修館書店)</p> <p>「生成文法の基礎」(中村捷、金子義明、菊池朗、研究社)</p>	
評 価 方 法	前後期定期試験による。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	統語論は具体的な分析をして初めて理解したことになる。分析で使う規則、前提などは段階的に講義で導入していく。欠席が重なると、理解が困難になるので注意してほしい。		

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. 言語能力とはどういうものか
	2. 統語論の研究対象
	3. 句構造
	4. X-bar Syntax (一般句構造理論)
	5. X-bar Syntax (一般句構造理論)
	6. X-bar Syntax (一般句構造理論)
	7. 節の内部構造
	8. 主語と助動詞の倒置
	9. 本動詞・助動詞と時制辞の分布
	10. 機能範疇と語彙範疇
	11. 機能範疇と省略構文
	12. 質問
	(後期)
	1. 前期定期試験の解説
	2. persuade と expect の統語的差異
	3. likely と eager の統語的差異
	4. 受動文
	5. 名詞句の分布と格理論
	6. 格理論と名詞句移動
	7. himself などの再帰形と先行詞との構造的関係：束縛理論 (A)
	8. himself などの再帰形と先行詞との構造的関係：束縛理論 (A)
	9. 名詞句移動の局所性と束縛理論 (A)
	10. he などの代名詞と先行詞との構造的関係：束縛理論 (B)
11. John などの一般的名詞句：束縛理論 (C)	
12. 質問	

科 目 名	意味論 a・b	担当者名	阿 部 一
-------	---------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>本講座は「言語の意味」について扱うものである。その際、とりわけ「言語」と「認知」の関連性を重点的に取り上げ、意味の複雑な仕組みについてできるだけ体系的に、分かりやすく講義する。また、外国語学習上起こりうる数々の疑問に対して、意味論はどういった解決法や説明を可能とするのかも、色々な実証データを踏まえながら検討してみる。なお、データは英語の語彙や文法を中心とするが、随時、日本語やドイツ語などからもタイムリーな話題を取り上げる。</p>		
講 義 概 要	<p>本講座では意味論分野の概要を講義するとともに、基本的な問題点やこれまでに提唱された理論の特徴と意義、語用論や談話論など関連分野との接点、そして今後の課題（特に認知意味論の可能性）などについて検討していく。その際、受講者の理解を助けるために事例研究を数多く取り上げる。何分にも取り上げる題材が多岐に渡り、しかも読書課題もけっこう多いので、受講の条件として 既に言語学概論や英語学概論を履習していること、やる気があること、多読・精読を日英両語ともいとわれない、の2点を約束してもらいたい。の未履習者で受講を希望する場合は個別に担当講師に相談されたい。</p>		
使 用 教 材	テキスト	未定（第一回目の授業時に指示する）	
	参考文献	未定（第一回目の授業時に指示する）	
評 価 方 法	<p>授業課題として 授業内発表（含ハンドアウト） 学期末試験かもしくはレポートの提出 出席の重視 年に数回の復習小テストの実施。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	上記受講条件を参照。		

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. オリエンテーション：英文法の問題点と意味論　いくつかの興味深い事例を取り上げて問題点を指摘し、それに現在の意味論がどう答えるかをみてる。
	2. この意味論講座で扱う話題の全体図を概観する　従来の定評ある意味論概説書を紹介し簡単に説明し、講座の位置付けをはっきりさせる。
	3. 英文法の意味論とは何か？　歴史的意味論、哲学的意味論そして言語学的意味論を考える。
	4. 意味へのアプローチをどうすればよいのか？　意味研究の難しさの問題点を考える。事例研究（その1）
	5. 意味へのアプローチをどうすればよいのか？　意味研究の難しさの問題点を考える。事例研究（その2）
	6. 意味と実存の問題を考える　英語の名詞を中心にその構造と特性を探ってみる（その1）
	7. 意味と実存の問題を考える　英語の名詞を中心にその構造と特性を探ってみる（その2）
	8. 意味と実存の問題を考える　英語の名詞を中心にその構造と特性を探ってみる（その3）
	9. 意味と出来事の問題を考える　英語の基本動詞を中心にその構造と特性を探ってみる（その1）
	10. 意味と出来事の問題を考える　英語の基本動詞を中心にその構造と特性を探ってみる（その2）
	11. 意味と出来事の問題を考える　英語の基本動詞を中心にその構造と特性を探ってみる（その3）
	12. 実在と出来事がどう関連するのか？　意味の役割は一体どんな形で保証されるのか？特に項構造について考えてみる。
	(後期)
	1. 意味と空間概念について考えてみる（その1）　序論：英文法に見られるいくつかの素朴な疑問を検討してみよう
	2. 意味と空間概念について考えてみる（その2）　空間と位置関係の仕組みと問題点
	3. 意味と空間概念について考えてみる（その3）　直示（ダイクシス）の面白さと問題点
	4. 意味と相概念（アスペクト）について考えてみる（その1）　相の多様性、多層性と問題点
	5. 意味と相概念（アスペクト）について考えてみる（その2）　英文法具体例を取り上げて検討してみよう
	6. 意味と時間概念について考えてみる（その1）　序論：英文法に見られるいくつかの素朴な疑問を検討してみよう
	7. 意味と時間概念について考えてみる（その2）　時制と時間をどう区別し取り扱うか
	8. 意味と時間概念について考えてみる（その3）　英文法具体例を取り上げて検討してみよう
	9. 意味と法概念（モダリティ）について考えてみる（その1）　序論：英文法に見られるいくつかの素朴な疑問を検討してみよう
	10. 意味と法概念（モダリティ）について考えてみる（その2）　法の種類と問題点
11. 意味と表現効果を考えてみる　否定や修飾の問題を取り上げて検討してみる	
12. 本講座の意味論のまとめと注意点：知識をどう検証し、またどう発展させていけばよいのか？	

科 目 名	音声・音韻論 a・b	担当者名	大 竹 孝 司
-------	------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>90年代に入り、音声言語を様々な側面から探る研究が世界中で繰り広げられている。これは高度な情報化、国際化社会の出現により内外を問わずコミュニケーションの重要性が広く認識されるようになったからである。本講義では、人間のコミュニケーションの核となる音声言語が持つ様々な機能や構造に関する基本的な知識と考え方を学ぶ。これにより音声言語の分析の手法を身につける。日本人の英語学習者が直面する発音とリスニングの改善に対処できる具体的な知識が得られるであろう。言語やコミュニケーションに関心のある者には薦めたい。</p>		
講 義 概 要	<p>音声言語が持つ様々な機能を身近な例（ビデオ）で取り上げ、音声言語とは何かということ把握してから、前半では人間が発話する音声の特徴を音声学の観点から学ぶ。人は音声をどのように生成（発音）し、知覚（リスニング）するのか、音声を「目」で見たり、様々な音声に関する実験をまじえながら考えてゆく。そして、後半では音声の基本的な知識を学んだ後、音声が作り出す音の構造と機能を音韻論の観点から学ぶ。この後半の講義では、音韻論の基礎的な知識と考え方を身につけると共に言語の具体的な音韻分析ができることを目指す。音韻論の知識が英語の発音やリスニングといかに密接な関係があるかが理解できるであろう。</p>		
使 用 教 材	テキスト	プリント使用。	
	参 考 文 献	<p>P. Ladefoged "A Course in Phonetics" Harcourt Brace & Company P. Ladefoged & I. Maddison "The Sounds of the World's Languages" Blackwell 柴谷・影山・田守「言語の構造 - 理解と分析」音声・音韻篇 くろしお出版 窪園晴夫「音声学・音韻論」くろしお出版</p>	
評 価 方 法	評価は、試験、課題、実験、出席などにより決める。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	より深い知識を望む者は専門講読と併せて学ぶとよい。		

(前期)

1. 講義の概要の説明。音声言語とは？
2. 音声言語とコミュニケーション - 人間に音声言語がなかったら (ビデオ)
3. 音声言語の社会的機能 - 社会の階層と音声 (ビデオ)
4. 音声言語の獲得 - 音声言語の獲得と外国語学習
5. 音声学の基礎 - 音声学の3つの分野 (調音音声学、音響音声学、聴覚音声学)
6. 音声学の基礎 - 音声言語と文字言語。音声と発音記号。
7. 音声学の基礎 - 調音音声学 (発音器官と調音)
8. 音声学の基礎 - 調音音声学 (子音の分類と記述)
9. 音声学の基礎 - 調音音声学 (母音の分類と記述)
10. 音声学の基礎 - 音響音声学 (音声を目で見る)
11. 音声学の基礎 - 音響音声学 (人間の音声と人工合成の音声)
12. 音声学の基礎 - 聴覚音声学 (人間は音声をどのように聞くのか)

(後期)

1. 講義の概要の説明。音声学と音韻論は何が違うのか？
2. 音韻論の基礎知識 - 音の体系 (音、音素、異音)
3. 音韻論の基礎知識 - 音の体系 (相補分布、最小対立、自由変異)
4. 音韻論の基礎知識 - 音韻規則とは？
5. 音韻論の基礎知識 - 音韻分析の手順について
6. 音韻論の基礎知識 - 音韻分析の実際
7. 音韻論の基礎知識 - 音韻分析の実際
8. 音韻論の基礎知識 - 音韻分析の実際
9. 音韻論の基礎知識 - 音節構造と音素配列
10. 音韻論の基礎知識 - 音節構造とモーラ
11. 音韻論の基礎知識 - 音節構造とアクセント
12. 音韻論と外国語学習

科 目 名	英語史 a・b	担当者名	近 藤 ヒカル
-------	---------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>英語の歴史を扱うこの講義では、英語学・英文学概論による重複を避ける観点から、徹底して諸文献を渉猟し、その範囲を文字の起源から初期近代英語までに限定した。目標は OED の引用例が読めて Shakespeare や聖書が抵抗なく読めるようになることである。</p>		
講 義 概 要	<p>年間講義予定を見れば分かるとおり、アルファベットの発生から英語で書かれた最初の文学作品のベオウルフ、14 世紀の「カンタベリー物語」、そしてシェイクスピアと聖書に至るまでの英語の歴史を、手書き写本の解読によって丸で英語の絵本を見るような楽しさで身につけてもらう。教材は辞書に至るまでプリントして配布し、ビデオ上映も多用する。要は英語という文字の面白さを分かってもらいたいのである。また現代英語の問題として黒人英語やクリオール語はやはり英語史でしか扱えないものとして触れてみるつもりである。</p>		
使 用 教 材	テキスト	プリント	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Eduard Sievers : <i>An Old English Grammar</i> (AMS Press) ・ Fernand Mosse : <i>Handbook of Middle English</i> (Johns Hopkins Press) ・ John Holm : <i>Pidgins and Creoles</i> (Cambridge Univ. Press) ・ 小野捷 『英語史概説』(成美堂) ・ 桜庭一郎 『英語史概要』(篠崎書林) 	
評 価 方 法	<p>成績評価は前・後期の定期試験とレポートによる。出席は絶対条件とする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

(前期)

1. アルファベットの起源 (文字の起こり、アルファベットの歴史)
2. 英語の家系図 (世界の言語とその歴史、日本語との比較)
3. 文献学の重要性、英語諸方言、クリオール語、現代アメリカのかかえる言語問題
4. Old English の音韻・語形・統語
5. Cynewulf's *Elene*, Caedmon's *Hymn*
6. *Beowulf* (1)
7. *Beowulf* (2)
8. *Beowulf* (3)
9. *Beowulf* (4)
10. *The Battle of Maldon* (1)
11. *The Battle of Maldon* (2)
12. *The Battle of Maldon* (3)、King Alfred, Wulfstan 等

(後期)

1. Middle English の音韻・語形・統語
2. *The Ormulum*, *Ancrene Wisse*
3. *The Canterbury Tales* (1)
4. *The Canterbury Tales* (2)
5. *The Canterbury Tales* (3)
6. *The Canterbury Tales* (4)
7. *Troilus and Criseyde*, *The Pearl*, *Piers Plowman* 等
8. Early Modern English の音韻・語形・統語
9. Shakespeare 研究方法論
10. Shakespeare の喜劇・史劇
11. Shakespeare の悲劇・ロマンス劇
12. 英訳聖書

科 目 名	英語学特殊講義 a・b	担当者名	川 崎 潔
-------	-------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>英語英文学を学ぶ者にとって、英訳聖書、殊に The Authorized Version (1611 年出版) は W. Shakespeare の戯曲と共に必読の書と言えよう。A V は先行する英訳聖書の粹を集めて集大成したものであり、それ以後信仰の書として読み続けられ、英米の文化と文学にも広く深い影響を与え、英語史家達からは、「英語散文の金字塔」と言われるに至ったからである。この講義では、その The Authorized Version の文法・語法と文体への手引きを少しばかり試みたい。それはまた Shakespeare の英語への手引きともなるであろう。</p>		
講 義 概 要	<p>The Authorized Version の文法・語法については、現代英語との相違点をマタイ伝の中から取り上げ、必要に応じて Tyndale 訳聖書(1525-26 年出版) Revised Standard Version (1946-52 年出版)とも比較検討してみたい。文体については、簡樸性、具象性・比喩、反復、並行体を取り上げる。なお山上の説教については、参考文献にあげたすぐれた講解があり、これを熟読すれば得るところ多大であろう。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ "The Authorized Version" (The King James Version)(現行版) ・ 市河三喜『聖書の英語』研究社、1937 	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ The Authorized Version (A Reprint of The Edition of 1611, OUP, Kenkyusha, 1985) ・ 寺澤芳雄ほか『英語の聖書』富山房、1969 ・ 荒木一雄・宇賀治正朋『英語史 A』、英語学大系第 10 巻、1984 ・ 齋藤勇『文学としての聖書』研究社、1944 ・ 井上良雄『山上の説教』新教出版社、1994 	
評 価 方 法	<p>前期末と後期末にレポートを提出してもらおう。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>授業に出席し、そこで取り上げられた事項を自分で調べてもらいたい。それによって確かな知識が習得出来るであろう。</p>		

(前期)

- 1 . again (= back, in return) ; ... whom if his son ask bread, will he give him a stone?
- 2 . be (= are) ; was come down
- 3 . the even ; Himself took our infirmities, and bare our sicknesses
- 4 . where to lay his head ; what manner of ...
- 5 . the possessed of the devils ; Whether is easier, to say ... ; or to say, ...
- 6 . even now ; Jesus turned him about
- 7 . the dumb spake ; for to come
- 8 . before thy face ; a greater than ...
- 9 . how that ... ; like as ...
- 10 . some ... other ; Whosoever hath, to him shall be given
- 11 . is waxed ; anon
- 12 . the which ; for Herodias' sake, his brother Philip's wife

(後期)

- 1 . baskets full ; of a truth
- 2 . die the death ; of none effect
- 3 . unwashen hands ; saw the dumb to speak
- 4 . Whom do men say that I the Son of man am? ; what (= to what extent, in what way)
- 5 . sore afraid ; if so be that ...
- 6 . as touching ; if ye from your hearts forgive not every one his brother their trespasses
- 7 . hardly (= with difficulty) ; therefore
- 8 . in like wise ; go work
- 9 . heavy burdens and grievous ; be (= take place)
- 10 . and if (= if) ; partitive ' of '
- 11 . 簡樸性、具象性・比喻
- 12 . 反復、併行体

科目名	英米文学史 a (英) - 1・b (英) - 1	担当者名	(前期) 佐藤 勉 (後期) 富士川和男
-----	---------------------------	------	-------------------------

前期

講義の目標	この授業ではイギリス文学の歴史をアングロサクソンからルネッサンスまで概説するものである。イギリス文学の主たる作品がどんなものであるか、その作品がどんな風に作者の人生と思想、その時代の社会を反映しているか、などについて講義する。文学の形態、思潮なども作品分析に合わせながら紹介し、読解する。		
講義概要	1)時代ごとに簡潔に歴史的社会的状況を梗概しながら、その時代の文学の特質を述べる。 2)テキストに出てくる文学用語についてリストを参考にしながら解説する。 3)授業は指定されたテキストに従って読み進める。進むページをあらかじめ指示するのでその予習をして出席すること。		
使用教材	テキスト	Ifor Evans: <i>A Short History of English Literature</i> (Penguin Bks.,1990)。¥1760。	
	参考文献	日本語による参考文献は各自見つけること。したがって英文のものを挙げる。William J. Long: <i>English Literature</i> (Ginn & Co., 1945). Stephen Coote: <i>The Penguin Short History of English Literature</i> (Penguin Bks., 1993). Andrew Sanders: <i>The Short History of English Literature</i> (O.U.P.,1994). Pat Rogers (ed): <i>An Outline of English Literature</i> (O.U.P.,1992). Robert Bernars: <i>A Short History of English Literature</i> (Blackwell, 1994).	
評価方法	授業の出席を考慮し、試験によって評価を決定する。ただしレポートの提出を求めることがある。		
受講者に対する要望など	文学に興味があり、イギリス文学、特にイギリス詩史を勉強してみたいと思う学生、大学院を目指す学生にとって有益な授業としたい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第一章 Before the congeat についての通読と講義。アングロサクソンから中世までを一気に終える予定である。第二章 English Poetry from Chaucer to Donne まで進む予定。Chaucer, Gower, Gawain-Poet, Romance などについて通読と講義。 2. 前の授業の継続。 3. 第二章の続き。New Way in English Poetry: Wyatt, Surrey, Sidney, Spenser, Shakespeare を含む Elizabethan Poets までを扱う。第三章 English Poetry from Milton to Blake についての通読と講義。John Milton, Dryden, Alexander Pope まで。 4. 前の授業の継続。 5. 第四章 The Romantic Poets についての詳細な内容を通読し講義する。重要な詩人たちの時代的思想や背景をその詩人たちとともに概観する。第四章の続き。Wordsworth, Coleridge, Lord Byron, P.B. Shelley そしてロマン派のきら星、John Keats までを扱う。 6. 第五章 English Poetry From Tennyson を通読し、そのポイントを講義する。Robert Browning, Mathew Arnold, Edward Fitzgerald など。第五章の続き。T.E. Eliot, Gerard Manley Hopkins, W.B. Yeats まで。 7. 前の授業の 8. 第六章 English Drama to Shakespeare を通読し、演劇の土台としての University Wits について講義する。第六章の続き。演技の形態、Comedy, Tragedy の伝統 ギリシャにおけるドラマの本質、その主な作品の紹介をする。 9. 前の授業の継続。 10. 第七章 Shakespeare に入る。イギリスのルネッサンス時代的背景とその特質を説明する。Shakespeare の伝記を知る。第七章の続き。Shakespeare の作品に関する部分を通読するとともに、彼の歴史劇について重要なポイントを講義する。 11. Shakespeare の作品の解題を続けて行う。特に彼の四大悲劇について、その主題を中心に解釈を試みる。 12. 講義の補足と定期試験の準備、授業のまとめを行うと同時にノート整理の指導、その他今後の必要な研究指導を行う。 		

後 期

講義の目標	文学史とは何かを考えながら、「英米文学概論」の内容とは少し異った面から、18世紀以後の英文学の歴史的経過を概観する。	
講義概要	指定されたテキストに解説を加えながら講読する。	
使用教材	テキスト	前期使用のテキストを継続。
	参考文献	特に指定しない。相談があれば応じる。
評価方法	定期試験 1 回。	
受講者に対する要望など	イギリス文学作品を、少なくとも 1 冊期間中に読むこと。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキスト 56 ページ - 62 ページ (ドライデン、ポウプ) 理性の時代 2. テキスト 62 ページ - 70 ページ (ブレイクほか) 瞑想と幻想 3. テキスト第 10 章 (デフォー、スウィフト) リアリズム 4. テキスト第 11 章 (リチャードソン、フィールディングほか) 内と外 5. テキスト 71 ページ - 83 ページ (ワーズワース、シェリー) ロマン主義 6. テキスト 235 ページ - 238 ページ (オースティン) 群像型小説 7. テキスト第 12 章 (ディケンズ、サッカレー、ブロンテ姉妹) 社会と個人 8. テキスト第 12 章 (ジョージ・エリオット、ハーディ) 時代と理想 9. ヴィクトリア朝文学の特質 人道主義文学 10. テキスト第 5 章 (イエイツ、T.S.Eliot) 20 世紀の詩 11. テキスト第 12 章 不安の時代 (コンラッド、ウルフ、ジョイス) 12. イギリス文学と自我 	

科 目 名	英米文学史 a(米) - 2・b(米) - 2	担当者名	秋 山 武 夫
-------	-------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	植民地時代から現代にいたるまでの主要作家の代表作を概説し、その問題点を時代背景をふまえて講義し、アメリカ文学への展望を得てもらう。		
講 義 概 要	アメリカ文学がヨーロッパ、イギリスの文学から独立して、アメリカ独自の文学を形成していく過程を作品に即して論じていく。西へ西へと進んだ開拓時代、フロンティアの消滅、資本主義の形成、奴隷制、南北戦争、現実主義、自然主義、「失われた世代」などを背景として登場する作家について講義する。		
使 用 教 材	テ キ ス ト	ジャック・カポー、寺門他訳『失われた大草原』(太陽社)	
	参 考 文 献	『アメリカ文学を読む 30回』(太陽社)	
評 価 方 法	テスト、レポート		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	講義した作品を数多く読んでほしい。		

年 間 授 業 計 画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクションとしてアメリカ文学の特質を語る。作家は孤独で、社会の Outsider であった。 2. アメリカ文学の中に厳然として存在している Puritanism (清教主義) を歴史的に語り、現代文学、文化との関係を概説する。D.H. Lawrence はアメリカ文学には「狂気」の血が流れていると言っている。 3. Puritanism を体現している Anne Bradstreet と Edward Taylor の文学、及び Jonathan Edwards を語る。敬虔で素朴で、いかめしいアメリカの源泉を探りたい。現在のアメリカでは「神への回帰」が叫ばれている。 4. 典型的なアメリカ人の原型といわれる Benjamin Franklin の <i>Autobiography</i> の特徴を考える。 5. 心やさしいクエーカー教徒ジョン・ウールマンの日記と「アメリカ文学の父」と言われる Charles Brockden Brown について述べる。 6. James Fenimore Cooper の「革脚絆物語」を概説し、アメリカ文化の原点となっている問題点を指摘する。 7. Unitarianism の開祖となった W. E. Channing とその延長として生まれた Transcendentalism (超絶主義) の作家たち (R.W. Emerson, H.D. Thoreau) について講義する。 8. アメリカ作家としてヨーロッパで高い評価を受け、アメリカ文学の問題点を提出していた Washington Irving の短編小説について語る。リップ・ヴァン・ウインクルってどんな人でしょう？ 9. 不幸な生涯を送ったにもかかわらず、不滅の天才と受容されている E. A. Poe の短編小説、詩論、詩について述べる。平均的なアメリカ人がどうして Poe を「病的な人」というのか考える。 10. 大作家 Nathaniel Hawthorne の代表作『緋文字』と短編小説について述べて、彼の特質を語る。彼の言う「罪」とは？ 11. アメリカ最大の作家といわれる Herman Melville と「世界 10 大小説」の一つとされる『白鯨』について考える。 12. リズムと活気に溢れた詩人 Walt Whitman の <i>Leaves of Grass</i> (『草の葉』) の特異性をさぐる。 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マーク・トゥエーンはアメリカを代表する国民作家であり、ユーモア作家といわれているが、そのユーモアとはいかなるものであったか。『ハックル・ベリイフィンの冒険』、『不思議な少年』等を中心に論じる。 2. ヘンリー・ジェームズは「師」と呼ばれ、小説技法を練りに練った巨匠であるが、その技法、テーマを語りたい。『ある婦の肖像』を中心に、中短編をいくつかとりあげたい。 3. エミレイ・ディキンソンは生涯独身、後半生 25 年は家から出ず、自然と瞑想の生活を送り、1775 の詩を残していた。「私の人生は二度閉じた、その終わりが来る前に」などと歌う詩人です。 4. 「大いなる貴婦人」と呼ばれたエディス・ウォートンを語ります。『無垢の時代』など最近ではよく論じられている。哀切をきわめる『イーサン・フロム』、『歓楽の家』のリリー・パートの可憐な姿を伝えたい。 5. 現実主義文学を提唱したハウエルズの『サイラス・ラバムの向上』を紹介し、彼の弟子でありながら反発したクレインとノリスの文学を比較する。若い作家が主張した自然主義とはどんな文学だったのかを考える。 6. 1945 年に死去した時、あまりに大きな穴が空いたと追悼されたドライサーの自然主義を述べる。世間知らずの少女が大女優となる『シスター・キャリイ』、深刻な問題作『アメリカの悲劇』をとりあげる。 7. 手工業から大工業へ移り変わる時期にとり残されていく人々を意識の流れと性を通して描いたアンダーソンの『ワインズバーグ・オハオ』とネブラスカの雄々しい開拓民や華麗な人々の変容を描くキャザーの小説『マイ・アントニア』、『迷える夫人』などを論述。 8. 第一次大戦後の「ジャズ時代」を時代の化身のように生きたフィッツジェラルドの『偉大なるギャツビー』を中心に、戦争で深い心の傷を受けた若者たちの幻滅を語る「失われた世代」の作家像を紹介する。 9. 「歴史の建築家」と自称したドス・パソスの実験小説『USA』を詳説し、彼が捕らえた 20 世紀前半のアメリカを調べてみたい。『三人の兵士』、『マンハッタン乗換駅』にもふれる。 10. 陽はまた昇る』、『武器よさらば』、『誰がために鐘は鳴る』、『老人と海』、『キリマンジャロの雪』など周知の作品を通してヘミングウェイの文学を味わってみたい。 11. 徹底して南部を描いたフォークナーを『響きと怒り』、『八月の光』等の長編小説、「黒衣の道化師」、「ウォッシュ」、「くまつづらの香り」等にもふれつつ、論じる。 12. 『怒りのぶどう』によってスタインベックの本質を探ったのち、1960 年のはじめに愛犬のブードル「チャーリー」と共にトラック「ロジナンテ」でアメリカ一周をした旅行記『チャーリーとの旅』の特異性を述べたい。
----------------------------	--

科 目 名	英米の小説 a - 1 ・ b - 1	担当者名	北 澤 滋 久
-------	---------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>- D.H.ロレンス小説論 -</p> <p>小説家、D.H. Lawrence(1885-1930)の芸術と思想について、4期に大別してできるだけわかりやすく、かつ詳しく講義して、受講者の興味を誘いたいと思っております。これによって、この作家の洞察した同じ機被文明下に生きるみなさんの人生にひとつの指標を提供することが、20世紀イギリス小説の一典型を紹介することとともに、この講義の主たる目的です。</p>		
講 義 概 要	<p>ロレンスの長編小説を主軸に、ときに詩作等を織り込みながら、彼の文学の特質を語ります。いまは世紀末、新世紀に向かって生きる指針を、この講義から見いだしてもらえたらよいと思っております。例えば昨今でいうところのエコロジー問題にも奥深いヒントが得られるはずです。更なる概要は、別表の年間講義予定の項をご覧ください。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>下記の自著にほぼ準拠して講義しますが、購読を強要しません。図書館に在ります。 北沢滋久『D.H.ロレンス：その文学と人生』墨水書房 北沢滋久『D.H.ロレンス 生と死のファンタジイ：人と文明の再生をもとめて』、 金星堂（本年中刊行予定）</p>	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ The Cambridge Edition of The Works of D . H . Lawrence ・ The Cambridge Edition of The Letters of D . H . Lawrence ・ Penguin Books of The Works of D . H . Lawrence ・ 井上義夫『評伝 D . H . ロレンス』I ~ 小沢書店 ・ キース・セイガー『図説 D . H . ロレンスの生涯』研究社出版 <p>その他の参考文献の詳細は、随時講義時間内で紹介します。</p>	
評 価 方 法	<p>前期・後期とも、各々小論文において評価します。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>講読とは異なり講義科目ですから、時間中に英文を翻訳することなどはせずに、専ら講師の理解するところを語ってゆきますが、質問を歓迎します。小人数なれば、ディスカッションの時間も毎回設けたく思っています。</p>		

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. はじめに：ロレンスの文学の概略及び講義の概要と質疑応答
	2. 第1期の主題総覧：ロレンス文学の発生
	3. The White Peacock について
	4. The Trespasser について
	5. Sons and Lovers について1：Paulとその母、Gertrude を主題に
	6. Sons and Lovers について2：Paulとその恋人、Miriam、Clara を主題に
	7. 第2期の主題総覧：Frieda との結婚にも触れて
	8. The Rainbow について1：Ursula に至るまでのBrangwen家の女性たちを主題に
	9. The Rainbow について2：Ursula Brangwen 論
	10. Women in Love について1：Gerald と Gudrun を主題に
	11. Women in Love について2：Rupert と Ursula を主題に
	12. 前期のまとめ：質疑応答
	(後期)
	1. 第3期の主題総覧：love urge と power urge ということ
	2. Aaron's Rod について
	3. Kangaroo について
	4. The Plumed Serpent について : dark god の教理を主題に
	5. The Plumed Serpent について2：女性たちのキャラクターを主題に
	6. 第4期の主題総覧：reciprocity of tenderness への転換
	7. 第4期に至る道程としての The Ladybird について
	8. The Man Who Loved Islands, The Man Who Was through with the World の位置を巡って
	9. The Man Who Died について
	10. Lady Chatterley's Lover について
11. 生と死のファンタジイ：ロレンスの宇宙観	
12. 質疑応答：総括にかえて	

科 目 名	英米の小説 a - 2 ・ b - 2	担当者名	吉 元 清 彦
-------	---------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>われわれは今日、文学をどう捉え（考え）ているのか、もしくはどう捉えようとしているのか？</p> <p>現代アメリカの作家たちはその作品を通して、つまり「言葉」による表現芸術としての「作品」によって、いかなる「世界（時代・人間）像」を提示しようとしているのか、いかなる問題を提起しようとしているのか、について考える。</p>		
講 義 概 要	<p>第二次世界大戦後以降のアメリカ文学の状況を、前期は主として「小説」を中心に重要な作家たちの思想風土にも言及しながら概観し、その作品が語りかけてくるものについて考えてゆきたい。</p> <p>後期は J. D. Salinger の作品を取りあげ、考察・検討を加えてゆく予定。（尚、毎授業の冒頭に著名な作家たちの作品のテープを聴いて楽しむことにするが、映画化された名作や問題作品などをビデオで観て考えを述べ合ったり、文章にまとめて提出してもらったりすることもしている。）</p>		
使 用 教 材	テキスト	授業開始日に、参考文献等と一緒に紹介する予定。	
	参 考 文 献	同上。	
評 価 方 法	<p>前期はレポート提出、後期は筆記試験を実施し、この両者の成績と上述の発表（考えを述べ合うこと）や提出物を総合して評価を出す予定。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	とにかく、いろいろ、たくさん、読んでもらえない、のでは。		

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. 授業の内容・方針、およびテキスト、参考文献等の案内・紹介。
	2. 序 文学をどう捉える(考える)か (テープ: Washington Irving: "Rip Van Winkle")
	3. 同 上 (テープ: Nathaniel Hawthorne: "Young Good Man Brown")
	4. 同 上 (テープ: Edgar Allan Poe: "The Tell - Tale Heart")
	5. 本論 1. 2、30年代の作家たち (テープ: Frank Stockton: "The Lady of The Tiger?")
	6. 2. Survival という強迫観念 現代アメリカ作家の思想風土 (テープ: M. Twain: "The Notorious Jumping Frog of Calaveras County")
	7. 同 上 (テープ: Mark Twain: "What Stumped the Blue Jays?")
	8. 同 上 (テープ: Bret Hart: "The Outcasts of Poker Flat")
	9. 3. 4、50年代以降のアメリカの作家たち (テープ: Ambrose Bierce: "An Occurrence at Owl Creek Bridge")
	10. 4. ユダヤ系アメリカの作家たち (テープ: Hamlin Garland: "The Return of a Private")
	11. 5. 黒人作家たち (テープ: O. Henry: "The Gift of the Magi": "The Furnished Room")
12. 6. 文学批評について (テープ: Stephen Crane: "An Episode of War")	
(後期)	
1. 7. J. D. Salinger の作品(<i>Nine Stories</i> より) (テープ: Jack London: "To Build a Fire" { beginning })	
2. 7の1. "A Perfect Day for Bananafish"を読む (テープ: Jack London: "To Build a Fire" { concluded})	
3. 同 上 (テープ: Sherwood Anderson: "Unlighted Lamps")	
4. 7の2. "Uncle Wiggily in Connecticut"を読む (テープ: Ring Lardner: "Haircut")	
5. 同 上 (テープ: Robert Benchley: "The Treasurer's Report")	
6. 7の3. "Just Before the War with the Eskimos"を読む (テープ: James Thurber: "Interview with a Lemmnig")	
7. 同 上 (テープ: Ernest Hemingway: "Indian Camp")	
8. 7の4. "For Esmé-with Love and Squalor"を読む (テープ: Ernest Hemingway: "The End of Something")	
9. 同 上 (テープ: Ernest Hemingway: "The Killers")	
10. 同 上 (テープ: William Faulkner: "A Rose for Emily")	
11. 8. まとめ(次への一歩のために) (テープ: John Updike: A & P)	
12. 同 上 (テープ: Request のあったもの)	

科 目 名	英米の詩 a・b	担当者名	(前期) 原 成吉 (後期) 白鳥 正孝
-------	----------	------	-------------------------

前 期

講義の目標	まず第一に詩を楽しむこと。言葉の世界を通して、アメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡をとおして「いまのわたしたち」を考える。		
講義概要	アメリカ先住民の口承詩、ロック・ミュージックのリリックス、モダニストの作品、そして同時代の詩人たちの作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、"here and now"の視点から論じる。		
使用教材	テキスト	Geoffrey Moore ed. , <i>The Penguin Book of American Verse</i> (Penguin Books, 1989)	
	参考文献	Jay Parini (ed.). <i>The Columbia History of American Poetry</i> (New York : Columbia University Press, 1993) 亀井俊介・川本嗣 編 『アメリカ名詩選』(岩波文庫)	
評価方法	授業への参加度とレポート(ワープロで4,000字程度の作品論、または詩人論)で決める。		
受講者に対する要望など	前期イギリス詩と比較しながらアメリカ詩の特徴を探してほしい。その週に取り上げる作品と「対話」してから、授業に参加してほしい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカの大地の歌 Native American のうたをきく。 2. Rock Music の Lyrics を読む Bob Dylan と Paul Simon のアメリカ 3. デモクラシーを歌う『草の葉』の詩人 Walt Whitman がみたアメリカのヴィジョン 4. ミクロコスモスのなかのマクロコスモス 女性詩人 Emily Dickinson の世界 5. モダニズムの起源を探る (1) Ezra Pound がみた東洋 6. 詩に描かれた現代人の苦悩 T. S. Eliot の"The Love Song of J. Alfred Prufrok"を読む 7. "Here & Now"の詩の世界 William Carlos Williams のみたアメリカ美学 8. 小文字の「私」がつくる"typograpghy"の詩 e. e. cummings の詩の「意味」 9. Postmodern の詩(1) Allen Ginsberg の作品 10. Postmodern の詩(2) Gary Snyder の作品 11. Postmodern の詩(3) Sylvia Plath の作品 12. Postmodern の詩(4) Robert Creeley の作品 		

後 期

講義の目標	ワーズワス(W. Wordsworth 1770-1850)の「水仙」などの易しい英語を導入して、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やゝ古い英詩についても鑑賞し得る能力を身につけることを目的とする。扱う題材はすべてイギリス詩である。
講義概要	初めは、導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。ついで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェイクスピアの代表的な詩について管見する。なるべくカセットテープ、videoなどの視聴覚教材を利用する。
使用教材	テキスト プリント
	参考文献 教室でそのつど指示する。
評価方法	テストを課す(詳細は教室にて指示する)。他に数回のvideoはリスニング・テストを兼ね、平常点として組入れる。(100%の理解は求めない、努力具合もみる)
受講者に対する要望など	受身でなく、自ら参加する気持で臨んでほしい。
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 詩形について 英詩を学ぶ場合には、ある程度詩形について学んでおいた方が理解しやすい。但し(外国人には最も難しい分野であって)それ自体脇役でもあり、深入りは禁物。 2. マザーグース . いわゆる伝承童謡について学ぶ。英米国の人々が幼児の頃から親しみ、肌に染み込み、聖書やギリシャ神話同様バックボーンの一つとなっていると言われる。 3. マザーグース . 続きを読んだ後、video 鑑賞、メロディーやジェスチャーがこれによって一目瞭然となり、且つ、ビデオ自体夢のある美しい映像である。 4. 現代英詩アラカルト S. Sassoon(1886-1967) P. Larkin(1922-1985) E. Jennings(1926-) T. Hughes(1930-) Seamus Heaney(1939-)等の小品を各一篇づつ読む。 5. ロマン派の曙 W. Blake(1757-1827)の小品を読んだ後、小伝と朗読をvideoで学ぶ(字幕なし、以下同じ) 6. ロマン派の詩 . ワーズワスの代表的な小品を幾つか読み、小伝と朗読をvideoで学ぶ。 7. ロマン派の詩 . S. T. Coleridge(1772-1834)とG. G. Byron(1788-1824)の小品を読む。 8. ロマン派の詩 . P. B. Shelley(1792-1822)とJ. Keats(1795-1821)の小品を読む。 9. ロマン派の詩 総括. ロマン派の詩人群像を2本のvideo(各30分)で学ぶ。(先立って簡潔な解説をする) 10. 古典詩 . Thomas Gray(1716-1771)の代表的な詩、“Elegy Written in a Country Churchyard”(1751)を中心に講ずる。 11. 古典詩 . J. Milton(1608-1674)の『失楽園』(Paradise Lost 1667)のさわり、ソネット23番について講じた後、video鑑賞 12. 古典詩 . W. Shakespeare(1564-1616)の詩を主に劇中に挿入された歌やソネットなどを中心に若干読んだ後、video鑑賞

後 期

講義の目標	ワーズワス(W. Wordsworth 1770-1850)の「水仙」などの易しい英語を導入して、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やゝ古い英詩についても鑑賞し得る能力を身につけることを目的とする。扱う題材はすべてイギリス詩である。	
講義概要	初めは、導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。ついで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェイクスピアの代表的な詩について管見する。なるべくカセットテープ、videoなどの視聴覚教材を利用する。	
使用教材	テキスト	プリント
	参考文献	教室でそのつど指示する。
評価方法	テストを課す(詳細は教室にて指示する)。他に数回のvideoはリスニング・テストを兼ね、平常点として組入れる。(100%の理解は求めない、努力具合もみる)	
受講者に対する要望など	受身でなく、自ら参加する気持で臨んでほしい。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 詩形について 英詩を学ぶ場合には、ある程度詩形について学んでおいた方が理解しやすい。但し(外国人には最も難しい分野であって)それ自体脇役でもあり、深入りは禁物。 2. マザーグース . いわゆる伝承童謡について学ぶ。英米国の人々が幼児の頃から親しみ、肌に染み込み、聖書やギリシャ神話同様バックボーンの一つとなっていると言われる。 3. マザーグース . 続きを読んだ後、video 鑑賞、メロディーやジェスチャーがこれによって一目瞭然となり、且つ、ビデオ自体夢のある美しい映像である。 4. 現代英詩アラカルト S. Sassoon(1886-1967) P. Larkin(1922-1985) E. Jennings(1926-) T. Hughes(1930-) Seamus Heaney(1939-)等の小品を各一篇づつ読む。 5. ロマン派の曙 W. Blake(1757-1827)の小品を読んだ後、小伝と朗読をvideoで学ぶ(字幕なし、以下同じ) 6. ロマン派の詩 . ワーズワスの代表的な小品を幾つか読み、小伝と朗読をvideoで学ぶ。 7. ロマン派の詩 . S. T. Coleridge(1772-1834)とG. G. Byron(1788-1824)の小品を読む。 8. ロマン派の詩 . P. B. Shelley(1792-1822)とJ. Keats(1795-1821)の小品を読む。 9. ロマン派の詩 総括. ロマン派の詩人群像を2本のvideo(各30分)で学ぶ。(先立って簡潔な解説をする) 10. 古典詩 . Thomas Gray(1716-1771)の代表的な詩、“Elegy Written in a Country Churchyard”(1751)を中心に講ずる。 11. 古典詩 . J. Milton(1608-1674)の『失楽園』(Paradise Lost 1667)のさわり、ソネット23番について講じた後、video鑑賞 12. 古典詩 . W. Shakespeare(1564-1616)の詩を主に劇中に挿入された歌やソネットなどを中心に若干読んだ後、video鑑賞 	

科 目 名	英米の詩 a・b	担当者名	(前期) 原 成吉 (後期) 白鳥 正孝
-------	----------	------	-------------------------

前 期

講義の目標	まず第一に詩を楽しむこと。言葉の世界を通して、アメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡をとおして「いまのわたしたち」を考える。		
講義概要	アメリカ先住民の口承詩、ロック・ミュージックのリリックス、モダニストの作品、そして同時代の詩人たちの作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、"here and now"の視点から論じる。		
使用教材	テキスト	Geoffrey Moore ed. , <i>The Penguin Book of American Verse</i> (Penguin Books, 1989)	
	参考文献	Jay Parini (ed.). <i>The Columbia History of American Poetry</i> (New York : Columbia University Press, 1993) 亀井俊介・川本嗣 編 『アメリカ名詩選』(岩波文庫)	
評価方法	授業への参加度とレポート(ワープロで4,000字程度の作品論、または詩人論)で決める。		
受講者に対する要望など	前期イギリス詩と比較しながらアメリカ詩の特徴を探してほしい。その週に取り上げる作品と「対話」してから、授業に参加してほしい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカの大地の歌 Native American のうたをきく。 2. Rock Music の Lyrics を読む Bob Dylan と Paul Simon のアメリカ 3. デモクラシーを歌う『草の葉』の詩人 Walt Whitman がみたアメリカのヴィジョン 4. ミクロコスモスのなかのマクロコスモス 女性詩人 Emily Dickinson の世界 5. モダニズムの起源を探る (1) Ezra Pound がみた東洋 6. 詩に描かれた現代人の苦悩 T. S. Eliot の"The Love Song of J. Alfred Prufrok"を読む 7. "Here & Now"の詩の世界 William Carlos Williams のみたアメリカ美学 8. 小文字の「私」がつくる"typograpghy"の詩 e. e. cummings の詩の「意味」 9. Postmodern の詩(1) Allen Ginsberg の作品 10. Postmodern の詩(2) Gary Snyder の作品 11. Postmodern の詩(3) Sylvia Plath の作品 12. Postmodern の詩(4) Robert Creeley の作品 		

科目名	英米の演劇 a・b	担当者名	(前期) 長谷部加寿子 (後期) 児嶋 一男
-----	-----------	------	---------------------------

前期

講義の目標	シェイクスピア劇作品を中心に、イギリス・ルネッサンスの演劇風土と思想を考える。更に各時代がシェイクスピアを如何に受容してきたかを考察する。役者、舞台、演出の変容等を探求した後、現代のシェイクスピア劇を研究する。		
講義概要	イギリス・ルネッサンスの時代精神と演劇風土を概観した後、シェイクスピアの劇作品に焦点を合わせる。歴史劇、喜劇、悲劇、問題劇、ロマンス劇の中の代表的な作品を取り上げる。役着や舞台、演出の変遷等を含めた演劇史や批評史、現代のシェイクスピア劇、特に東京での舞台などにも言及する。		
使用教材	テキスト	長谷部加寿子『シェイクスピアに於る人間群像』高文堂出版社	
	参考文献	授業中に話す。	
評価方法	定期試験中の筆記試験と観劇レポートが課せられる。		

受講者に対する要望など

年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. エリザベス朝時代の宇宙観と人間観との関係、及び劇の発生から中世劇(神秘劇、奇蹟劇、道徳劇、仮面劇)について述べる。テキストの中の別表でシェイクスピアと同時代劇作家達の作品を概観する。 2. この時代の劇作品の一覧(プリント) シェイクスピア劇作品を4期に分け各時期の演劇的展開及び特徴を具体的に考察する。歴史劇全体の概観とテーマの解説・特徴などについて述べる。 3. 歴史劇の第1の4部作、「ヘンリー6世」1部・2部・3部、及び「リチャード3世」を具体的なせりふを通じて見ていく。「リチャード3世」の上演、批評の変遷、及び現代の名優達の演技等についても言及する。 4. 第2の4部作「リチャード2世」「ヘンリー4世」1部2部及び「ヘンリー5世」について述べる。喜劇全体の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。 5. 「間違いの喜劇」「じゃじゃ馬ならし」「真夏の夜の夢」「ヴェニスの商人」について述べる。見間違いや思い違いによる喜劇的要素、劇構造のテクニック、演出の変遷等について述べる。 6. 「お気に召すまま」「十二夜」について述べる。変装を伴ってダイナミックな劇展開をするなかで、円熟した喜劇の様相を見せている事を考察する。 7. 悲劇全体の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。「ロミオとジュリエット」「ハムレット」について述べる。「ハムレット」解釈の歴史、演出の変遷、実際の舞台や映画などについても言及する。 8. 「オセロー」について述べる。イヤーゴの解釈の変化や名優達の演技についても触れる。 9. 「マクベス」について述べる。舞台や映画の「マクベス」や、精神分析的症候の好例として研究されるマクベス夫人の夢遊病についても考察する。 10. 「リヤ王」について述べる。リヤの苦悩は、当時の自然観、人間観を表現すると同時に、時代を超えた人間への深い悲しみを映し出している。 11. ローマ史劇、問題劇、暗い喜劇と呼ばれる作品群について述べ、次にロマンス劇全体の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。「冬物語」「嵐」について述べる。 12. シェイクスピア劇全体を展望し、各時代がどのような受容と変遷を経て来たかを考察する。現代にとってシェイクスピアとは何かという問題を、私の立場から考察する。
--------	--

後 期

講義の目標	最近に上演・再演された戯曲を読み、作品の背景にある文化・時代風潮を考え、芝居はおもしろいライブ・パフォーマンスであることを知る。	
講義概要	各作品を読んでいく。受講生は班ごとに分担で、本読みのパフォーマンス（約 15 分）を最低一回行い、舞台の雰囲気を楽しむようにする。	
使用教材	テキスト	プリント
	参考文献	授業中に言及。
評価方法	定期試験、観劇レポート、本読みのパフォーマンス	
受講者に対する要望など	プリントの英文と実際の作品を読むこと。舞台公演を見ること。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . ロンドン・ニューヨーク・東京の現代の演劇事情を概観 2 . ミュージカル : <i>The Phantom of the Opera</i> と <i>Les Miserables</i> 3 . Willy Russell: <i>Educating Rita</i> 4 . Ben Elton: <i>Popcorn</i> 5 . ミュージカル : <i>Blood Brothers</i> と <i>Cats</i> 6 . Thornton Wilder : <i>Our Town</i> 7 . Neil Simon : <i>I Ought To Be In Pictures</i> 8 . Peter Shaffer : <i>Black Comedy</i> 9 . ミュージカル : <i>Rent</i> と <i>Miss Sigon</i> 10 . Caryl Churchill: <i>Top Girls</i> 11 . Martin McDonagh : <i>The Beauty Queen of Leaneane</i> 12 . Ariel Dorfman : <i>Death and The Maiden</i> 	

後 期

講義の目標	最近に上演・再演された戯曲を読み、作品の背景にある文化・時代風潮を考え、芝居はおもしろいライブ・パフォーマンスであることを知る。	
講義概要	各作品を読んでいく。受講生は班ごとに分担で、本読みのパフォーマンス（約 15 分）を最低一回行い、舞台の雰囲気味わえるようにする。	
使用教材	テキスト	プリント
	参考文献	授業中に言及。
評価方法	定期試験、観劇レポート、本読みのパフォーマンス	
受講者に対する要望など	プリントの英文と実際の作品を読むこと。舞台公演を見ること。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . ロンドン・ニューヨーク・東京の現代の演劇事情を概観 2 . ミュージカル : <i>The Phantom of the Opera</i> と <i>Les Miserables</i> 3 . Willy Russell: <i>Educating Rita</i> 4 . Ben Elton: <i>Popcorn</i> 5 . ミュージカル : <i>Blood Brothers</i> と <i>Cats</i> 6 . Thornton Wilder : <i>Our Town</i> 7 . Neil Simon : <i>I Ought To Be In Pictures</i> 8 . Peter Shaffer : <i>Black Comedy</i> 9 . ミュージカル : <i>Rent</i> と <i>Miss Sigon</i> 10 . Caryl Churchill: <i>Top Girls</i> 11 . Martin McDonagh : <i>The Beauty Queen of Leaneane</i> 12 . Ariel Dorfman : <i>Death and The Maiden</i> 	

科 目 名	英米の演劇 a・b	担当者名	(前期) 長谷部加寿子 (後期) 児嶋 一男
-------	-----------	------	---------------------------

前 期

講義の目標	シェイクスピア劇作品を中心に、イギリス・ルネッサンスの演劇風土と思想を考える。更に各時代がシェイクスピアを如何に受容してきたかを考察する。役者、舞台、演出の変容等を探求した後、現代のシェイクスピア劇を研究する。		
講義概要	イギリス・ルネッサンスの時代精神と演劇風土を概観した後、シェイクスピアの劇作品に焦点を合わせる。歴史劇、喜劇、悲劇、問題劇、ロマンス劇の中の代表的な作品を取り上げる。役着や舞台、演出の変遷等を含めた演劇史や批評史、現代のシェイクスピア劇、特に東京での舞台などにも言及する。		
使用教材	テキスト	長谷部加寿子『シェイクスピアに於る人間群像』高文堂出版社	
	参考文献	授業中に話す。	
評価方法	定期試験中の筆記試験と観劇レポートが課せられる。		

受講者に対する要望など

年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. エリザベス朝時代の宇宙観と人間観との関係、及び劇の発生から中世劇(神秘劇、奇蹟劇、道徳劇、仮面劇)について述べる。テキストの中の別表でシェイクスピアと同時代劇作家達の作品を概観する。 2. この時代の劇作品の一覧(プリント) シェイクスピア劇作品を4期に分け各時期の演劇的展開及び特徴を具体的に考察する。歴史劇全体の概観とテーマの解説・特徴などについて述べる。 3. 歴史劇の第1の4部作、「ヘンリー6世」1部・2部・3部、及び「リチャード3世」を具体的なせりふを通じて見ていく。「リチャード3世」の上演、批評の変遷、及び現代の名優達の演技等についても言及する。 4. 第2の4部作「リチャード2世」「ヘンリー4世」1部2部及び「ヘンリー5世」について述べる。喜劇全体の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。 5. 「間違いの喜劇」「じゃじゃ馬ならし」「真夏の夜の夢」「ヴェニスの商人」について述べる。見間違いや思い違いによる喜劇的要素、劇構造のテクニック、演出の変遷等について述べる。 6. 「お気に召すまま」「十二夜」について述べる。変装を伴ってダイナミックな劇展開をするなかで、円熟した喜劇の様相を見せている事を考察する。 7. 悲劇全体の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。「ロミオとジュリエット」「ハムレット」について述べる。「ハムレット」解釈の歴史、演出の変遷、実際の舞台や映画などについても言及する。 8. 「オセロー」について述べる。イヤーゴの解釈の変化や名優達の演技についても触れる。 9. 「マクベス」について述べる。舞台や映画の「マクベス」や、精神分析的症候の好例として研究されるマクベス夫人の夢遊病についても考察する。 10. 「リヤ王」について述べる。リヤの苦悩は、当時の自然観、人間観を表現すると同時に、時代を超えた人間の深い悲しみを映し出している。 11. ローマ史劇、問題劇、暗い喜劇と呼ばれる作品群について述べ、次にロマンス劇全体の概観とテーマの解説、特徴などについて述べる。「冬物語」「嵐」について述べる。 12. シェイクスピア劇全体を展望し、各時代がどのような受容と変遷を経て来たかを考察する。現代にとってシェイクスピアとは何かという問題を、私の立場から考察する。
--------	---

科 目 名	英語圏文学特殊講義 a・b	担当者名	佐藤 勉
-------	---------------	------	------

講義の目標	授業では現代文学批評（特に英米文学の領域）の流れを概観しながら、文学を読むという行為そのものについて考えてみる。文学批評は早くから体系的な発展を示して今日に至っている。その始まりをアリストテレスの『詩学』に求めるのが普通であるが、この中で述べられている内容は悲劇詩論であるが、その言葉は今に生きている。そこで使われている用語の理解から始めるのがよいと思われる。		
講義概要	比較的易しい詩や短編小説を通して、読む行為、作品分析批評の方法などについて解説を行う。様々な読み方 基本的な批評用語の解説（新批評などの伝統的批評の方法）から始めるが、その具体的な方法については年間授業計画の内容をみることに。		
使用教材	テキスト	<i>An Introduction to Literature, Criticism, and Theory : Key Critical Concepts</i> by Andrew Bennett and N. Royle (Prentice Hall,1995)	
	参考文献	特に指定したものはないが、その都度適時にプリントとして渡す。 参考文献を挙げれば <i>The Critical Approaches to English Literature</i> 編注者 青木・日下 出版社 彩流社 が読み易い。	
評価方法	評価方法については、授業への出席、討論、レポートなどによって総合的に行う。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<p>授業中で扱うキーワードを挙げておく。 Readers and reading, author, the next and the world, narrative, character, voice, figures and tropes, laughter, the tragic, history, sexual difference, God, ideology, desire, suspense, postmodern, pleasure, preformative, racial difference, the end, etc. 次のような大雑把な分類に従って授業を進めるが、必ずしも別個のものとしてではなく、相互の関係の中で実践的に触れることになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．形式主義的批評の方法 2．心理学的批評の方法 3．原形批評の方法 4．表象主義的批評の方法 5．構造主義的批評の方法 6．ポスト構造主義的批評の方法 <p>その他に相互に関連し合っているマルクス主義、フェミニズム、新歴史主義、受容理論、物語理論、など。</p>		

科 目 名	英米文学文献研究 a・b	担当者名	富士川 和 男
-------	--------------	------	---------

講義の目標	グレアム・グリーン短編小説を精読し、小説の読み方について考える。		
講義概要	テキストを読みながら、文章の解釈をはじめ、すべての点で、わからないことに出会った場合、どのように解決すべきか、さらにどのようにして小説批評の手がかりを見つけるかについて考える。		
使用教材	テキスト	Graham Greene : <i>The Destructors and Other Stories</i> . (英宝社)	
	参考文献	テキストに収録されている以外の彼の小説	
評価方法	前後期各1回の試験 短編を1つ読み終えるたびに、読后感想文を提出		
受講者に対する要望など	小説読みの楽しさ探求。この授業は上限人数が35名と決められているので、第1回の授業時に抽選をする。文学コースを優先する。		
年 間 授 業 計 画	(前期) 1. テキストの進み方に応じて、各授業で問題を提起していく。 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. (後期) 1. 同上 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12.		

科 目 名	英米の社会と思想 a・b	担当者名	荻 間 寅 男
-------	--------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>ジェントルマンとアマチュア主義により代表される宗教改革・科学革命・市民革命・産業革命・消費革命と近代西欧を精神・物質世界の両面において先導してきたアングロ・サクソン思想の特質を、ヨーロッパ大陸における思潮に留意しつつその起源から歴史的に展望することにより、英米における分ち難く結びついた社会と思想との一層の理解をはかるとともに、そこに潜む古典への憧憬の根底を検討したい。</p>		
講 義 概 要			
使 用 教 材	テ キ ス ト	荻間寅男 『イギリス精神史』	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウイリー 『十八世紀の自然思想』 みすず書房 ・ マッキンタイアー 『美德なき時代』 みすず書房 ・ マッキンタイアー 『西洋倫理思想史』 上・下 九大出版会 ・ ブルーム 『アメリカン・マインドの終焉』 みすず書房 ・ マクファーレン 『イギリス個人主義主義の起源』 リプロポート ・ 吉田健一 『英国に就て』 ちくま文庫 ・ 吉田健一 『英国の文学』 岩波文庫 	
評 価 方 法	<p>学期末の指定した文献についてのレポートを基本とするが、学期中に数点の小レポートを課し、読解・論理・構成力の増進をはかる。</p> <p>自分の考えを論理的かつ説得的に示すレポート、すなわち、よくアーギュメントされたレポートを優とする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>毎回英文資料を配布するゆえ、積極的に、問題意識をもって参加して欲しい。</p>		

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1. 英米思想と西欧精神
	2. 先住民とローマ人
	3. アングロ・サクソン人の来島
	4. キリスト教の渡来と普及
	5. ノルマン人の王朝
	6. ルネッサンスと宗教改革
	7. イギリス宗教改革 中道の教会へ
	8. エリザベス朝文化
	9. フランシス・ベーコンと科学革命
	10. トマス・ホッブス
	11. ジョン・ロックと社会契約説
	12. まとめ
	(後期)
	1. ニュートンと王立協会
	2. ヒュームとスミス
	3. 産業革命と功利主義
	4. 18-9世紀の宗教運動
	5. 初期社会主義・進化論・パブリック・スクール
	6. 消費社会と唯美主義
	7. 世紀末 アイルランドと南アフリカ
	8. 大衆社会と分析哲学
	9. アメリカ植民地 トクヴィルと民主ラシーの逆説
	10. プラグマティズムと工業文明の勃興
11. 膨張するアメリカと亡命知識人	
12. まとめ	

科 目 名	英米の政治と経済 a・b	担当者名	宮 川 淑
-------	--------------	------	-------

講 義 の 目 標	科目名は「英米の経済」だが、本講では、近代化の始まる 16 世紀から現代までのイギリスの政治と経済が対象となる。		
講 義 概 要	1、近代化の始期（中央集権国家体制へ、市場経済の時代へ） 2、市民革命の時代（国家主権をめぐる内乱、資本主義経済へ） 3、市民社会（ホブズ・ロックの市民社会論、スミス経済学、アメリカ植民地の独立） 4、産業革命当時の政治と経済（民衆の生活状態、政治改革） 5、労働党政権の時代（産業国有化と福祉国家の展開、イギリス病へ） 6、サッチャー政権、7、労働党ブレア政権の順で講義する。 前期 a は 18 世紀前半まで、b はそれ以後。		
使 用 教 材	テキスト	特定のテキストは使用せず、授業のつど資料を配布する。	
	参考文献	世界歴史体系『イギリス史』2、3、（山川出版社） 中村英勝『イギリス議会史』（有斐閣） 宮川淑『西洋経済史』（法学書院） 宮川淑『レヴェラーズ』（エ・デュース） 小笠原欣幸『衰退国家の改治経済学』（勤草書房）	
評 価 方 法	前・後期の 2 度の定期試験に平常の出席状況を加味して評価する。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日までのイギリスは、数度の転換期を経ている。最初にその全過程の概略を説明する。 2. 第1章 近代化の始期、ジェントルマンの台頭、英国国教会の成立、チューダー朝までの議会などを扱い、中央集権国家体制の成立について。 3. 第2週の後半部分を扱う。 4. 重商主義について、16、17、18世紀の貿易中心の重金主義、貿易差額主義、産業保護主義の3段階の説明。 5. エンクロウジャーについて、その意義、進展状況、世論の反応等。次週へ継続する。 6. 先週からの継続で、エンクロウジャーに対する農民の対応、政府のエンクロウジャー対策について。 7. 近代化過程のうち工業部門の説明に入る。具体的にはイギリスの国民産業となる毛織物工業の成立過程と政府の統制政策について説明する。 8. マニユファクチャー（工場制手工業）の特徴と16～17世紀当時のイギリス経済全般について。 9. 第2章 市民革命の時代。国家主権をめぐる内乱、前期スチュアート朝と義会。 10. 政体論争 - 混合王制か議会主権かの論争、インディペンデントとレヴェラーズの選挙権論争について。 11. 市民革命期の経済問題を扱う。私有財産制の成立、営業の自由の原則成立等。 12. 先週からの継続。 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第3章 市民社会。トマス・ホッブズ、ジョン・ロックの市民社会論について説明する。 2. アダム・スミスの経済学の解説。 3. イギリス領アメリカ植民地の独立が、本国イギリスにとってもつ政治的・経済的意味を考える。 4. イギリス議会の改革とエドマンド・パークの政治思想について。 5. 第4章 産業革命当時の経済と政治。民衆の生活状態、労働者階級の対応等。 6. 労働組合の成立、工場法による労働者保護等の説明。 7. 政治改革としてのチャーティスト運動、女性参政権要求運動、小選挙区制と政治腐敗防止法の成立等。 8. 先週からの継続。 9. 第5章 労働党政権の時代。産業国有化と福祉国家政策の展開、イギリス病の分析。 10. 第6章 サッチャー政権以後。第一期（1979～83）第二期。 11. サッチャー政権第三期およびメイジャー政権。 12. 労働党ブレア政権の新基軸。
----------------------------	---

科 目 名	英米の歴史 a・b	担当者名	佐藤唯行
-------	-----------	------	------

講義の目標	<p>(前期) ユダヤ人と英国社会との最初の出会いから現代に至る英国史の文脈の中で、英国人との共生を目指しつつユダヤ人の歩みを辿る。彼等ユダヤ人の足跡に光を照射する事により、これまでの英国史研究(多数派英国人側に視点を置いた英国史研究)の中では、見落とされてきた英国社会の新たな特質を解明する。</p> <p>(後期) 植民地時代から現代にいたるアメリカ合衆国史を通史的に展望する。政治史・経済史のみならず、女性史。社会史の研究成果をもとり入れて講義を行なう。</p>		
講義概要	<p>前期のテーマは、「ユダヤ人問題の視点からイギリス史を見直す。」</p> <p>前期は下記「テキスト」にそって授業を行なう。後期は毎回、完全に文章化されたレジメを配布予定。</p>		
使用教材	テキスト	『英国ユダヤ人』 佐藤唯行(1995年4月刊行)講談社選書 1500円	
	参考文献		
評価方法	<p>評価は前後期各1回の筆記試験によって決定する。出席はとりません。試験は自筆ノート、テキストのみ持込み可。</p> <p>試験は全てのものを持込むことが可能です。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 授 業 計 画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.(ユダヤ人金融の潜在的機能) 中世英国ユダヤ人の最大の経済活動である金融業が英国封建王政の基盤を切り崩す機能を果たしてきた事を史料的に解明し、1290 年に行なわれたユダヤ人追放の歴史的意義を探る。 2.(英国ユダヤ人史の中間時代) 1290 年の全面的ユダヤ人追放から 1656 年に再入国が許される迄の 366 年間、法的に入国を許されていなかったはずのユダヤ人の足跡を追い、「隠れユダヤ教徒」という特異な存在の姿を解明する。 3.(千年王国思想とユダヤ人再入国) ビューリタン内部のセクト、独立派、第五王国派の中心的思想であった千年王国思想がクロムウエル政権下の 1656 年に「ユダヤ人再入国」を実現する上で果たした役割を検証する。 4.(17 世紀英国のユダヤ人社会) 17 世紀後半から始まる経済史上の所謂「商業革命」の展開過程の中で、ユダヤ人商業資本が英国の外国貿易全体の中で如何なる位置を占めたのか、また彼等の法的地位の国際比較も行なう。 5.(18 世紀英国のユダヤ人社会) 上層、中流上層のユダヤ人の中で 18 世紀後半に顕著に進展した英国人地主貴族社会への同化現象を検討し、当時のヨーロッパで比類の無い開放性を示した近代英国地主貴族社会の特質を解明。 6.(19 世紀英国のユダヤ人社会) ドイツ系ユダヤ人移民の大量流入によって 18 世紀末から 19 世紀初めにかけて首都ロンドンで深刻化した貧民問題の打開をめざした移民独自の主体的とりくみについて明らかにする。 7.(世紀転換期のユダヤ人社会) 1880 年代から始まる推定 30 万人もの貧しい東欧ユダヤ人移民の英国流入という未曾有の危機の中で発生した移民排斥論、反ユダヤ暴動のメカニズムを解明。 8.(20 世紀前半のユダヤ人社会) 両大戦間期の英国で反ユダヤ主義を標榜した黒シャツ団などの英国ファシスト勢力との緊張関係、ナチス政権下からの亡命ユダヤ人の受け入れ政策(特にキンダー・トランスポート)を解明。 9.(現代英国のユダヤ人社会) ヨーロッパで三番目に大きなユダヤ人社会に成長した現代英国ユダヤ人社会が抱える今日的諸問題について検討する。 10.(アメリカ経済史の中のユダヤ人) 投資銀行業界を二分する勢力のひとつであったドイツ系ユダヤ人と映画産業を築いた東欧系ユダヤ人が果たした役割をアメリカ経済史の中で検証する。 11.(現代アメリカユダヤ人の経済力の実像) これまで学問的議論の対象として忌避されてきたユダヤ人の経済力、とりわけ、彼等の最大の蓄財源となった不動産開発・投資について検証する。 12.(ウォール街のユダヤ人) 1980 年代のウォール街で最大の収益源となった M&A アドヴァイザリー業務に如何にしてユダヤ人達が頭角をあらわしたのか、また 90 年代のヘッジ・ファンドにおける彼等の活躍を辿る。 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.(ちびくろサンボ論争をめぐって)「サンボ」ということばがアメリカ社会の中で引きずってきた意味を明らかにし、人種関係にどういった機能を果たしてきたのかを明らかにする。 2.(日本の大衆文化の中にみられる黒人イメージ) 日本人の黒人観の変遷を歴史的に辿る。 3.(黒人奴隷の意識の世界) 南部のプランテーションに生きた黒人奴隷達が何を考え、何を願ったのか、彼等の意識の内面をスレイブ・ナラティブをもとに掘り起こす。 4.(差別体制下の黒人指導者) 19 世紀末から 20 世紀前半のアメリカ黒人史上、所謂差別体制下に、黒人解放の道筋を展望した指導者達の思想と活動に迫る。 5.(公民権闘争とブラックナショナリズムの台頭) M・Lキングとマルコム X の思想と活動を中心に。 6.(黒人・ユダヤ人の関係史) 公民権闘争期の南部で明らかとなったユダヤ人と黒人の特殊な関係、「苦くて甘い出会い」といわれる両者の関係史の形成過程を 19 世紀に遡るかのぼり歴史的に展望。 7.(合衆国内の反ユダヤ主義)「民主主義の国アメリカ」も反ユダヤ主義とは決して無縁ではなかった。ヨーロッパとの比較の視座から、合衆国における反ユダヤ主義の特色とその形成メカニズムを考察。 8.(ヒスパニック・アメリカンの世界) 彼等の歴史と現状をとりわけ、黒人社会とのエスニック・コンフリクトの視点から明らかにする。 9.(中国系アメリカ人) ゴールドラッシュ直後のカリフォルニアにおける中国系移民労働者の導入から、近年の「山の手中国人」の形成過程まで。 10.(日系アメリカ人の歴史) 1890 年代における移民の本格化から、1920 年代のハワイにおける民族の違いを乗り越えた労働者階級の統一実現迄を学ぶ。 11.(日系アメリカ人の歴史) 第二次大戦後の日系人の「サクセス・ストーリー」の光と影、1970 年代末以後の日米貿易摩擦のきしみの中で高まる反日系人感情について考える。 12.(インディアンと白人の関係史) 白人との毛皮交易がインディアン社会にもたらした文化的変容から、今日の保留地インディアンを取りまく状況について概観する。
----------------------------	--

科 目 名	英米事情 a・b	担当者名	(前期) E.カーニ (後期) M.A.シブル
-------	----------	------	----------------------------

前 期

講義の目標	This series of lectures aims to offer as much background cultural material to the British and their way of life as is possible in the time provided.		
講義概要	History, religion, geographical and climatic factors, are some of the things that will introduce this course. We will go on to look at the law system, education, the Irish peace initiatives, the character of the individual, humour, sport, and the legacies of history (Empire and the Victorian Period). We shall also check the modern situation of youth, drugs, and unemployment.		
使用教材	テキスト	Text will be in the form of prints selected for each lecture. Pieces from John Farman's 'Very Bloody History of Britain', and the HMSO are some examples. Also there will be a series good class cartoons used that will help highlight and explain the material covered as background.	
	参考文献	Students should be willing to read up the relevant background material to the items introduced during the lectures. Students who can submit intelligent comments on the material will be awarded bonus points that can supplement and improve their grade.	
評価方法	Grading will be in the form of quizzes and a final term test.		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introductory lecture to explain procedures and scheduling. A list of books and recommended reading will be given. 2 . Geographical and climatic coverage of the British Isles. Effects on life and character of the people. Plant and animal life...comparisons with Japan. 3 . Historical outlines 1. Introduction of historical landmarks around Britain. Relevant cartoon stressing Roman, Druid, and modern attitudes to vandalism. 4 . Religion and the relevant wars. Education and Religion. Civil war and the divide in religious practice. Relevant cartoon. 5 . Education and the legacy of a class culture. Class and the nation. Relevant cartoon. 6 . Language and dialect around Britain. Introduction of the functions of the canal system through to the present day. Relevant cartoon. Mid-term quiz. 7 . Humour and the British character. The media's use of humour and the various levels and qualities of world humour. Relevant cartoons. 8 . Daily life, leisure and sport. Introduction of some major festivals like Guy Fawkes night Relevant cartoon. 9 . Youth and the trends in music and the drug culture. The ghettos and police problems. The homeless and the welfare state. Relevant cartoons. 10 . The law and its various levels and systems. Justice and the modern scene. Attitudes to the police and pressures of a multi-racial Britain. Relevant cartoons. 11 . The Royal Family, its pros and cons for a modern Britain. Pomp and circumstance and the relevance of a class culture. Relevant cartoons. 12 . Final coverage of the modern scene; money, property decline Final testing preparations and review. 		

後 期

講義の目標	The focus of the course is to survey the cultural, political and artistic heritage of the United States. The goal of the course is to give the students a deeper insight into the culture of America, and an opportunity to improve listening and note-taking skills in English.	
講義概要	Lectures will cover the social, political and intellectual history of the United States, including their roots in Europe, the Middle East, Africa and Asia. We will also look at the contributions of the many ethnic groups to the language, arts and the popular culture of not only America but also the world.	
使用教材	テキスト	Prints and a reading list supplied by instructor.
	参考文献	
評価方法	Students should have a good paperback dictionary designed for native adults such as <i>The Merrian Webster Dictionary</i> , or <i>The Random House Dictionary of the English language</i> .	
受講者に対する要望など	Grades will be based on active participation, quizzes, and an extended report.	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Orientation and introduction to the geography of the new world. The culture, religions and arts of the native Americans. 2 . Social, religions and intellectual life in the colonies. 3 . The American revolution and expansion to the west. 4 . "A Fire Bell in the Night" - the first modern war. 5 . Art and music in the Americas. 6 . Art and music in the Americas (Continued) 7 . The flowering of American literature - Hawthorn, Melville and Whitman. 8 . The flowering of American literature (continued). 9 . A changing people - 1880-1922: immigration from Europe and migration from the South. Industrialization: Contributions of Ford, Steinmetz and the Wright brothers to modern life. 10 . The lively arts: drama, dance, the musical and the magazine in America. "The Empire of the Air": radio and television and the mass media in America. 11 . The Second World War and the Cold War. Post-war literature: John Updike: Arthur Miller, Saul Bellow, Ralph Ellison and Raymond Carver. 12 . Challenges for the 21 century: the new family - the single parent and the inner city. 	

後 期

講義の目標	The focus of the course is to survey the cultural, political and artistic heritage of the United States. The goal of the course is to give the students a deeper insight into the culture of America, and an opportunity to improve listening and note-taking skills in English.	
講義概要	Lectures will cover the social, political and intellectual history of the United States, including their roots in Europe, the Middle East, Africa and Asia. We will also look at the contributions of the many ethnic groups to the language, arts and the popular culture of not only America but also the world.	
使用教材	テキスト	Prints and a reading list supplied by instructor.
	参考文献	
評価方法	Students should have a good paperback dictionary designed for native adults such as <i>The Merrian Webster Dictionary</i> , or <i>The Random House Dictionary of the English language</i> .	
受講者に対する要望など	Grades will be based on active participation, quizzes, and an extended report.	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Orientation and introduction to the geography of the new world. The culture, religions and arts of the native Americans. 2 . Social, religions and intellectual life in the colonies. 3 . The American revolution and expansion to the west. 4 . "A Fire Bell in the Night" - the first modern war. 5 . Art and music in the Americas. 6 . Art and music in the Americas (Continued) 7 . The flowering of American literature - Hawthorn, Melville and Whitman. 8 . The flowering of American literature (continued). 9 . A changing people - 1880-1922: immigration from Europe and migration from the South. Industrialization: Contributions of Ford, Steinmetz and the Wright brothers to modern life. 10 . The lively arts: drama, dance, the musical and the magazine in America. "The Empire of the Air": radio and television and the mass media in America. 11 . The Second World War and the Cold War. Post-war literature: John Updike: Arthur Miller, Saul Bellow, Ralph Ellison and Raymond Carver. 12 . Challenges for the 21 century: the new family - the single parent and the inner city. 	

科 目 名	英米事情 a・b	担当者名	(前期) E.カーニ (後期) M.A.シブル
-------	----------	------	----------------------------

前 期

講義の目標	This series of lectures aims to offer as much background cultural material to the British and their way of life as is possible in the time provided.		
講義概要	History, religion, geographical and climatic factors, are some of the things that will introduce this course. We will go on to look at the law system, education, the Irish peace initiatives, the character of the individual, humour, sport, and the legacies of history (Empire and the Victorian Period). We shall also check the modern situation of youth, drugs, and unemployment.		
使用教材	テキスト	Text will be in the form of prints selected for each lecture. Pieces from John Farman's 'Very Bloody History of Britain', and the HMSO are some examples. Also there will be a series good class cartoons used that will help highlight and explain the material covered as background.	
	参考文献	Students should be willing to read up the relevant background material to the items introduced during the lectures. Students who can submit intelligent comments on the material will be awarded bonus points that can supplement and improve their grade.	
評価方法	Grading will be in the form of quizzes and a final term test.		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 . Introductory lecture to explain procedures and scheduling. A list of books and recommended reading will be given. 2 . Geographical and climatic coverage of the British Isles. Effects on life and character of the people. Plant and animal life...comparisons with Japan. 3 . Historical outlines 1. Introduction of historical landmarks around Britain. Relevant cartoon stressing Roman, Druid, and modern attitudes to vandalism. 4 . Religion and the relevant wars. Education and Religion. Civil war and the divide in religious practice. Relevant cartoon. 5 . Education and the legacy of a class culture. Class and the nation. Relevant cartoon. 6 . Language and dialect around Britain. Introduction of the functions of the canal system through to the present day. Relevant cartoon. Mid-term quiz. 7 . Humour and the British character. The media's use of humour and the various levels and qualities of world humour. Relevant cartoons. 8 . Daily life, leisure and sport. Introduction of some major festivals like Guy Fawkes night Relevant cartoon. 9 . Youth and the trends in music and the drug culture. The ghettos and police problems. The homeless and the welfare state. Relevant cartoons. 10 . The law and its various levels and systems. Justice and the modern scene. Attitudes to the police and pressures of a multi-racial Britain. Relevant cartoons. 11 . The Royal Family, its pros and cons for a modern Britain. Pomp and circumstance and the relevance of a class culture. Relevant cartoons. 12 . Final coverage of the modern scene; money, property decline Final testing preparations and review. 		

科 目 名	英語圏文化特殊講義 a・b	担当者名	福 井 嘉 彦
-------	---------------	------	---------

講義の目標	キリスト教との出会いによって形成された欧米文化の基本を理解する		
講義概要	キリスト教化されることによって生じた欧米文化の様相を、時代に即して語る。		
使用教材	テキスト	殊になし	
	参考文献	講義の際取り上げる	
評価方法	授業への積極的参加による出席。身体だけ教室に在る場合は評価しない。レポート等の提出物の内容評価。2回の筆記試験による評価等。		
受講者に対する要望など	第一回目の授業は必ず出席し、その際要求された課題を修めて履修許可を受けること。ただしその場合も二回目以後の授業を欠席した時は許可は取り消す。		
年間授業計画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明。日本人にとっての宗教と一神教とについて。 2. パルテノン神殿とエルサレムの神殿 3. コンスタンチヌスとケルト 4. アルフレッドの時代 5. カロリング・ルネッサンス 6. ハインリッヒ四世とグレゴリウス七世 7. ウィリアム一世からヘンリー二世まで 8. ドナティスト論争とグレゴリウス改革 9. 異端者たちの群 10. 百年戦争と異端者ジャンヌ 11. レコンキスタとリチャード王 12. 聖地を求める巡礼達 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教皇の栄光と下降 2. インターメッツォ 3. インターミッション 4. 人文主義者たち 5. ここに立つルター 6. ジュネーブの人 7. ヘンリー父子 8. チューダー王家の三君主 9. 国王の処刑 10. 国王の交替からオーガスタン時代へ 11. 友愛の森を求めて 12. エピローグ 		

科 目 名	英米文化文献研究 a・b	担当者名	町 田 喜 義
-------	--------------	------	---------

講 義 の 目 標	我々の母語と諸君の学習対象言語である英語とをコミュニケーションの視点から検討する。		
講 義 概 要	「コミュニケーション・コンフリクト (Communication Conflict)」に関わる変数として言語の相違があるのは周知のことである。本コースでは「日本語」と「英語」を比較対照する。言語に付随する（独立して使用されることもあるが）非言語にも言及する。結果として、比較文化（社会）論になるであろう。		
使 用 教 材	テキスト	上記内容の日本語・英語論文のコピー	
	参 考 文 献	安藤貞雄（1990）『英語の論理・日本語の論理』大修館書店 神尾昭雄（1990）『情報のなわ張り理論』大修館書店 小島義郎（1989）『日本の意味 英語の意味』南雲堂 町田喜義ほか（1995）『英語教育における語彙習得』南雲堂 竹内靖雄（1995）『日本人の行動文法』東洋経済新報社 Carter, R. E. / 山本誠作訳（1996）『東西文化共生論』世界思想社 その他多数（テキストの内容に関連してその都度明示する）	
評 価 方 法	前・後期それぞれ = 出席（20%） 発表（40%） レポート（40%）		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	この科目は受講生数 35 名と上限人数が決めているので、希望者多数（有り得ないと思うが!?) の場合は、抽選によって決められているので、第 1 回目の授業に必ず出ること。		

年 間 授 業 計 画	(前期)
	1 . エピローグ : 抽選 ? その他。
	2 . 日・英語対照 : holistic / analytic
	3 . general / specific
	4 . descriptive / explanatory
	5 . situational / less situational
	6 . context - dependent / context / independent
	7 . elliptical / exhaustive, redundant
	8 . formal / informal
	9 . indirect, indecisive / direct, decisive
	10 . rank - conscious / egalitarian
	11 . submissive / independent, assertive
12 . concessive / self - determined, aggressive	
(後期)	
1 . agreeable, understanding / competitive, challenging, provocative	
2 . appreciative / less appreciative	
3 . apologetic / self - righteous	
4 . less complimentary / complimentary	
5 . modest, reserved / boastful, proud	
6 . responsive / less responsive	
7 . serious / playful, collective / individualistic	
8 . less exclamatory / exclamatory, exaggerative subjective, intuitive / objective, logical	
9 . less derogative / derogative, emotional, sentimental / rational	
10 . less rewarding / rewarding pessimistic, negative / optimistic, positive	
11 . introversive, inconspicuous / extroversive, conspicuous retrospective / prospective	
12 . プロローグ	

科目名	国際政治論 a - 1 ・ b - 1	担当者名	(前期) 有賀 貞 (後期) 永野 隆行
-----	---------------------	------	-------------------------

前期

講義の目標	国際政治を砺指摘理論的に考察することで、現代国際政治の特徴とそれから生じる問題についての理解を助けることを目指す。		
講義概要	1 主権国家体制の成立から国際政治の歴史的発展を国際政治論の授業に相応しく、整理して講義し、関連する国際政治理論、とくに古典的著作を紹介する。 2 現代の国際政治の主要な問題の歴史的背景を述べ、それに関連する理論を紹介する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	山本吉宣ほか(編)『国際政治の理論』(講座国際政治 1) 東京大学出版会、高坂正堯・公文俊平(編)『国際政治経済の基礎知識』有斐閣、入江昭『新・日本の外交』中央公論社(新書)、梶田孝道『統合と分裂のヨーロッパ』、田中昭彦『新しい「中世」』日本経済新聞社など。	
評価方法	学期末の試験のほか、授業期間中にレポートの提出を求める。成績評価は双方を総合して行う。レポートへの配点は40%程度にするので、レポートの提出なしに合格の評価を得ることは事実上可能である。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	1. ヨーロッパにおける主権国家国際システムの成立 2. 西洋世界の拡大と帝国主義論 3. ナショナリズムと国際主義 4. 自由主義的民主主義と対抗思想 5. 冷戦期の国際政治 6. 「第3世界」の政治と経済 7. ソ連圏の崩壊と政治経済体制の変化 8. 現代における外交 9. 現代における戦争 10. 資本主義の世界化と情報化 11. 人権をめぐる国際的な合意と対立 12a. 現代の国際機構：国連および世界的国際機構 12b. 主権国家の現状と将来		

後 期

講義の目標	<p>現代の国際関係の基本的な見方（イメージ）や理論について学ぶ。 理論とは現実なくしては生まれてきません。理論とは現実の複雑な現象を整理し、理解するための道具なのです。本講義「国際政治論 b」では、前期の「国際政治論 a」で学んだ国際政治の歴史を踏まえた上で、国際関係の理論がどのようにして誕生し、その後どのような展開を遂げてきたのか、そして具体的にそれらの理論はどのようなものであるのか、を学んでいきます。時に学生に挑発的な問題を提起することで、学生諸君自身が自分なりの国際関係についての見方を身につけて欲しい。</p>	
講義概要	<p>下記に示す「年間授業計画」にある 10 項目を 12 回の授業にわたって行います。ただし、学生の理解度、関心にあわせて、予定を変更する場合があります。また授業の予習に必要な参考文献を紹介しますので、読んでおくことを強く薦めます。時に応じて、ブックレポートを要求することがあります。</p>	
使用教材	テキスト	<p>納家政嗣・竹田いさみ編『新しい安全保障の構図 - 個人、国家、国際体系 - 』 勁草書房、1999 年夏出版予定</p>
	参考文献	<p>John Baylis and Steve Smith, <i>The Globalization of World Politics: An Introduction to International Relations</i>, Oxford Univ. Press, 1997. Joseph S. Nye, <i>Understanding International Conflicts : An Introduction to Theory and History</i>, 2nd edition, Addison - Wesley, 1998. Paul Viotti and Mark Kauppi, <i>International Relations Theory : Realism, Pluralism, Globalism</i>, 2nd edition, Macmillan, 1993. 有賀貞ほか編著『講座国際政治』全 5 巻、東京大学出版会、1989 年。</p>
評価方法	<p>数回のブックレポート、学期末の試験による総合評価</p>	
受講者に対する要望など	<p>授業中の私語については厳罰に処します。</p>	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入～現代国際関係論の起源と展開 2. 社会科学における理論、国際関係におけるイメージ、分析レベル 3. 国際関係の見方～リアリズム ...国際政治における力、勢力均衡論 4. 国際関係の見方～リアリズム ...ネオリアリズム 5. 国際関係の見方～リベラリズム ...国家と通商、貿易 6. 国際関係の見方～リベラリズム ...相互依存論、国際レジーム論、国際制度論 7. 国際関係の見方～マルキシズム...従属論、世界システム論 8. 国際関係の分析レベル ...国際体系 (international system)、国際社会 (international society) 9. 国際関係の分析レベル ...外交政策分析、政策決定論 10. まとめ～冷戦後の国際関係 	

後 期

講義の目標	現代の国際関係の基本的な見方（イメージ）や理論について学ぶ。理論とは現実なくしては生まれてきません。理論とは現実の複雑な現象を整理し、理解するための道具なのです。本講義「国際政治論 b」では、前期の「国際政治論 a」で学んだ国際政治の歴史を踏まえた上で、国際関係の理論がどのようにして誕生し、その後どのような展開を遂げてきたのか、そして具体的にそれらの理論はどのようなものであるのか、を学んでいきます。時に学生に挑発的な問題を提起することで、学生諸君自身が自分なりの国際関係についての見方を身につけて欲しい。	
講義概要	下記に示す「年間授業計画」にある 10 項目を 12 回の授業にわたって行います。ただし、学生の理解度、関心にあわせて、予定を変更する場合があります。また授業の予習に必要な参考文献を紹介しますので、読んでおくことを強く薦めます。時に応じて、ブックレポートを要求することがあります。	
使用教材	テキスト	納家政嗣・竹田いさみ編『新しい安全保障の構図 - 個人、国家、国際体系 - 』勁草書房、1999 年夏出版予定
	参考文献	John Baylis and Steve Smith, <i>The Globalization of World Politics: An Introduction to International Relations</i> , Oxford Univ. Press, 1997. Joseph S. Nye, <i>Understanding International Conflicts : An Introduction to Theory and History</i> , 2 nd edition, Addison - Wesley, 1998. Paul Viotti and Mark Kauppi, <i>International Relations Theory : Realism, Pluralism, Globalism</i> , 2 nd edition, Macmillan, 1993. 有賀貞ほか編著『講座国際政治』全 5 巻、東京大学出版会、1989 年。
評価方法	数回のブックレポート、学期末の試験による総合評価	
受講者に対する要望など	授業中の私語については厳罰に処します。	
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入～現代国際関係論の起源と展開 2. 社会科学における理論、国際関係におけるイメージ、分析レベル 3. 国際関係の見方～リアリズム ...国際政治における力、勢力均衡論 4. 国際関係の見方～リアリズム ...ネオリアリズム 5. 国際関係の見方～リベラリズム ...国家と通商、貿易 6. 国際関係の見方～リベラリズム ...相互依存論、国際レジーム論、国際制度論 7. 国際関係の見方～マルキシズム...従属論、世界システム論 8. 国際関係の分析レベル ...国際体系 (international system)、国際社会 (international society) 9. 国際関係の分析レベル ...外交政策分析、政策決定論 10. まとめ～冷戦後の国際関係 	

科目名	国際政治論 a - 1 ・ b - 1	担当者名	(前期) 有賀 貞 (後期) 永野 隆行
-----	---------------------	------	-------------------------

前期

講義の目標	国際政治を砺指摘理論的に考察することで、現代国際政治の特徴とそれから生じる問題についての理解を助けることを目指す。		
講義概要	1 主権国家体制の成立から国際政治の歴史的発展を国際政治論の授業に相応しく、整理して講義し、関連する国際政治理論、とくに古典的著作を紹介する。 2 現代の国際政治の主要な問題の歴史的背景を述べ、それに関連する理論を紹介する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	山本吉宣ほか(編)『国際政治の理論』(講座国際政治 1) 東京大学出版会、高坂正堯・公文俊平(編)『国際政治経済の基礎知識』有斐閣、入江昭『新・日本の外交』中央公論社(新書)、梶田孝道『統合と分裂のヨーロッパ』、田中昭彦『新しい「中世」』日本経済新聞社など。	
評価方法	学期末の試験のほか、授業期間中にレポートの提出を求める。成績評価は双方を総合して行う。レポートへの配点は40%程度にするので、レポートの提出なしに合格の評価を得ることは事実上可能である。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	1. ヨーロッパにおける主権国家国際システムの成立 2. 西洋世界の拡大と帝国主義論 3. ナショナリズムと国際主義 4. 自由主義的民主主義と対抗思想 5. 冷戦期の国際政治 6. 「第3世界」の政治と経済 7. ソ連圏の崩壊と政治経済体制の変化 8. 現代における外交 9. 現代における戦争 10. 資本主義の世界化と情報化 11. 人権をめぐる国際的な合意と対立 12a. 現代の国際機構：国連および世界的国際機構 12b. 主権国家の現状と将来		

科 目 名	国際政治論 a - 2 ・ b - 2	担当者名	(前期) 竹田いさみ (後期) 有賀 貞
-------	---------------------	------	-------------------------

前 期

講義の目標	<p>本講義では、「冷戦後」の新しい国際関係に注目し、現代の国際関係を分析する道具として、理論・モデル・基本用語の解説が行われます。国際問題を料理にたとえれば、材料(国際問題)をどうやって料理(分析)するかを学ぶこととなります。本講義における第1の目標は、国際関係を具体的に見る眼を養うことです。第2の目標は、現実主義、多元主義、グローバリズムと呼ばれる国際政治学の代表的な理論・モデル・アプローチを理解することで、これが料理の方法(分析枠組み)に相当します。</p>		
講義概要	<p>本講義では参考文献、指定資料集、ビデオなどを適宜使用しながら、現代国際関係の特色を国際政治学分野から理解していきます。「国際関係」の「変化」に着目し、歴史を現代に引き寄せて国際関係を分析することになります。「情報」のフローよりストックを重視し、単に表面的な現象に目をとられているのではなく、その下に潜む「構造的要因」に関心を払うこととなります。その際、とりわけ重要とされる視点は政治的発想や政治的利害調整で、政治の役割が強調されます。近代ヨーロッパ社会に原点をもつ国際関係の基本的性格や原則を理解することによって、現代の国際関係を分析する道具を見につけることとなります。講義の順番は部分的に変更することがあります。</p>		
使用教材	テキスト	講義用資料集	
	参考文献	<p>有賀貞他編著『講座国際政治』全5巻(東京大学出版会、1989) 岡部達味『国際政治の分析枠組』(東京大学出版会、1992) 高坂正堯『国際政治：恐怖と希望』(中央公論社、1966) P・ピオティ、M・カピ『国際関係論』(彩流社、1993) 蠟山道雄編『激動期の国際政治を読み解く本』(学陽書房、1992)</p>	
評価方法	<p>評価は定期試験の成績を基本としますが、レポートもしくは中間試験を実施して、最終的な評価をします。</p>		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 冷戦後の世界(資料集:1、4頁)/国際関係を見る眼:木・林・森 国際関係の世界:戦争と平和(伝統的問題)/繁栄と貧困(南北問題)/世界経済ネットワーク、開発・環境・生存 2. 国際関係の理論・モデルとは何か:物理学・経済学・政治学・文学(ハレー彗星・ケインズ・キッシンジャー) 国際関係論:世界大戦の落とし子(資料集:7頁) 3. 利害の調整:有限の世界、無限の欲望(資料集:21-27頁) 政治過程:権力+正統性=権威(資料集:47-48頁) 4. 人間・政治・権力:ホッブス、グロティウス、カント(資料集:52-54頁) 5. 国際関係:3つのイメージ:現実主義・多元主義・グローバリズム 意味・単位・構造・過程(資料集:59頁) 6. リアリズム(現実主義):トゥキュディデス-E.H.カー(資料集:67-71) E.H.カー:ユートピアニズムVSリアリズム(資料集:7-11) 勢力均衡論(資料集:91-94頁) 7. リアリズム(現実主義論):ヨーロッパ古典外交の特色 ウィーン会議:「会議は踊る」「会議はなぜ踊ったのか」 メッテルニヒ、タレーラン、カースルリー 8. リアリズム(現実主義):ビデオ教材「会議は踊る」 9. 多元主義・相互依存論(資料集:58,118-142頁) トランスナショナルナリズム:EUの出現・パワー論の補完 10. グローバリズム・従属論(資料集:59、143-171頁) 反欧米思想・南の主張・世界システム 11. 国際政治と利害調整メカニズム 12. まとめ 		

後 期

講義の目標	国際政治を砥指摘理論的に考察することで、現代国際政治の特徴とそれから生じる問題についての理解を助けることを目指す。	
講義概要	<p>1 主権国家体制の成立から国際政治の歴史的発展を国際政治論の授業に相応しく、整理して講義し、関連する国際政治理論、とくに古典的著作を紹介する。</p> <p>2 現代の国際政治の主要な問題の歴史的背景を述べ、それに関連する理論を紹介する。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	山本吉宣ほか(編)『国際政治の理論』(講座国際政治 1) 東京大学出版会、高坂正堯・公文俊平(編)『国際政治経済の基礎知識』有斐閣、入江昭『新・日本の外交』中央公論社(新書)、梶田孝道『統合と分裂のヨーロッパ』、田中昭彦『新しい「中世」』日本経済新聞社など。
評価方法	学期末の試験のほか、授業期間中にレポートの提出を求める。成績評価は双方を総合して行う。レポートへの配点は40%程度にするので、レポートの提出なしに合格の評価を得ることは事実上可能である。	
受講者に対する要望など		
年間授業計画	<p>1. ヨーロッパにおける主権国家国際システムの成立</p> <p>2. 西洋世界の拡大と帝国主義論</p> <p>3. ナショナリズムと国際主義</p> <p>4. 自由主義的民主主義と対抗思想</p> <p>5. 冷戦期の国際政治</p> <p>6. 「第3世界」の政治と経済</p> <p>7. ソ連圏の崩壊と政治経済体制の変化</p> <p>8. 現代における外交</p> <p>9. 現代における戦争</p> <p>10. 資本主義の世界化と情報化</p> <p>11. 人権をめぐる国際的な合意と対立</p> <p>12a. 現代の国際機構：国連および世界的国際機構</p> <p>12b. 主権国家の現状と将来</p>	

後 期

講義の目標	国際政治を砥指摘理論的に考察することで、現代国際政治の特徴とそれから生じる問題についての理解を助けることを目指す。	
講義概要	<p>1 主権国家体制の成立から国際政治の歴史的発展を国際政治論の授業に相応しく、整理して講義し、関連する国際政治理論、とくに古典的著作を紹介する。</p> <p>2 現代の国際政治の主要な問題の歴史的背景を述べ、それに関連する理論を紹介する。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	山本吉宣ほか(編)『国際政治の理論』(講座国際政治 1) 東京大学出版会、高坂正堯・公文俊平(編)『国際政治経済の基礎知識』有斐閣、入江昭『新・日本の外交』中央公論社(新書)、梶田孝道『統合と分裂のヨーロッパ』、田中昭彦『新しい「中世」』日本経済新聞社など。
評価方法	学期末の試験のほか、授業期間中にレポートの提出を求める。成績評価は双方を総合して行う。レポートへの配点は40%程度にするので、レポートの提出なしに合格の評価を得ることは事実上可能である。	
受講者に対する要望など		
年間授業計画	<p>1. ヨーロッパにおける主権国家国際システムの成立</p> <p>2. 西洋世界の拡大と帝国主義論</p> <p>3. ナショナリズムと国際主義</p> <p>4. 自由主義的民主主義と対抗思想</p> <p>5. 冷戦期の国際政治</p> <p>6. 「第3世界」の政治と経済</p> <p>7. ソ連圏の崩壊と政治経済体制の変化</p> <p>8. 現代における外交</p> <p>9. 現代における戦争</p> <p>10. 資本主義の世界化と情報化</p> <p>11. 人権をめぐる国際的な合意と対立</p> <p>12a. 現代の国際機構：国連および世界的国際機構</p> <p>12b. 主権国家の現状と将来</p>	

科 目 名	国際政治論 a - 2 ・ b - 2	担当者名	(前期) 竹田いさみ (後期) 有賀 貞
-------	---------------------	------	-------------------------

前 期

講義の目標	<p>本講義では、「冷戦後」の新しい国際関係に注目し、現代の国際関係を分析する道具として、理論・モデル・基本用語の解説が行われます。国際問題を料理にたとえれば、材料(国際問題)をどうやって料理(分析)するかを学ぶこととなります。本講義における第1の目標は、国際関係を具体的に見る眼を養うことです。第2の目標は、現実主義、多元主義、グローバリズムと呼ばれる国際政治学の代表的な理論・モデル・アプローチを理解することで、これが料理の方法(分析枠組み)に相当します。</p>		
講義概要	<p>本講義では参考文献、指定資料集、ビデオなどを適宜使用しながら、現代国際関係の特色を国際政治学分野から理解していきます。「国際関係」の「変化」に着目し、歴史を現代に引き寄せて国際関係を分析することになります。「情報」のフローよりストックを重視し、単に表面的な現象に目をとらわれているのではなく、その下に潜む「構造的要因」に関心を払うこととなります。その際、とりわけ重要とされる視点は政治的発想や政治的利害調整で、政治の役割が強調されます。近代ヨーロッパ社会に原点をもつ国際関係の基本的性格や原則を理解することによって、現代の国際関係を分析する道具を見につけることとなります。講義の順番は部分的に変更することがあります。</p>		
使用教材	テキスト	講義用資料集	
	参考文献	<p>有賀貞他編著『講座国際政治』全5巻(東京大学出版会、1989) 岡部達味『国際政治の分析枠組』(東京大学出版会、1992) 高坂正堯『国際政治：恐怖と希望』(中央公論社、1966) P・ピオティ、M・カピ『国際関係論』(彩流社、1993) 蠟山道雄編『激動期の国際政治を読み解く本』(学陽書房、1992)</p>	
評価方法	<p>評価は定期試験の成績を基本としますが、レポートもしくは中間試験を実施して、最終的な評価をします。</p>		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 冷戦後の世界(資料集:1、4頁)/国際関係を見る眼:木・林・森 国際関係の世界:戦争と平和(伝統的問題)/繁栄と貧困(南北問題)/世界経済ネットワーク、開発・環境・生存 2. 国際関係の理論・モデルとは何か:物理学・経済学・政治学・文学(ハレー彗星・ケインズ・キッシンジャー) 国際関係論:世界大戦の落とし子(資料集:7頁) 3. 利害の調整:有限の世界、無限の欲望(資料集:21-27頁) 政治過程:権力+正統性=権威(資料集:47-48頁) 4. 人間・政治・権力:ホッブス、グロティウス、カント(資料集:52-54頁) 5. 国際関係:3つのイメージ:現実主義・多元主義・グローバリズム 意味・単位・構造・過程(資料集:59頁) 6. リアリズム(現実主義):トゥキュディデス-E.H.カー(資料集:67-71) E.H.カー:ユートピアニズムVSリアリズム(資料集:7-11) 勢力均衡論(資料集:91-94頁) 7. リアリズム(現実主義論):ヨーロッパ古典外交の特色 ウィーン会議:「会議は踊る」「会議はなぜ踊ったのか」 メッテルニヒ、タレーラン、カースルリー 8. リアリズム(現実主義):ビデオ教材「会議は踊る」 9. 多元主義・相互依存論(資料集:58,118-142頁) トランスナショナルナリズム;EUの出現・パワー論の補完 10. グローバリズム・従属論(資料集:59、143-171頁) 反欧米思想・南の主張・世界システム 11. 国際政治と利害調整メカニズム 12. まとめ 		

科 目 名	国際関係史 a・b	担当者名	有 賀 貞
-------	-----------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>1 20世紀国際関係史全般に関する基本的知識を提供し、国際関係の歴史の変遷の理解に役立てる。</p> <p>2 履修者が日本語の講義内容が英語ではどう表現されるかを知り、国際関係史に関連する基本的語彙を習得できるようにする。</p> <p>3 いくつかの英文外交文書を読み、その意味を検討する。</p>				
講 義 概 要	<p>前期には19世紀国際関係の概観から太平洋戦争の始まりまでを、後期にはそれ以後近年に到るまでを扱う。講義は日本語で行うが、英文教材に沿って講義を進める。年間計画の中の諸項目の題には若干の変更があるかもしれない。</p>				
使 用 教 材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>参 考 文 献</td> <td> <p>参考文献は最初の授業の際に紹介するが、ジョル『第1次大戦の起原』(みすず書房)、カー『両大戦間における国際関係史』(弘文堂)、入江昭『太平洋戦争の起源』(東京大学出版会)、ハレ『歴史としての冷戦』(サイマル出版)、細谷千博『日本外交の軌跡』(NHKブックス)など。</p> </td> </tr> </table>	テキスト		参 考 文 献	<p>参考文献は最初の授業の際に紹介するが、ジョル『第1次大戦の起原』(みすず書房)、カー『両大戦間における国際関係史』(弘文堂)、入江昭『太平洋戦争の起源』(東京大学出版会)、ハレ『歴史としての冷戦』(サイマル出版)、細谷千博『日本外交の軌跡』(NHKブックス)など。</p>
テキスト					
参 考 文 献	<p>参考文献は最初の授業の際に紹介するが、ジョル『第1次大戦の起原』(みすず書房)、カー『両大戦間における国際関係史』(弘文堂)、入江昭『太平洋戦争の起源』(東京大学出版会)、ハレ『歴史としての冷戦』(サイマル出版)、細谷千博『日本外交の軌跡』(NHKブックス)など。</p>				
評 価 方 法	<p>前期後期とも、期末に試験を行うほか、レポートを1回提出する。評価は試験とレポートとを総合して行う。レポートへの配点は40%程度であるから、レポートを提出しないで合格の評価を得ることは事実上不可能である。</p>				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど					

(前期)

- 1 . The Modern European International System and the Expansion of Europe
- 2 . The Characteristics of 19th-Century International Relations
- 3 . Politics of Imperialism around the Turn of the Century
- 4 . The Outbreak of the First World War
- 5 . The Entry of the United States and the Bolshevik Revolution
- 6 . The Versailles Treaty and Postwar Confusion in Europe and the Middle East
- 7 . The Washington Conference and the Asia-Pacific International Order
- 8 . The Return of Relative Stability in Europe
- 9 . The Great Depression and the Collapse of International Political Stability
- 10 . The Berlin-Rome Axis and the Failure of the Appeasement Policy
- 11 . The Outbreaks of the Sino-Japanese War and the Second World War
- 12 . The Road to Pearl Harbor

(後期)

- 1 . The Grand Alliance: Wartime Diplomacy of the Three Major Allied Powers
- 2 . The End of the War and the Development of the Cold War
- 3 . Stabilized Europe and Turbulent East Asia
- 4 . Post-WW South and Southeast Asia
- 5 . The Foreign Policy of the Post-Stalin Soviet Union
- 6 . The Retreat of European Imperialism from the Middle East and Africa
- 7 . Progress in Economic Integration in Western Europe
- 8 . The Vietnam War and the Reorientation of US Foreign Policy
- 9 . The Fourth Middle Eastern War and Petroleum Politics
- 10 . The "New Cold War" and the Prosperity of the Capitalist World
- 11 . The Collapse of the Old Order in Eastern Europe and the Soviet Union
- 12 . International Relations in the post-Cold War Era

科 目 名	国際関係論特殊講義 a・b	担当者名	森 健
-------	---------------	------	-----

講 義 の 目 標	<p>世界の国は、それぞれ固有の自然条件、歴史、種族構成、文化を持つ。したがって、各国の経済活動もこのような固有性を反映する。しかし、経済活動の本質的な部分には各国に共通する法則（普遍的な法則）が働いていることを実感させられる例が多い。この講義の目的は、対象とする国の経済発展の歴史と現状を前記の観点、即ち、固有性と普遍性の発見に努めることにある。今期の授業では、オーストラリアを中心として取り上げ、オーストラリアとの関連において、日本を含むアジア諸国の経済を取り上げる。</p>		
講 義 概 要	<p>オーストラリアは近年、極めてユニークかつ大胆な政策転換を行った。現在、同国は、アジア太平洋経済協力（APEC）会議を提唱し、自国およびこの地域の貿易・投資の自由化推進に熱心な国として、また、アジアの難民、移民、留学生を多数受け入れている国として知られている。しかし、同国は、かつては、名だたる保護貿易国であり、有色人種の移民を排除していた国でもある。何故このような政策変換がなされたのか。この変換はどのようになされてきたのか。97年以降のアジア経済危機はオーストラリアにどのような影響を与えているのか。この講義では、このような問題を様々な切り口（自然条件、歴史的条件、マクロ経済、ミクロ経済、対外取引、政治・社会体制など）から解明する。</p>		
使 用 教 材	テキスト	<p>竹田いさみ、森 健（編）『オーストラリア入門』（東京大学出版会、1998年6月刊） その他：ビデオ、ハンドアウト（教室で配布）を使用する。</p>	
	参 考 文 献		
評 価 方 法	<p>定期試験を中心とし、時折上映するビデオに関して提出して貰うコメント等も参考とする。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>自国以外の国の事情を知ることによって、複眼的な思考ができるようになって貰いたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	1. 週	イントロダクション 地域研究の意義。アジア太平洋地域におけるオーストラリアの位置。
	2. - 4. 週	歴史と文化 植民地社会の形成。ゴールドラッシュ。牧羊業の発展。1890 年代の恐慌。連邦成立の経緯。 賃金裁定と産業保護。白豪主義。両次大戦と工業化。移民政策。資源ブーム。アジア化。
	5. - 6. 週	社会 アボリジニ。多分化社会化。労働。社会福祉。教育。メディア。
	7. 週	政治 政治構造と制度。政策推移。
	8. - 9. 週	外交・安全保障 第 2 次大戦までの政策。冷戦期の政策。ベトナム戦争。冷戦後の政策。政策分野別検討（安全保障、国連外交、非核政策、APEC、経済安全保障と ASEAN、対外援助、難民政策）。
	10. - 11. 週	経済と貿易 経済構造の特徴と変化。経済政策と環境資源問題。貿易と投資。アジア経済の危機。
	12. 週	日豪関係 第 2 次大戦前期。第 2 次大戦後。経済摩擦。日本経済の危機。多国間協力関係。

科 目 名	国際関係論文献研究 a・b	担当者名	阿 部 純 一
-------	---------------	------	---------

講義の目標	英語文献を通じて、米ソ冷戦期からポスト冷戦の現在にかけて生じてきた国際関係の構造変化を検討する。		
講義概要	米ソ冷戦が終結して十年目を迎える現在、政治・経済・軍事のあらゆる点でアメリカが突出した状況が定着しつつある。しかし、アメリカのリーダーシップがヨーロッパや日本、中国などの協調を必要としていることも事実である。かかる現実を踏まえ、冷戦後の国際関係の構造変化をどう捉えるべきか、また現実に起きている国際関係の諸問題への対処の仕方がどう変化してきているか、等の問題について最新の文献をもとに議論する。		
使用教材	テキスト	アメリカの外交専門誌記事、政府機関・関連シンクタンクのレポートなどのコピーを配布する。	
	参考文献	必要に応じて紹介する。	
評価方法	成績は授業時の学生による報告（詳細なレジュメを必ず用意すること）と討議参加すなわち「授業への貢献」が評価の基準となる。そのためには授業への出席が最低条件となる。		
受講者に対する要望など	受講上限人数 35 名。これを超えた場合、関連科目（国際関係論、専門講読）受講者を優先する。出席率 70% 以下は不可。		
年間授業計画	テキストとして使用する文献が未定のため、開講時に通知する。		

科 目 名	異文化間コミュニケーション論 a - 1 ・ b - 1	担当者名	板 場 良 久
-------	------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>文化的背景の異なる人々（およびその思想）と関わる際に起こりうる諸問題を幅広く理解し、分析し、解決するために必要な知識や知恵を増やすことを目指す。同時に、異文化間コミュニケーションを成立させるにあたり、外国語（特に英語）の習得以外に必要な考え方や技術は何かというテーマにも言及していきたい。</p>		
講 義 概 要	<p>テキストを理解する講義と担当者独自の説を論じる講義との 2 つをミックスさせながら、この学問領域に対する関心を高めていく。なお、担当者独自の説を論じる講義の大半は、平易な（英検 2 級程度の）英語で行う予定である。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>石井敏他編『異文化コミュニケーション・ハンドブック』（有斐閣）、その他、必要に応じてプリント配布予定。</p>	
	参 考 文 献	<p>石井敏他『異文化コミュニケーション・キーワード』（有斐閣） 岡部朗一『異文化を読む』（南雲堂）</p>	
評 価 方 法	<p>小テスト（不定期）50%，前期定期試験 25%，後期定期試験 25%。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>各講義で扱うテーマに関して、テキストの指定箇所を事前に十分に読んでから授業に出席すること。なお、参考文献の指定箇所（初回の講義で指定）の予習は義務ではないが、講義内容をより深く学習したい学生は、これらの文献にも目を通しておくことが望ましい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の意義、概要の説明、および諸注意。 2. 文化とコミュニケーションの関係。(テキスト - 1、 - 2) 3. 人間にとって、なぜ文化とコミュニケーションが必要なのか？ 4. なぜ異文化コミュニケーションを学ぶのか？(テキスト - 3、 - 4、 - 5) 5. 自分の考え方や物の見方に対する自文化と異文化の影響。 6. 異文化間コミュニケーションにおける言語と非言語の役割。(テキスト - 5、 - 6) 7. 異文化間コミュニケーションをレベル別に考える 対人と集団・組織。 (テキスト - 7、 - 9、 - 7、 - 8) 8. 異文化間コミュニケーションをレベル別に考える レトリックとメディア。 (テキスト - 8、 - 10) 9. 個人がどのように異文化に接し、どの程度適応すればよいのか？(テキスト - 13) 10. 日本国家の異文化接触。(テキスト - 14) 11. 異文化接触が日本国家にもたらした諸現象。(テキスト - 15、 - 16、 - 17) 12. 異文化接触と近代日本のレトリック。(テキスト - 18、 - 19) <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. さまざまな異文化間コミュニケーション教育。(テキスト - 1、 - 2、 - 3、 - 9) 2. コミュニケーション教育は、語学教育や国際理解教育と、ここが違う。 3. 留学、学校、帰国子女とカウンセリング心理学。(テキスト - 4、 - 5、 - 6) 4. 国際交流と国際協力。(テキスト - 10、 - 11) 5. 国際舞台でのコミュニケーション。(テキスト - 12、 - 13) 6. 「国際」という概念について 批評的考察。 7. 研究への招待 理論と方法。(テキスト - 1、 - 2) 8. 研究への招待 研究領域と諸問題。(テキスト - 3、 - 4) 9. 日本人のコミュニケーション(1) 10. 日本人のコミュニケーション(2) 11. 日本人のコミュニケーション(3) 12. 提言 今後、異文化間コミュニケーションを行うにあたって、何をどうすべきなのか？
----------------------------	--

科 目 名	異文化間コミュニケーション論 a - 2 ・ b - 2	担当者名	町 田 喜 義
-------	------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	異文化コミュニケーション・プロセスに関わる複雑な要因の連鎖を理解し、自文化（あるいは自己）と異文化（あるいは他者）を客観的・相対的に分析し、説明できる能力を養い、各自のコミュニケーション行動の客観的指標の確立を図る。		
講 義 概 要	前期は『異文化間コミュニケーション論入門』とし、1960年代以降の異文化間コミュニケーション研究の成果をマクロに考察する。主として、文化（社会）とコミュニケーション・そこから派生する様々な概念とその連鎖を日本の文化を中心に取り上げ、後期は『異文化間コミュニケーション論特殊講義』とし、カナダとの比較文化論的内容にする。		
使 用 教 材	テキスト	印刷物、ビデオ、その他を使用 後期使用テキストは、4月以降に明示する。	
	参考文献	開講時に別紙配布する。	
評 価 方 法	論述試験（前期）: 50% グループ・リサーチ・プレゼンテーション（後期）: 20% グループ・リサーチ・ペーパー（後期）: 30%		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	グループ活動には各自の「責任」と「義務」が要求される。		

年 間 授 業 計 画	(前期)	
	1. プロローグ：担当者自己紹介、講義概要の説明、「異文化間コミュニケーション」とは何かを 考える = 受講生の「異文化」体験の発表など。	
	2. 「文化」、「異文化」、「コミュニケーション」の概念	
	3. グループ討議のための班編成、および討議（トピックはヒ・ミ・ツ?）	
	4. ビデオ映画：'Gung Ho'	
	5. 討議：日・米文化のコミュニケーション・ギャップについて	
	6. 異文化間コミュニケーションの基礎概念（1）	
	7. 異文化間コミュニケーションの基礎概念（2）	
	8. コミュニケーション能力（1）	
	9. コミュニケーション能力（2）	
	10. 対人コミュニケーション（1）	
	11. 対人コミュニケーション（2）	
12. 前期まとめ：比較文化論への誘い		
(後期)		
1. 社会事象を読み解く：日本とカナダ（1）	経済	
2. 社会事象を読み解く：日本とカナダ（2）	女性	
3. 社会事象を読み解く：日本とカナダ（3）	家族	
4. 社会事象を読み解く：日本とカナダ（4）	宗教	
5. 社会事象を読み解く：日本とカナダ（5）	民族	
6. 社会事象を読み解く：日本とカナダ（6）	メディア	
7. 社会事象を読み解く：日本とカナダ（7）	教育	
8. 社会事象を読み解く：日本とカナダ（8）	自主的参加・問題解決・義務責任・コミュニケーション	
9. グループ・リサーチ・プレゼンテーション		
10. グループ・リサーチ・プレゼンテーション		
11. グループ・リサーチ・プレゼンテーション		
12. エピローグ：今後のコミュニケーション行動について		

科 目 名	マス・コミュニケーション論 a・b	担当者名	佐々木 輝 美
-------	-------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>マス・コミュニケーションに関する基本用語、概念などを説明することができ、且つ、それらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになることを目標とする。</p>		
講 義 概 要	<p>本講義への導入として、先ずコミュニケーションの基礎について説明する。次の数週間で、マス・コミュニケーションのモデル及び効果について解説し、マス・コミュニケーションの全体像を捉えてもらう。その後、前期の後半はマスコミと教育の問題を、そして後期は、マス・コミュニケーションの「影響研究」を中心に講義を行う予定。影響研究については、特に「メディア暴力の視聴者への影響」を中心テーマとして扱う。</p>		
使 用 教 材	テ キ ス ト	<p>(前期) プリント (後期) 佐々木輝美 『メディアと暴力』 勁草書房、1996</p>	
	参 考 文 献	<p>・岡崎篤郎他編著 『マス・コミュニケーション効果研究の展開』 北樹出版、1992 ・H.J.アイゼンク他著 岩脇三良訳 『性・暴力・メディア』 新曜社、1982</p>	
評 価 方 法	<p>定期試験、レポート、平常点の総合評価を行う。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど			

年 間 授 業 計 画	(前期)	
	1. マス・コミュニケーションとは	
	2. コミュニケーションについての基礎知識(1) - プロセスの概念について -	
	3. コミュニケーションについての基礎知識(2) - 意味はどこに存在するか? -	
	4. コミュニケーションについての基礎知識(3) - メディア接触について -	
	5. マス・コミュニケーションのモデルについて(1) - モデルの長所と短所 -	
	6. マス・コミュニケーションのモデルについて(2) - マス・コミュニケーションの要素 -	
	7. ビデオ視聴&解説 (レポートは1000字程度にまとめる)	(レポート課題発表)
	8. マスコミ効果の概念について(1) - 効果とは -	
	9. マスコミ効果の概念について(2) - 順機能と逆機能 -	(レポート提出締切り)
	10. マス・コミュニケーションと教育(1)	
	11. マス・コミュニケーションと教育(2)	
	12. 前期のまとめ	
	(後期)	
	1. マスコミの影響研究について(1) - 弾丸理論 -	
	2. マスコミの影響研究について(2) - 限定効果モデル -	
	3. マスコミの影響研究について(3) - 適度効果モデルから強力効果モデルへ -	
	4. メディア暴力研究について(1) - 研究の背景 -	
	5. メディア暴力研究について(2) - カタルシス理論 -	
	6. メディア暴力研究について(3) - 観察学習理論 -	
	7. メディア暴力研究について(4) - 脱感作理論 -	
	8. メディア暴力研究について(5) - カルティベーション理論 -	
	9. ビデオ視聴&解説 (レポートは1000字程度にまとめる)	(レポート課題発表)
	10. メディア暴力研究について(6) - 4理論のまとめ(暴力番組の類型化) -	
11. メディア暴力研究について(7) - メディア暴力への対応 -	(レポート提出締切り)	
12. 後期のまとめ		

科 目 名	スピーチ・コミュニケーション論 a・b	担当者名	石 井 敏
-------	---------------------	------	-------

講 義 の 目 標	<p>本講義は、異文化の人たちとの英語によるコミュニケーションを効果的なものにすることを目標とする。目標を達成するためには、英語の発音・語彙・文法という言葉的要素の特徴を理解し、英語会話を学習するだけでは、極めて不十分である。日本人の立場に立ち、欧米型レトリック理論に基づいた英語スピーチ・コミュニケーションの理論を理解し、実践的訓練をすることが不可欠である。本講義は、英語スピーチ・コミュニケーション活動を理論と実際の両面で展開することのできる人材の育成を目指す。</p>		
講 義 概 要	<p>英語による効果的なコミュニケーション活動を実際に展開するためには、長い伝統を持つ欧米のレトリック理論に基づくスピーチ・コミュニケーションの理論と実践的技能を学習することが大切である。そこで本講義では、最初にスピーチ・コミュニケーション研究の意義、主な研究領域、レトリック理論の歴史的背景等を解説する。次に、英語スピーチ・コミュニケーションのレベル、目的と形式による分類等について説明する。続いて、スピーチ・コミュニケーションの代表的な形式であるオーラル・インタープリテーション、ディスカッション、スピーチ、そしてディベートの理論と実践を扱う。講義の多くは英語で行なわれる。</p>		
使 用 教 材	テキスト	Klopf, D. & Ishii, S. <i>Effective Oral Communication</i> , (英宝社)。その他コピー。	
	参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・石井敏 『スピーチの英語』(荒竹出版) ・橋本満弘、石井敏編 『英語コミュニケーションの理論と実際』(桐原書店) 	
評 価 方 法	<p>評価は課題提出物と期末試験の成績による。</p>		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	<p>英語による講義が多いので、教科書の指定箇所を必ず予習してから授業に出席すること。課題提出が遅れた場合には、期限から1週間以内に授業担当者に直接連絡すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講上の諸注意、スピーチ・コミュニケーションの主要研究領域の紹介(コピー配布)、現代日本社会における研究の意義についての解説(教科書3~12頁)。 2. 欧米のスピーチ・コミュニケーションの研究と教育を理論的に体系化した古代ギリシャと古代ローマのトリック理論の解説(コピー配布)。 3. 欧米のレトリック理論を広く普及させ、研究領域を科学的コミュニケーション論にまで発展させた研究の歴史(コピー配布)。 4. スピーチ・コミュニケーションの一般概念、展開過程及び主要構成要素の機能上の特徴、構成要素間の相関関係等についての考察(教科書12~22頁)。 5. スピーチ・コミュニケーションのレベルと形式上の分類、各形式の概念と主な目的及び特徴についての解説(教科書22~35頁)。 6. オーラル・インタープリテーションの概念と展開過程の主な特徴、発表用作品の分類と選択に関する解説(教科書104~111頁)。 7. オーラル・インタープリテーションにおける作品の分析と解釈、発表のためのリハーサルに関する注意(教科書111~117頁)。 8. オーラル・インタープリテーションにおける作品解釈と感情移入、音声及び身体表現の機能と活用についての説明(教科書117~128頁)。 9. オーラル・インタープリテーションにおける作品の分析と発表に関するまとめと模範発表例(コピー配布)。 10. ディスカッションの概念と形式上の分類、リーダーの役割、問題の主な特徴と設定上の留意点に関する解説(教科書40~46頁)。 11. ディスカッションにおける問題の種類と設定方法、ディベートの論題との区別、問題解決に関する考察(教科書46~54頁)。 12. ディスカッションの展開練習、展開記録の作成及び提出(コピー配布)。 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スピーチ(public speaking)の概念とコミュニケーション上の特徴(教科書55~56頁)、題材の選択と分析、参考文献の活用法等に関する解説(教科書63~68頁)。 2. スピーチの構成方法、序論・本論・結論の各目的と主な特徴、論旨の展開法の分類に関する考察(教科書68~76頁)。 3. スピーチのアウトラインの作成方法、発表形式の分類と主な特徴に関する説明(教科書76~82頁)。アウトラインの作成及び提出。 4. スピーチの批評(speech criticism)の目的、方法、特徴等に関する紹介と概説(コピー配布)。 5. キング牧師のスピーチ“I Have a Dream”の背景、内容構成、レトリック上の主な特徴等に関する解説(テープ使用)。 6. デイベートの概念と主なコミュニケーション上の特徴、形式上の分類、ディスカッションとの相違等に関する説明(教科書83~86頁)。 7. デイベートの論題の種類と特徴、論題の設定方法(教科書86~87頁)、参考文献の調べ方と記録方法等に関する解説(教科書92~93頁)。 8. デイベートの三段論証(Toulmin's model)の構造と構成要素、各構成要素の目的と機能等に関する説明(教科書93~95頁)。 9. デイベートにおける反論方法、スピーチの主な種類と特徴、デイベートの展開方法等に関する解説(教科書97~103頁)。 10. クラス全体を小グループに分けて非公式デイベートの実践と記録(指定の論題と配布資料を使用)。 11. スピーチ・コミュニケーション論研究の現状と今後の課題。 12. 全誰義の総復習。
----------------------------	---

科 目 名	コミュニケーション論特殊講義 a・b	担当者名	鍋 倉 健 悦
-------	--------------------	------	---------

講義の目標	インターカルチャラル・コミュニケーション 文化とコミュニケーションのかかわりについて学ぶことで、文化背景を異にする人々と相互理解を深めていくためにはどうしたらよいのかを学習しながら、自文化についての知識も高めていく。		
講義概要	異文化間コミュニケーションの背景と領域、言語と認識の関係、言語と行動のつながり、非言語コミュニケーション、カルチャー・ショック、そして効果的なコミュニケーションの仕方。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・鍋倉健悦『異文化間コミュニケーションへの招待』（北樹出版） ・鍋倉健悦『異文化間コミュニケーションへ入門』（丸善ライブラリー） 	
	参考文献	使用するのの上のテキストのみ	
評価方法	定期試験の結果による		
受講者に対する要望など	異文化間コミュニケーションを学習する最低の条件は日本人としての常識を持っていること。		
年間授業計画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 当講座の概要説明 2. 異文化間コミュニケーションの歴史 3. 学問として成立した背景 4. 文化人類学と異文化間コミュニケーション 5. 言語学と異文化間コミュニケーション 6. 国際関係論と異文化間コミュニケーション 7. インター・レイシャル・コミュニケーション 8. インター・レイシャル・コミュニケーション 9. 文化の意味 1 10. 文化の意味 2 11. 非言語コミュニケーションの概要 12. 対物学 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動作学 2. 接触学 3. 近接学 4. 時間学 5. 音調学 6. 言語コミュニケーションの概要 7. 言語行動と文化 8. 言語相対論 9. 翻訳について 10. カルチャー・ショック 11. カルチャー・ショックの緩和対策 12. より効果的な異文化間コミュニケーションに向けての提言 		

科 目 名	コミュニケーション論文献研究 a・b	担当者名	佐々木 輝 美
-------	--------------------	------	---------

講 義 の 目 標	<p>以下を講義の目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) プレゼンテーションを効果的に行うことができる。 2) コミュニケーションの領域の専門雑誌を自分で検索できる。 3) 異文化コミュニケーションの文献をよみこなすことができる。 4) 実証的な調査研究の計画、実施および分析ができる。 				
講 義 概 要	<p>およそ次の順序で講義を進めて行く。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 効果的なプレゼンテーションを身につけるために、スピーチ・コミュニケーションの文献を読み、実際にスピーチの練習を行う。 2) コミュニケーションの領域にはどのような英文専門雑誌があるのかを学習し、それぞれの専門雑誌の特徴を理解する。 3) よいコミュニケーターになるためにはどうしたらよいのかをテーマに異文化コミュニケーションの文献を読んで行く。 4) 学術論文の構成、調査票の作り方、統計分析の方法について学び、模擬的な実証研究を行う。 				
使 用 教 材	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50px;">テキスト</td> <td>Samovar, L.A. & Porter, R. E., <i>Communication between cultures</i>, (3rd ed.) Wadsworth Publishing Company, 1998.</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>古田 暁 監修、石井 敏 他著 『異文化コミュニケーション(改訂版)』(有斐閣選書、1996)</td> </tr> </table>	テキスト	Samovar, L.A. & Porter, R. E., <i>Communication between cultures</i> , (3rd ed.) Wadsworth Publishing Company, 1998.	参考文献	古田 暁 監修、石井 敏 他著 『異文化コミュニケーション(改訂版)』(有斐閣選書、1996)
テキスト	Samovar, L.A. & Porter, R. E., <i>Communication between cultures</i> , (3rd ed.) Wadsworth Publishing Company, 1998.				
参考文献	古田 暁 監修、石井 敏 他著 『異文化コミュニケーション(改訂版)』(有斐閣選書、1996)				
評 価 方 法	定期試験、レポート、グループ発表、平常点の総合評価を行う。				
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	発表が多い授業なので、十分な準備と積極的な参加を希望します。尚、この科目は受講者の上限(35名)が決められていますので、第1回目の授業で抽選を行います。				

年 間 授 業 計 画	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. プレゼンテーションとしてのスピーチ(1) 構成方法 3. プレゼンテーションとしてのスピーチ(2) 各自プレゼンテーションを行う 4. コミュニケーション関係の英文専門雑誌について(1) 5. コミュニケーション関係の英文専門雑誌について(2) 6. コミュニケーション関係の英文専門雑誌について(3) (グループ発表) 7. 異文化コミュニケーション(1) 文化について(a) 8. 異文化コミュニケーション(2) 文化について(b) 9. 異文化コミュニケーション(3) モデルと要素について(a) 10. 異文化コミュニケーション(4) モデルと要素について(b) 11. 異文化コミュニケーション(5) モデルと要素について(c) 12. 前期のまとめ <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 異文化コミュニケーション(6) 非言語コミュニケーション(a) 2. 異文化コミュニケーション(7) 非言語コミュニケーション(b) 3. 異文化コミュニケーション(8) 非言語コミュニケーション(c) 4. 異文化コミュニケーション(9) 良いコミュニケーターとは(a) 5. 異文化コミュニケーション(10) 良いコミュニケーターとは(b) 6. 異文化コミュニケーション(11) 良いコミュニケーターとは(c) 7. 研究方法について(1) 学術論文の構成、仮説の立て方、調査票の作り方 (グループ分け) 8. 研究方法について(2) 統計分析の方法(a) 9. 研究方法について(3) 統計分析の方法(b) 10. 研究方法について(4) コンピュータによる分析 11. 研究方法について(5) 調査の実施 12. グループ別実証研究の発表
----------------------------	--